

都市空間情報デジタル基盤構築支援事業 (PLATEAU補助制度) 取組事例集 (2023年度)



PLATEAU
by MLIT



目次

I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	3
2. 3D都市モデルとは	4
3. 整備都市	5
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）とは	7
2. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル	8
3. 3D都市モデル（都市計画データ）のオープンデータ化により期待される意義・効果	9
4. 3D都市モデルの導入に向けたサポート	10
III. ユースケース紹介	
1. 3D都市モデルの活用（ユースケース）例	15
2. 「可視化」の活用事例	16
3. 「分析/シミュレーション」の活用事例	18
4. 「アプリケーション」の活用事例	21
IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用までの流れ	25
2. よくある質問	26
V. 令和5年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	30
2. 団体別事業内容	37
VI. 令和4年度採択団体追跡調査	
1. 採択団体一覧	241
2. 追跡調査結果	242

目次

I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	3
2. 3D都市モデルとは	4
3. 整備都市	5
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）とは	7
2. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル	8
3. 3D都市モデル（都市計画データ）のオープンデータ化により期待される意義・効果	9
4. 3D都市モデルの導入に向けたサポート	10
III. ユースケース紹介	
1. 3D都市モデルの活用（ユースケース）例	15
2. 「可視化」の活用事例	16
3. 「分析/シミュレーション」の活用事例	18
4. 「アプリケーション」の活用事例	21
IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用までの流れ	25
2. よくある質問	26
V. 令和5年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	30
2. 団体別事業内容	37
VI. 令和4年度採択団体追跡調査	
1. 採択団体一覧	241
2. 追跡調査結果	242



I. Project PLATEAUについて

1. Project PLATEAUとは

- **Project PLATEAU (プラトー)** は、スマートシティをはじめとしたまちづくりのデジタルトランスフォーメーションを進めるため、そのデジタル・インフラとなる**3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進する国土交通省のプロジェクト**
- 国の取組として**標準データモデルの策定**や**先進技術を活用したユースケース開発**を進めるとともに、**地方公共団体におけるデータ整備やユースケースの社会実装を支援**

FY2020-FY2021の取組

標準データモデルの開発/オープンデータ化

3D都市モデルは、建物等の三次元形状と用途や構造等の属性情報をパッケージでデータ化することで都市空間のデジタルツインを実現する技術



3D都市モデル (札幌駅周辺)

- ▶ 国際標準に基づくオープンフォーマットを日本データモデルとして採用し、オープンな活用が可能
- ▶ プロトタイプとしてこれまで約60都市のデータを整備し、オープンデータ化

FY2022の取組

国による技術開発/リーディングケース創出

標準データモデルの拡張、先進的なユースケースの技術検証、民間市場形成支援等を国のプロジェクトとして実施



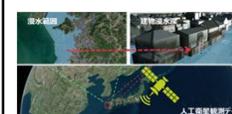
2022FYリリースのCityGML3.0

- ▶ **データ整備の効率化・高度化**
最新の国際標準の取込み/効率的な更新スキーム確立
- ▶ **先進的なユースケース開発**
先進技術を取り入れたユースケース開発
- ▶ **データ・カバレッジの拡大**
リーガル面の課題整理/人材育成プログラム開発 等

FY2023の取組

データ・カバレッジの拡大/ベストプラクティスケース開発

データ整備の高度化・効率化、ユースケースのベストプラクティス開発、民間市場形成支援等を国のプロジェクトとして実施

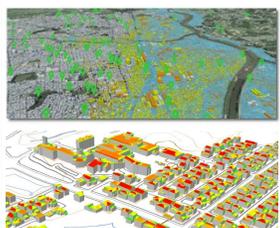


衛星データを活用したユースケース

- ▶ **データ整備の高度化・効率化**
標準データモデルの拡張や最新技術を取り込んだデータ整備手法の開発を実施
- ▶ **ユースケースのベストプラクティス創出**
先進的な技術分野と連携し、ユースケースのベストプラクティスを創出するためのPoCを実施
- ▶ **民間市場形成支援**
開発ナレッジの公開および民間サービスの事業化支援を実施

プロトタイプとなるユースケース開発

防災、環境、まちづくり、モビリティなどの分野で3D都市モデルの政策活用や民間サービス創出の手法を開発し、ユースケースの**社会実装フェーズを準備**



- 三次元リスク分析を踏まえた防災計画 (郡山市)
 - ✓ 災害リスクを3次元化し、建物データ合わせて分析することで、「垂直避難」可能な建物をピックアップし、防災計画立案に活用
- 太陽光発電ポテンシャルのシミュレーション (石川県加賀市)
 - ✓ 建物ごとの屋根形状を解析し、都市全体の太陽光発電ポテンシャルをシミュレーション。地域の脱炭素政策に活用

地方公共団体による3D都市モデルの社会実装

地方自治体によるデータ整備・更新、ユースケース開発、オープンデータ化等の3D都市モデルの**社会実装を支援**

- ▶ 全国127都市でデータ整備、ユースケース開発等を実施



インフラマネジメント効率化



災害リスク教育への活用



防犯カメラ有効範囲の可視化

オープン・イノベーション創出/地域の社会実装

情報発信・コミュニティ形成、地方自治体による**社会実装の拡大**等を国のプロジェクトとして実施



マッチング支援イベント等の開催

- ▶ 新たに71都市、2023年までに198都市でデータ整備、ユースケース開発等を実施
- ▶ 地方公共団体に対する財政支援や技術支援、官民のニーズ・シーズのマッチング支援等を実施



I. Project PLATEAUについて

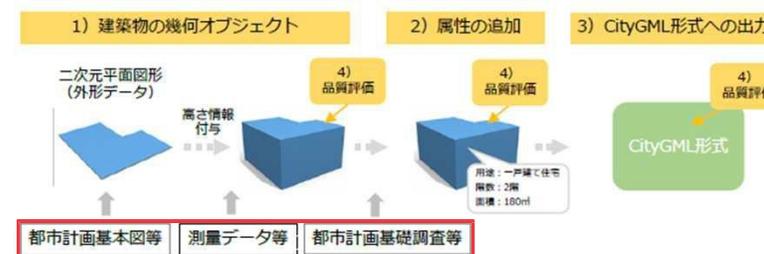
2. 3D都市モデルとは

○3D都市モデルとは、国土交通省都市局の標準に則って作成された、建築物、道路、土木構造物等の**現実の都市に存在する様々なオブジェクトの三次元形状と意味情報をパッケージとして記述した地理空間データ**

○これまでの三次元データとは異なり、①建築物の用途や建築年といった**意味情報を保持可能**、②**データ連携やソフトウェア連携が円滑**、③**地方公共団体の保有データから効率的に整備可能**、④**地域の課題に応じて保持情報をカスタマイズ可能**

① 3D都市モデルの整備

- 3D都市モデルの基本的なデータソースは①都市計画基本図（基盤地図情報）、②都市計画基礎調査、③公共測量成果（航空写真又はLP）の「3点セット」
- いずれも3D都市モデルの有無に関わらず、地方公共団体が定期的に収集・作成しているデータから整備することが可能（追加のデータ取得費用は不要）



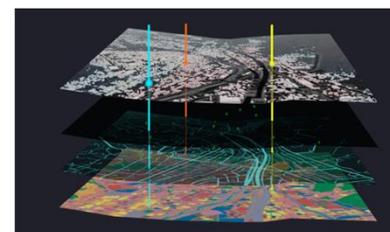
② 3D都市モデルの活用

- 3D都市モデルの「形状」の情報や用途、地区年数、行政計画などの「意味」の情報を活用することで、様々な分野でのシミュレーション、分析に活用可能
- 3D都市モデルは、特定のソフトウェアに依存しない、国際標準かつオープンな規格によって記述されたデータであるため、GIS（地理空間情報システム）やゲームエンジン、CG、CAD、BIMソフトなど、多様な分野のソフトウェアで利用可能



③ 3D都市モデルのオープンデータ化

- 3D都市モデルは多様かつ豊富な情報量を持つデータであるため、民間や大学など様々な主体が利用可能な形で公開することで、多様な領域におけるオープンイノベーションの創出が期待される。
- そのためProject PLATEAUでは、二次利用・商用利用可能な形でオープンデータ化すること（CCBY4.0）を基本としている。その際、オープンデータ化に支障のある情報項目等については除いた形でオープン化することも可能であるが、補助事業を活用する際は、プロジェクトの趣旨に鑑みて、可能な限りオープンデータ化することとなっている。



長野県茅野市
開発許可のDX



I. Project PLATEAUについて

3. 整備都市

- 2023年度末までに、**全国196都市の3D都市モデルを整備**。
- 整備したデータは一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が運用する「**G空間情報センター**」において**ダウンロードが可能**

地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名		地方公共団体名	
北海道	札幌市	埼玉県	久喜市	新潟県	東村山市	新潟市	新潟市	愛知県	名古屋市	姫路市	福岡県	北九州市	兵庫県	加古川市	福岡市
	室蘭市		八潮市		国分寺市		長岡市			岡崎市		三木市		大牟田市	
	更別村		蓮田市		国立市		加茂市			豊橋市		朝来市		久留米市	
青森県	むつ市		吉川市		上越市	春日井市	たつの市			飯塚市					
岩手県	盛岡市		白岡市		石川県	金沢市	豊川市			宗像市					
宮城県	仙台市		毛呂山町	山梨県	加賀市	津島市	うきは市								
福島県	郡山市		宮代町	東京都	甲府市	豊田市	筑前町								
	いわき市		杉戸町		松本市	安城市	武雄市								
	白河市		松伏町		岡谷市	日進市	小城市								
	相馬市		茂原市		伊豆の国市	大田市	大町町								
	南相馬市	柏市	牧之原市		堺市	江北町									
茨城県	つくば市	八千代市	長野県		伊豆市	豊中市	白石町								
	鉾田市	特別区(23区)			御前崎市	池田市	佐賀県	大町町							
	境町	八王子市			菊川市	高槻市		江北町							
栃木県	宇都宮市	立川市			伊豆の国市	高槻市		白石町							
	前橋市	立川市			東伊豆町	河内長野市	佐世保市								
群馬県	桐生市	武蔵野市		河津町	柏原市	熊本県	熊本市								
	館林市	三鷹市		南伊豆町	摂津市		荒尾市								
	埼玉県	さいたま市		青梅市	松崎町		忠岡町	玉名市							
熊谷市		府中市		西伊豆町	羽曳野市	益城町									
加須市		昭島市		函南町	和泉市	大分県	日田市								
春日部市		調布市	清水町	奈良市	臼杵市										
越谷市		町田市	長泉町	奈良市	宮崎県	延岡市									
戸田市		小金井市	小山町	和歌山市		沖縄県	那覇市								
新座市		小平市	吉田町	田辺市											
東京都	日野市	小山市	川根本町	太地町											
	神奈川県	横浜市	厚木市	森町	和歌山県	すさみ町									
		川崎市	箱根町	四日市市											
		相模原市	静岡県	熊野市											
		横須賀市		焼津市		京都府	京都市								
		厚木市		焼津市											
	箱根町	焼津市													
	焼津市	焼津市													

目次

I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	3
2. 3D都市モデルとは	4
3. 整備都市	5
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）とは	7
2. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル	8
3. 3D都市モデル（都市計画データ）のオープンデータ化により期待される意義・効果	9
4. 3D都市モデルの導入に向けたサポート	10
III. ユースケース紹介	
1. 3D都市モデルの活用（ユースケース）例	15
2. 「可視化」の活用事例	16
3. 「分析/シミュレーション」の活用事例	18
4. 「アプリケーション」の活用事例	21
IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用までの流れ	25
2. よくある質問	26
V. 令和5年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	30
2. 団体別事業内容	37
VI. 令和4年度採択団体追跡調査	
1. 採択団体一覧	241
2. 追跡調査結果	242

II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要

1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）とは

- 地方公共団体における3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するため、令和4年度に「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）」を新たに創設。
- 初年度である令和4年度は37団体、令和5年度は48団体が本補助制度を活用。

3D都市モデル整備・活用に係る補助対象及び補助要件

補助対象：

- (1) 3D都市モデルの整備に関する事業
- (2) 3D都市モデルの活用に関する事業
- (3) 3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化推進事業

通常タイプ

支援内容：

- 補助対象：都道府県、市区町村
- 補助率：1/2

補助要件：

- ユースケースがあること
注) 原則、単年度で3D都市モデルの整備とユースケース開発を行うこととしている。
ユースケース開発の場合のみの場合も原則として、単年度で成果を報告すること。
- 国が定める標準仕様書及び標準作業手順書に基づく国際標準規格であるCityGML形式でデータを作成すること
- 整備した3D都市モデルをG空間情報センター等にてオープンデータ化すること
- 整備した3D都市モデルを維持管理・更新すること

早期実装タイプ（令和5年度創設）

支援内容：

- 補助対象：都道府県、市区町村
- 補助率：補助率：10/10（上限1,000万円までの定額補助）※1,000万円を超える事業費は地方負担となる

補助要件：

- 通常タイプの要件を満たすこと
- 事業計画の初年度の事業に限る（以降は通常タイプでの採択となる）
- 早期に課題解決や新たな価値創造が図られること（当該年度の事業において3D都市モデルの活用を達成すること）

令和5年度採択団体一覧

北海道	更別村	静岡県	静岡県
岩手県	盛岡市		静岡市
福島県	相馬市		春日井市
	つば市	愛知県	日進市
茨城県	鉾田市		豊橋市
	境町		豊田市※
栃木県	宇都宮市	三重県	四日市市
群馬県	前橋市	大阪府	河内長野市
	埼玉県	和歌山県	和歌山市
埼玉県	さいたま市	兵庫県	たつの市
	熊谷市		三木市
	東京都		境港市
	中央区	鳥取県	米子市
東京都	東村山市		日吉津村※
	狛江市	広島県	広島県
	相模原市	徳島県	徳島市
神奈川県	横須賀市	香川県	さぬき市
	厚木市	福岡県	うきは市
	新潟県		筑前町
	新潟市	長崎県	佐世保市
	加茂市		玉名市
長野県	諏訪市	熊本県	益城町
岐阜県	岐阜市		
	美濃加茂市		

※早期実装タイプ

II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要

2. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル

- 地方公共団体ご担当者様及び受託事業者様に向けて「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル」を開設
- 本制度の交付要綱、モデル発注仕様書、地方公共団体による活用事例の紹介など、「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業」への参画に役立つ情報や資料の入手が可能（コンテンツは随時更新予定）

都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル



PLATEAU(プラトール)は2020年度にスタートした国土交通省の新しいプロジェクトです。その狙いは、スマートシティをはじめとしたまちづくりのデジタル・トランスフォーメーションを進め、人間中心の社会を実現することにあります。

PLATEAUの一環として、令和4年度に「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業」が創設されました。この事業は、地方公共団体における3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推進するための補助制度です。

本ページは、地方公共団体ご担当者様及び受託事業者様に向けて、「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業」への参画に役立つ参考資料等を提供することを目的としています。

PLATEAUウェブサイトはこちら <https://www.mlit.go.jp/plateau/>

2022年度プロジェクト概要（報道発表）はこちら https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi03_hh_000086.html

- [3D都市モデルとは](#)
- [「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業」の概要](#)
- [参考資料](#)
- [関連ウェブサイト](#)

都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータルサイトリンク：

https://www.mlit.go.jp/toshi/daisei/plateau_hojo.html

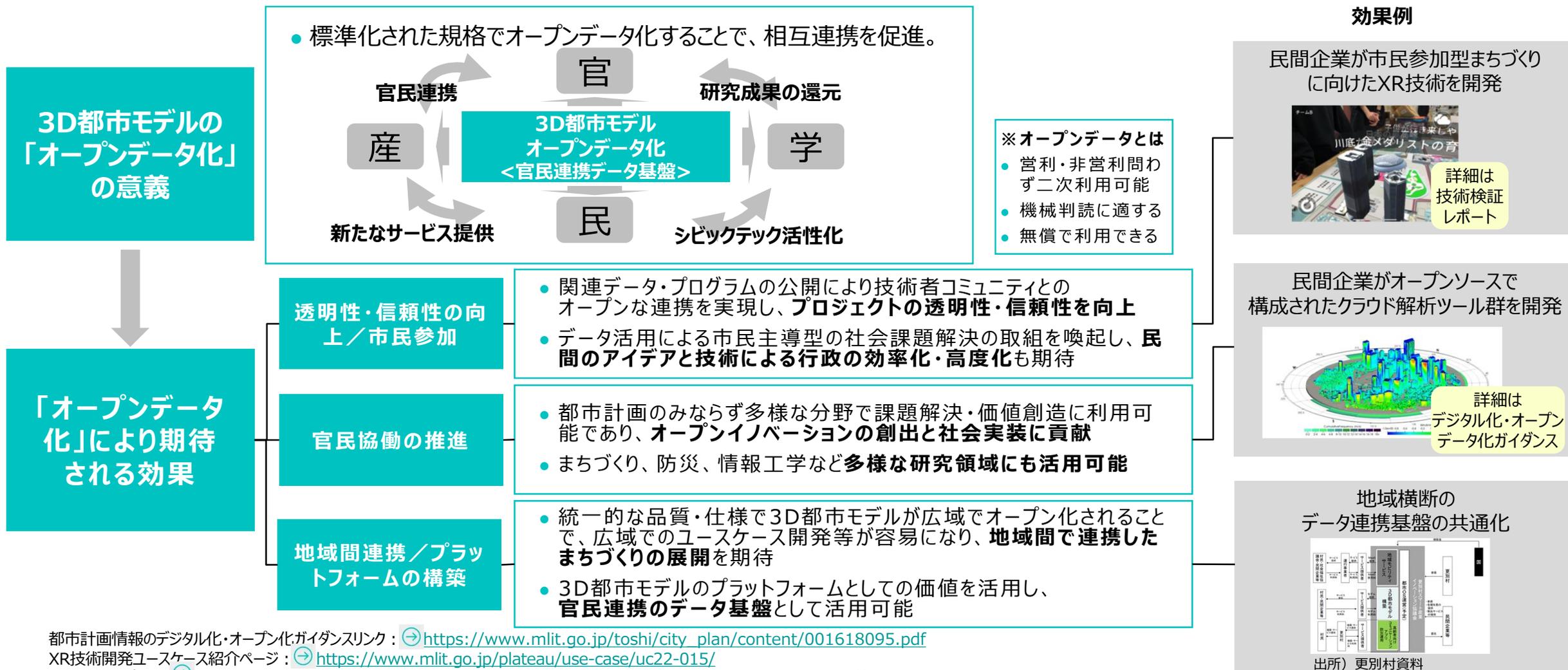
■ 参考資料

- **3D都市モデルを勉強されたい方向け資料**
 - [3D都市モデルの導入ガイダンス【第3.0版】（R5.4.7更新）](#)
 - 地方自治体担当者や民間事業者等に向けた3D都市モデル導入のためのガイダンス
 - [ユースケース開発ガイドー自治体編（PLATEAU 1st Step）](#)
 - 3D都市モデルの基本的な情報をまとめた参考資料
 - 新しいサービスをつくる際には、どんなステップが必要なのか等、事例を交えながら紹介
 - [CityGML仕様及び品質評価手法についての解説（R5.5.12更新）](#)
 - 3D都市モデルの標準仕様についての技術資料
- **3D都市モデルを整備を検討されている方向け資料**
 - [3D都市モデル整備業務発注仕様書（案）（R6.4更新）](#)
 - 本補助制度を用いた3D都市モデル整備のための発注仕様書モデル
 - [3D都市モデル整備費用試算ツール（R5.10版）](#)
 - [3D都市モデル整備費用試算ツール【シミュレーションファイル】（R5.10版）](#)
 - 3D都市モデルの整備を検討するにあたっての試算ツール
 - 実際の見積りとは規模感が異なることがある旨をご了承ください。
- **PLATEAU補助制度の活用を検討されている方向け資料**
 - [都市再生推進事業制度要綱（R6.4改正）](#)
 - 本補助制度の制度要綱。申請に必要な手続等を規定している。
 - 本補助制度については第48条から第50条までに記載
 - [都市再生推進事業費補助交付要綱（R6.4改正）](#)
 - 本補助制度の交付要綱。対象事業の詳細等について規定している。
 - 本補助制度については第24条及び第25条に記載

II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要

3. 3D都市モデル（都市計画データ）のオープンデータ化により期待される意義・効果

○3D都市モデルのオープンデータ化の効果として、3D都市モデルをコアとした産官学民の多様な主体による相互連携が期待される。



都市計画情報のデジタル化・オープン化ガイダンスリンク：https://www.mlit.go.jp/toshi/city_plan/content/001618095.pdf

XR技術開発ユースケース紹介ページ：<https://www.mlit.go.jp/plateau/use-case/uc22-015/>

技術検証レポート：https://www.mlit.go.jp/plateau/file/libraries/doc/plateau_tech_doc_0038_ver01.pdf

更別村資料リンク：https://www.mlit.go.jp/scpf/projects/docs/scproject_R3_mlit01_sarabetsu.pdf



PLATEAU
by MLIT

Ⅱ. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要

4.3 D都市モデルの導入に向けたサポート | イベント開催・ドキュメント公開

- 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業に関心のある地方公共団体向けに、**説明会やイベントを開催**
- 地方公共団体の発注業務を支援するため、**3D都市モデルの導入ガイドスや標準製品仕様等のドキュメントを多数公開**

令和5年度開催イベント一覧

目的	イベント名	内容	開催時期（実績）
要望調査	概算要望調査	本補助事業活用に関心のある地方公共団体向けの要望調査。国土交通省より、ヒアリングを実施し、検討内容や検討状況を確認。（令和5年度は2回実施）	①2023年6月12日～6月30日 ②2023年9月4日～9月29日
	本要望調査	本補助事業活用の意向のある地方公共団体向けの要望調査。提出書類に基づき審査のうえ、採択団体を決定。	2023年12月26日～2024年1月26日
検討支援	3D都市モデルの整備・活用に関する説明会	本補助事業活用に関心のある地方公共団体向けの説明会。Project PLATEAUの基礎、本補助事業の内容、地方公共団体による実際の活用事例、民間企業との協業のポイント等を解説。	①2023年6月20日 ②2023年10月17日
	3D都市モデルマッチング支援イベント	3D都市モデルの活用に関心のある地方公共団体と対応するサービス/技術を持つ事業者とのコネクションづくりのためのイベント。事業者によるサービス紹介や事業者と登壇自治体の意見交換等を実施。	①2023年7月19日～7月20日 ②2023年10月23日～26日、31日
受託事業者支援	補助事業受託事業者向け技術講習会	3D都市モデルの整備に向け、CityGMLについての説明やモデリング手法の解説など、受託事業者に向けて技術面の講習を実施。	①2023年5月12日 ②2023年5月19日
情報共有	スマートシティ官民連携プラットフォーム分科会	3D都市モデルの発展に向けた様々な論点を討議する他、PLATEAU参画団体の事例共有や、3D都市モデルに関心のある地方公共団体のニーズと民間企業のシーズのマッチング支援等を実施 ※参加には入会が必要。費用や負担等は不要	①2023年6月23日 ②2023年9月22日

ドキュメント例（詳細は次ページ参照）



3D都市モデルの導入ガイドス 3D都市モデル標準製品仕様書

■ ドキュメントサイトに記載のドキュメント一覧

- [3D都市モデルの導入ガイドス](#)
- [3D都市モデル標準製品仕様書](#)
- [3D都市モデル標準作業手順書](#)
- [3D都市モデル整備のためのBIM活用マニュアル](#)
- [（別冊）3D都市モデルとの連携のためのBIMモデルIDM・MVD](#)
- [3D都市モデルのユースケース開発マニュアル（公共活用編）](#)
- [3D都市モデルを活用した災害リスク情報の可視化マニュアル](#)
- [3D都市モデルのユースケース開発マニュアル（民間活用編）](#)
- [3D都市モデルのデータ変換マニュアル](#)
- [ビジュアルアイデンティティ（VI）マニュアル](#)
- [実証環境構築マニュアル](#)
- [3D都市モデル整備のための測量マニュアル](#)

分科会サイトリンク：

<https://www.mlit.go.jp/scpcf/archives/index.html#archives02>

ドキュメントサイトリンク：

<https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/>

Ⅱ. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要

4.3 D都市モデルの導入に向けたサポート | イベント開催・ドキュメント公開

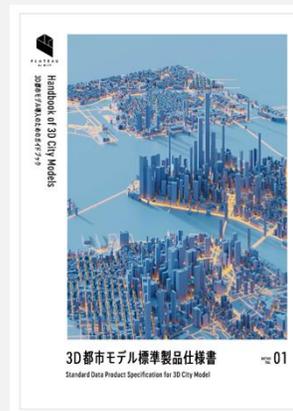
- 3D都市モデル導入の検討には、下記のドキュメントが活用可能

■ 3D都市モデルの導入ガイダンス



- Project PLATEAUの2020年度から2022年度までの3か年の成果をベースとして、まちづくりのDXのための「3D都市モデル」導入に向けたガイダンスを提供するものである。地方公共団体職員をはじめとするまちづくり関係者が本ガイダンスを参照し、その取組の端緒として活用することを目的としている。

■ 3D都市モデル標準製品仕様書



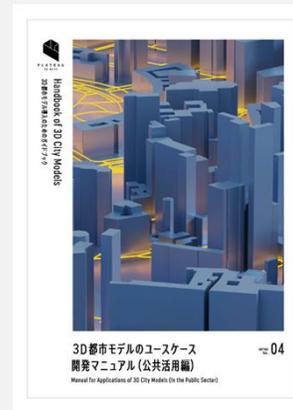
- 各地方公共団体等が3D都市モデルを整備する際に、その製品仕様を容易に作成でき、かつ、整備された3D都市モデルを国際標準に適合したものとすることを目的として提供する標準文書である。

■ 3D都市モデル標準作業手順書



- 各地方公共団体等が「3D都市モデル標準製品仕様書」を参照し、3D都市モデル製品仕様書を作成する手順、作成した製品仕様書に基づき3D都市モデルを整備する標準的な手順、整備した3D都市モデルを国際標準に適合したものとするために守るべき事項を示す技術文書である。

■ 3D都市モデルのユースケース開発マニュアル（公共活用編）



- 地方公共団体における実証調査で得られた成果をもとに、主に公共政策の領域において3D都市モデルを活用したユースケースを開発するための基本的考え方や課題・対応策をとりまとめ、地方公共団体等の参考に供することを目的とするものである。

ドキュメントサイトリンク：

<https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/handbooks/>

II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要

4.3 D都市モデルの導入に向けたサポート | イベント開催・ドキュメント公開



- PLATEAUウェブサイト上に**スタートガイドページ**を新設
- 3D都市モデルのデータや使い方、プロジェクトの立ち上げ方、よくある質問など、**本ページからPLATEAUの基本を理解するための各種情報へのアクセス可能**

Start Guide



PLATEAU を始めよう

3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化のリーディングプロジェクト、PLATEAU。都市活動のプラットフォームデータとして3D都市モデルを整備し、ユースケースを創出。そのデータをオープンデータとして公開することで、誰もが自由に都市のデータを引き出し、活用できるようになります。

PLATEAUのデータはCityGMLという国際規格に基づいた形式で記述されます。従来のような「形」のみを3Dデータ化したモデルではなく、建物や道路といったオブジェクトが構造化され、用途や築年数、行政計画といった都市活動情報などの「意味」が付与された、デジタルツインの実装モデルです。

PLATEAUは使い方に決まりはありません。まだ誰も思いついていない使い方もあるでしょうし、誰もが思いつかなかった新しい使い方を発明するのは、他ならぬあなたかもしれません。PLATEAUのことを知って、自分たちで使ってみる。そのためのスタートガイドをお届けします。

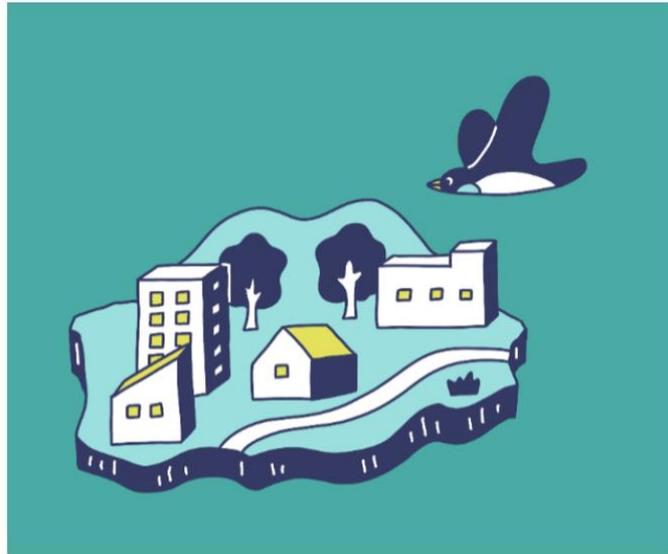


Start Guideサイトリンク：
<https://www.mlit.go.jp/plateau/start-guide/>

Ⅱ. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要

4. 3D都市モデルの導入に向けたサポート | ユースケース開発ガイド

- 地方公共団体職員向けに、PLATEAUの概要、サービスを立ち上げるためのステップ、地方公共団体の活用事例を説明した「ユースケース開発ガイド | 自治体編」を作成
- 本ガイドはPLATEAUウェブサイト上からダウンロード可能



「ユースケース開発ガイド-自治体編」の構成

「ユースケース開発ガイド」では、3章に分けて記事を公開しています。これらの記事は、以下のリンクからpdfでまとめて入手することもできます。

PLATEAU 1st Step : ユースケース開発ガイド | 自治体編 [PDF]

ユースケース開発ガイドサイトリンク :

<https://www.mlit.go.jp/plateau/learning/ucg00/>

ユースケース開発ガイド | 自治体編 リンク :

https://www.mlit.go.jp/plateau/file/libraries/doc/plateau_1st_step_ver01.pdf

PLATEAUの強み

市内の既存データを活用できる

3D都市モデルは、主に地方公共団体が保有する3つのデータから作られています。今あるデータを活用して効率的に3D都市モデルを整備することができます。

1 都市計画規制情報の2D地図データ → 2 公共施設等によって取得された位置測量データ → 3 都市計量情報系データ (1戸建て住宅 2階 180㎡)

豊富な事例をウェブで体験できる

PLATEAUウェブサイトでは、3D都市モデルをブラウザ上でプレビューできるほか、これまで整備されてきた約60都市の3D都市モデルや、災害リスク情報などのユースケースデータを閲覧することができます。

<https://www.mlit.go.jp/plateau/plateau-view-app/>

誰もがデータを利用できる

PLATEAUでは、3D都市モデルをオープンデータとして一般公開しています。公開されたデータは、商用利用も含め、誰もが自由に利用することができます。実際にオープンデータを活用し、さまざまなシミュレーションが生まれています。

<https://www.mlit.go.jp/plateau/open-data/>

補助制度を利用できる

地方自治体が行う3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化の取り組みについて、国の補助制度を利用可能です。小規模な基礎自治体から都道府県単位まで、地域の実情に応じて支援を受けることができます。

https://www.mlit.go.jp/roshi/daisei/plateau_hojibo.html

何が出来るのか

形だけではなく意味情報を保存できる

PLATEAUのデータは、従来のような「形」のみを3Dデータ化したモデルではなく、建物や街路の用途や築年数、行政計画といった都市活動情報などの「意味」を付与したモデルです。こうした意味をコンピュータが処理することによって、まちづくりやシミュレーション、分析に活用しやすくなります。

たとえば、毎々の建物が「どの程度の高さで、何階まであるか」を可視化することによって、高さ情報と掛け合わせて、垂直避難を視野に入れた防災計画を立てられるようになります。「避難警告が出たら、この建物のこの階まで避難する」という詳細なシミュレーションが可能になります。

意味の情報 × 形の情報 → 垂直避難が可能に

意味の情報: 建物の築年数, 建物の用途
形の情報: 建物の高さ, 建物の階数

事例01. 茅野市

より良い土地開発のために、申請フローを最適化

人・モノ・データ	PLATEAU, 都市計画, 災害リスク, さまざまな行政情報
アイデア	3D都市モデルに行政情報を集約し、土地開発の申請システムに活用
短期的目的	開発事業者の申請を早くする / 承認者の事務作業を早くする
中期的目的	適切な土地利用を進める
長期的目的	開発制度そのものの最適化

茅野市では、土地開発の申請・許可に関わる手続きが複雑で、人的・時間的なコストを多く必要とするという問題を抱えていました。

3D都市モデル上に集約されたデータベース

PLATEAUの3D都市モデルは、さまざまな空間情報を統合するフォーマットとして構築しました。そこで、土地開発の申請をする際に開発事業者・行政が必要とするデータをここに集約しました。これまでは、「その開発が適切かどうかを判断するために個別の資料を調べる必要がありましたが、3D都市モデル上に集約されたことで、申請時に必要な情報収集が効率化されました。

個別に存在するデータ: 都市計量規制の情報, 災害リスク情報, 過去の開発許可エリア, 各種規制

3D都市モデル上に集約: 都市計量規制の情報, 災害リスク情報, 過去の開発許可エリア, 各種規制

開発の目的:「申請を迅速する流れ」をDXで解決する

これまで、土地開発の申請には時間と手間がかかっていた。申請に必要な書類の取得を遅くするという状況が長年続いた。また、行政や民間においても、申請内容の審査が複雑で、職人的な作業だった。茅野市は、こうした背景のなか、あるべき都市の姿を実現するための開発促進が図られていくことに課題を感じ、開発許可のフローをDXにより効率化することにしました。

従来の流れ: 申請 → 申請書の提出 → 審査と承認 → 許可

新しい流れ: 申請書の提出 → 審査と承認 → 許可

サービスの利用例:開発事業者と行政、双方の工数を削減

従来、開発許可の申請は「何をどこで何をいつからいつまで」の状況から始まり、事業者の大きな負担となっていました。

情報を3D都市モデルに一元化することで、事業者側と行政側の双方が開発許可手続きを早く処理できるようになります。また、行政側では、事務作業が効率化されることで、都市政策の観点から開発の促進を図ることができるようになります。

目指すもの:自動化された申請・許可のフロー

茅野市が最終的に目指すのは、「開発事業者がウェブから開発許可を申請し、システムの支援によって許可の意思が半自動的に判断できる」という状況です。今回のサービスは、これを実現していくためのツールとして提供することで、土地開発に関わるフローが効率化することで、リアルなまちづくりの観点から土地政策を推進していくことができます。

目次

I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	3
2. 3D都市モデルとは	4
3. 整備都市	5
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）とは	7
2. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル	8
3. 3D都市モデル（都市計画データ）のオープンデータ化により期待される意義・効果	9
4. 3D都市モデルの導入に向けたサポート	10
III. ユースケース紹介	
1. 3D都市モデルの活用（ユースケース）例	15
2. 「可視化」の活用事例	16
3. 「分析/シミュレーション」の活用事例	18
4. 「アプリケーション」の活用事例	21
IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用までの流れ	25
2. よくある質問	26
V. 令和5年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	30
2. 団体別事業内容	37
VI. 令和4年度採択団体追跡調査	
1. 採択団体一覧	241
2. 追跡調査結果	242

Ⅲ. ユースケース紹介

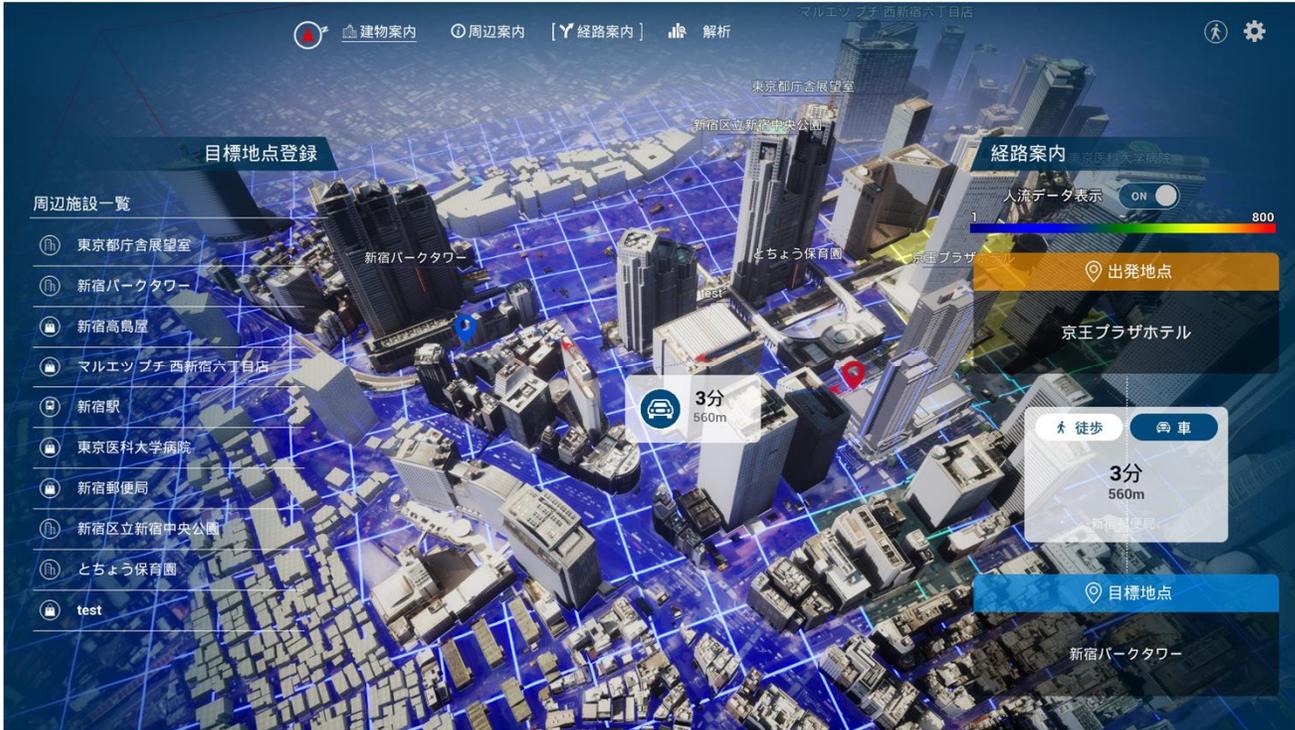
1. 3D都市モデルの活用（ユースケース）例

- 地域のニーズに応じて「可視化」「分析/シミュレーション」「アプリケーション」といった方法から活用が可能
- これまでに国土交通省都市局により、都市計画・まちづくり、防災・防犯、環境・エネルギー、交通・モビリティ等の**多様な分野で活用事例（ユースケース）を創出、ナレッジやソースをオープン化しており、補助事業等において社会実装が可能となっている。**

分類	分野	ユースケースの例（課題 ▶ 手法）	必要なデータや使用する属性の例
 <p>可視化</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なデータを重ね合わせて表示「わかりやすさ」や「説明力」を向上させる。 庁内の施策検討の資料や住民説明などに活用。 	防災/防犯 <ul style="list-style-type: none"> 災害時の垂直避難の判断や避難場所の選定が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスク情報の可視化 	<ul style="list-style-type: none"> 洪水・津波・内水・高潮浸水想定区域図 都市計画基礎調査情報（土地利用現況、建物利用現況） 都市計画決定情報（立地適正化計画等） 建築物LOD1-2, 災害リスク情報LOD1
	都市計画/ まちづくり <ul style="list-style-type: none"> 再開発等のまちづくりに対する合意形成が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 都市構造の可視化 	
 <p>分析/ シミュレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 他のデータを組み合わせた分析やシミュレーションにより新たな情報を生み出す。 庁内の施策検討の資料や住民説明などに活用。 	防災/防犯 <ul style="list-style-type: none"> 現実に即した災害リスクの把握が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクの分析 災害対策シミュレーション 	<ul style="list-style-type: none"> 洪水・津波・内水・高潮浸水想定区域図 都市計画基礎調査情報（土地利用現況、建物利用現況） 人流データ（GPS、センサー等） 日射量データ（公開情報） 気象データ（公開情報） センシングデータ（歩行者・自転車、車両の挙動） 建築物LOD1-2, 災害リスク情報LOD1 建築物LOD1-2, 災害リスク情報LOD1, 道路LOD1
	都市計画/ まちづくり <ul style="list-style-type: none"> エリアマネジメント活動における合意形成が困難 	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりシミュレーション 人流シミュレーション 	
	環境/ エネルギー <ul style="list-style-type: none"> 脱炭素政策を推進するための定量的なエビデンスを提供が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電ポテンシャルの推計 風・熱シミュレーション 	
	交通/物流/ モビリティ <ul style="list-style-type: none"> 道路上の不具合箇所や事故リスクの把握が困難 	<ul style="list-style-type: none"> モビリティデータ分析/シミュレーション 	
 <p>アプリケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> システムに組み込むことにより、新たな機能を提供。 庁内の業務効率化や住民向けサービスとして活用。 	防災/防犯 <ul style="list-style-type: none"> パーソナルな避難誘導が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 避難シミュレーションアプリ（スマホ、XRなど） 	<ul style="list-style-type: none"> 洪水・津波・内水・高潮浸水想定区域図 人流データ 避難施設データ、公共施設データ、学校データ、鉄道データ等（国土数値情報） 災害リスク、土地利用、都市計画、景観規制、環境規制等 建築物LOD1-3, 災害リスク情報LOD1, 道路LOD1-3
	地域活性化/観光/ コンテンツ <ul style="list-style-type: none"> 施設配置の検討等の庁内業務の効率化が困難 	<ul style="list-style-type: none"> エリアマネジメント/地域活性化/シビックテックアプリ 	
	都市計画/ まちづくり <ul style="list-style-type: none"> 開発許可手続き等、煩雑な手続きの効率化が困難 	<ul style="list-style-type: none"> 行政DX 	

Ⅲ. ユースケース紹介 2. 「可視化」の活用事例①

都市計画・まちづくり 3D都市モデル、BIMモデル、空間IDを統合した都市開発支援ツールの開発 (DT23-05/レポート)



Point

- 3D都市モデル、BIMモデル、空間IDを統合した都市開発支援ツール「PLATEAU TwinLink」を開発。
- 本ツールによって、従来の模型や映像、パンフレットなどのプロモーションツールに対して、簡単な操作で3Dを活用した、より直感的・魅力的な発信を実現。

スコープ

- 3D都市モデル、BIMモデル、空間IDを統合したデジタルツイン基盤を用いた都市開発の領域における新たなソリューションを開発。
- 多様な地理空間情報の複合的な解析が必要な都市計画、都市開発、建築設計の各フェーズにおける検討やプロポーザル・合意形成・シティプロモーションを効率化。

ソリューション

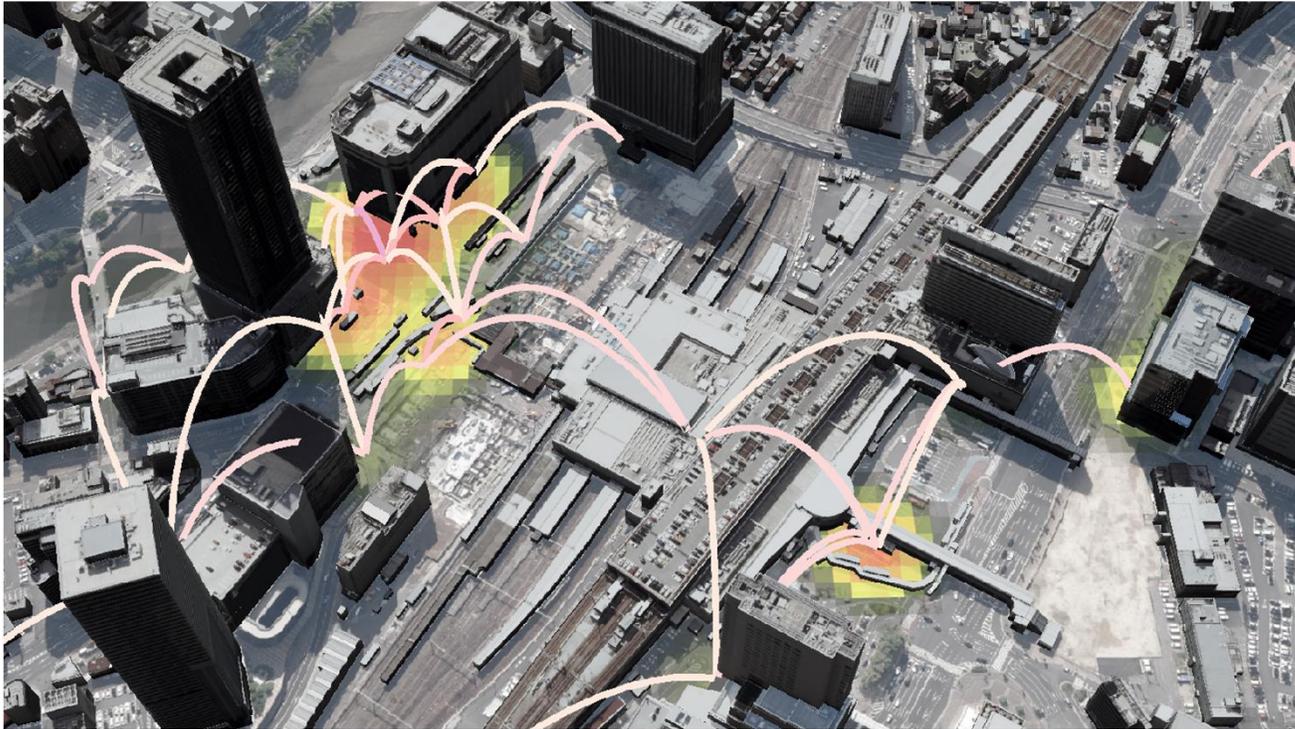
- 不動産販売や住民説明に携わるデベロッパー・行政・まちづくり団体などに向け、3D都市モデル、BIMモデル、空間IDを活用した高品質な3D可視化と直観的なUI/UXを備えた都市開発支援ツールを開発。
- 都市開発、都市計画、建築設計におけるプランニングや合意形成、シティプロモーションの円滑化・価値向上を実現。



Ⅲ. ユースケース紹介 2. 「可視化」の活用事例②

都市計画・まちづくり

エリアマネジメント・ダッシュボードの構築v2.0 (UC23-10/レポート)



Point

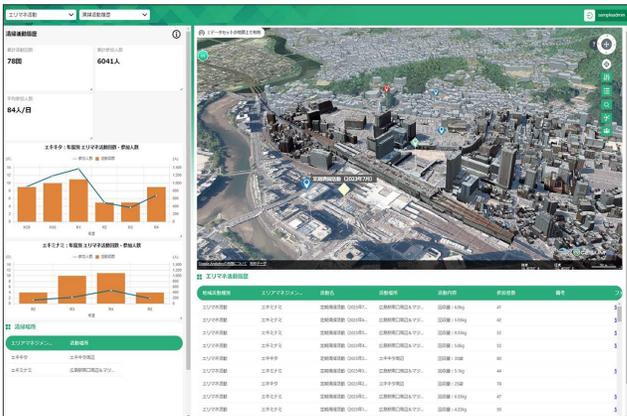
- 3Dビューワとダッシュボードをシームレスに組み合わせた地域情報プラットフォームを開発。
- スマートフォンからのアクセス機能の追加実装等により、エリアマネジメント活動の高度化、対外的な情報発信力の強化等、地域のまちづくり活動を効果的に支援。

スコープ

- エリアマネジメント活動や地域情報について、エリアマネジメント団体の担当者が登録、管理、集約、共有、可視化ができるウェブシステムを開発。
- 視認性の高い3D都市モデルと、地域情報や活動情報をグラフや表で表示するダッシュボードを同一画面で閲覧する仕組みを構築し、活動の活性化に寄与。

ソリューション

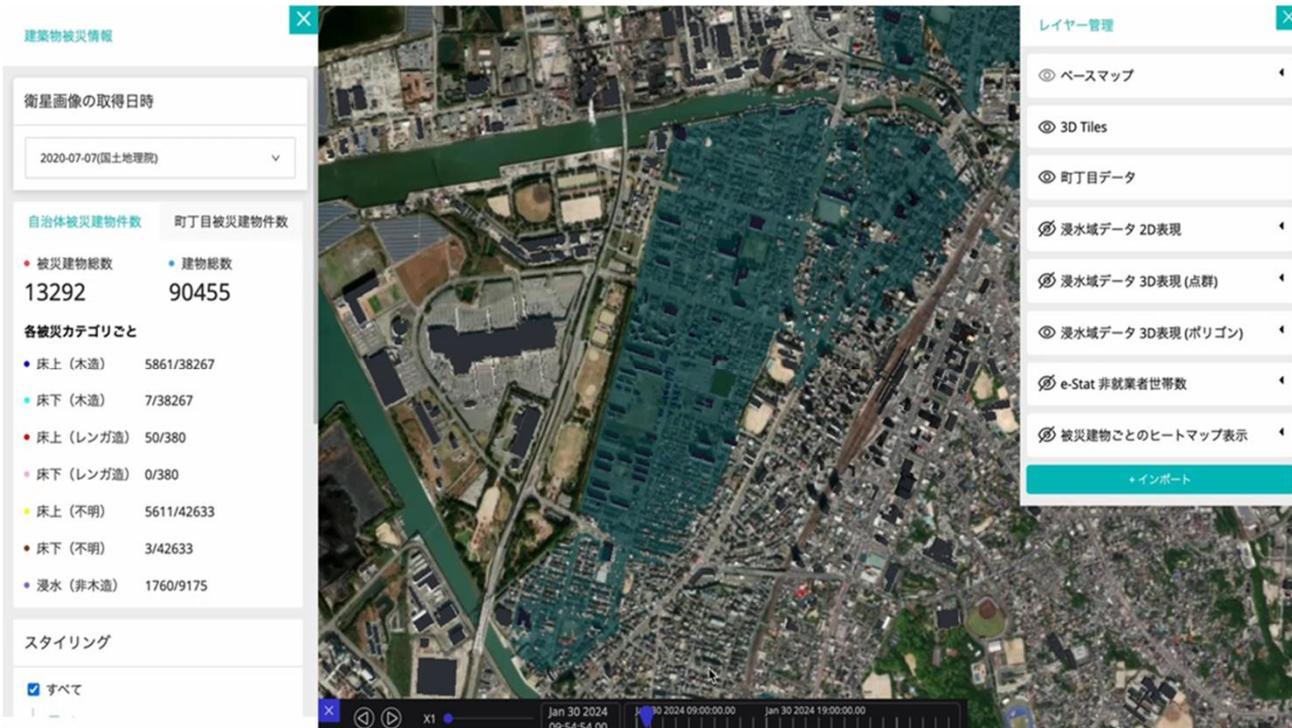
- エリアマネジメント団体向けの情報管理、共有、発信を目的とした、地域情報プラットフォームを開発。外部配信機能、ノーコードでデータ管理が可能な管理者用画面、スマートフォンからのアクセス機能を実装。
- エリアマネジメント会員などの参加ユーザーが、スマートフォン向け画面を用いてエリアマネジメント活動や地域情報について登録・閲覧ができる仕組みを構築。



Ⅲ. ユースケース紹介 3. 「分析・シミュレーション」の活用事例①

防災・防犯

人工衛星観測データを用いた浸水被害把握 (UC23-01/レポート)



Point

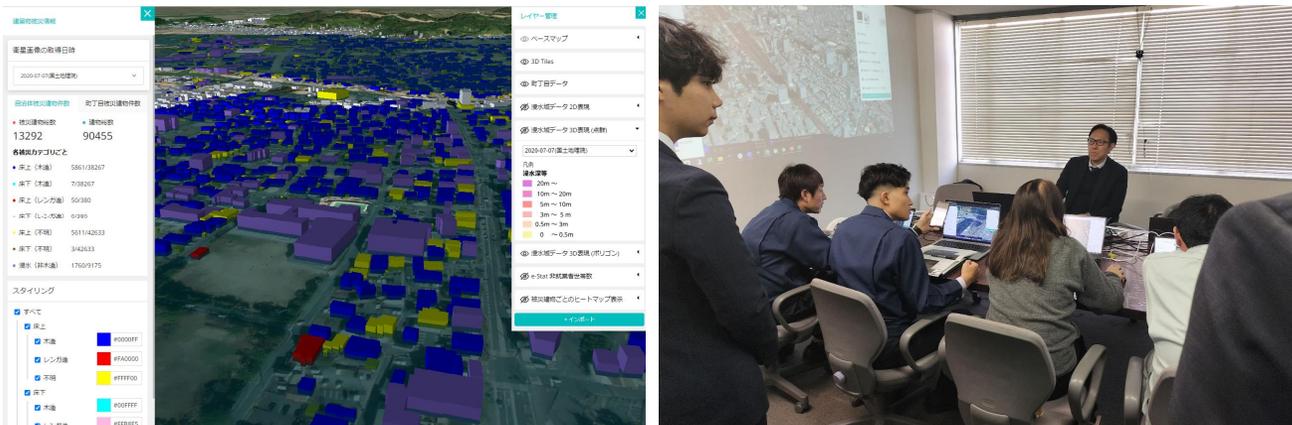
- 3D都市モデル及び人工衛星観測データを活用し、浸水状況及び家屋被害を分析するシステムを開発。
- 洪水等の浸水被害発生時において、現場確認の優先順位付けのため、被害が甚大な地区や被災の可能性が高い地区を迅速に把握することを実現。

スコープ

- 人工衛星観測データを利用することで、迅速に被害状況を把握し、罹災証明書発行業務を効率化。
- 分析結果を3D可視化することで、家屋単位の浸水状況を直感的に確認できるようにし、行政担当職員による被害状況の一次調査を支援。

ソリューション

- 人工衛星観測データ（SARデータ）から分析した浸水範囲と3D都市モデルの地形モデル及び建築物モデルをマッチングさせることで、家屋単位での浸水深の算出および被災判定を行うシステムを開発。
- 分析された家屋単位の被害状況をデータベースに取り込み、3D都市モデルが持つUUIDや不動産IDをキーとすることで、住居表示や他の情報との連携を実現。



Ⅲ. ユースケース紹介 3. 「分析・シミュレーション」の活用事例②

防災・防犯

精緻な土砂災害シミュレーション (UC23-02/レポート)



Point

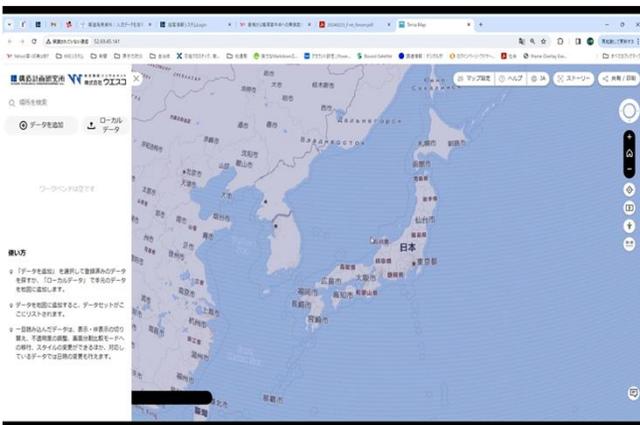
- 3D都市モデルを活用し、家屋の倒壊状況等を加味した精緻な土石流の流体数値シミュレータを開発。
- 家屋の倒壊を加味した精緻な土石流シミュレーションにより、土砂災害警戒区域では避難場所の選定が困難なケースにおいて、実効的な避難場所の選定を実現。

スコープ

- 土石流の衝突による家屋の倒壊状況及びこれを踏まえたエネルギー・流動方向の変化の影響の評価を行う土石流シミュレーションにより、氾濫範囲を精緻化。
- 地形から力学的に推定される最大範囲を設定した土砂災害警戒区域を用いた従来の手法に対し、避難計画の高度化を実現。

ソリューション

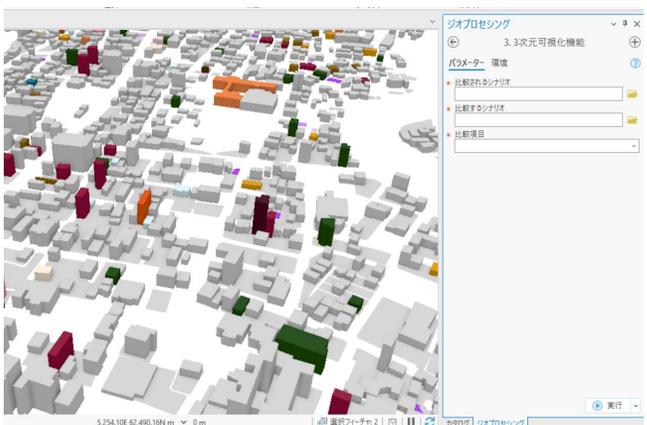
- 既存ソフトウェアである「iRIC Morpho 2DH」をカスタマイズし、3D都市モデルを利用した家屋倒壊判定機能を持つ土石流シミュレータを開発。
- 家屋の倒壊等の影響を加味することで、従来よりも土石流の氾濫範囲を緻密に解析し、比較的风险が低い地点の可視化を実現。



Ⅲ. ユースケース紹介 3. 「分析・シミュレーション」の活用事例④

都市計画・まちづくり

都市構造シミュレーション v2.0 ([UC23-07/レポート](#))



Point

- 3D都市モデルを活用した都市構造シミュレーションを、GUI上で扱えるアプリケーションを開発。
- 非エンジニアの地方公共団体職員等でも、都市の構造をノーコードで簡単にシミュレーションし、政策検討等に活用することが可能な環境を提供。

スコープ

- 3D都市モデルの高さ・用途等の情報と都市計画情報・人口・交通等のデータを組み合わせる複雑な演算処理を伴うインプットデータ整備とシミュレーションの実施、3D可視化をGUI上の操作で行うアプリケーションを開発。
- 多様なシナリオでのシミュレーション実施をノーコードで可能とし、将来都市構造の比較による施策評価に活用。

ソリューション

- シミュレーションのインプットデータとして3D都市モデルを用いることで、様々な都市で活用可能な汎用的な都市構造シミュレーションを開発。
- ArcGISのツールボックスを用いてアプリケーションを構築。専門家の支援を必要とせず、3D都市モデルを活用した、多様なシナリオ設定のもとでのシミュレーション実行とシミュレーション結果の可視化を実現。

Ⅲ. ユースケース紹介 4. 「アプリケーション」の活用事例①

都市計画・まちづくり

XR技術を活用した市民参加型まちづくり v2.0 (UC23-08/レポート)



PLATEAU
by MLIT



Point

- 3D都市モデルとXR技術を組み合わせた、まちづくりワークショップを運営するシステムを開発。
- システムの汎用性やオペレーション上の利便性を向上させ、複雑な都市開発を直感的に理解可能にすることで、まちづくりへの市民参加を更に活性化。

スコープ

- 3D都市モデルとXR技術を活用し、行政や事業者等のまちづくりのプロと、市民との間で開催されるワークショップでの相互理解を促進するシステムを開発。
- システムを用いて様々な意見やアイデアを可視化し、都市計画に関わる全ての人々の関心と理解度を高め、ステークホルダー間のコミュニケーションを活性化。

ソリューション

- コンテンツ管理のための3D都市モデルをベースとしたデジタルツインウェブシステム「torinome Web」と、データ連携可能なフィールドワーク用の2つのARアプリケーションを開発。
- 八王子市北野と広島市相生通りで市民参加型のワークショップを開催。自治体やエリマネ団体の計画の可視化とワークショップで得たフィードバックのデジタルデータ化により、活発・建設的な議論の場を提供。

Ⅲ. ユースケース紹介 4. 「アプリケーション」の活用事例②

都市計画・まちづくり

タンジブルインターフェースを活用した住民参加型まちづくり等 (UC23-09/レポート)



PLATEAU
by MLIT



Point

- タンジブルインターフェースを活用し、現実の盤面上で模型を操作し、VR空間上に景観や空間配置を即座に再現するシステムを開発。
- 同ツールの可搬性や汎用性を向上させ、住民参加型のワークショップを実施し、行政と市民の双方向の議論を活性化。

スコープ

- ワークショップ参加者の空間に対するイメージをVR空間上で表現できるタンジブルインターフェースを活用した、行政・住民等の参加者間の合意形成に役立つシステム・ソリューションの開発とワークショップを実施。
- 多地域展開を見据え、タンジブルインターフェース筐体の小型化や一部機能のクラウド化を実施。

ソリューション

- タンジブルインターフェースの筐体を小型ユニット化し、複数台の連結を可能にすることで可搬性を改善するとともに、コンテンツ管理やビューワーなど一部の機能をクラウド化することでシステムの汎用性向上を実現。
- 開発したシステムを用いた2回のワークショップを実施。対象エリアの未来について近景と遠景の視点から議論し、議論の結果をタンジブルインターフェースを使って可視化。



Ⅲ. ユースケース紹介 4. 「アプリケーション」の活用事例③

都市計画・まちづくり

公園管理のDX (UC23-21/レポート)



PLATEAU
by MLIT



Point

- 3D都市モデル（建築物、都市設備等）を活用し、公園管理用のリレーショナルデータベースマネジメントシステム(RDBMS)を構築し、公園管理に必要な情報を一元化。
- 日常点検モバイルアプリと電子台帳機能をもつ管理ウェブアプリを開発し、点検等の公園管理業務を効率化・高度化。

スコープ

- 公園管理用の標準仕様を定め、これに基づくRDBMSを新たに構築することで、施設の位置、ボリューム、施設ID、施設現況、施設ごとの管理方針、点検実績等を統合管理。
- 日常点検における巡視員、修繕担当係員及び担当マネージャー間での対応方針・点検記録の共有、「公園施設長寿命化計画」に基づく方針立案や維持保全活動に活用。

ソリューション

- 多岐にわたる資料がそれぞれ独立して存在し、一部は紙資料によって管理されている情報を統合管理することで、システム利用者が異常の状態や健全度・緊急度判定等を正確かつタイムリーに把握し、点検・管理業務における適切な方針検討や効果的な計画立案を実現。
- クラウド上で公園施設の3D都市モデル単位又は任意の位置情報にひもづく写真や音声、音声解析メモを共有できるようにすることで、点検・管理業務の効率化を実現。

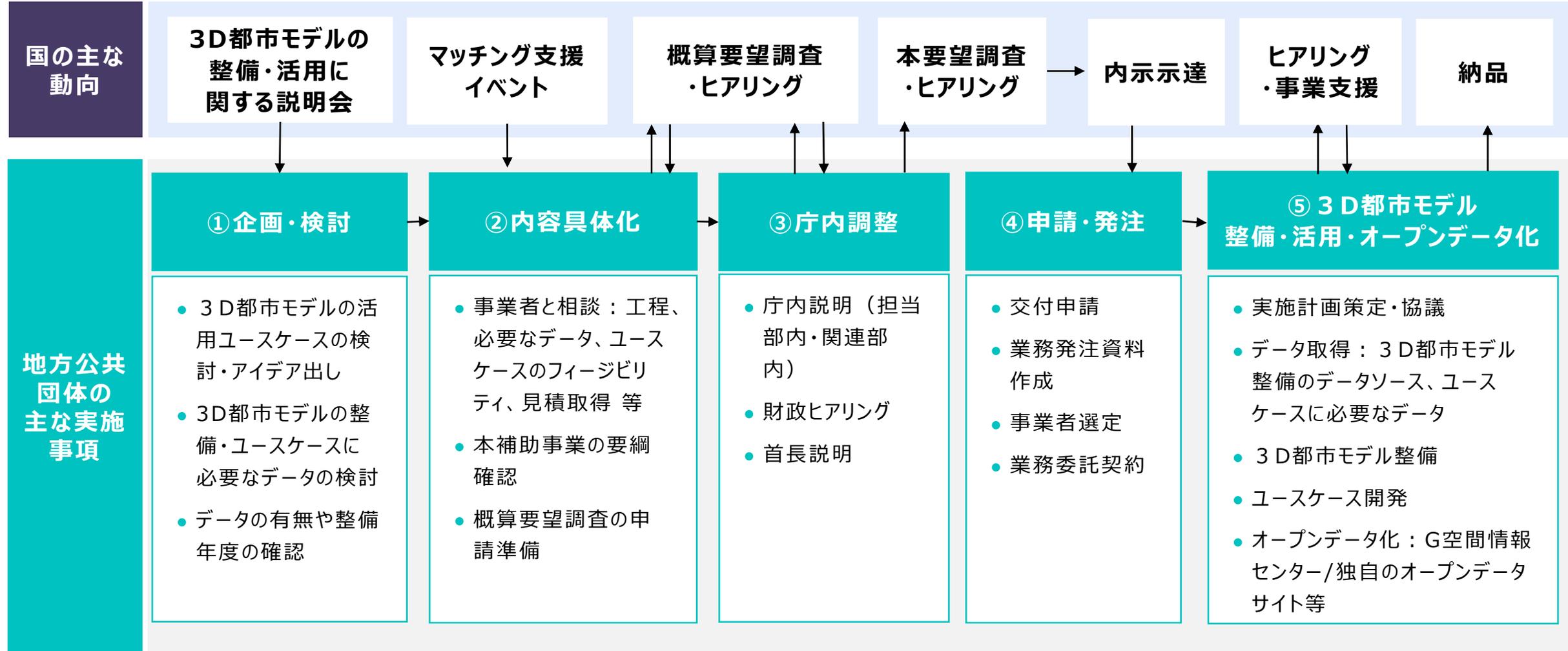


目次

I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	3
2. 3D都市モデルとは	4
3. 整備都市	5
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）とは	7
2. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル	8
3. 3D都市モデル（都市計画データ）のオープンデータ化により期待される意義・効果	9
4. 3D都市モデルの導入に向けたサポート	10
III. ユースケース紹介	
1. 3D都市モデルの活用（ユースケース）例	15
2. 「可視化」の活用事例	16
3. 「分析/シミュレーション」の活用事例	18
4. 「アプリケーション」の活用事例	21
IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用までの流れ	25
2. よくある質問	26
V. 令和5年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	30
2. 団体別事業内容	37
VI. 令和4年度採択団体追跡調査	
1. 採択団体一覧	241
2. 追跡調査結果	242

IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用

1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用までの流れ



ユースケース開発ガイドサイトURL：

<https://www.mlit.go.jp/plateau/learning/ucg00/>

IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用

2. よくある質問（1）補助内容について

- 地方公共団体向けの補助事業関連事項についてよくある質問をまとめました。
- 本項目は補助制度に関するよくある質問であり、PLATEAU全般のよくある質問についてはPLATEAUサイトの「よくある質問」もご確認ください。

番号	質問	回答
1	ユースケース開発について、3D都市モデルの整備とは別契約で、まちづくりや防災等の関連計画の検討やシミュレーションを行う場合も補助対象になるか。	契約単位について、3D都市モデルの整備とユースケース開発は別契約でも構いません。補助対象となるユースケース開発は、3D都市モデルを活用する必要がありますので、明らかに3D都市モデルとは無関係の検討業務は補助対象とは出来ません。
2	補助を受けられるのは単年度のみか。複数年度にわたることも可能か。	原則は、単年度で、3D都市モデルの整備及びユースケース開発を行うようにして下さい。一方で、都市計画基礎調査等3D都市モデルのベースとなるデータの整備タイミングや整備範囲の広さ等により、複数年度にわたるデータ整備やユースケース開発に対して補助を受けることも可能ですが、本補助事業が3D都市モデル活用の社会実装を念頭に置いた制度であることから、複数年度にわたる事業の場合でも、各年度で3D都市モデルを活用いただく（ユースケース開発を実施いただく）ことが基本となります。

IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用

2. よくある質問（2）庁内手続き・スケジュールについて

- 地方公共団体向けの補助事業関連事項についてのよくある質問をまとめました。
- 本項目は補助制度に関するよくある質問であり、PLATEAU全般のよくある質問についてはPLATEAUサイトの「よくある質問」もご確認ください。

番号	質問	回答
3	補助事業の委託事業者の決定方法について指定はあるか。	事業者の決定方法について国土交通省として定めはありません。一般競争入札、総合評価方式、企画競争等、業務内容に照らして地方公共団体でご判断ください。
4	3D都市モデル整備に標準の歩掛はあるか。	3D都市モデル整備については国土交通省から指定する標準単価はありません。予算の適正かつ効率的な執行の観点では複数社の見積りを取得することを推奨しますが、地財法及び地方公共団体のルールに則ってください。
5	採択後の事業はどのように進めるか。	基本的には、国土交通省都市局より委託する本補助事業支援事業者が事業進捗管理や各種調整の窓口となります。特に事業初期においては事業計画書を詳細化・具体化した「実施計画書」を作成し、その内容に沿って事業を進めて頂くことになります。また3D都市モデルのオープンデータ化の際には国土交通省都市局より委託するオープンデータ化事業受託者との調整が生じる他、必要に応じて情報発信にもご協力頂きます。
6	繰越しは可能か。	交付決定時には予想できなかった止むを得ない事由により年度内に事業が終わらない見込みとなり、引き続き翌年度において事業を継続する必要がある場合で、年度内に財務省の承認を受けることにより、翌年度に繰り越すこと（明許繰越し）ができます。ただし、交付決定時から繰越しを前提にすることはできません。

IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用

2. よくある質問（3）事業内容について

- 地方公共団体向けの補助事業関連事項についてのよくある質問をまとめました。
- 本項目は補助制度に関するよくある質問であり、PLATEAU全般のよくある質問についてはPLATEAUサイトの「よくある質問」もご確認ください。

番号	質問	回答
7	都市計画基本図や都市計画基礎調査の実施経費も補助対象か。	3D都市モデルを整備するために必要な測量・図化や調査は補助対象になるので、そのための都市計画基本図作成や都市計画基礎調査も補助対象となります。ただし、「都市計画基礎調査実施要領（国土交通省都市局）」に則っていない独自の調査項目は補助対象外となる可能性があります。また、3D都市モデル整備範囲が都市計画基本図作成・更新の範囲より狭い場合は3D都市モデル整備区域相当分を面積按分した経費を要望額としてください。
8	建築物LOD2の整備範囲に制限はあるか。	3D都市モデル活用の基礎となるモデルであり、幅広い分野において活用可能であるため、個別の建物数棟ではなく、一定程度面的な広がりのあるエリアで整備することが望ましいです。
9	ユースケースは必ず補助事業内で行う必要があるか。	本補助事業を利用するためにはユースケース開発は必須です。ただし、ユースケース開発の経費について、必ずしも本補助事業を活用する必要はありません。例えば、整備した3D都市モデル及びこれを表示・解析するGISソフトを用いて庁内職員の都市計画検討に用いるユースケース（内製）や、他の事業（予算）で実施している施策の一環として3D都市モデルを活用することなどが考えられます。庁内の各種計画策定検討の庁内会議や住民等とのワークショップ等、具体的な出口を明確に持って検討を進めてください。本補助事業の活用有無に関わらず、要件確認のため事業計画に実施するユースケース開発を明記するようにして下さい。
10	複数年度にわたるユースケース開発について、業務成果指標（KPI）の考え方は。	ユースケース開発が複数年度にわたる場合、長期的な成果指標をKPIとして設定いただいても構いませんが、その他に補助対象年度内におけるKPI設定が必要となりますので、ご注意ください。アンケートの特定回答の割合やワークショップ等イベントの参加人数、広報ページの閲覧数等様々な指標の設定が可能です。

目次

I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	3
2. 3D都市モデルとは	4
3. 整備都市	5
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）とは	7
2. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル	8
3. 3D都市モデル（都市計画データ）のオープンデータ化により期待される意義・効果	9
4. 3D都市モデルの導入に向けたサポート	10
III. ユースケース紹介	
1. 3D都市モデルの活用（ユースケース）例	15
2. 「可視化」の活用事例	16
3. 「分析/シミュレーション」の活用事例	18
4. 「アプリケーション」の活用事例	21
IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用までの流れ	25
2. よくある質問	26
V. 令和5年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	30
2. 団体別事業内容	37
VI. 令和4年度採択団体追跡調査	
1. 採択団体一覧	241
2. 追跡調査結果	242



V. 令和5年度採択団体別事業内容

1. 採択団体一覧

番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ
01	北海道	北海道更別村	企画政策課	37
02	東北	岩手県盛岡市	都市整備部都市計画課	44
03	東北	福島県相馬市	建設部都市整備課	49
04	関東	茨城県つくば市	科学技術戦略課	52
05	関東	茨城県鉾田市	建設部都市計画課	57
06	関東	茨城県境町	建設農政部都市計画課	60
07	関東	栃木県宇都宮市	都市整備部都市計画課	63
08	関東	群馬県前橋市	都市計画部都市計画課	66
09	関東	埼玉県	都市整備部都市計画課	69
10	関東	埼玉県さいたま市	都市局都市計画部都市計画課	72
11	関東	埼玉県熊谷市	都市整備部都市計画課	76
12	関東	東京都	都市整備局 都市づくり政策部 広域調整課	81
13	関東	東京都中央区	都市整備部 都心再生推進課 都心再生推進係	87
14	関東	東京都江戸川区	危機管理部防災危機管理課情報管理係	92
15	関東	東京都東村山市	経営政策部経営改革課	96
16	関東	東京都狛江市	都市建設部 まちづくり推進課	100
17	関東	神奈川県相模原市	都市建設局まちづくり推進部都市計画課	103
18	関東	神奈川県横須賀市	都市部都市計画課	107
19	関東	神奈川県厚木市	まちづくり計画部都市計画課	110
20	中部	長野県諏訪市	建設部都市計画課	113
21	中部	新潟県新潟市	都市政策部都市計画課	116
22	中部	新潟県加茂市	建設課	120
23	中部	岐阜県岐阜市	都市建設部 都市計画課	125
24	中部	岐阜県美濃加茂市	都市政策部 都市計画課	133
25	中部	静岡県	交通基盤部都市局 都市計画課	136

番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ
26	中部	静岡県静岡市	都市計画部 都市計画課	141
27	中部	愛知県豊橋市	都市計画部都市計画課	145
28	中部	愛知県春日井市	まちづくり推進部都市政策課	148
29	中部	愛知県豊田市	建設部河川課	151
30	中部	愛知県日進市	都市整備部都市計画課	156
31	近畿	三重県四日市市	都市整備部都市計画課	161
32	近畿	大阪府河内長野市	都市計画課	165
33	近畿	兵庫県たつの市	都市政策部都市計画課	171
34	近畿	兵庫県三木市	都市整備部都市政策課	174
35	近畿	和歌山県和歌山市	都市計画部都市計画課	179
36	中国	広島県	土木建築局都市計画課	183
37	中国	鳥取県米子市	総合政策部都市創造課	188
38	中国	鳥取県境港市	建設部下水道課	191
39	中国	鳥取県日吉津村	総合政策課	194
40	四国	徳島県徳島市	企画政策部都市計画課	197
41	四国	香川県さぬき市	建設経済部都市整備課	201
42	四国	愛媛県東温市	産業建設部都市整備課	204
43	九州	福岡県うきは市	都市計画準備課	209
44	九州	福岡県筑前町	都市計画課	215
45	九州	長崎県佐世保市	都市整備部都市政策課	220
46	九州	熊本県玉名市	建設部都市整備課	225
47	九州	熊本県益城町	都市計画課都市計画係	229
48	九州	大分県臼杵市	都市デザイン課	233
49	四国	香川県高松市	都市整備局都市計画課	237



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

① 3D都市モデルの整備状況

番号	地方公共団体	新規整備	追加	更新	追加・更新	活用のみ
01	北海道更別村		●			
02	岩手県盛岡市		●			
03	福島県相馬市	●				
04	茨城県つくば市				●	
05	茨城県鉾田市					●
06	茨城県境町	●				
07	栃木県宇都宮市				●	
08	群馬県前橋市	●				
09	埼玉県	●				
10	埼玉県さいたま市		●			
11	埼玉県熊谷市				●	
12	東京都	●			●	
13	東京都中央区					●
14	東京都江戸川区				●	
15	東京都東村山市		●			
16	東京都狛江市	●				
17	神奈川県相模原市				●	
18	神奈川県横須賀市					●
19	神奈川県厚木市	●				
20	長野県諏訪市	●				
21	新潟県新潟市		●			
22	新潟県加茂市	●				
23	岐阜県岐阜市				●	
24	岐阜県美濃加茂市					●

番号	地方公共団体	新規整備	追加	更新	追加・更新	活用のみ
25	静岡県	●			●	
26	静岡県静岡市		●			
27	愛知県豊橋市	●				
28	愛知県春日井市		●			
29	愛知県豊田市※	●				
30	愛知県日進市		●			
31	三重県四日市市					●
32	大阪府河内長野市				●	
33	兵庫県たつの市	●				
34	兵庫県三木市	●				
35	和歌山県和歌山市				●	
36	広島県	●				
37	鳥取県米子市	●				
38	鳥取県境港市					●
39	鳥取県日吉津村※	●				
40	徳島県徳島市	●				
41	香川県さぬき市	●				
42	愛媛県東温市	●				
43	福岡県うきは市		●			
44	福岡県筑前町	●				
45	長崎県佐世保市					●
46	熊本県玉名市				●	
47	熊本県益城町				●	
48	大分県臼杵市	●				
49	香川県高松市		●			



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

②ユースケース分野別 逆引き索引

番号	地方公共団体	都市計画 ・まちづくり	防災 ・防犯	地域活性化・観 光・コンテンツ	環境・ エネルギー	交通・物流・ モビリティ	住民参加	その他
01	北海道更別村		●			●	●	●
02	岩手県盛岡市	●	●					
03	福島県相馬市		●					
04	茨城県つくば市					●		●
05	茨城県銚田市			●				
06	茨城県境町		●					
07	栃木県宇都宮市	●						
08	群馬県前橋市		●					
09	埼玉県		●					
10	埼玉県さいたま市	●		●				
11	埼玉県熊谷市	●	●		●		●	
12	東京都		●					●
13	東京都中央区	●						
14	東京都江戸川区		●					
15	東京都東村山市		●					
16	東京都狛江市	●						
17	神奈川県相模原市		●					
18	神奈川県横須賀市	●						
19	神奈川県厚木市		●					
20	長野県諏訪市		●					
21	新潟県新潟市			●				
22	新潟県加茂市	●	●					
23	岐阜県岐阜市	●	●			●		
24	岐阜県美濃加茂市	●						

番号	地方公共団体	都市計画 ・まちづくり	防災 ・防犯	地域活性化・観 光・コンテンツ	環境・ エネルギー	交通・物流・ モビリティ	住民参加	その他
25	静岡県	●						
26	静岡県静岡市		●					
27	愛知県豊橋市		●					
28	愛知県春日井市	●	●					
29	愛知県豊田市※		●					
30	愛知県日進市	●	●					
31	三重県四日市市	●						
32	大阪府河内長野市		●			●		
33	兵庫県たつの市		●					
34	兵庫県三木市		●					
35	和歌山県和歌山市		●					
36	広島県		●					●
37	鳥取県米子市	●						
38	鳥取県境港市		●					
39	鳥取県日吉津村※	●						
40	徳島県徳島市		●					
41	香川県さぬき市	●	●				●	
42	愛媛県東温市	●	●					
43	福岡県うきは市	●	●	●				
44	福岡県筑前町	●	●					
45	長崎県佐世保市	●	●					
46	熊本県玉名市	●						
47	熊本県益城町	●						
48	大分県臼杵市		●					
49	香川県高松市	●		●				●

※インデックス凡例は、左から順に【街】【防】【活】【環】【交】【住】【他】とした。



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

③ ユースケース手法別 逆引き索引

番号	地方公共団体名	可視化	分析・シミュレーション	アプリケーション
01	北海道更別村	●		
02	岩手県盛岡市	●	●	
03	福島県相馬市	●		
04	茨城県つくば市		●	
05	茨城県銚田市			●
06	茨城県境町	●		
07	栃木県宇都宮市	●		
08	群馬県前橋市	●		
09	埼玉県	●		
10	埼玉県さいたま市	●	●	
11	埼玉県熊谷市	●		
12	東京都	●		
13	東京都中央区	●		●
14	東京都江戸川区	●		
15	東京都東村山市	●	●	
16	東京都狛江市	●	●	
17	神奈川県相模原市	●	●	
18	神奈川県横須賀市			●
19	神奈川県厚木市	●		
20	長野県諏訪市	●		
21	新潟県新潟市			●
22	新潟県加茂市	●		
23	岐阜県岐阜市	●	●	
24	岐阜県美濃加茂市	●	●	

番号	地方公共団体名	可視化	分析・シミュレーション	アプリケーション
25	静岡県	●		
26	静岡県静岡市	●		
27	愛知県豊橋市	●		
28	愛知県春日井市	●		
29	愛知県豊田市※	●		
30	愛知県日進市	●		
31	三重県四日市市	●		
32	大阪府河内長野市	●		
33	兵庫県たつの市	●		
34	兵庫県三木市	●		
35	和歌山県和歌山市	●		
36	広島県	●		
37	鳥取県米子市	●		
38	鳥取県境港市		●	
39	鳥取県日吉津村※	●	●	
40	徳島県徳島市	●		
41	香川県さぬき市	●		
42	愛媛県東温市	●		
43	福岡県うきは市	●	●	
44	福岡県筑前町	●	●	
45	長崎県佐世保市	●	●	
46	熊本県玉名市	●	●	
47	熊本県益城町	●		
48	大分県臼杵市	●		
49	香川県高松市	●	●	

※インデックス凡例は、左から順に【可】【分】【ア】とした。



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

④ 人口規模別 逆引き索引

カテゴリー	番号	地方公共団体	人口(万人)※
15.0万人以上 (右につづく)	12	東京都	1,379.5
	09	埼玉県	738.6
	25	静岡県	365.8
	36	広島県	278.9
	10	埼玉県さいたま市	133.2
	21	新潟県新潟市	78.0
	17	神奈川県相模原市	71.9
	14	東京都江戸川区	69.0
	26	静岡県静岡市	68.9
	07	栃木県宇都宮市	51.9
	49	香川県高松市	42.4
	29	愛知県豊田市※	41.9
	23	岐阜県岐阜市	40.4
	18	神奈川県横須賀市	39.3
	27	愛知県豊橋市	37.3
	35	和歌山県和歌山市	36.3
	08	群馬県前橋市	33.3
	28	愛知県春日井市	31.0
	31	三重県四日市市	31.0
	02	岩手県盛岡市	28.5
40	徳島県徳島市	25.1	
04	茨城県つくば市	24.7	
45	長崎県佐世保市	24.3	

カテゴリー	番号	地方公共団体	人口(万人)※
15.0万人以上 (左よりづく)	19	神奈川県厚木市	22.3
	11	埼玉県熊谷市	19.4
	13	東京都中央区	17.1
	15	東京都東村山市	15.2
	37	鳥取県米子市	14.7
5.0万人～15.0万人	32	大阪府河内長野市	10.2
	30	愛知県日進市	9.3
	16	東京都狛江市	8.3
	34	兵庫県三木市	7.6
	33	兵庫県たつの市	7.5
	46	熊本県玉名市	6.5
	24	岐阜県美濃加茂市	5.7
	37	鳥取県米子市	14.7
	32	大阪府河内長野市	10.2
	30	愛知県日進市	9.3
3.0万人～5.0万人	20	長野県諏訪市	4.9
	05	茨城県鉾田市	4.7
	41	香川県さぬき市	4.7
	48	大分県臼杵市	3.7
	03	福島県相馬市	3.4
	38	鳥取県境港市	3.3
	42	愛媛県東温市	3.3
	47	熊本県益城町	3.3
	44	福岡県筑前町	3.0

カテゴリー	番号	地方公共団体	人口(万人)※
1.0万人～3.0万人	43	福岡県うきは市	2.9
	22	新潟県加茂市	2.6
	06	茨城県境町	2.5
～1.0万人未満	39	鳥取県日吉津村※	0.4
	01	北海道更別村	0.3

※人口は百人以下四捨五入

※総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(2022/1/1時点)

※人口規模は当該団体のものであり、整備範囲とは一致しない

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

⑤ 面積規模別 逆引き索引

カテゴリー	番号	地方公共団体	面積 (km ²) ※
500km ² 以上	36	広島県	8,479
	25	静岡県	7,777
	09	埼玉県	3,798
	12	東京都	2,194
	26	静岡県静岡市	1,412
	29	愛知県豊田市※	918
	02	岩手県盛岡市	886
	21	新潟県新潟市	726
	200km ² ~500km ²	45	長崎県佐世保市
07		栃木県宇都宮市	417
49		香川県高松市	376
17		神奈川県相模原市	329
08		群馬県前橋市	312
48		大分県臼杵市	291
04		茨城県つくば市	284
27		愛知県豊橋市	262
10		埼玉県さいたま市	217
42		愛媛県東温市	211
33		兵庫県たつの市	211
35		和歌山県和歌山市	209
05		茨城県鉾田市	208
31		三重県四日市市	207
23		岐阜県岐阜市	204

カテゴリー	番号	地方公共団体	面積 (km ²) ※	
100km ² ~200km ²	03	福島県相馬市	198	
	40	徳島県徳島市	192	
	01	北海道更別村	177	
	34	兵庫県三木市	177	
	11	埼玉県熊谷市	160	
	41	香川県さぬき市	159	
	46	熊本県玉名市	153	
	22	新潟県加茂市	134	
	37	鳥取県米子市	132	
	43	福岡県うきは市	117	
	32	大阪府河内長野市	110	
	20	長野県諏訪市	109	
	18	神奈川県横須賀市	101	
	50km ² ~100km ²	19	神奈川県厚木市	94
		28	愛知県春日井市	93
24		岐阜県美濃加茂市	75	
44		福岡県筑前町	67	
47		熊本県益城町	66	
14		東京都江戸川区	50	
50km ² 未満		06	茨城県境町	47
	30	愛知県日進市	35	
	38	鳥取県境港市	29	
	15	東京都東村山市	17	
	13	東京都中央区	10	
	16	東京都狛江市	6	
	39	鳥取県日吉津村※	4	

※面積は小数点以下四捨五入

※国土地理院 全国都道府県市区町村別面積調(2022/10/1時点)

※面積規模は当該団体のものであり、整備範囲とは一致しない

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

⑥ 令和5年度予算規模別 逆引き索引

カテゴリー	番号	地方公共団体	事業費計 (万円)
1,000万円未満	24	岐阜県美濃加茂市	100
	30	愛知県日進市	343
	31	三重県四日市市	360
	39	鳥取県日吉津村	398
	35	和歌山県和歌山市	572
	28	愛知県春日井市	647
	18	神奈川県横須賀市	702
	26	静岡県静岡市	845
	1,000万円～2,000万円	29	愛知県豊田市
07		栃木県宇都宮市	1,472
13		東京都中央区	1,578
36		広島県	1,652
05		茨城県鉾田市	1,991
2,000万円～3,000万円	04	茨城県つくば市	2,066
	42	愛媛県東温市	2,070
	43	福岡県うきは市	2,398
	01	北海道更別村	2,400
	15	東京都東村山市	2,429
	41	香川県さぬき市	2,400
	19	神奈川県厚木市	2,523
	08	群馬県前橋市	2,550
	45	長崎県佐世保市	2,600
	48	大分県臼杵市	2,725
	32	大阪府河内長野市	2,726
	06	茨城県境町	2,810
	02	岩手県盛岡市	2,996

カテゴリー	番号	地方公共団体	事業費計 (万円)
3,000万円～5,000万円	44	福岡県筑前町	3,100
	47	熊本県益城町	3,280
	27	愛知県豊橋市	3,551
	14	東京都江戸川区	3,661
	01	北海道更別村	3,999
	49	香川県高松市	4,000
	38	鳥取県境港市	4,276
	21	新潟県新潟市	4,494
	5,000万円～1億円	20	長野県諏訪市
22		新潟県加茂市	5,388
16		東京都狛江市	5,701
37		鳥取県米子市	5,762
11		埼玉県熊谷市	5,894
33		兵庫県たつの市	6,398
10		埼玉県さいたま市	6,408
46		熊本県玉名市	6,751
34		兵庫県三木市	7,150
17		神奈川県相模原市	8,000
40		徳島県徳島市	8,998
1億円以上	23	岐阜県岐阜市	9,553
	03	福島県相馬市	10,085
	09	埼玉県	11,999
	25	静岡県	23,000
	12	東京都	39,200

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1. 北海道更別村

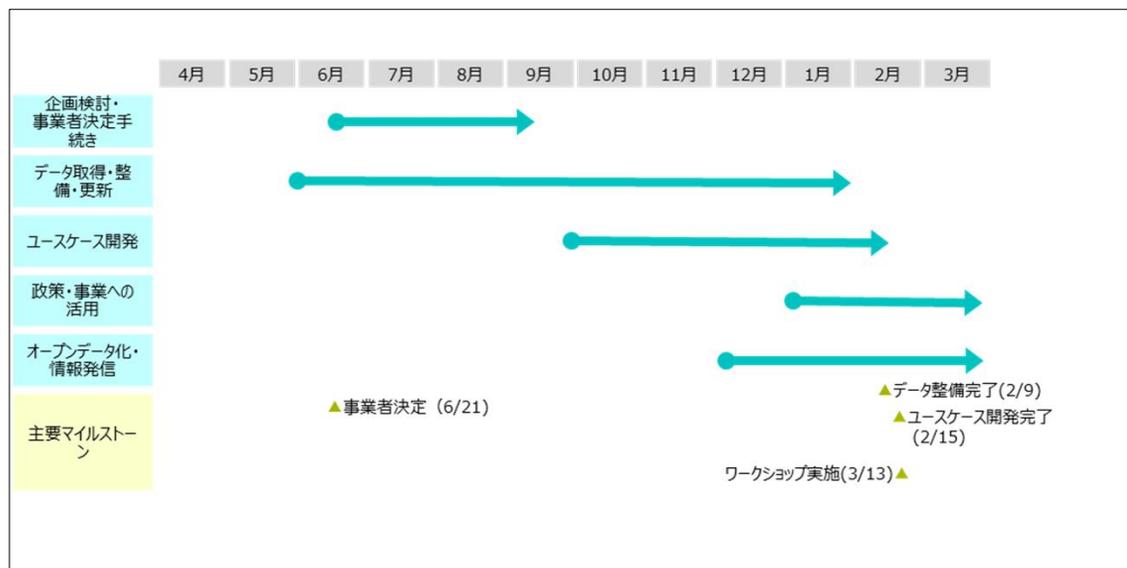


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	3,131人（令和5年9月時点）
市域全域面積	176.90km ² （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	<p>就業人口の43%が農業に従事し、総面積の70%が耕地の大規模機械化農業地帯。主要作物は小麦・てん菜等。1戸あたりの耕地面積約50ha・トラクター保有台数約6台・粗利収入約6,500万円といずれも日本最大規模を誇る。</p> <p>3D都市モデルを活用することで、現状の地図で視認が難しい障害物や土地属性の3D化によるスマート農業の推進や、村民の各種情報への文字情報だけでないアクセスを可能にすることによる村民QOLの向上を図る。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・住・交・他	可	1万以下	100-200	3-5千

担当部局	企画政策課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用したスマート農業推進と村民QOLの向上。
課題	2次元の地図上では障害物や土地属性の視認が困難。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 村の主要産業を維持するスマート農業化の振興。 データ連携基盤のユーザーインターフェース (UI) としての活用。 情報センターでの活用。
事前調査等	-
3D都市モデル 整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 地形図整備及びオルソ画像整備。 公共施設のLOD3化。
ユースケース 開発	<ul style="list-style-type: none"> 農業用ドローン飛行, ロボットトラクター利用促進事業 デジタル田園都市国家構想におけるデータ連携基盤のユーザーインターフェイス活用事業 デジタル田園都市国家構想における情報センターのユーザーインターフェイス活用事業
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したまちづくり合意形成ワークショップの開催。 3D都市モデルの公共施設維持管理データサイトの構築。 3D都市モデル等の更別村情報センターサービスにおけるデータ活用。

総事業費 (予定)	8,149 (万円) ※うちR5年度 3,999 (万円)
R5年度補助執行額	1,200 (万円)
補助対象外の 関連事業	ユースケース開発 「デジ田交付金活用」

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 更別村スーパーレレッジ協議会 情報センターサイト 【3D都市モデル、ユースケース開発データ】
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度 受託事業者	(株) 長大 (株) 八州 朝日航洋 (株) (データ整備)
	(株) 長大 (株) エフェクト (ユースケース開発)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1. 北海道更別村

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・住・交・他	可	1万以下	100-200	3-5千



PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

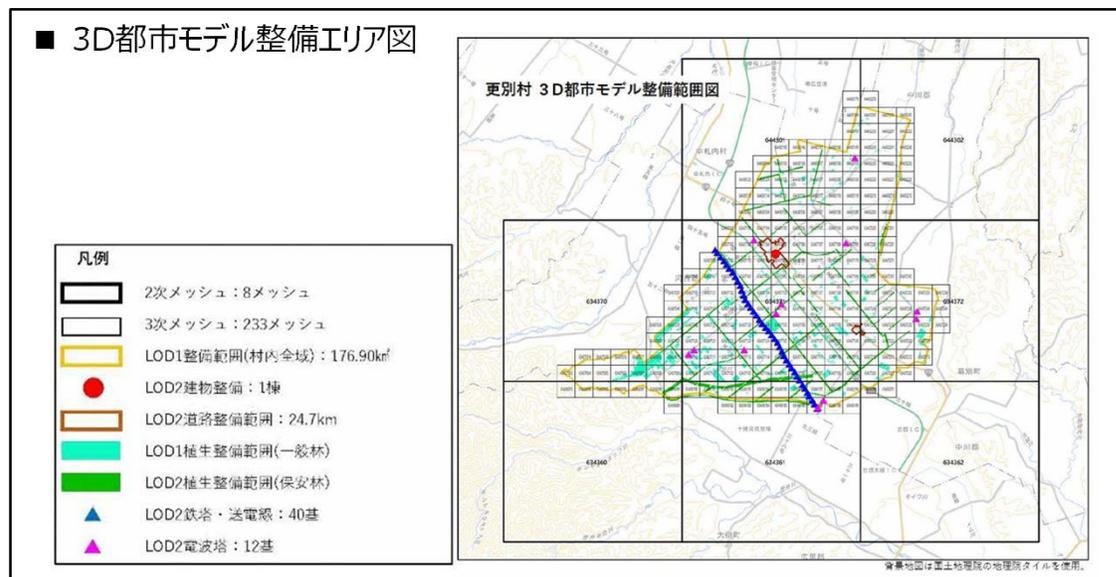
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	村内全域 (一部幕別町施設含む)	176.90km ²	R4年度整備済
	交通 土地利用 地形	村内全域	176.90km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	サテライトオフィス1棟 公共施設3施設9棟	184m ²	R4年度整備済 R5年度新規整備
LOD3	-	-	-	-

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	植生	村内全域の普通林	176.90km ²	R4年度整備済
LOD2	交通（道路）	市街地	24.7km	R4年度整備済
	植生 都市設備	村内全域の保安林、鉄 塔・送電線・電波塔	176.90km ²	R4年度整備済
LOD3	建築物	サテライトオフィス 公共施設	1棟 3施設9棟	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）（既存）	2022	2,500
	その他（建築図面：平面図・立面図・断面図・配置図）	1980-2020	1/30-1/600
測量成果	既存資料（航空写真）	2022	2,500
属性情報	その他（高さ：航空測量）	2022	-
	その他（建築物名称（公的建物名）：公有財産建物台帳）	2019	-
	その他（道路路線名：道路台帳附図）	2021	-
	その他（農地属性：地番図データの登記簿情報）	2022	-

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1. 北海道更別村

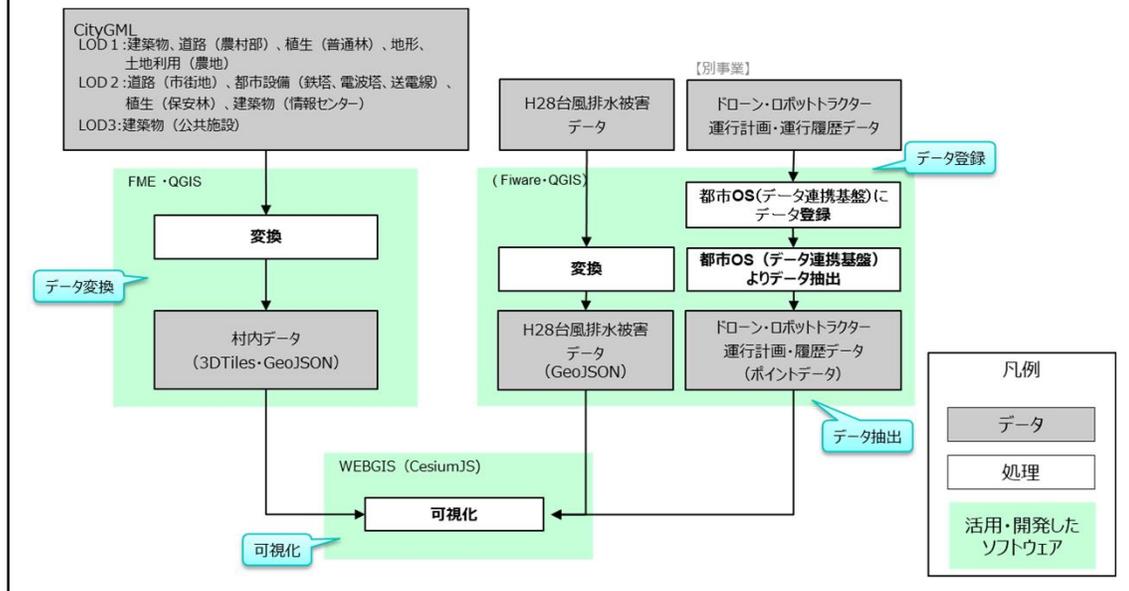
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・住・交・他	可	1万以下	100-200	3-5千



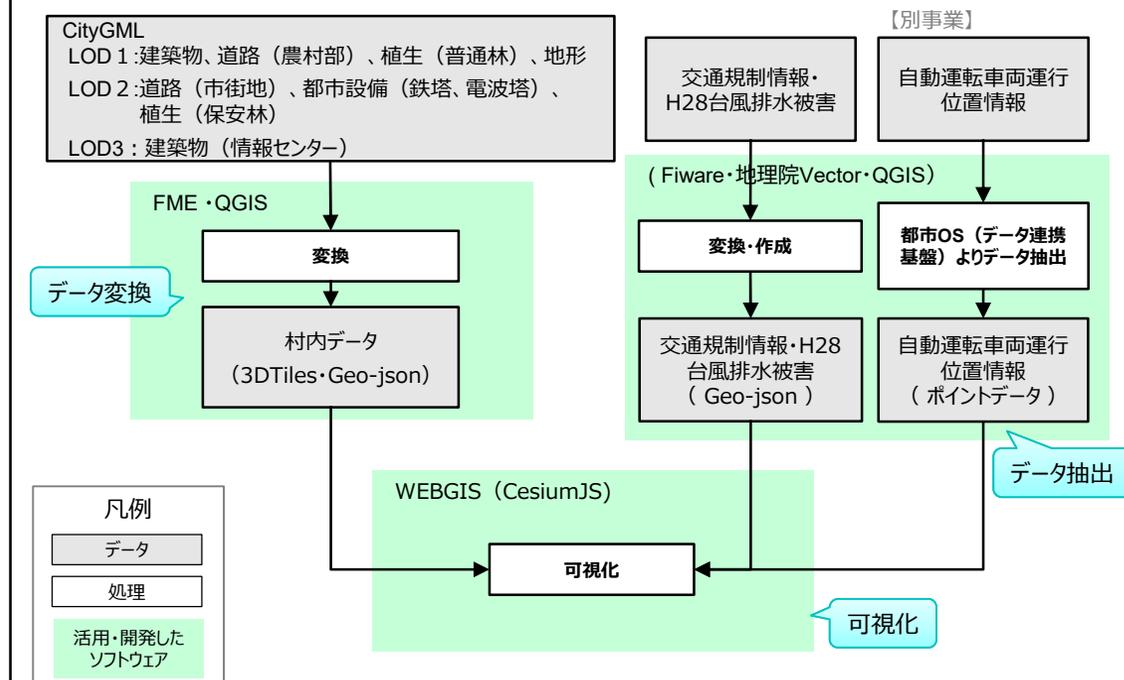
■ ユースケース概要

分野	防災・防犯／住民参加／交通・物流・モビリティ／その他
目的	①農業用ドローン飛行、ロボットトラクター利用促進 ②データ連携基盤のユーザーインターフェースとしての活用 ③情報センターでの活用
取組内容	ドローン・ロボットトラクターの3D位置データを用い障害物やステークホルダーとの抽出を行う。 また、デマンド交通位置情報やH28災害発生状況データ等を取得し3D可視化し村民に提供、村役場が情報センターで監視する。

■ システム構成図 ① 農業用ドローン飛行、ロボットトラクター利活用促進



■ システム構成図 ② データ連携基盤のユーザーインターフェースとしての活用事業



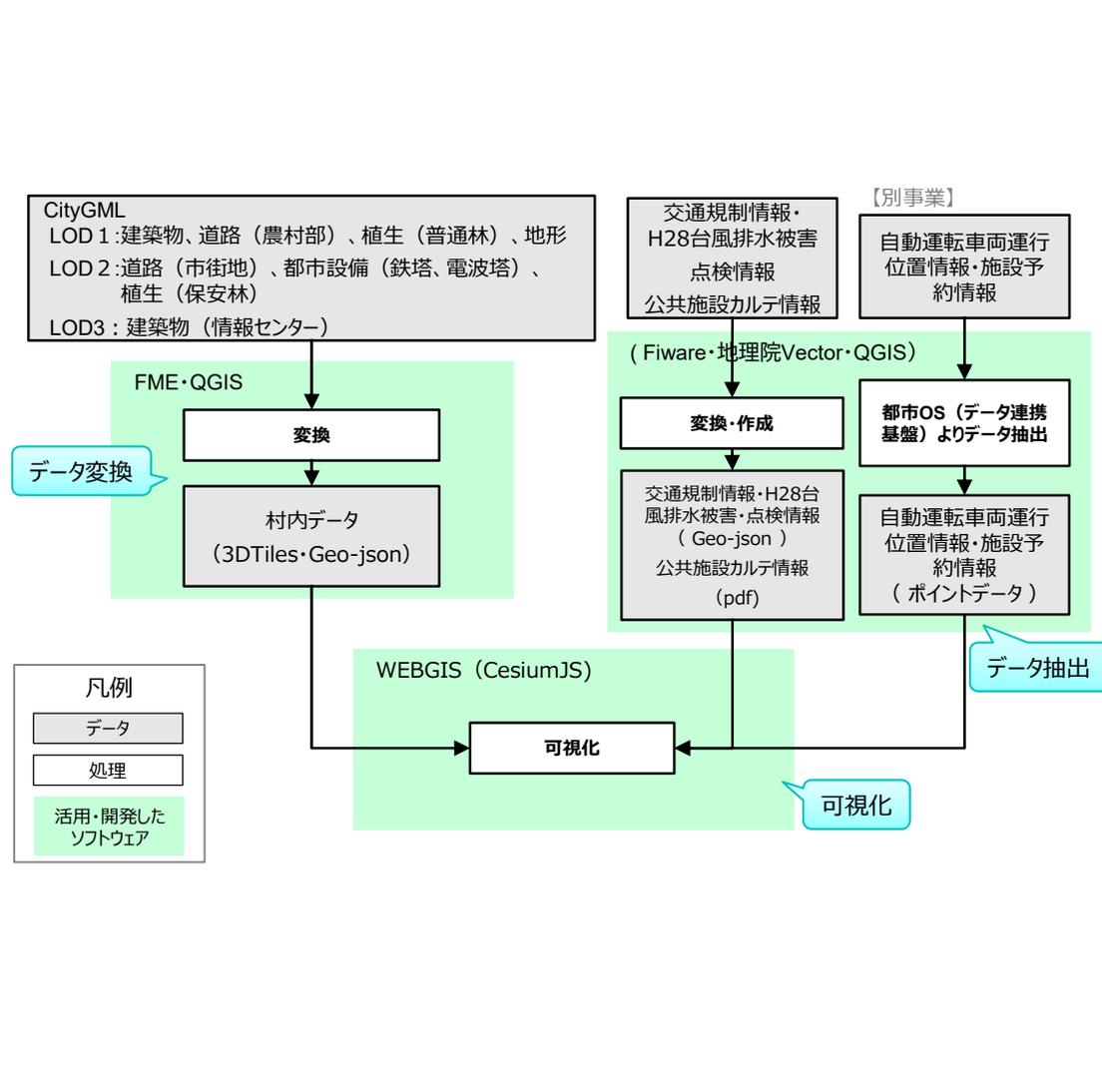
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1. 北海道更別村

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・住・交・他	可	1万以下	100-200	3-5千



■ システム構成図 ③情報センターでの活用事業



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1. 北海道更別村

■ ユースケース開発方法

① 農業用ドローン飛行、ロボットトラクター利用促進

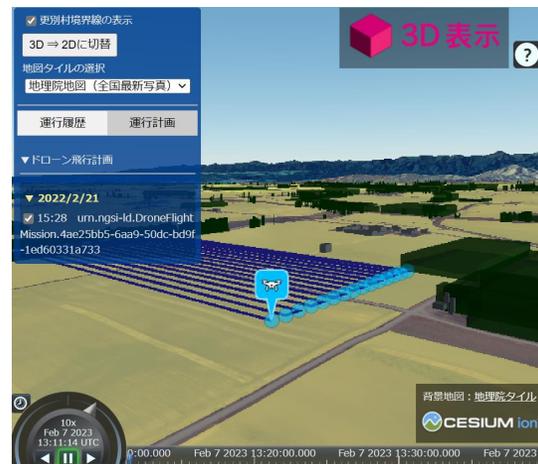
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD0・1・2・3 道路LOD1・2 土地利用LOD1 地主LOD1 植生LOD1・2 都市整備LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> ドローン・ロボットトラクターの位置データ（出所：JAさらべつ） （Fiware->ポイントデータ）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 別事業の都市OSに蓄積されたドローン・ロボットトラクターの運行履歴を3D都市モデル上に可視化。 別事業で整理したドローン・ロボットトラクターの運行計画を3D都市モデル上に可視化し、鉄塔や保安林等の障害物や運行にあたり合意形成が必要となる地形の農地属性を明確化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 新たなドローン・ロボットトラクターの運行計画作成検討に活用。 村民の合意形成に向けた説明資料に活用。
オープンデータ化 情報発信	ユースケース開発データを掲載 (更別村スーパービレッジ協議会 情報センターサイト)

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
住民へのアンケートで農業分野における「活用への期待」等の項目における住民の「満足度」	90%以上 (R5年度)	90%

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・住・交・他	可	1万以下	100-200	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



ドローン運航履歴/計画の表示

運航履歴と運航計画を管理可能なシステムを構築。森林、建物の高さも視認でき合意形成等でも利用可能。



トラクターの運行履歴/計画の表示

運行履歴と運行計画を管理可能なシステムを構築。ロボットトラクター導入時の計画検討等でも利用可能。

■ 今後の展望

他機関システムとの連携を検討していく予定である。また、ユーザーの管理も必要であり、一般ユーザーと行政との分離も実施する予定。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1. 北海道更別村

■ ユースケース開発方法

②データ連携基盤のユーザーインターフェースとしての活用

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD0・1・2・3 道路LOD1・2 土地利用LOD1 地主LOD1 植生LOD1・2 都市整備LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 交通情報データ（出所：すいすい村内移動サービス（自動運転運行バス）による位置情報データ）（Fiware->ポイントデータ） 災害情報データ（出所：更別村）（gml->Geo-json） 通行止めデータ（出所：更別村）（提供データ->Geo-json）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 既存データ連携基盤に蓄積された交通情報、災害情報、通行止め規制情報等を3D都市モデル上に表示し、村民に村内状況やサービスを提供するためのUIを構築。 H28畑の滞水冠水範囲・箇所を3D都市モデル上に展開し水害発生状況を確認、水害シミュレーションを実施。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 更別住民ポータルや3D都市モデル操作説明資料を作成、操作説明会の実施。 R5年度以降防災マップの更新検討に活用。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ユースケース開発データを掲載（更別村スーパービレッジ協議会 情報センターサイト）

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
住民へのアンケートで「画面への見やすさ」等の項目における住民の「満足度」	90%以上 (R5年度)	80%

R5年度KPI未達を受けての今後の対応	通行止め区間を表示する色味や表示方法では視認性が低く、「見やすさ」の評価が低下した可能性がある。今後、色味や表示方法を修正し、視認性を高める。
---------------------	-------------------------------------------------------------------------

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・住・交・他	可	1万以下	100-200	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



通行止め情報の表示
 通行止め情報を表示。これまでは防災放送のみでの対応だったものの、地図上で案内することで住民の認識が向上。

過去の浸水状況の表示
 平成28年の台風による畑の滞水・冠水被害箇所について表示。今後の営農の参考に役立てることが可能。

■ 今後の展望

通行止め情報に限らず、様々な注意情報など住民にとって有益な情報を提供するように努めていく。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1. 北海道更別村

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・住・交・他	可	1万以下	100-200	3-5千



PLATEAU
by MLIT

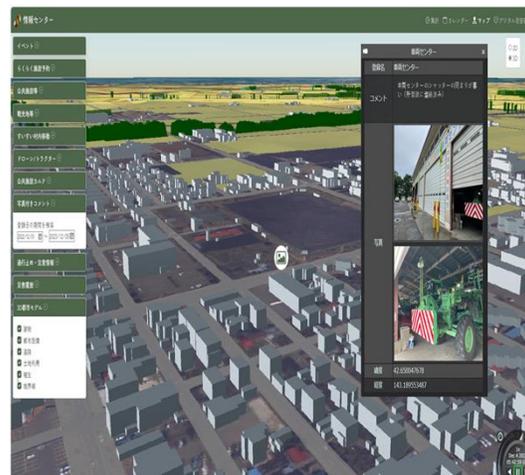
■ ユースケース開発方法 ③情報センターでの活用

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD0・1・2・3 道路LOD1・2 土地利用LOD1 地主LOD1 植生LOD1・2 都市整備LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 点検情報データ (写真・コメント) 公共施設カルテ情報データ
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 施設の破損部分などについて写真を撮影、詳細をコメントとして記載し、地図上で表示するシステムを構築。 既存の公共施設カルテ情報を登録し、3D都市モデル上の公共施設においてカルテを表示するシステムを構築。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 写真をつけて損傷部分を掲載することで、どのような対応をする必要があるかなど明確化させる。 公共施設カルテを可視化することで施設管理情報を明確化させる。
オープンデータ化 情報発信	ユースケース開発データを掲載 (更別村スーパービレッジ協議会 情報センターサイト)

■ KPI

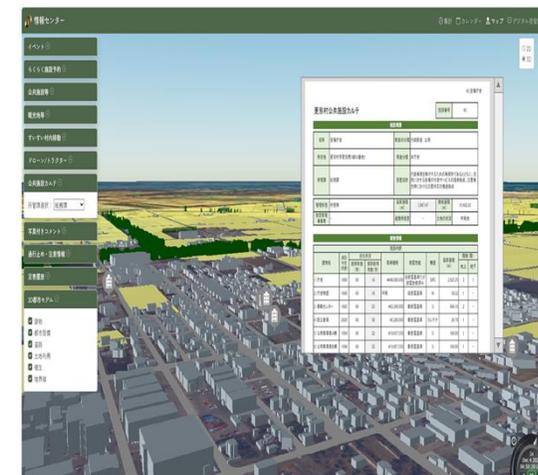
KPIz	目標設定	達成状況
住民へのアンケートで「操作性の快適さ」等の項目における住民の「満足度」	50%以上 (R5年度)	90%

■ ユースケース開発成果イメージ図



写真付きコメント

施設の破損部分などについて写真を撮影、詳細をコメントとして記載し、地図上で表示し、安全面、施設管理等に広く役立てる。



公共施設カルテ

既存の公共施設カルテ情報を登録し、3D都市モデル上の公共施設においてカルテを表示し、施設管理に役立てる。

■ 今後の展望

農業排水システム情報や上下水道情報など様々なデータをマップ上に掲載し、情報の発信を一元化させ、村民が見やすいサイトにしていく。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

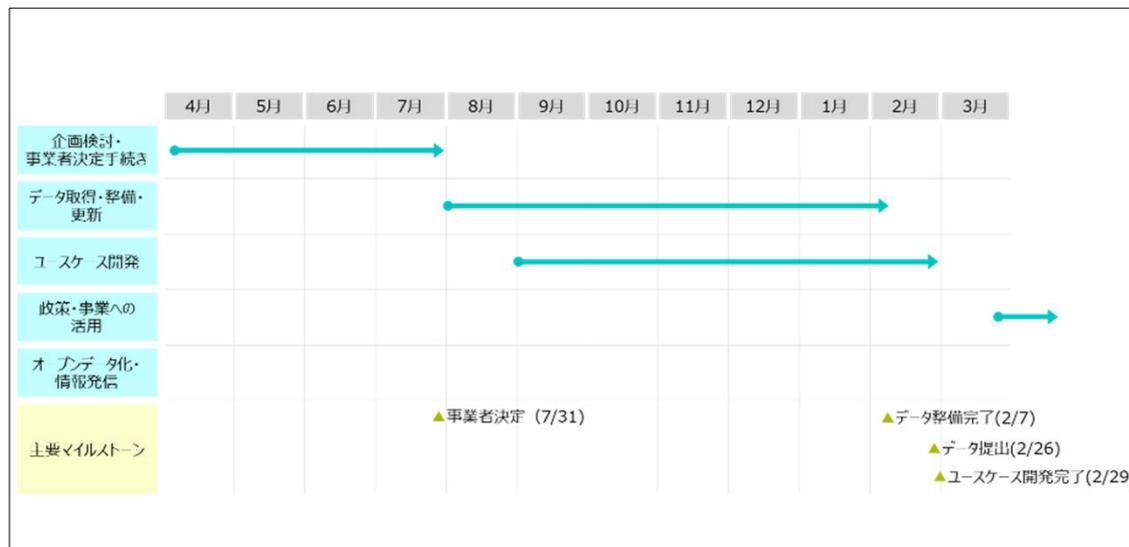
2. 岩手県盛岡市



■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	280,851人（令和5年9月末日現在（住民基本台帳人口））
市域全域面積	886.47km ² （令和5年7月時点）
主な産業 地域課題等	<p>第3次産業の従事者が80%を占める商業・消費都市で、盛岡城跡公園を含む内丸地区を中心とした既存市街地と盛岡駅から南西部にわたる新市街地により都市軸を形成している。</p> <p>3D都市モデルを活用し、主要な都市機能が集積しているが建物群の老朽化が進んでいる内丸地区の再整備の検討や、北上川をはじめとする3つの川の合流も要因である既存市街地の広範囲に及ぶ洪水浸水想定区域を踏まえた市民の防災意識の向上等を図る。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	15万以上	500以上	2-3千

担当部局	都市整備部 都市計画課
------	-------------

■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用した内丸地区再整備等計画立案活用及び災害リスクの可視化
課題	<ul style="list-style-type: none"> 主要な都市機能が集積している内丸地区において、建物群の老朽化が進んでいることから、地区の再整備の検討を進める必要がある。 市中心部付近で一級河川3川が合流し、洪水浸水想定区域が既存市街地に広範囲に及んでおり、市民の防災意識向上を目指す必要がある。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの活用により、次世代に繋ぐ新たな内丸地区を目指すための整備手法の理解度を高めるとともに地区内関係者の合意形成を図る。 浸水深や浸水継続時間を可視化し、市民の防災意識の向上を図るとともに地域防災計画等の検討に活用する。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD1災害リスク及びLOD2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した内丸地区再整備等計画立案活用事業 3D都市モデルを活用した水災害リスク可視化事業（都市空間ハザード情報リーフレット作成業務）
推進事業	—

総事業費（予定）	4,721（万円） ※うちR5年度 2,996.4（万円）
R5年度補助執行額	1,498.2（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 盛岡市公式ホームページ 【3D都市モデル】
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	国際航業株式会社（データ整備・計画立案活用事業）
	日本工営株式会社（ハザード情報リーフレット作成業務）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

2. 岩手県盛岡市

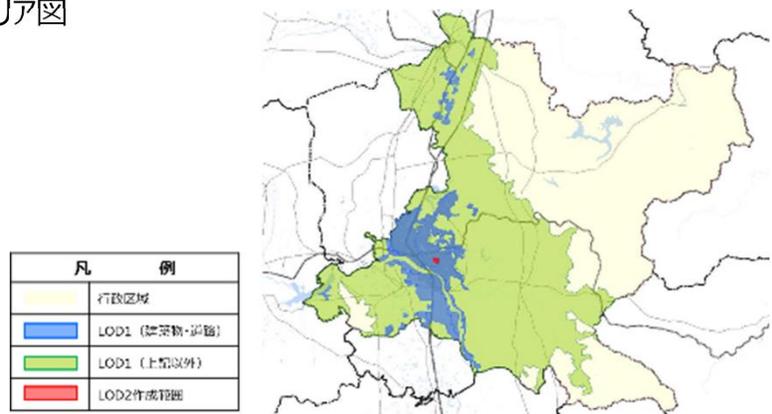
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通道路 都市計画決定情報 土地利用 地形 災害リスク	市街化区域	60km ²	R4年度整備済 (R5年度一部更新)
		都市計画区域	446km ²	
		都市計画区域	446km ²	R5年度新規整備
LOD2	建物物	内丸地区	0.2km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通道路、植生	内丸地区	0.2km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

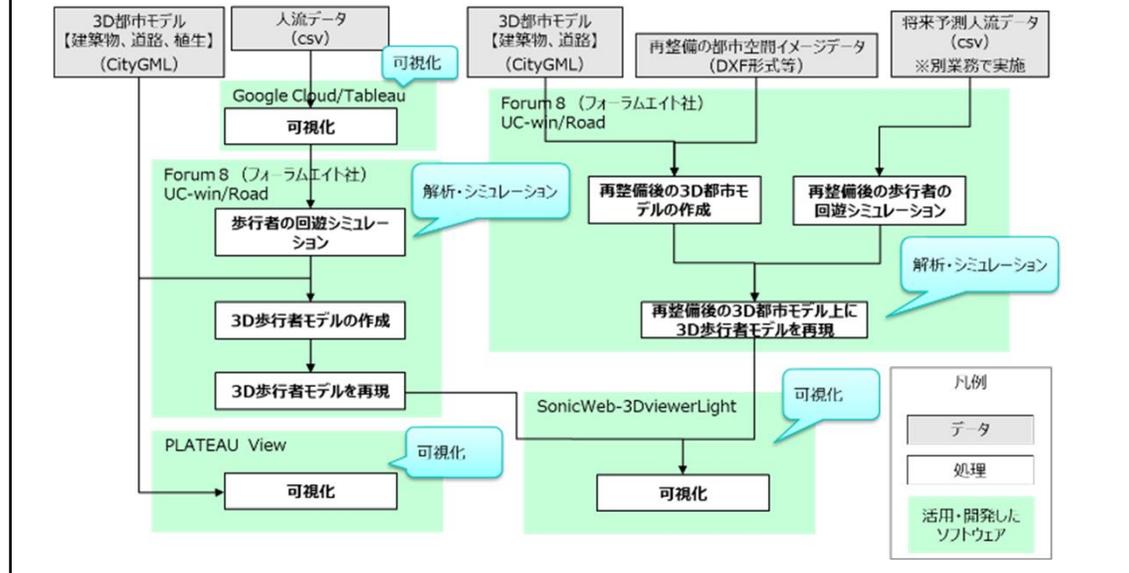


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H26年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H26年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	H27・28年度	-

■ ユースケース①概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した内丸地区再整備等計画立案活用事業
目的	（仮称）内丸プラン策定のための検討資料としての活用
取組内容	内丸地区における再整備を進めるため、各敷地に対する将来建物規模のイメージを可視化し、再配置に関する整備シナリオの検討材料として、関係する行政機関及び民間事業者との間でイメージを共有する。 同地区周辺を中心市街地を対象に歩行者空間の連続性を可視化し、新たな内丸地区におけるウォークラブルなまちづくり計画の検討を行う。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

2. 岩手県盛岡市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	15万以上	500以上	2-3千



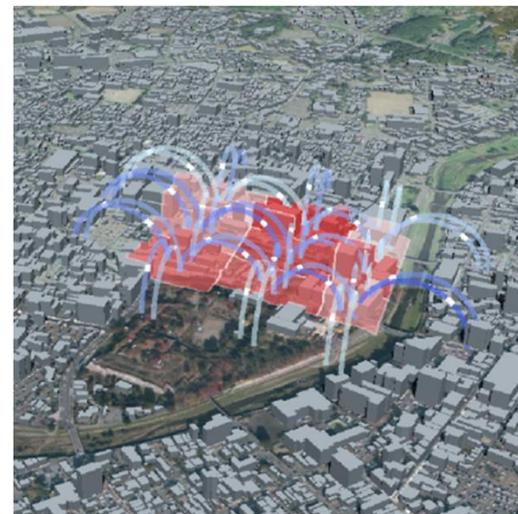
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 道路LOD1・2 都市計画決定情報LOD1 (都市計画区域、区域区分、用途地域) 土地利用LOD1 (土地利用区分) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、内水浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域) 地形LOD1 植生LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者移動データ (年代、性別、推定居住地、推定就業地等) 再整備等計画データ
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルと都市計画基礎調査データ、3次元化した洪水浸水想定区域のデータのほか、人流データを重ね合わせる。 歩行者空間の確保を3D可視化ソフトを用いてわかりやすく表現し、再整備後の都市のイメージ共有を行う。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 内丸地区の再整備シミュレーション結果の公表。 (仮称)内丸プランの成案に向けて市民との再整備イメージの共有。 検討懇話会及び実務者検討会議の資料として提示。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWへの掲載 【ゾーン間移動量・ゾーン内流動人口】

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
計画策定関連部署における職員の理解度 (アンケート)	100%	90%

■ ユースケース開発成果イメージ図



ゾーン間移動量・ゾーン内流動人口
ビッグデータから取得した人流データを基に、現況の内丸地区内の歩行者のゾーン間移動及びゾーン内人口を可視化。



歩行者の移動状況の再現
人流データを基に内丸地区内の歩行者の移動状況を再現。

■ 今後の展望

誰もが安心して歩くことのできる地区、回遊、滞留、交流を促す地区を目指して人中心の空間の実現のために、新市庁舎整備等の関連計画との整合を図りながら、(仮称)内丸プランの策定に向けて取り組みを継続していきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

2. 岩手県盛岡市

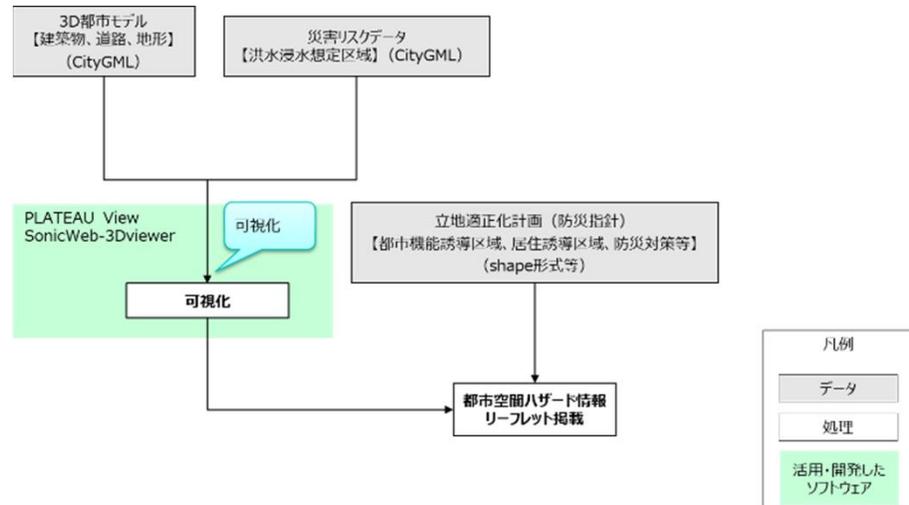
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	15万以上	500以上	2-3千



■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した水災害リスク可視化事業 (都市空間ハザード情報リーフレット作成業務)
目的	立地適正化計画（防災指針）の周知と災害リスクの高い地区の住民の防災対策の促進。
取組内容	浸水深が深く、浸水継続時間が比較的長い地区を対象として、災害リスク情報の3次元表示を行い、リスクを可視化する。 立地適正化計画における防災指針との整合を図りながら、防災対策等についてのリーフレットを作成し、周知を図る。
実施体制	日本工営株式会社

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1（名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数） 道路LOD1 都市計画決定情報LOD1（都市計画区域、区域区分、用途地域） 土地利用LOD1（土地利用区分） 災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域、内水浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域） 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画（防災指針）データ（都市機能誘導区域、居住誘導区域、防災対策等）
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 洪水浸水想定区域等の災害リスク情報を3D都市モデルに重ね合わせることで、災害リスクを分かりやすく可視化する。 可視化した災害リスク（主に洪水）とともに、防災指針の取組内容と整合した防災対策等を掲載したリーフレットを作成する。 盛岡市立地適正化計画の居住誘導区域内において、災害リスクの高いエリア（主に洪水）に属している町内会等の対象世帯にリーフレットの配布を行う。
政策・事業での活用	リーフレット配布により、災害リスクの高いエリアの住民の防災指針への理解と、防災意識の向上及び避難行動を促進させる。
オープンデータ化情報発信	盛岡市公式ホームページ【リーフレット】

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
危機管理部署等における3D都市モデルが災害リスクの可視化に有効だと思う割合（アンケート）	70% (R5年度)	96.97% (R5年度)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

2. 岩手県盛岡市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	15万以上	500以上	2-3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



災害リスク情報の可視化
洪水や内水の浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等の災害リスク情報を重畳し、三次元での可視化。



**盛岡市立地適正化計画防災指針
周知リーフレットへの掲載と配布**
防災指針におけるソフト対策の一つとして、3D都市モデル事業の取り組みを掲載し、リスクが高い地域の住民へ配布。

■ 今後の展望

令和6年度には洪水浸水想定区域の時系列表示を行い、浸水深等の変化を分かりやすく可視化する予定である。

災害リスクに強いコンパクトなまちづくりを進めるため、3D都市モデルの活用により、災害リスクの高い地域内の住民等に対して、防災意識の向上を図るなど、防災まちづくり対策の取り組みを促進していきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

3. 福島県相馬市

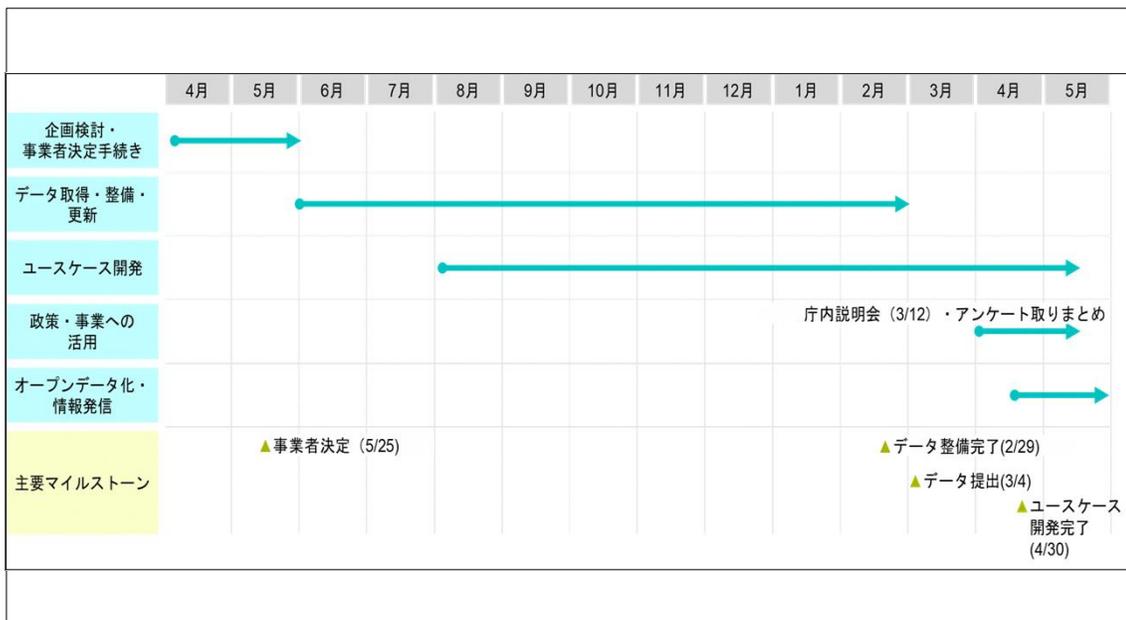


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	33,391人（令和5年10月時点）
市域全域面積	197.79km ² （令和5年1月時点）
主な産業 地域課題等	常磐自動車道及び常磐自動車道と東北自動車道を結ぶ東北中央自動車道などの高速交通ネットワークが充実しており、国際貿易港である重要港湾相馬港に隣接した相馬中核工業団地が立地している。 令和元年東日本台風で河川氾濫による浸水被害が発生したことから、3D都市モデルを活用し、市民等が災害時に迅速で適切な避難行動をとることができるよう防災意識の向上を図る。

■ 令和5年度スケジュール ※繰越



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	3-5万	100-200	10千以上

担当部局	建設部 都市整備課
------	-----------

■ 補助事業実施項目

目標	災害に強い安全で安心な地域づくり
課題	震災・水防対策の整備、災害弱者対策の推進
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 洪水や津波の浸水想定区域図を3D化し水害等による災害リスクをわかりやすく可視化することで、効果的な住民避難の対策を計画し、地域住民の防災意識の向上を目指す。 市内の災害・防災分野政策へ、3D都市モデルを活用促進することで、自治体職員の防災意識の向上を目指す。

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討等
3D都市モデル 整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> オルソ画像作成 都市計画基本図修正 都市計画基礎調査 3D都市モデル整備（LOD1,LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	—

総事業費	10,084.8（万円）
R5年度補助執行額	5,042.4（万円）
補助対象外の 関連事業	—

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 相馬市ホームページへの掲載【PLATEAU VIEWのリンクURL】
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度 受託事業者	国際航業株式会社 （事前調査、3D都市モデルの整備・更新、データ整備）
---------------	----------------------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

3. 福島県相馬市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 土地利用 災害リスク 地形 都市計画決定情報	相馬市全域 相馬地方都市計画区域 相馬市	197.79km ² 119.82km ²	R5年度新規整備 R5年度新規整備
LOD2	建築物	相馬市内	50棟	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



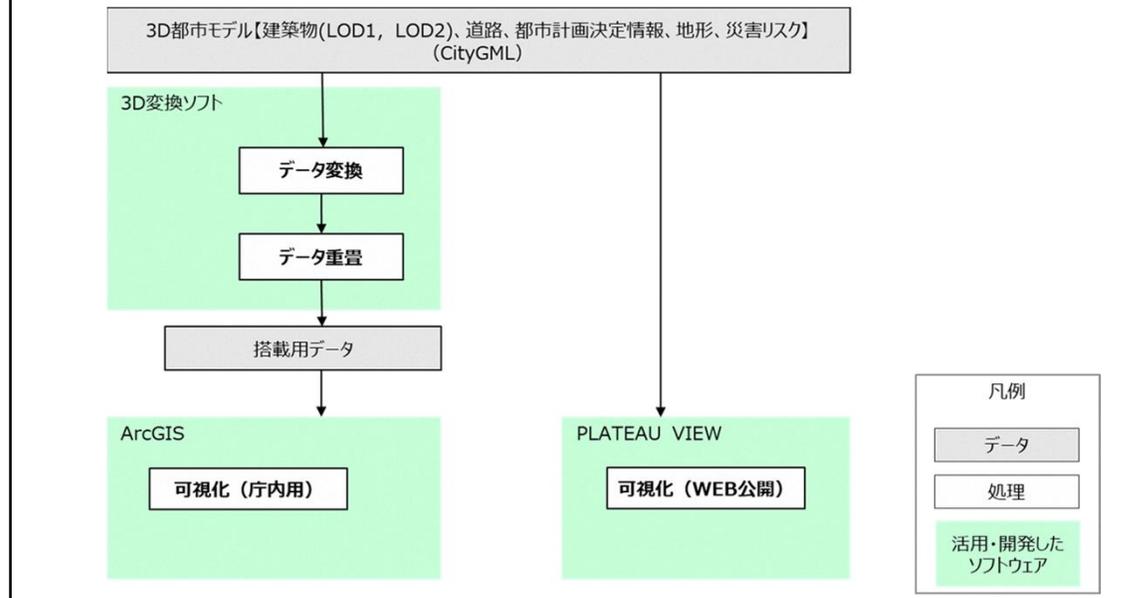
	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	相馬市全域（197.79km ² ）
	LOD2（建築物）	相馬市内（50棟）

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	新規作成	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	新規作成	—

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
取組内容	震災・水防対策の整備、災害弱者対策の推進をするため、洪水や津波の浸水想定区域図を3D化し、3D都市モデルに重ね合わせることで、水害等による災害リスクをわかりやすく可視化する。 可視化の結果を踏まえ、市の防災計画や避難経路設定に活用する。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

3. 福島県相馬市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	3-5万	100-200	10千以上



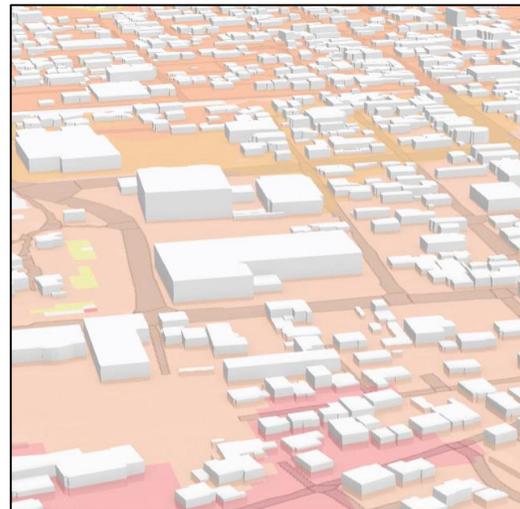
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1, LOD2 (浸水ランク、浸水深、継続時間等) 道路LOD1 都市計画決定情報LOD1 地形LOD1 災害リスクLOD1
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	3D都市モデル上に洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域、内水浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別計画区域の情報を重ねて可視化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 住民避難対策計画 (図上訓練等) の活用による地域住民の防災意識の向上。 庁内の災害・防災分野における政策検討への活用。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWのリンクURLを市ホームページに掲載。

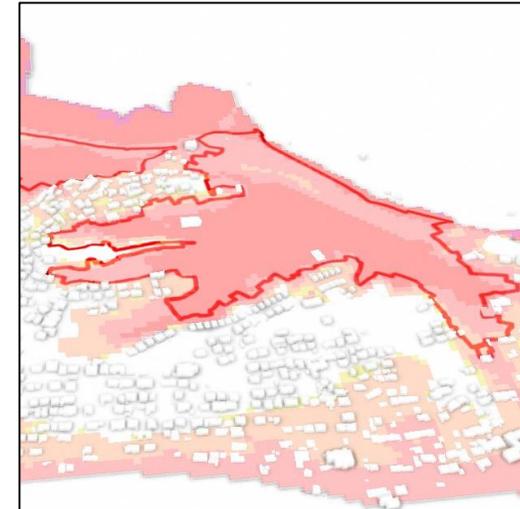
■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
職員へのアンケートにおける、開発したユースケースが災害・防災分野政策の検討に有効とする職員の割合	50%	R6年4月5週 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



災害情報の重ね合わせ
建築物モデルと洪水浸水想定区域を重ね合わせて、避難経路や垂直避難可能な建物を把握する。



防災政策での活用
市で指定する災害危険区域と津波浸水想定区域を重ね合わせて、災害危険区域解除を検討する。

■ 今後の展望

今回は防災・減災のユースケースを開発し、防災政策での活用が見込まれるが、庁内で開催した3D都市モデルの説明会を機に、3D都市モデルを活用する意識を醸成し、防災・減災以外の政策に活用されるように周知・啓発していきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

4. 茨城県つくば市



PLATEAU
by MLIT

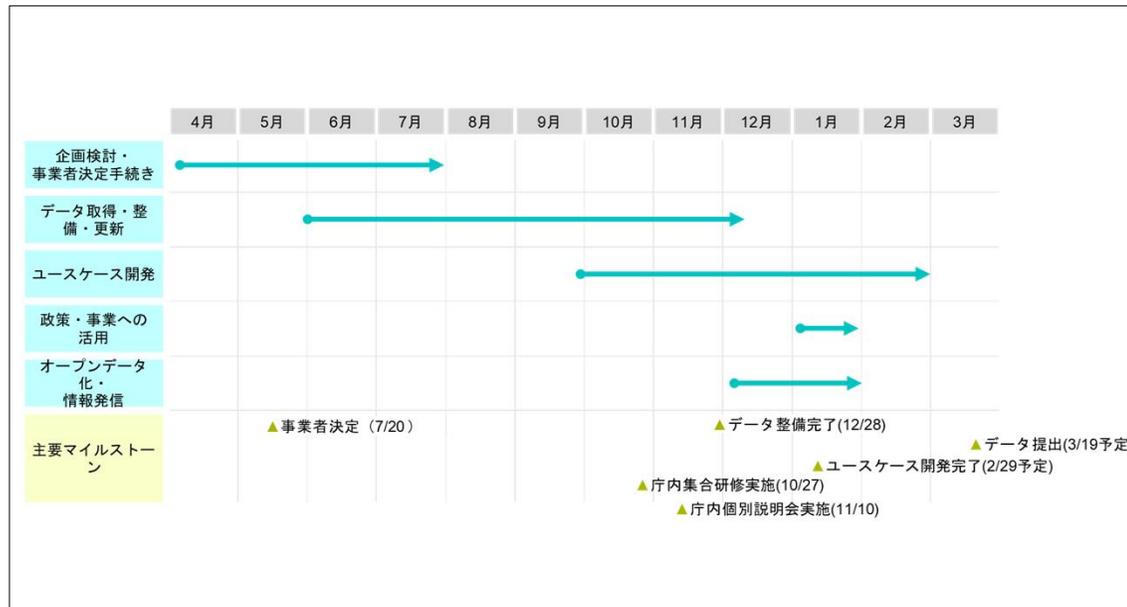
■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約250,000人（令和5年11月時点）※1
市域全域面積	市域全域面積：284km ² （令和5年7月時点）※2
主な産業 地域課題等	茨城県の県南部に位置する市。面積は約284km ² で県内4番目の広さ。約150の研究機関が集積する研究学園都市。 つくばエクスプレス沿線の開発等により子育て世代の転入が増加しており、人口が毎年5,000人程度の伸びを見せている。一方で、周辺部では高齢化が進んでいる。

※1 資料出所：行政区別人口統計（つくば市）

※2 資料出所：全国都道府県市区町村別面積調（国土交通省国土地理院）

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
交・他	分	15万以上	200-500	1-3千

担当部局	政策イノベーション部 科学技術戦略課
------	--------------------

■ 補助事業実施項目

目標	<ul style="list-style-type: none"> 移動の自由と健康な自立を人々へ提供し、安心して暮らせるまちづくりを実現する。 安全で持続可能な都市空間を人々へ提供し、活力ある都市力を向上させる。
課題	必要なとき、必要な場所へ移動できる手段の提供
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの自動走行への活用 高所救助業務等の円滑化

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備 (LOD1・属性データ更新) 3D都市モデル整備 (LOD1-3)
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したこどもMaaS推進事業 3D都市モデルを活用した庁内情報共有 (救助業務等)
推進事業	-

総事業費	7,178.5 (万円) ※うちR5年度 2,066.0 (万円)
R5年度補助執行額	1,032.9 (万円)
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 つくば市ホームページ【3D都市モデル】
-------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	株式会社パスコ (3D都市モデル整備) 国立大学法人筑波大学 (3D都市モデルを活用したこどもMaaS事業)
-----------	--------------------------------------------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

4. 茨城県つくば市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
交・他	分	15万以上	200-500	1-3千



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

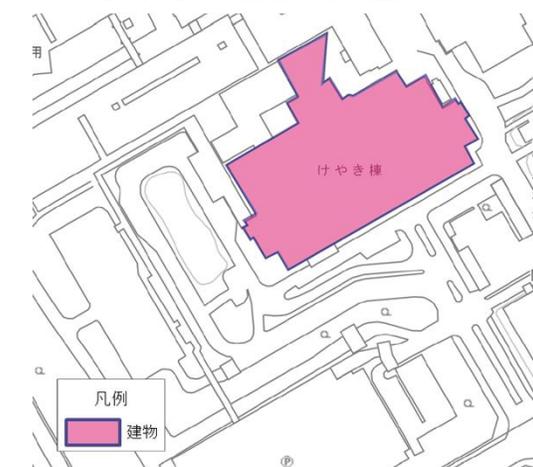
※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	つくば市全域	283.7km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	筑波大学・つくば駅周辺エリア (都市機能誘導区域)	2.3km ²	R4年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3.0	建築物	筑波大学附属病院 筑波大学附属病院	2棟 けやき棟	R4年度整備済 R5年度新規整備
	都市整備	つくばセンターエリア 研究学園駅周辺エリア 筑波大学附属病院	0.8km ² 2.3km ² 0.2km ²	R4年度整備済
	植生	つくばセンターエリア 研究学園駅周辺エリア	0.8km ² 2.3km ²	R4年度整備済
LOD3.3	交通（道路）	つくばセンターエリア 研究学園駅周辺エリア 筑波大学附属病院	0.8km ² 2.3km ² 0.2km ²	R4年度整備済
LOD0~3.3	交通（徒歩道） 橋梁 都市設備 植生	つくば駅周辺エリア（ペDESTリアンデッキ）	0.1km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



エリア名	筑波大学附属病院（けやき棟）
------	----------------



エリア名	ペDESTリアンデッキ
------	-------------

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R1年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R3年度	1,000
	その他（可搬型MMS測量成果）	R4年度 R5年度	—
	その他（現地写真）	R4年度 R5年度	—
	その他（3D都市モデル）	R4年度	LOD0-3
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—
	都市計画基本図（既存）	R1年度	2,500

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

4. 茨城県つくば市

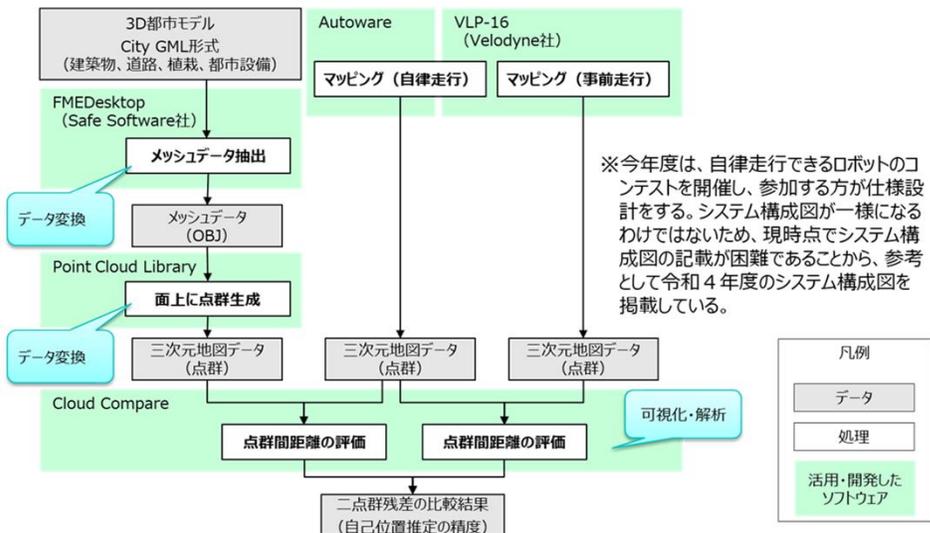
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
交・他	分	15万以上	200-500	1-3千



■ ユースケース①概要

テーマ	モビリティ・ロボティクス
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したこどもMaaS推進事業
目的	つくば駅周辺の回遊性を向上させ、中心部の賑わいを創出する。
取組内容	3D都市モデルLOD3を活用することで、事前マッピングの簡便化や走行時の自己位置推定の精度向上を図る。これにより、つくば駅周辺の公園をめぐる自動運転モビリティのサービスを推進する。
実施体制	国立大学法人筑波大学

■ システム構成図



■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (外形状、高さ) 道路LOD3 (歩行者横断指導線、横断歩道 (縁石による段差、切り下げ部の段差)) 植栽LOD3 (地方面との相対関係、平均高さ) 都市設備LOD3 (位置、専有面積、高さ)
活用データ (上記以外)	—
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAUの三次元地図データを参加者に提供し、自律走行ロボットが自己位置推定を行う手法の開発や三次元地図データに基づき自律走行可能なロボットの開発を行っていただく。 つくばチャレンジ エクストラチャレンジ当日、各参加チームに実走行及びデータ観測等を行っていただく。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 事前走行をせずにロボットの自己位置推定を行う手法の検討及び自己位置推定の精度検証を行う。 自動運転モビリティ (こどもMaaS) のサービスを推進する。 3D都市モデルを使った自動走行技術の開発環境の整備。
オープンデータ化情報発信	つくば市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルを使った自動走行技術の実証台数 (台)	5台 (R5年度)	8台

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

4. 茨城県つくば市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
交・他	分	15万以上	200-500	1-3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



自己位置推定の様子

3D都市モデルを地物別に色分けし、モビリティに搭載したカメラで取得した周辺の景色画像と突合し、周辺環境を認識する様子。



自律走行するモビリティ

3D都市モデルを活用してペDESTリアンデッキを自律走行するモビリティの様子。

■ 今後の展望

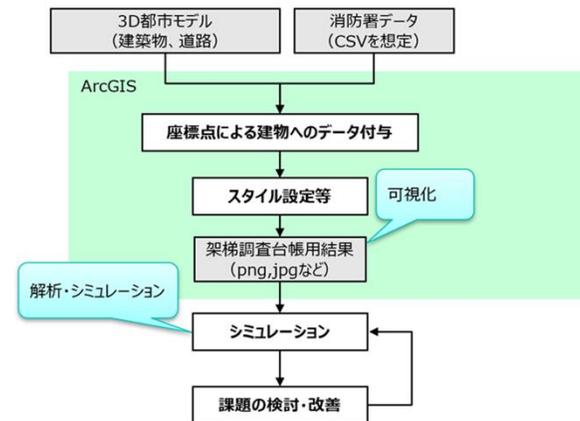
今回は、自動運転モビリティへの活用可能性の検証を行う実証実験にとどまっているが、今後、衛星を活用した自動運転モビリティの自己位置推定の計算過程において、走行ルート上における各衛星からのデータの確からしさを事前シミュレーションすることで、自己位置推定の精度向上を図る予定。

上記アルゴリズムを用いたモビリティの自動走行を市内で実現し、社会実装を目指す。

■ ユースケース②概要

テーマ	その他
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した庁内情報共有
目的	高所救助業務等の円滑化
取組内容	高所救助では、高さに応じてはしご車もしくは救助ヘリコプターを出場させる。3D都市モデルの高さ情報・階数情報を用いて、市内での高所救助が必要となる箇所の確認等を実施する。
実施体制	つくば市

■ システム構成図



※消防本部のシステムに整備されている架梯可能面調査のデータは、閲覧を基本としているため、出力の可否については調査が必要。出力が不可の場合は、市内建物の架梯可能面情報をCSVデータ等にする。



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

4. 茨城県つくば市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
交・他	分	15万以上	200-500	1-3千

■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1（高さ、階数情報）
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 架梯可能面情報
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルのビューワー環境を整備する。 3D都市モデルを使った作図・解析が可能なシステム環境を整備する。 整備した3D都市モデルデータと庁内の情報資産等（既存の架梯可能面データ）を組み合わせる。 出動車両の選定や既存の架梯可能面調査台帳への応用可能性について、消防本部に御検討いただく。
政策・事業での 活用	現状敷地内平面図により表現しているはしご消防車の架梯可能面調査台帳を三次元地図の活用により、高所救助が必要となる箇所周辺の建築物の位置や高さをより把握しやすくする。
オープンデータ化 情報発信	つくば市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルのビューワー環境整備済み端末数（台）	2台	2台

■ ユースケース開発成果イメージ図



庁内集合研修の様子

令和5年10月27日に三次元地図（PLATEAU）の活用に向けた職員向け研修を開催。



市内の三次元地図のイメージ図

3D都市モデルの閲覧・解析環境（ArcGIS Pro）を整備した。

■ 今後の展望

今年度は、全庁的に職員のPLATEAUデータへの理解を深め、活用に向けた意識醸成を中心として、実際に庁内業務の中での利用を試行した。

今後は、引き続き職員のデータへの理解を促進するとともに、継続的な利活用シーンの発掘・実装を目指す。

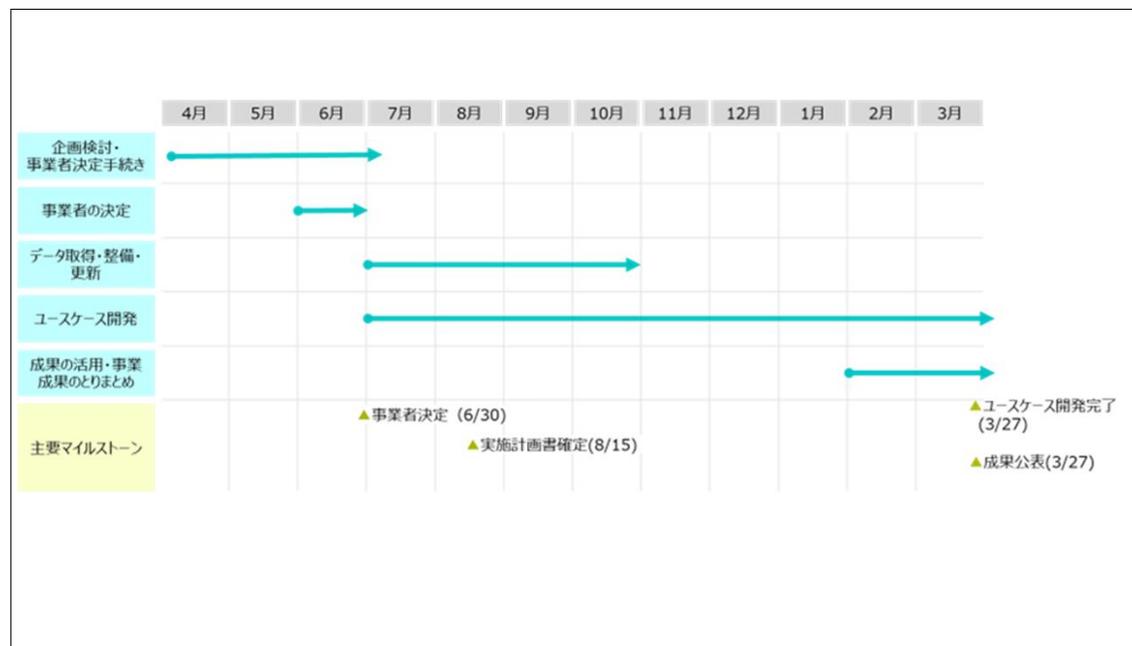
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

5. 茨城県銚田市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	46,000人（令和2年10月時点）
市域全域面積	204.64km ² （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	<p>茨城県の南東部に位置し、県都水戸市まで約30km 東京までは90km圏内にある。東は鹿島灘、南は北浦、北はラムサール条約登録湿地の涸沼に接し水辺環境に恵まれている。</p> <p>本市は農業が盛んな地域であり、中でもメロンは日本一の産出額を誇り、市を代表する農産物となっている。その他にも、いちご、さつまいも、トマト、水菜やごぼうなどたくさんの種類の農産物を生産している。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
活	ア	3-5万	200-500	1-2千

担当部局	建設部 都市計画課
------	-----------



■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用・展開することで、市民さらには県外の方々が銚田市への興味、関心を持つきっかけを生み出し、地域活性化や観光振興を図る。
課題	中心市街地が空洞化し活気がない（そもそも小さい市街地）、公共交通の衰退、公共施設の老朽化など課題が多く、大都市との関係性が希薄な（大都市と距離がある）典型的な地方都市である。
創出価値	3D都市モデルを活用し、市内全域をデジタルツインで散策可能なスマートフォンアプリケーションを開発する新しい取組を実施することで、銚田市の魅力を全国的に発信する。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	銚田市3D都市モデルを活用したシティプロモーション業務
推進事業	—

総事業費	4,103（万円） ※うちR5年度 1,991（万円）
R5年度補助執行額	960（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 銚田市ホームページ（アプリダウンロードリンクの掲載）
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	（株）キャドセンター（ユースケース開発）
-----------	----------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

5. 茨城県銚田市



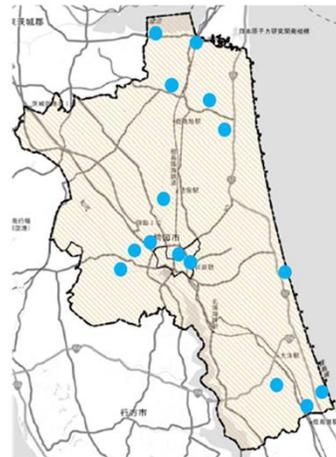
PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 道路 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	銚田市全域	204.64km	R2年度整備済
LOD2	建築物	市内ランドマーク15箇所	—	R2年度整備済 (R4年度一部更新)

■ 3D都市モデル整備エリア図



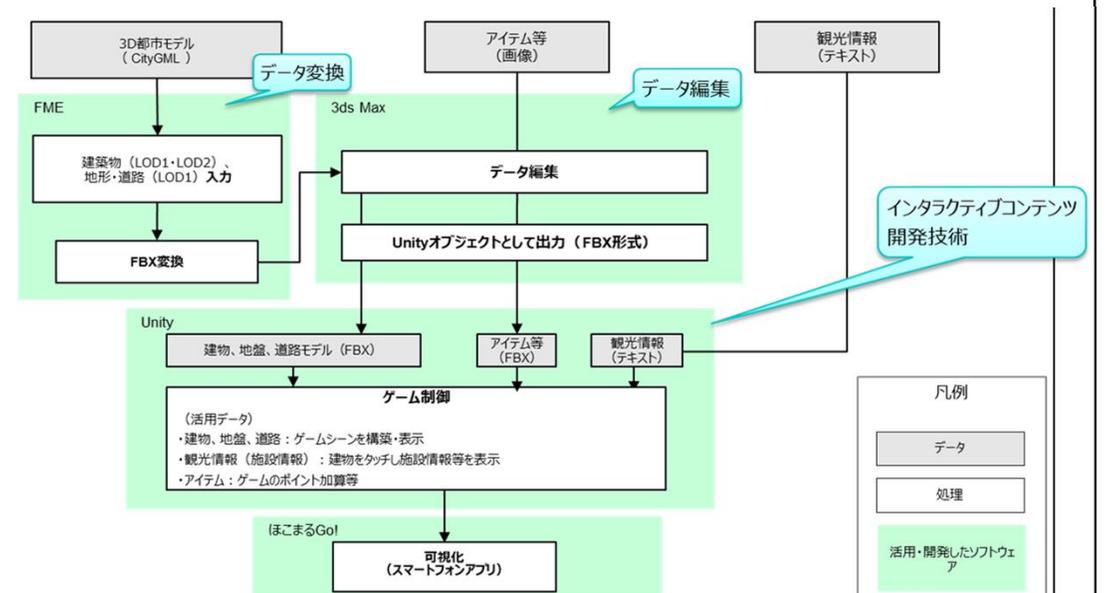
	LOD1 (建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形)	銚田市全域 (204.64km)
	LOD2 (建築物)	市内ランドマーク15箇所

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	—	—	—
測量成果	—	—	—
属性情報	—	—	—

■ ユースケース概要

テーマ	地域活性化・観光・コンテンツ
ユースケース名称	銚田市3D都市モデルを活用したシティプロモーション業務
目的	3D都市モデルを活用・展開することで、市民さらには県外の方々が銚田市への興味、関心を持つきっかけを生み出し、地域活性化や観光振興を図る。
取組内容	3D都市モデルデータを基に再現した銚田市内を回遊するカーレースアプリを作成。コース上には銚田市の特産品を配置。また、銚田市内を散歩できるお散歩モードも用意しており、銚田市内の各種スポットを巡ってもらう。
実施体制	(株) キャドセンター

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

5. 茨城県銚田市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物LOD1・2 ・地形LOD1 ・道路LOD1 ・建築物
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光情報（店舗名称、所在地、商品情報等） ・アイテム画像（銚田市の特産品（メロン・いちご・ほうれん草等））
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業で開発したアプリをアップデートしていく。 ・観光情報などの必要データを収集し、アプリに反映する。 ・3D都市モデルデータのブラッシュアップ。（街並みのブラッシュアップ） ・開発したアプリを一般公開前にテストプレイ。問題点があれば、修正していく。 ・コースを3コースに絞ることで、再現度の低かった銚田市の街並みの再現度が向上。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ用アプリ（iOS,Android） ・長かったコース長を適正化し短時間で市内の魅力を体験可能 ・アプリの一般公開、地域活性化・観光振興のきっかけとしていく。
オープンデータ化 情報発信	アプリダウンロード用QRコードを銚田市ホームページに掲載。

■ KPI

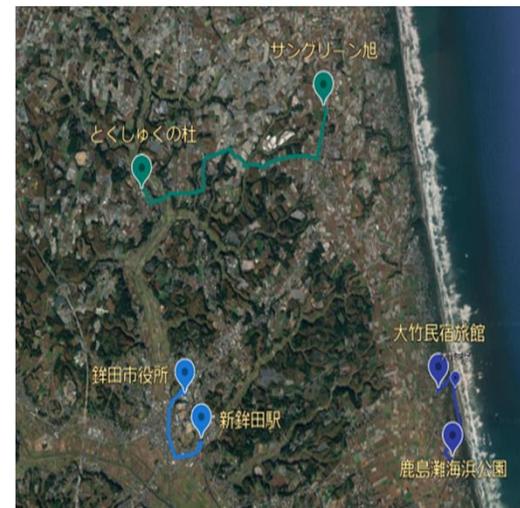
KPI	目標設定	達成状況
職員のアプリ使用満足度	80% (R5年度)	84.6%
初回ダウンロード数	80回 (R5年度)	122回

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
活	ア	3-5万	200-500	1-2千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



・課題であった、コース長を適正化し、短時間で市内の魅力を体験可能。

・低かった街並みの再現度を向上し、銚田市のどのあたりを走っているかを分かりやすく表現。

■ 今後の展望

来年度以降の事業については、開発したアプリの保守や更新等を市の単独費用で行いつつ、特産品等のプレゼントキャンペーンの実施についての準備を市の観光物産協会と連携して進めていく。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

6. 茨城県境町

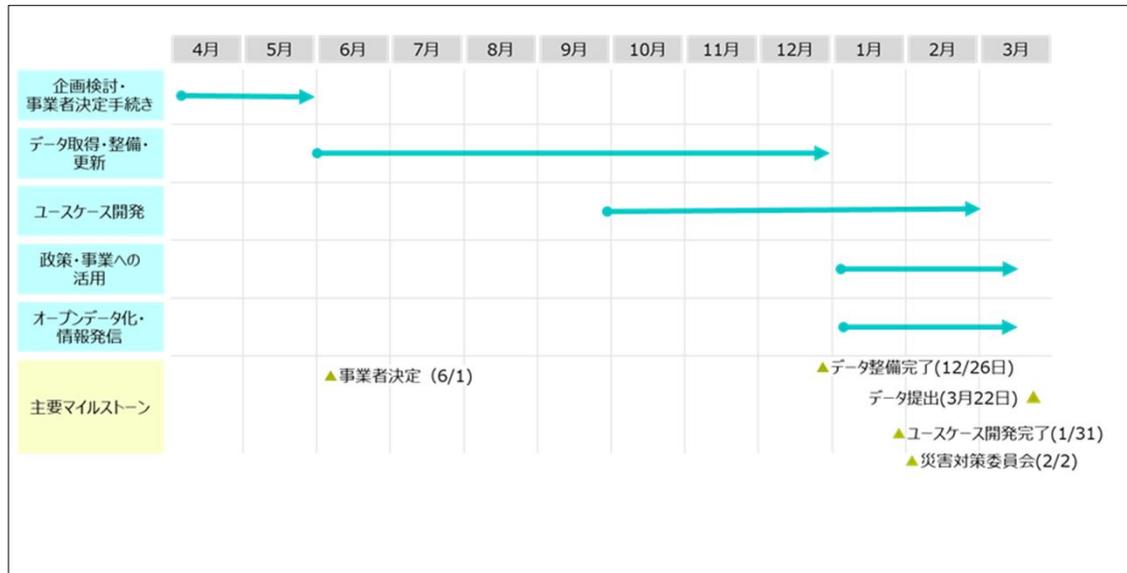


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	24,775人（令和5年4月時点）
市域全域面積	46.59km ² （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	<p>まちの南側の玄関口に位置する「道の駅さかい」をリノベーションし、世界的建築家隈研吾氏の設計による「さかい河岸レストラン茶蔵」や6次産業施設「さかいサンド」などまちなか活性の拠点となっている。</p> <p>まちのほぼ全域が浸水想定区域に指定されているため、3D都市モデルを活用し、全町民が災害リスクの可視化を容易にできるよう整備が必要である。自動運転バスの定常運行により町民の誰もが生活の足に困らない町を目指している。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	1-3万	50未満	2-3千

担当部局	建設農政部 都市計画課
------	-------------

■ 補助事業実施項目

目標	災害に強い都市の実現
課題	町のほぼ全域が浸水想定区域にあたり、防災対策が急務である。
創出価値	3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで町民の防災意識が向上する。

事前調査等	-
3D都市モデル 整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図更新 3D都市モデル整備 (LOD1、LOD2)
ユースケース 開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	-

総事業費（予定）	3,300（万円） ※うちR5年度 2,810（万円）
R5年度補助執行額	1,405（万円）
補助対象外の 関連事業	-

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ】 境町ホームページ 【3D都市モデル/UCデータ】
-----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度 受託事業者	株式会社パスコ（3D都市モデルの整備・更新）
	株式会社パスコ（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

6. 茨城県境町

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通道路 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	境町全域	46.59km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	境町役場周辺	0.1256km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



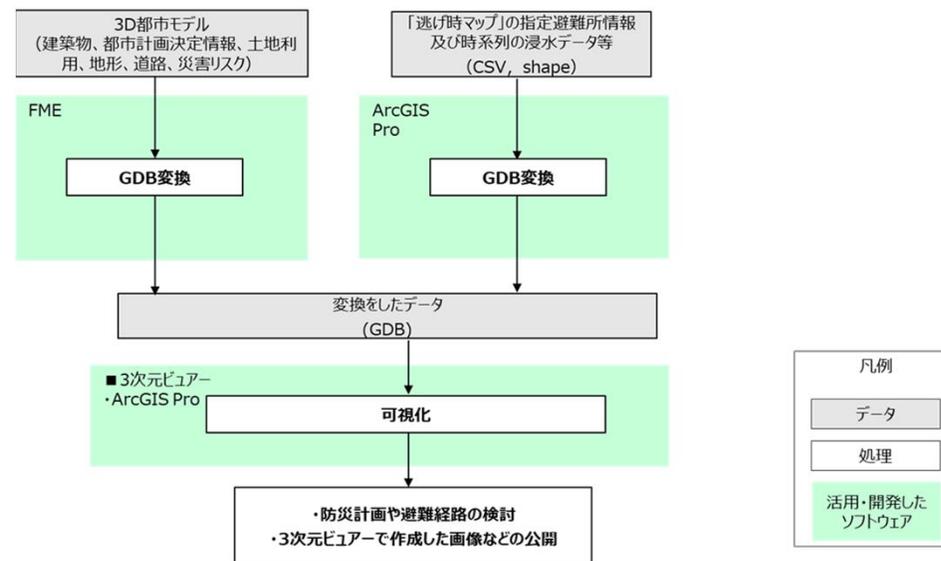
	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	境町全域（46.59km ² ）
	LOD2（建築物）	境町役場周辺（0.1256km ² ）

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査(既存)	R3年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	庁内及び町民向けに災害リスクを3D都市モデルを活用し可視化できるようにするため。
取組内容	町内のほぼ全域が浸水想定区域に該当するため、災害リスク情報の三次元化表示を行い、エリア内のリスクを可視化する。さらに、これを用いた防災計画や避難経路の検討を町の災害対策委員会等にて策定し、庁内GIS及びPLATEAU VIEW等に掲載することで確認を容易にする。
実施体制	株式会社パスコ

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

6. 茨城県境町

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	1-3万	50未満	2-3千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発方法

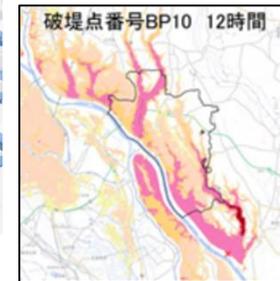
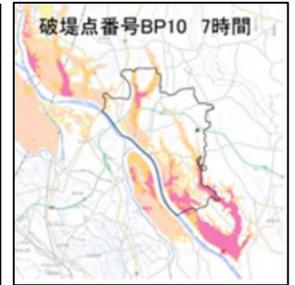
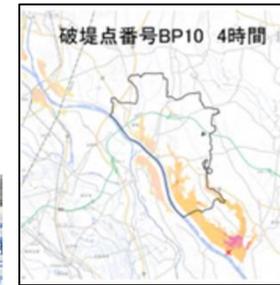
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、階数) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類) 時系列の浸水想定データ (時系列の浸水想定、河川名、破堤点)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるように変換。 変換した3D都市モデルを庁内GIS及びPLATEAUVIEWに搭載。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 町HPに浸水想定区域に関する地図等 (役場周辺や小学校等ピックアップ) の閲覧。 その他の場所を確認する場合は町都市計画課まで来庁し対象箇所を実際に見ていただく。 結果を活用し、町の防災対策委員会等で報告。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEW、境町ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
町HPに浸水想定区域に関する地図等 (役場周辺や小学校等ピックアップ) の閲覧 (件)	100件 (R5年度)	11件 (R6.3.22時点)
その他の場所を確認する場合は町都市計画課まで来庁し対象箇所を実際に見ていただく (件)	20件 (R6年度)	1件 (R6.3.22時点)

R5年度KPI未達を受けての 今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> 町広報誌等に掲載し、住民の認知度を向上させる 新年度以降、区長会及び行政区への行政報告会にて実際にユースケースを用いた実演等の実施
-------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■ ユースケース開発成果イメージ図



町民の防災意識の向上、防災教育効果を高めるため、2次元では表現できない被害の状況を3次元で表現し、理解を深めるための資料の作成。

想定破堤箇所における時系列ごとの浸水想定区域データを3次元で表現し、防災計画や避難経路の検討を行う上で必要な資料作成する。

■ 今後の展望

今回は防災のユースケースにとどまっているが、今後、立地適正化計画を含めた検討にも活用したい。

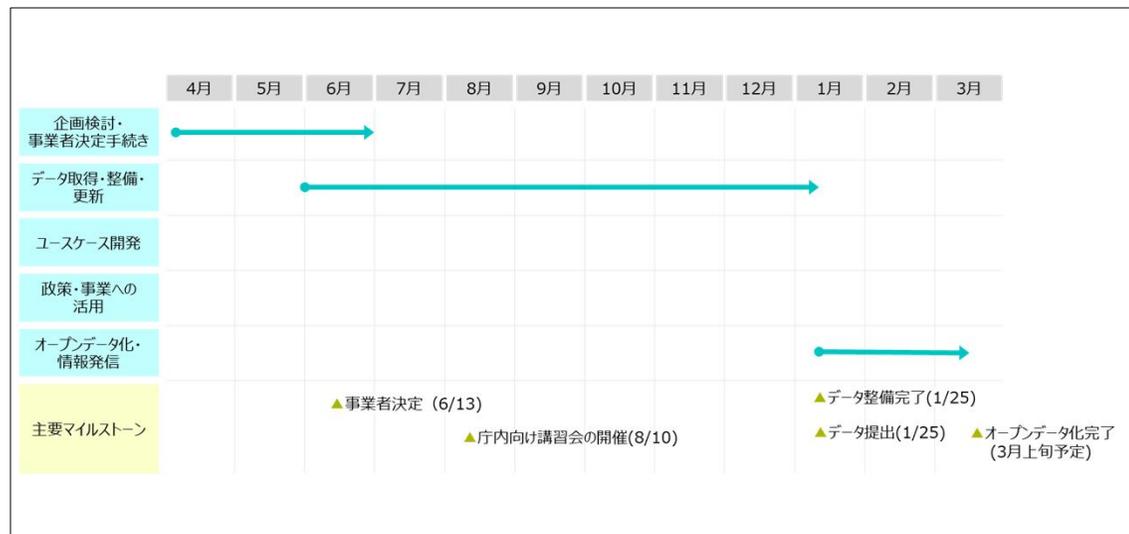
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

7. 栃木県宇都宮市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約520,000人（令和5年11月時点）
市域全域面積	416.85km ² （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	<p>本市の市域を超えた広域的な経済や生活、交流などの拠点として、圏域の発展をリードする役割を担う。 豊かな自然環境や高度な都市機能など商工農がバランスよく調和した都市である。</p> <p>「ネットワーク型コンパクトシティ」（NCC）を土台に「地域経済循環社会」「地域共生社会」「脱炭素社会」の3つの社会が人づくりの取り組みやデジタル技術の活用によって発展する「夢や希望がかなうまち」の実現を目指している。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	200-500	1-2千

担当部局	都市整備部 都市計画課
------	-------------



■ 補助事業実施項目

目標	人中心のウォーカブルなまちの姿や都心部における緑豊かで魅力ある景観の形成の実現
課題	都心部の将来像実現を官民協働で取り組むため、市民等に対し、様々な機会を通じて、都心部におけるウォーカブルなまちづくり等の取組に関する市民理解の促進を図る必要がある。
創出価値	3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーションを作成し、計画案や施策の効果等を分かりやすく関係者や地元住民へ説明する際のコミュニケーションツールとして活用することで、地元の機運醸成や合意形成を図る。

事前調査等	3D都市モデル更新事業（LOD1）
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル更新事業（LOD1）
ユースケース開発	—
推進事業	—

総事業費（予定）	5,360.8（万円） ※うちR5年度 1,471.8（万円）
R5年度補助執行額	735.9（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】
-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデル更新事業（LOD1））
-----------	-----------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

7. 栃木県宇都宮市

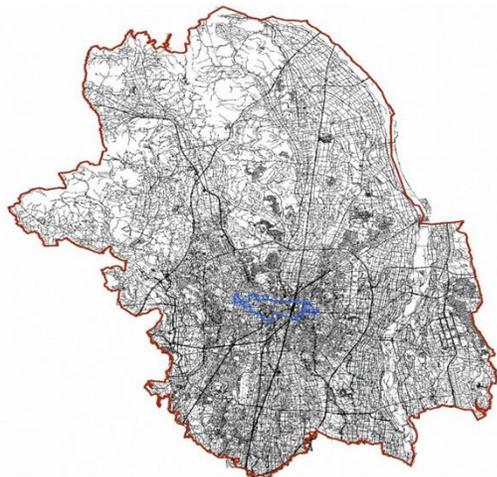
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	200-500	1-2千

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形 区域	宇都宮市全域	416.85km ²	R2年度整備済 R5年度更新
LOD2	建築物	高次都市機能誘導区域	3km ²	R2年度整備済

■ 3D都市モデル整備エリア図



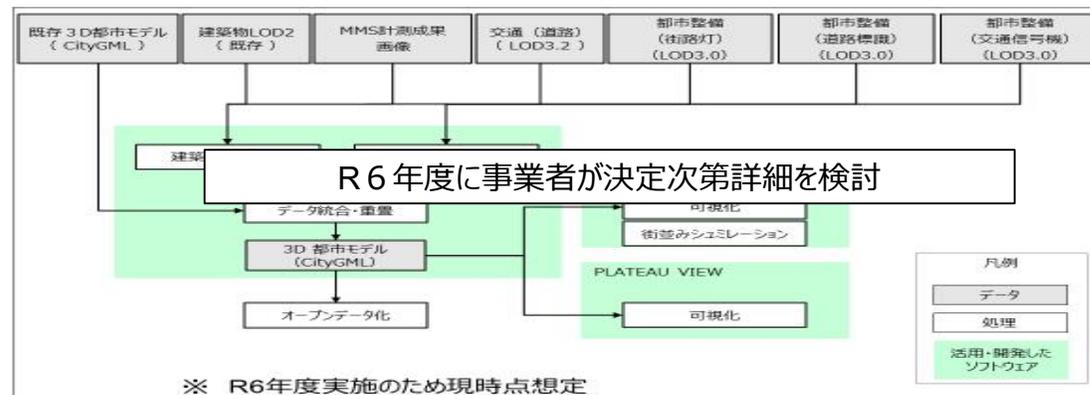
凡例	
LOD1	
LOD2	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R2年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーション（R6年度に取組予定）
目的	都心部の将来像実現を官民協働で取り組むため、市民や事業者に対し、様々な機会を通じて、都心部におけるウォークラブルなまちづくり等の取組に関する市民理解の促進を図る。
取組内容	都心部の東西都心軸となる大通り沿線において、ビジョンが描くまちの変化を共有しながら、LRT導入の検討や緑豊かで魅力ある景観の形成に関する事業などの大通りを中心とした空間形成や、人や自動車の誘導策など、将来像実現に向けた計画案や施策の効果等について、仮想現実空間でシミュレーションなどが可能なコミュニケーションツールを作成し、空間形成に関する合意形成の円滑化を図る。
実施体制	（R6年度中に事業者決定予定）

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

7. 栃木県宇都宮市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	200-500	1-2千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (名称, 分類, 用途, 建築年, 計測高さ, 地上/地下階数, 住所, 建築/図上面積, 構造種別, 調査年, 規模等) 道路LOD1 (道路区分, 道路構造, 作成日) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	-
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画3次元データに加え, 高次都市機能誘導区域内大通り沿線については, 国際規格のフォーマット『cityGML』として道路や歩道のLOD3モデルを作成する。 作成した都市計画3次元データを活用し, 人の回遊・滞在で使う空間をVR化し, 沿道建築の撮影した写真 (MMS計測) を貼付け, 宇都宮駅西側へのLRT延伸や建物の移動や色彩の変更等を行ったり, ストリートファニチャーなどを配置することなど, 整備前後の街並みイメージの比較を行う。
政策・事業での 活用	目指す将来のまちのイメージについて, 計画案・施策の効果・整備前後の比較等を分かりやすく関係者や地元への説明する際の, コミュニケーションツールとして活用する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 PLATEAU VIEWへの掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルへの理解	肯定的な評価9割以上	肯定的な評価9割以上 (25/27人)
目指す将来のまちの姿への理解	肯定的評価6割以上 (R6年度)	R6年度 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



・緑豊かで魅力ある景観の形成に関する事業や人中心のウォークブルのまちの実現に向けた計画案や施策の効果等について, 仮想現実空間でシミュレーションし, 全体イメージの共有, 合意形成の円滑化を図ることができるコミュニケーションツールを令和6年度に作成する。令和5年度は3D都市モデルを更新するとともに, 庁内向け講習会等を通じて3D都市モデルに対する肯定的な評価を得た。

■ 今後の展望

令和5年度においては, 3D都市モデルデータの更新事業を実施したため, 令和6年度にユースケース開発として, 3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーションを作成する。

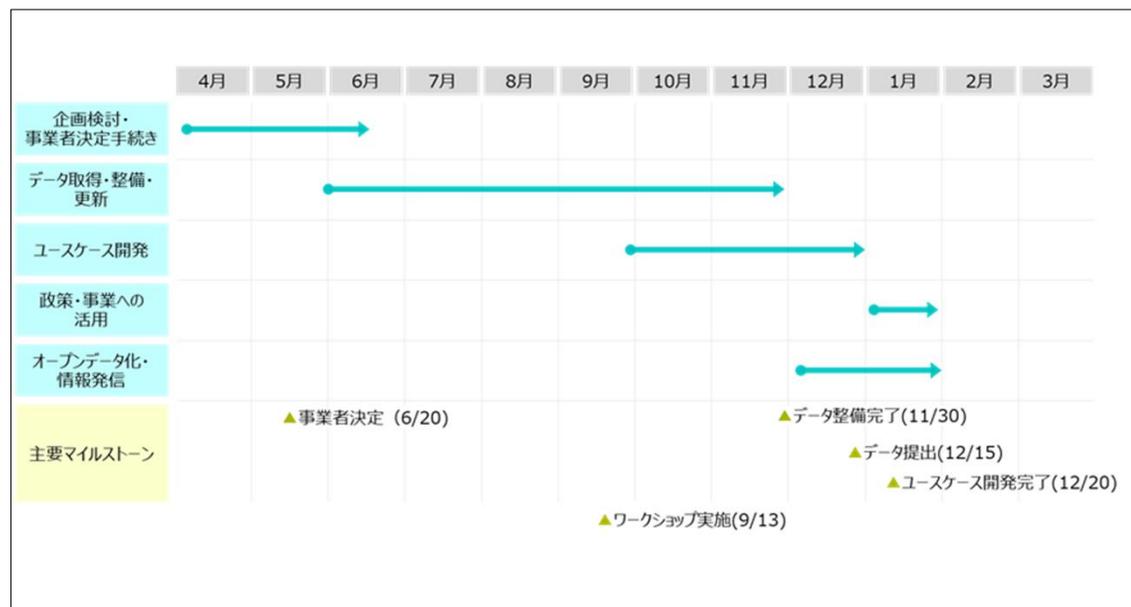
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

8. 群馬県前橋市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約330,000人（令和5年3月時点）
市域全域面積	311.59km ² （令和5年3月時点）
主な産業 地域課題等	<p>産業は、サービス、卸売・小売、製造業を中心に構成。農業産出額は全国有数、首都圏への供給地。</p> <p>前橋市では、人口減少・高齢化が進行している状況にあり、今後も更なる進行が予測されている。</p> <p>一方で、市街地の郊外化が進行しており、コンパクトなまちづくりや景観保全への影響が懸念される。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	200-500	2-3千
担当部局	都市計画部 都市計画課			



■ 補助事業実施項目

目標	いつまでも住み続けられる安心安全なまちづくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の人口減少や市街地の郊外化が進行、集約型の都市構造への転換が必要。 住民の災害リスクへの理解と防災意識の向上が課題。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 都市機能や居住の立地適正化、土地の高度利用の促進。 災害リスクをわかりやすく明示することによる市民の防災意識の向上。 オープンデータ化の推進による民間レベルでの新たな取り組みの創出。

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備 (LOD1、LOD2)
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した土地利用計画への活用及び災害リスクの可視化事業
推進事業	-

総事業費	2,550 (万円)
R5年度補助執行額	1,200 (万円)
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル、ユースケース開発データ】 市ホームページへの掲載【G空間情報センターURL】
-------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	国際航業株式会社（データ整備）
	国際航業株式会社（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

8. 群馬県前橋市

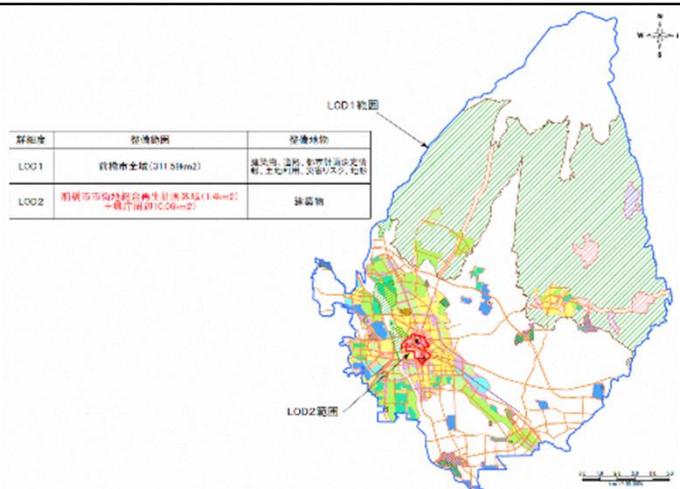
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物交通道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形	前橋市全域	311.59km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	前橋市市街地総合再生計画区域、県庁周辺	1.5km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	立地適正化計画	都市計画区域全域	274.74km ²	R2年度（都市機能誘導区域、居住誘導区域）

■ 3D都市モデル整備エリア図

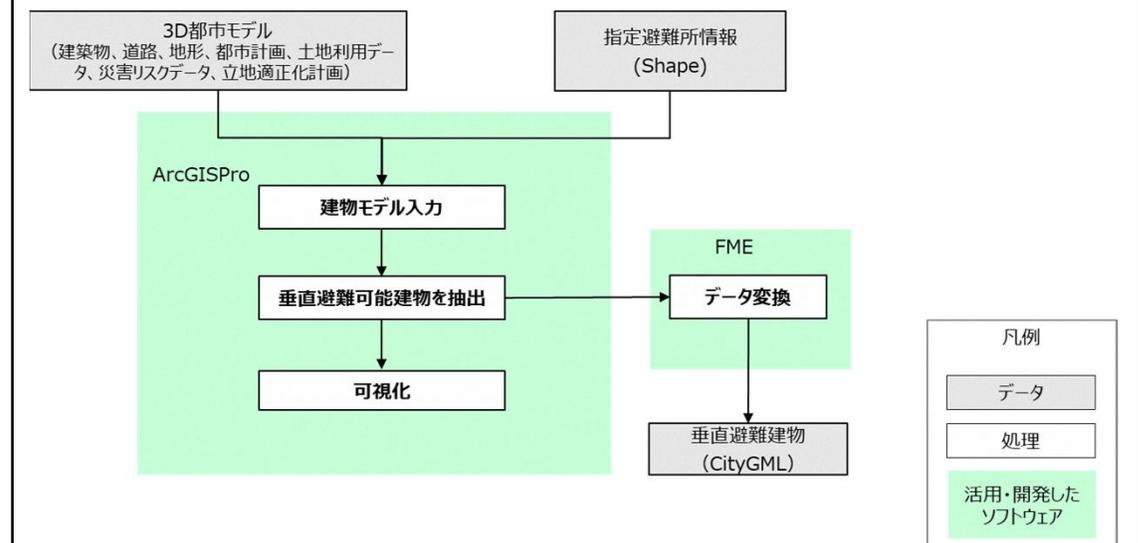


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R2年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	-

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	災害リスクを可視化、住民の災害リスクの理解と防災意識の向上。
取組内容	災害リスクのデータを3D都市モデル上で可視化して、避難経路、場所の検討や住民の防災意識の向上などに活用する。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

8. 群馬県前橋市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	200-500	2-3千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD0・1 (計測高さ) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル、指定避難所情報をGISソフト (ArcGISPro) に読み込む。 3D都市モデルの高さ情報、災害情報等を利用し、「緊急的な垂直避難の可能性を有する建物」を抽出。 結果を活用して、3D都市モデル上で可視化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 防災政策の高度化や、住民の災害リスクの理解と防災意識の向上。 土地利用計画及び立地適正化計画における防災指針の検討や周知に活用。 結果について庁内、議会等にて報告。市HPで公開。
オープンデータ化 情報発信	ユースケースデータをPLATEAU VIEWに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
職員の災害リスクについての理解 (%)	90.0% (R5年度)	90.1% (R5年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D都市モデルの高さ情報、災害情報から「緊急的な垂直避難の可能性を有する建物」を抽出し、可視化した。これに浸水想定データを重ね、防災啓発活動等に活用。

凡例

	垂直避難可能
	垂直避難不可能
	対象外

■ 今後の展望

今回は防災のユースケースにとどまっているが、今後まちづくり施策のシミュレーションや人流データを活用した中心市街地活性化に向けた取り組みにも活用したい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

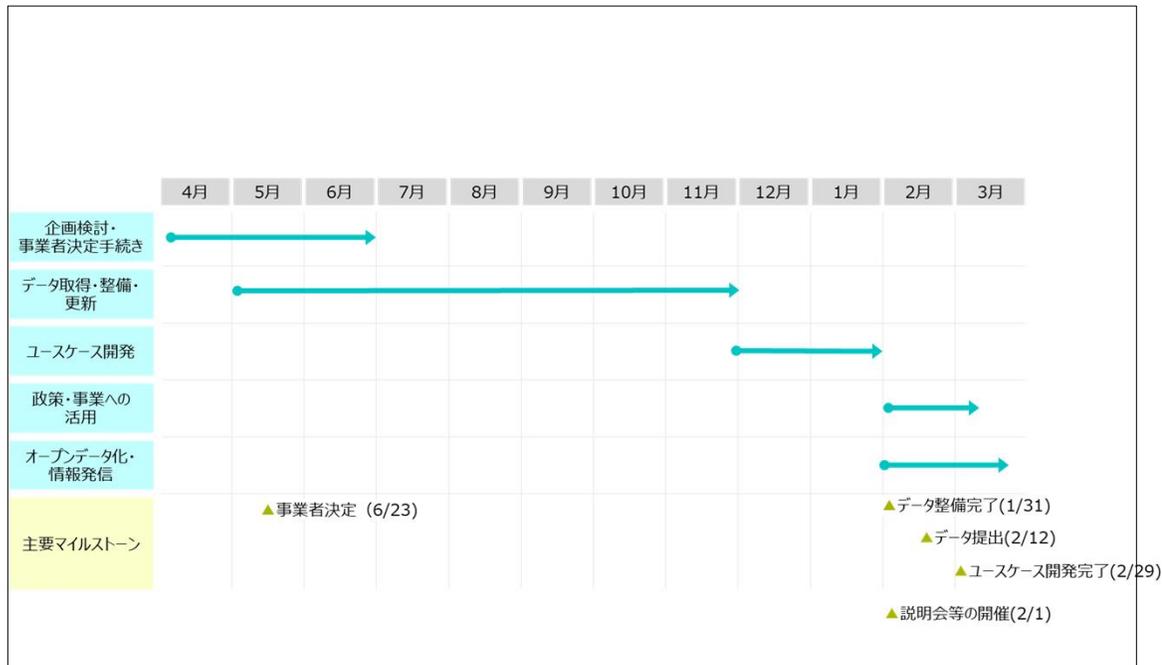
9. 埼玉県



■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約7,331,000人（令和5年10月時点）
市域全域面積	埼玉県全域（さいたま市を除く）面積：3,581km ² （令和3年10月時点）
主な産業 地域課題等	卸売業・小売業が盛んであり、近年は圏央道沿線などでの企業立地が進んでいる。 面積に占める河川の割合が約3.9%で全国2位となっており、豊かな河川環境に恵まれる反面、水害リスクが高い市街地が多くなっている。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	500以上	10千以上
担当部局	都市整備部 都市計画課			

■ 補助事業実施項目

目標	スマートなインフラに支えられた魅力ある暮らしやすい埼玉県への変革。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 社会全体のDXの実現、まちづくりのDXの推進。 頻発・激甚化する水害対策、災害リスク情報を分かりやすい形で整備し発信。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルで建物現況調査をオープンデータ化することで、わかりやすく県民にデータを発信することができる。 3D都市モデルで分かりやすく表示することで、県民の防災意識向上へつながる。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD1、LOD2）
ユースケース開発	3Dハザードマップの作成
推進事業	庁内GISにデータ搭載

総事業費（予定）	48,000（万円） ※うちR5年度 11,999,0（万円）
R5年度補助執行額	5,999.5（万円）
補助対象外の関連事業	ユースケース開発

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 埼玉県統合型GISに掲載 【3D都市モデル】
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	国際航業株式会社（3D都市モデル、3Dハザードマップの作成）
-----------	--------------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

9. 埼玉県

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	500以上	10千以上



3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	①10市町（春日部市、越谷市、吉川市、八潮市、松伏町、宮代町、杉戸町、白岡市、久喜市、加須市） ②上記除く埼玉県全域	①478.7km ² ②3,102km ²	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備
LOD2	建築物	1各市町村	5棟ずつ	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備
	建築物、交通（道路）	埼玉版スーパー・シティプロジェクトで示された範囲の一部	2.0km ²	R5年度新規整備
LOD3	建築物、交通（道路）	一般県道春日部停車場線	300m	R5年度新規整備

3D都市モデル整備エリア図



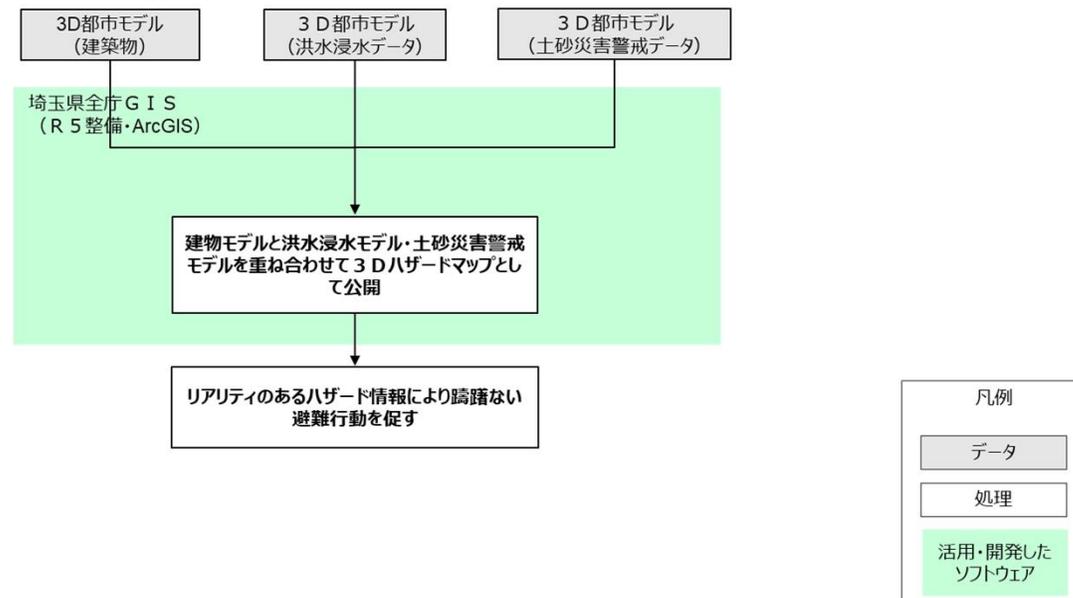
	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	埼玉県全域（3,581km ² ）
	LOD2（建築物）	各市町村5棟程度ずつ

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	各市町村ごと	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	各市町村ごと	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（新規）	各市町村ごと	—

ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3Dハザードマップの作成と公開
目的	県民一人一人の危機管理意識の向上、躊躇ない避難行動を促す。
取組内容	3Dハザードマップを県統合GISにより公開し、洪水時における災害リスクを可視化する。
実施体制	国際航業株式会社

システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

9. 埼玉県

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	500以上	10千以上

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	3D都市モデル(建築物、地形)と3次元化した浸水想定データを重ね合わせ、埼玉県統合型GISにて公開する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル(建物)と浸水想定データ(外水・内水)の重畳、可視化データ。 防災まちづくりの推進。 3D都市モデルの活用。
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルを埼玉県統合GISに掲載(予定)。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3Dハザードマップの閲覧数	10,000回/年 (R6年度) 20,000回/年 (R7年度) 30,000回/年 (R8年度)	R7年3月最終週 計測予定
肯定的な評価をした職員割合	60% (R5年度末)	98% (達成)

■ ユースケース開発成果イメージ図



全景

3D都市モデルの建築物と災害リスク(洪水浸水想定区域)を重ね合わせた状態で公開。上記画像は、引いたアングルで全景表示したものの。

近景

3D都市モデルの建築物と災害リスク(洪水浸水想定区域)を重ね合わせた状態で公開。上記画像は、寄ったアングルで近景表示したものの。

■ 今後の展望

今年度は、埼玉県東部10市町を対象に整備を行いました。今後は埼玉県全域の整備を目指して進めていきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

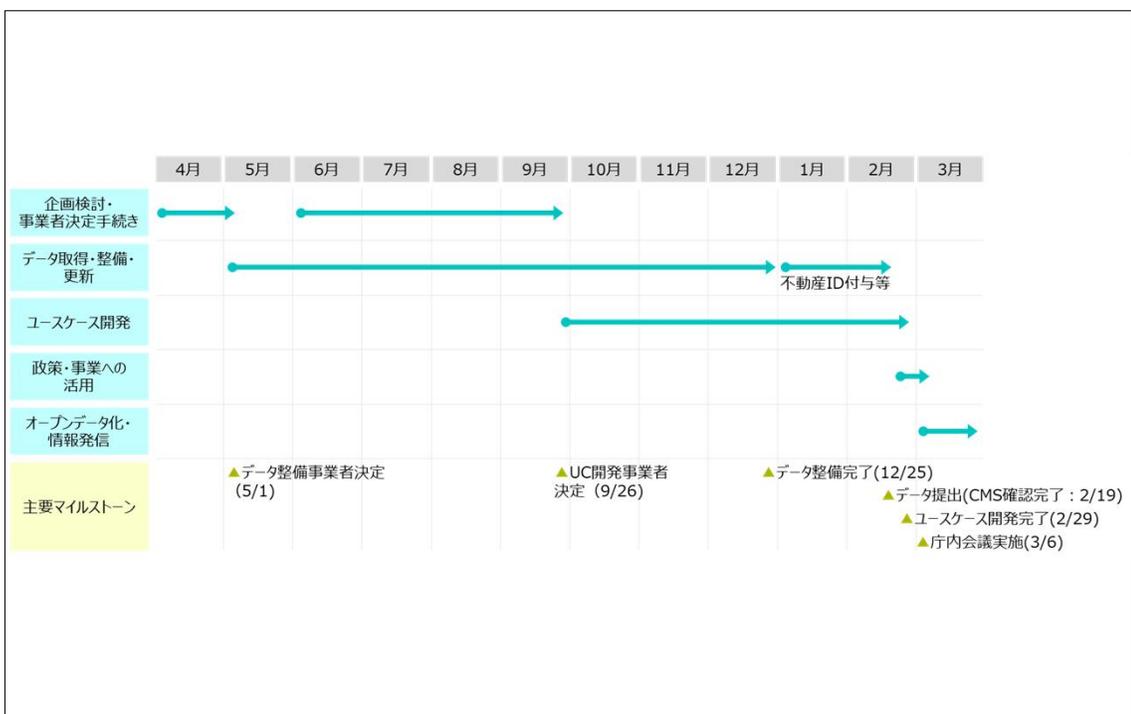
10. 埼玉県さいたま市



■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	1,344,613人（令和5年11月時点）
市域全域面積	217.43km ² （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	埼玉県の南東部に位置する政令指定都市及び業務核都市で、大宮駅や浦和駅を中心とし新幹線やJR及び私鉄が結節する東日本の交流拠点都市。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	可・分	15万以上	200-500	5-10千
担当部局	都市局都市計画部都市計画課			

■ 補助事業実施項目

目標	上質な生活都市・東日本の中核都市の実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺におけるウォーカブルな都市空間・環境の形成。 まちなか回遊性の向上。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用することで、精緻な交通分析・シミュレーションが可能となる。 3D都市モデルを活用し可視化することで、道路空間再編に向けステークホルダーとの認識共有がしやすくなる。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備(LOD1、LOD2、LOD3)
ユースケース開発	総合交通分析を基にしたウォーカブル空間の創出
推進事業	—
総事業費（予定） ※補助基本額	18,921.2（万円） ※うちR5年度 6,408（万円）
R5年度補助執行額	3,204（万円）
補助対象外の 関連事業	—
オープンデータ化・ 可視化・情報	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU発信U VIEWへの掲載【3D都市モデル】 さいたま市ウェブサイト【3D都市モデル】
R5年度 受託事業者	株式会社パスコ さいたま支店（データ整備） パシフィックコンサルタンツ株式会社 埼玉事務所（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

10. 埼玉県さいたま市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	可・分	15万以上	200-500	5-10千



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

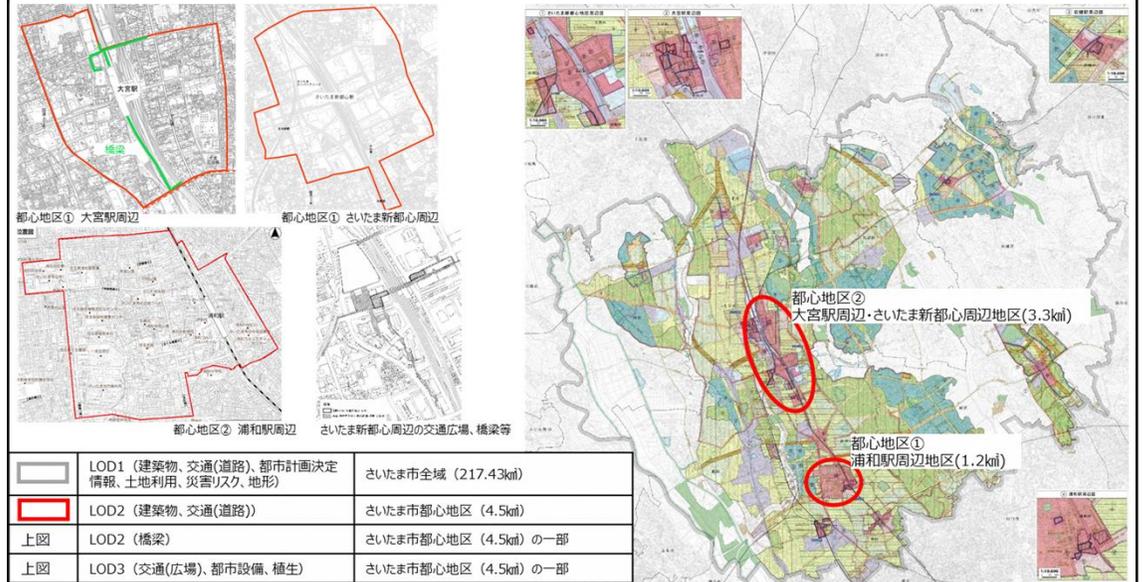
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	さいたま市全域	217.43km ²	R2年度整備済 (R4年度更新)
	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 地形	さいたま市全域	217.43km ²	R2年度整備済
	災害リスク	洪水浸水想定区域 9区域 土砂災害警戒区域 18区域 内水ハザード	—	R5年度新規整備
LOD2	建築物	①浦和駅周辺地区 ②大宮駅周辺・さいたま新都心 周辺地区	①1.2km ² ②3.3km ²	①R4年度整備済 ②R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通（道路）	①浦和駅周辺地区 ②大宮駅周辺・さいたま新都心 周辺地区	①1.2km ² ②3.3km ²	①R4年度整備済 ②R5年度新規整備
	橋梁	①大宮駅周辺地区（橋・鉄道高架） ②さいたま新都心周辺地区（歩行者 デッキ）	①1.5km ² ②0.5km ²	R5年度新規整備
LOD3	交通（広場）	さいたま新都心周辺地区	0.08km ²	R5年度新規整備
	都市設備	さいたま新都心周辺地区（上記歩行者 デッキに存する都市設備一式）	—	R5年度新規整備
	植生	さいたま新都心周辺地区（上記歩行者 デッキに存する植生一式）	—	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R4	2,500
測量成果	オブリークカメラ数値写真（既存）	R4	1,000
	航空写真（既存）	R4	2,500
	オリジナルデータ（点群） （LidarSLAMで測量）	R5	—
属性情報	—	—	—

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

10. 埼玉県さいたま市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	可・分	15万以上	200-500	5-10千



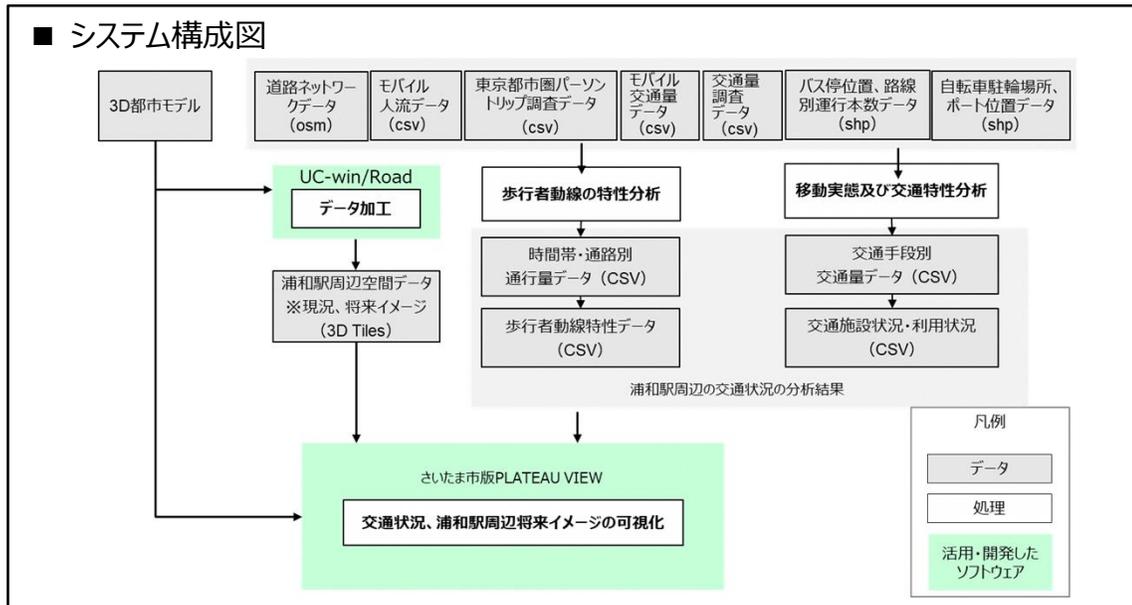
■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり／地域活性化・観光・コンテンツ
ユースケース名称	総合交通分析を基にしたウォーカブル空間の創出
目的	さいたま市の都心である「浦和駅周辺地区」におけるウォーカブルな都市空間の形成。
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 人流データ等を活用した歩行者、自転車等交通状況の分析。 3D都市モデルを活用しながら、浦和駅周辺の将来イメージの3Dデータを作成。 交通状況の分析結果、将来イメージの3Dデータを3D都市モデルと重畳のうえ可視化し、庁内検討に活用。
実施体制	受託者：パシフィックコンサルタンツ株式会社 埼玉事務所 [分析・可視化]

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (形状) 交通(道路)LOD1・2 (歩道、車道)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 道路ネットワークデータ (車線数) モバイル人流データ (路線別通行量)、モバイル交通量データ (路線別通行量)、交通量調査データ (路線別通行量) 東京都市圏パーソントリップ調査データ (個人属性、移動の目的、交通手段、発生・集中量) バス停位置、路線別運行本数 (バス停の位置座標、時刻別運行本数)、自転車駐輪場所、ポート位置、走行空間 (駐輪場の位置座標・駐輪可能台数、ポートの位置座標・駐輪可能台数、走行空間位置情報)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 人流データを用いた歩行者動線に関する分析、パーソントリップ調査等を用いた交通手段別の移動実態及び交通特性分析を行う。 3D都市モデルをUC-win/Roadにインポートし、浦和駅周辺の将来イメージの3Dデータを作成する。 上記結果について、3D都市モデル上で可視化を行う。可視化プラットフォームとしてはさいたま市版PLATEAU VIEWを活用する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 浦和駅周辺の交通状況の分析結果 (CSV)、浦和駅周辺の将来イメージの可視化データ (3D Tiles形式) をアウトプット。 アウトプットをさいたま市版PLATEAU VIEWで可視化・庁内検討会で報告し、今後の施策展開に向けた議論を行う。
オープンデータ化情報発信	G空間情報センターへのリンクをさいたま市ウェブサイト (3D都市モデル紹介ページ) に掲載。

■ システム構成図



■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
分析結果の理解度	80% (R5年度)	100%

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

10. 埼玉県さいたま市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・活	可・分	15万以上	200-500	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



交通状況の可視化

上：歩行者交通量の立体可視化
下：歩行者交通量、自動車交通量等の三次元可視化

将来イメージの可視化

上：現況
下：将来イメージ（まちづくり・都市デザイン競技受賞作品を再現）

■ 今後の展望

今回は現況交通量や将来イメージを三次元で可視化し、庁内検討での活用にとどまっているが、今後将来イメージの整備効果のシミュレーション等を実施し、庁内や市民との合意形成に活用していきたい。

また、市内他地区への展開や他分野での3D都市モデルの活用を促進し、まちづくりの高度化を図ってきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1.1. 埼玉県熊谷市

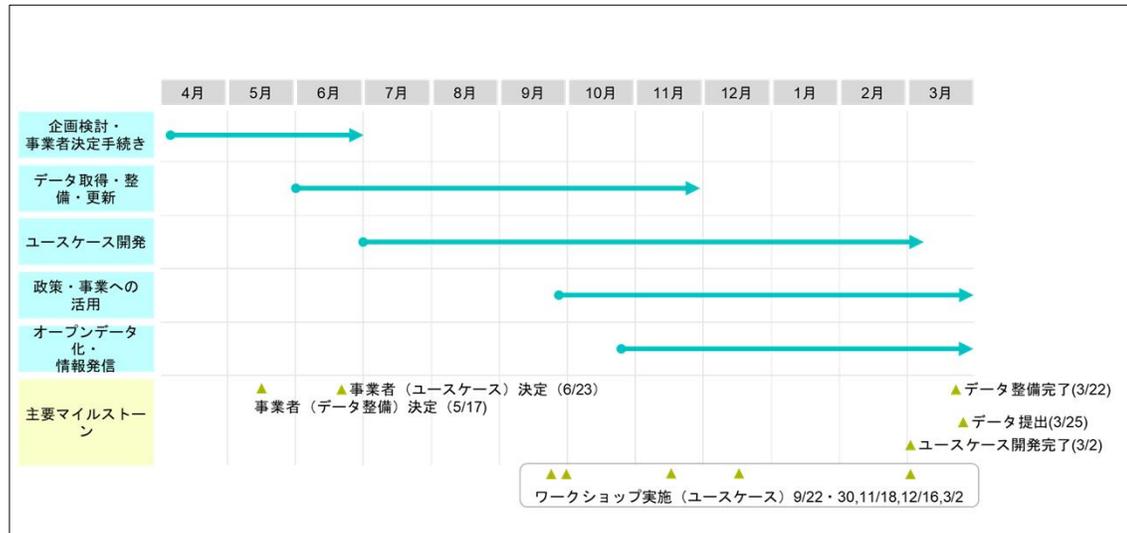


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	192,465人（令和5年4月時点）
市域全域面積	159.88km ² （平成29年1月時点）
主な産業 地域課題等	<p>埼玉県の北部、東京都心から50～70km圏に位置し、充実した広域交通機能を生かした産業振興を進めている。</p> <p>人口は減少傾向にあり、地域内における消費の減退や生産年齢人口の減少による地域経済の停滞が懸念されている。</p> <p>市民目線でデータ利活用を推進し、まちのにぎわいと魅力を創出するとともに、市民にも来訪者にも「やさしいまち」（やさしい未来発見都市 熊谷）を目指しており、デジタル技術を活用することで課題を可視化し効率的なまちづくりを進めていく。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・環・住	可	15万以上	100-200	5-10千

担当部局	市長公室政策調査課、都市整備部都市計画課
------	----------------------

■ 補助事業実施項目

目標	持続性のある地域づくりのため、街の賑わいと魅力を創出する。
課題	LOD2整備エリアにおける風・温熱環境シミュレーションによる「ヒートエリア」の可視化、河川洪水浸水想定区域の重ね合わせによる災害危険度の可視化等により市民共創によるまちづくりを誘発する機会の確保が必要。
創出価値	地理空間データを扱える人材の育成、各関係団体においてまちづくり検討の一助となる人材の育成、自発的・持続的な民間利用の促進、防災に関心を持つ市民の防災におけるデータ活用の理解度向上。

3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図更新 3D都市モデル整備（LOD2） 3D都市モデル更新（LOD1）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの市民利用促進に向けたWebGIS整備

総事業費	5,893.9（万円）
R5年度補助執行額	2,946.9（万円）
補助対象外の関連事業	<ul style="list-style-type: none"> データ連携基盤・ID連携の検討・整備 LOD2整備エリアにおける風・温熱環境シミュレーションを活用した暑さ対策スマートパッケージの提供 都市サービスポータル機能拡充

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 熊谷市オープンデータサイト・市のホームページ【3D都市モデル・まちなか環境シミュレーション動画・ワークショップ講習動画】
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	株式会社パスコ さいたま支店（データ整備）
	株式会社ユーカリヤ（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1.1. 埼玉県熊谷市

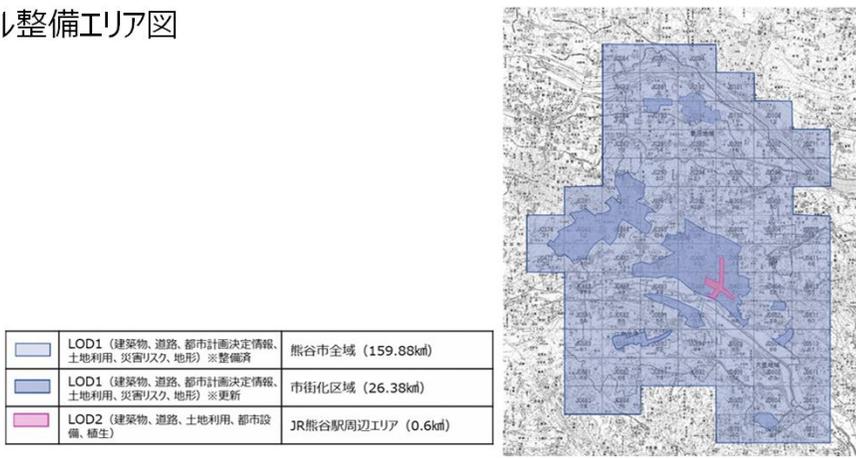
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物、交通（道路）、都市計画決定情報、土地利用	熊谷都市計画区域 市街化区域	159.88km ² 26.38km ²	R3年度整備済 (R5年度一部更新)
LOD1	災害リスク、地形	熊谷都市計画区域	159.88km ²	R3年度整備済 (更新無し)
LOD2	建築物	ランドマーク5か所 JR熊谷駅周辺エリア	0.6km ²	R3年度新規整備 R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外） ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	交通（道路）、都市整備、植生	JR熊谷駅周辺エリア	0.6km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



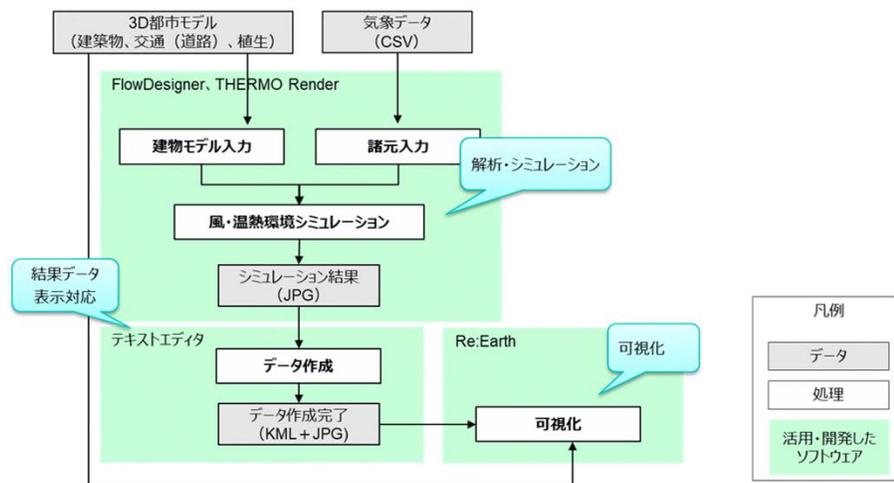
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	新規作成	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	-

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・環・住	可	15万以上	100-200	5-10千

■ ユースケース①概要

テーマ	環境・エネルギー／都市計画・まちづくり／住民参加
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり可視化事業
目的	3D都市モデルを活用したまちづくりの課題の可視化
取組内容	駅周辺中心市街地エリアにおける風・温熱環境シミュレーションを実施し、緑陰、ビル影等による風・温熱環境の変化をわかりやすく可視化する。まちづくりについて分かりやすく市民に情報提供する方策について、可視化された風・温熱環境シミュレーション結果等を用いたWebGISのワークショップを通じて検討する。
実施体制	株式会社パスコ [データ作成] 日本電気株式会社 [データ連携基盤構築] 株式会社ユーカリヤ、立正大学 [WebGIS操作体験ワークショップ] 株式会社ミサワホーム総合研究所 [風・温熱環境シミュレーション]

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

1.1. 埼玉県熊谷市

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2 (計測高さ) 交通 (道路) LOD2 (区間種別、機能) 植生LOD2 (計測高さ)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 気象データ (気温、降水、日照、風、湿度)
ユースケース 開発方法	3D都市モデルと気象データ等を活用して、JR熊谷駅周辺の風・温熱環境シミュレーションを実行し、その結果をWebGISに表示できるようにデータを作成し、3D都市モデルと重ねることで可視化する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 可視化された結果等を用いて市民ワークショップを開催する。 市民ワークショップ参加者の意見等をまちづくりについて分かりやすく市民に情報提供する方策の検討に活用する。
オープンデータ化 情報発信	まちなか環境シミュレーションを重ねたマップ、市民活動マップ等のワークショップで作成した地図並びにワークショップを後から振り返れる動画及び資料を市ホームページに掲載する。

■ KPI

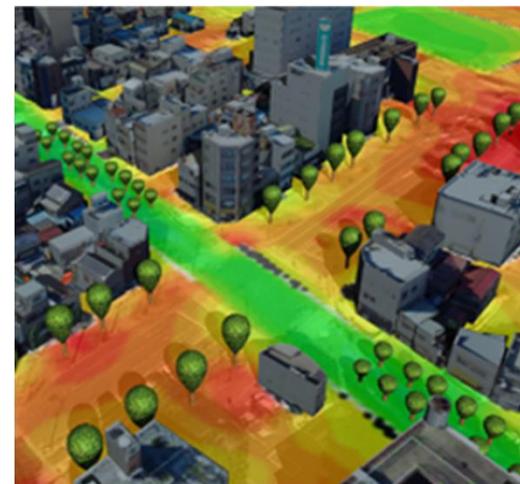
KPI	目標設定	達成状況
市民への情報提供の機会 (回)	3回 (R5年度)	3回
まちづくりの課題の可視化について意見が得られた人の割合 (%)	50% (R5年度)	100%

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・環・住	可	15万以上	100-200	5-10千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース①開発成果イメージ図



風・温熱環境シミュレーション
データのWebGIS上への重畳

暑さの情報をWebGISのレイヤーとして表示することで可視化。
3D都市モデルと重ね、景観と環境のシミュレーションマップを作製。



景観・環境まちづくり体験会の開催

中心市街地のまちづくり関係者を対象にしたWebGISによるまちづくり体験会を開催。

■ 今後の展望

今後は対象を高校生等に広げ、市民参加によるデータを活用したまちづくりの更なる促進を図りたい。
活用するデータの種類を増やし、より多様な分析・検討を可能としたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

11. 埼玉県熊谷市

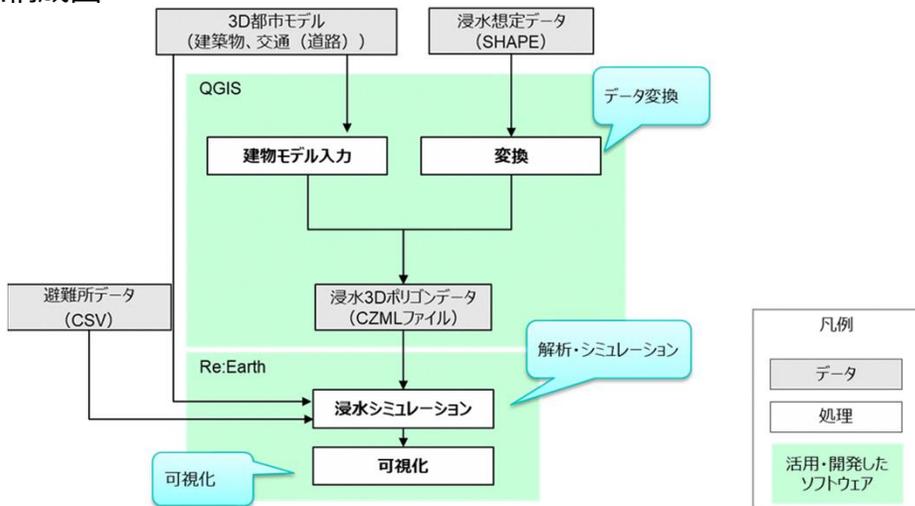
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・環・住	可	15万以上	100-200	5-10千



■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯／住民参加
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	3D都市モデルを活用した災害リスク（浸水）の可視化
取組内容	3D都市モデル及び浸水想定区域図データを重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化するシステムを構築する。 利根川・荒川浸水3Dポリゴンデータを活用し、防災に係る市民ワークショップを開催する。
実施体制	株式会社パスコ [データ作成] 日本電気株式会社 [データ連携基盤構築] 株式会社ユーカリヤ、立正大学 [WebGIS操作体験ワークショップ]

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

11. 埼玉県熊谷市

■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2 (計測高さ) 交通 (道路) LOD2 (区間種別、機能)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 浸水想定データ (経過時間ごとの浸水域、水深) 避難所データ (避難所名称、緯度経度、混雑状況)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 河川の氾濫で生じる浸水域を示す3Dポリゴンデータの作成。 避難所ルートを自動計算し、描写する機能の開発。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 作成されたデータ及び避難所ルートを描写する機能等を用いて市民ワークショップを開催する。 ワークショップで用いた資料等の教材を公表し、3D都市モデルを活用した取組事例としての紹介に活用する。
オープンデータ化 情報発信	ワークショップで用いた浸水データやプラグインが使える状態のマップや資料等の教材を市ホームページに掲載する。

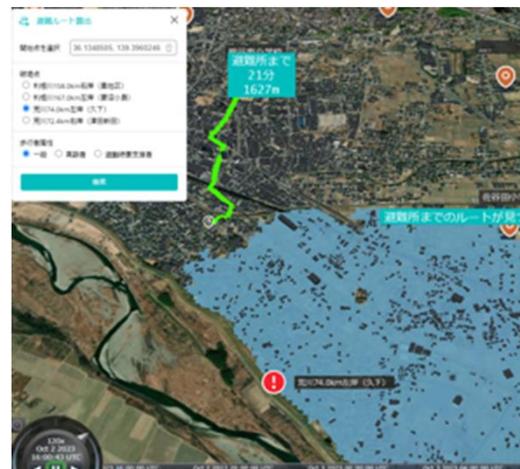
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
市民への情報提供の機会 (回)	3回 (R5年度)	2回
災害リスク可視化の活用可能性を感じた人の割合 (%)	50% (R5年度)	100%

R5年度KPI未達を受けての今後の対応	河川の浸水シミュレーションという体験会の設定上、対象者を河川近傍地域の自主防災組織に限定して参加を打診したが、複数回開催できるほど参加の意向が得られなかった。今後の体験会では目的等を整理し、対象者の範囲について再検討する。
---------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・環・住	可	15万以上	100-200	5-10千

■ ユースケース②開発成果イメージ図



避難所ルート描写プラグイン

経過時間でアニメーションのように変化する浸水域を考慮し、避難所へのルートをリアルタイムに計算・描写するプラグインを開発。



防災・減災体験会の開催

氾濫想定河川の近傍にある自主防災組織を対象にしたWebGISによる防災・減災体験会を開催。

■ 今後の展望

体験会の参加対象地域を拡大し、防災・減災における3D都市モデルの活用普及を図る。

河川氾濫以外にも内水氾濫のシミュレーションなど、事前防災としての活用可能性を検討していく。

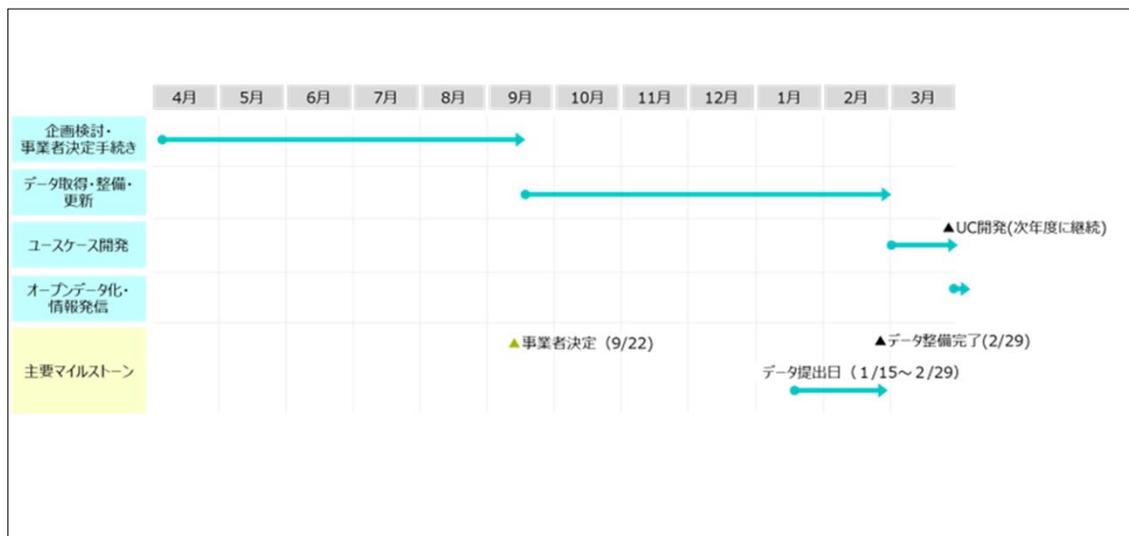
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

12. 東京都

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約14,090,000人（令和5年10月時点）
市域全域面積	2,188km ² （令和5年7月時点）
主な産業 地域課題等	<p>東京は3,600万人規模を擁する世界最大の都市圏の中心である。大規模で感度の高いマーケットが存在するとともに、政治や経済、文化など、様々な機能が高度に集積し、多様なサービス・産業を有している。</p> <p>また、少子高齢・人口減少社会の進行もより深刻な状況が生じ、さらには、気候変動によって人類の持続可能性が危機に晒されているといった課題に対応するため、都政の総合計画である「未来の東京」戦略を策定し政策を展開している。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	10千以上

担当部局	都市整備局都市づくり政策部広域調整課
------	--------------------



■ 補助事業実施項目

目標	<ul style="list-style-type: none"> デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送る「スマート東京」(Society5.0) 高度な都市機能と自然が調和し、人が集い、憩う東京
課題	<ul style="list-style-type: none"> 3Dビューアを通じた行政が保有する都市情報のリアルな可視化が必要 3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することが必要
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用し、庁内外データを可視化できるよう東京都デジタルツイン3Dビューア(β版)を公開する。 行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備 (LOD1) 3D都市モデル整備 (LOD2) ※都市開発諸制度拠点地区
ユースケース開発	東京都デジタルツイン3Dビューア (R5・6年度に取組予定) ※補助事業対象外
推進事業	—

総事業費(予定)	92,400(万円) ※うちR5年度 39,200(万円)
----------	-------------------------------

R5年度補助執行額	12,620(万円)
-----------	------------

補助対象外の関連事業	点群データ取得・整備事業(多摩・島しょ部)
------------	-----------------------

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 東京都デジタルツイン3Dビューアへの公開【3D都市モデル】
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	パスコ(3D都市モデルデータ整備)
-----------	-------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

12. 東京都

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定 情報 土地利用 災害リスク 地形	都市再生緊急整備地域	約30km ²	R4-R5年度更新
		23区(都市再生緊急整備地域除く)	約597km ²	R5年度更新
		多摩部	約1,154km ²	R5年度新規整備
		島しょ部	約407km ²	R6年度新規整備
LOD2	建築物	都市再生緊急整備地域	約30km ²	R4-R5年度更新
		都市開発諸制度拠点地区	約45km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市設備 植生	都市再生緊急整備地域（一部区域）	—	R4-R5年度新規整備
		都市開発諸制度拠点地区（一部区域）	—	R5年度新規整備
LOD2	交通（道路）	都市再生緊急整備地域	約30km ²	R4-R5年度新規整備
		都市開発諸制度拠点地区	約45km ²	R5年度新規整備
	橋梁	都市再生緊急整備地域	約30km ²	R4-R5年度更新
		都市開発諸制度拠点地区	約45km ²	R5年度新規整備
	植生	都市再生緊急整備地域（一部区域）	—	R4-R5年度新規整備
		都市開発諸制度拠点地区（一部区域）	—	R5年度新規整備
LOD3	都市設備	都市再生緊急整備地域（一部区域）	—	R4-R5年度新規整備
		都市開発諸制度拠点地区（一部区域）	—	R5年度新規整備
LOD4.1	地下街	都市再生緊急整備地域（一部区域）	—	R4-R5年度新規整備

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	10千以上



PLATEAU
by MLIT

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

12. 東京都

■ 3D都市モデル整備エリア図



	LOD1 (建築物、交通 (道路)、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形)	<ul style="list-style-type: none"> ・23区 (約627km) ・多摩部 (約1,154km) ※狛江市 (約6km) 除く ・島しょ部 (約407km) ※R6年度補助対象予定
		<ul style="list-style-type: none"> ・都市再生緊急整備地域 (約30km) ※R4年度補助対象
	LOD2 (建築物、交通 (道路)、都市設備、植生、橋梁等)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市開発諸制度拠点地区 (約45km)

* R5年度整備範囲は太字箇所 * 他事業体等と重複する場合には別途調整

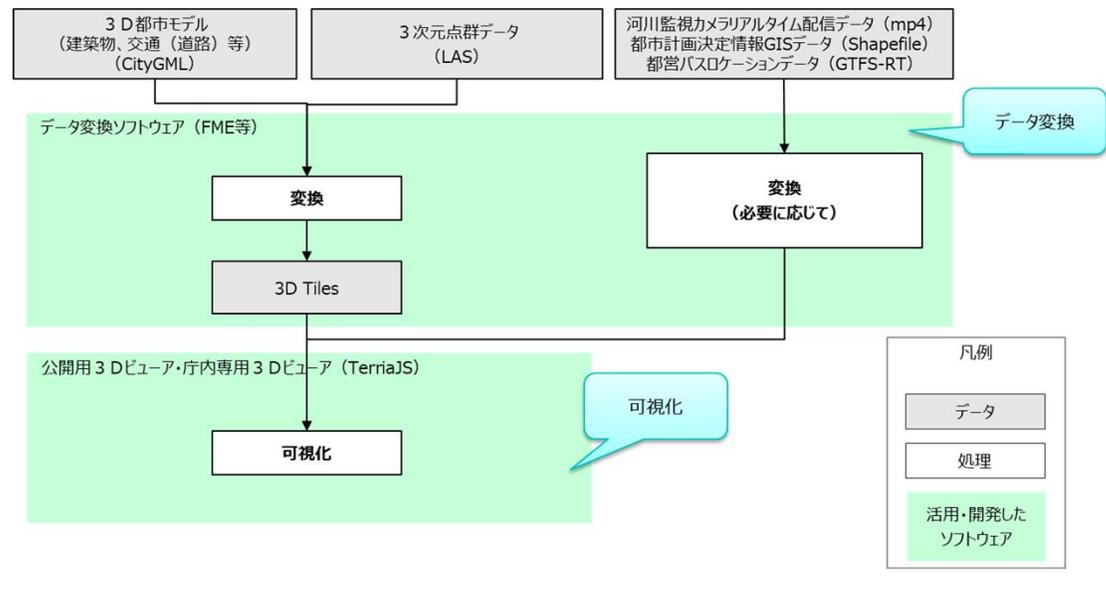
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	2.都市計画基本図(既存)	R3年度 (区部・島しょ部) H27年度 (多摩部)	2,500
測量成果	2.新規測量 (航空レーザー)	R4・5年度	500
属性情報	1.都市計画基礎調査(既存)	R3年度 (区部) R4年度 (多摩・島しょ部)	-

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	10千以上

■ ユースケース①概要

テーマ	その他
ユースケース名称	東京都デジタルツイン3Dビューア (R5・6年度に取組) ※補助事業対象外
目的	3Dビューアを通じた行政が保有する多様な都市情報のリアルな可視化
取組内容	様々な庁内外データ (都バスや河川のリアルタイムな情報など) を可視化できるよう東京都デジタルツイン3Dビューア(β版)を公開中。3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用する。
実施体制	株式会社三菱総合研究所

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

12. 東京都

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (図形面積、住所等) 交通 (道路) LOD1・2 都市計画決定情報LOD1 (用途地域、高度地区、防火及び準防火地域) 土地利用LOD1 (矩形、図形面積等) 災害リスクLOD1 (浸水 (洪水、高潮) 想定区域、土砂災害警戒区域) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 河川監視カメラリアルタイム配信 (河川監視カメラ) 都市計画決定情報GISデータ (都市再生特別地区、公園緑地) 都営バス (バスロケーション情報等)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるように、データ変換ソフトウェアを活用して変換する。 変換した3D都市モデルと各種GISデータ等を活用して、データを可視化、公開用3Dビューア・庁内専用3Dビューアを整備。
政策・事業での 活用	3Dビューアを通じた行政が保有する多様な都市情報のリアルな可視化。
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルを東京都デジタルツイン3Dビューアに掲載 (予定)。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルの関心度 (%)	40% (R5年度)	50%

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	10千以上



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



「東京都デジタルツイン3Dビューア」による多様なデータの可視化

3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用し、河川監視カメラ映像や用途地域など、多様なデータを可視化。

■ 今後の展望

3D都市モデルの整備を順次実施し、3Dビューアにおける都内全域の可視化を実施。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

12. 東京都

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	10千以上

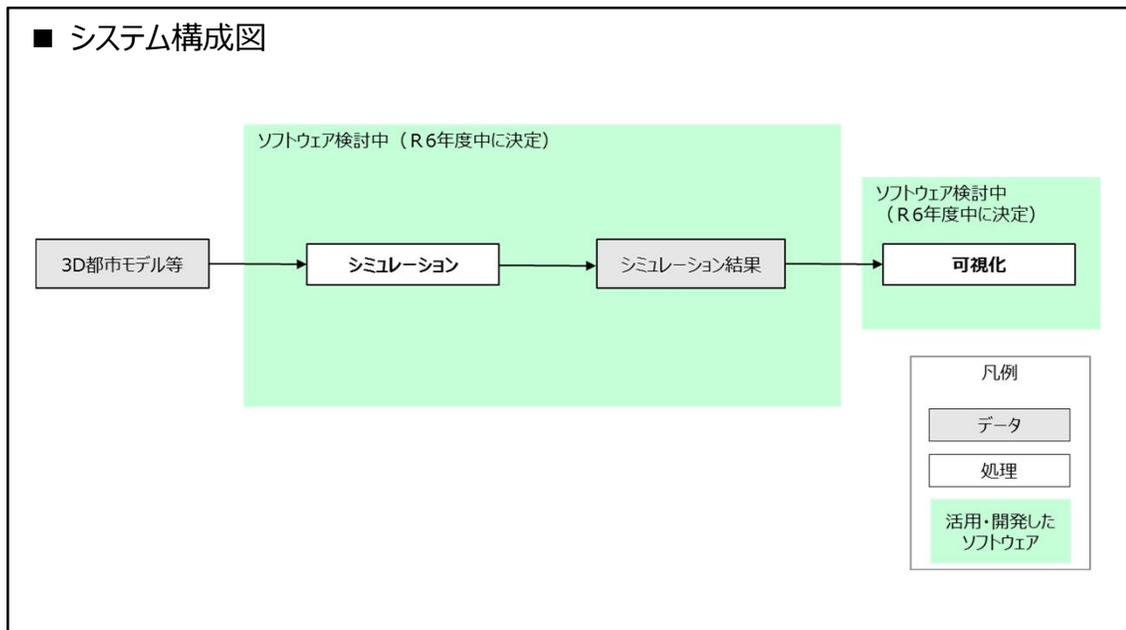
■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	デジタルツインを活用した水害シミュレーション (R6年度に取組予定)
目的	防災上の課題の把握および解決のための訓練によって、様々な場面で『より効果的に』活用できるシステムの開発・実装。
取組内容	3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。
実施体制	R6年度に取組予定であり未定（R5年度末に決定予定）

■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 交通（道路）LOD1・2 都市計画決定情報LOD1 土地利用LOD1 災害リスクLOD1 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 検討中（R6年度中に決定）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 活用するデータは検討中。 3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレート。 河川の洪水による氾濫や土砂災害など、各地の水害リスクの有無を3Dで表示。 浸水エリアの拡がりや水位の上昇など、時間の経過による変化を表示。 図上訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。
政策・事業での 活用	3D都市モデル上で、浸水や土砂災害の被害の様相をシミュレートし、訓練等で活用することで行政機関のより効果的な災害対応のオペレーションにつなげていく。
オープンデータ化 情報発信	未定

■ システム構成図



■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
検討中（R6年度中に決定）	—	R6年6月 計測予定

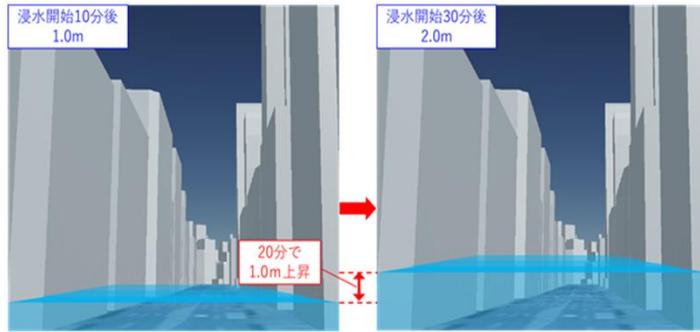
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

12. 東京都

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	10千以上



■ ユースケース開発成果イメージ図



デジタルツインを活用した 水害シミュレーション① (水位上昇の3Dイメージ)

河川の洪水による氾濫など、各地の水害リスクの有無を3Dで表示。



デジタルツインを活用した 水害シミュレーション② (土砂災害発生時の3Dイメージ)

土砂災害など、各地の水害リスクの有無を3Dで表示。

■ 今後の展望

行政機関の防災対応力の向上に向けて、本シミュレーションは、訓練や計画・マニュアルの検討に活用できるよう、開発を推進。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

13. 東京都中央区

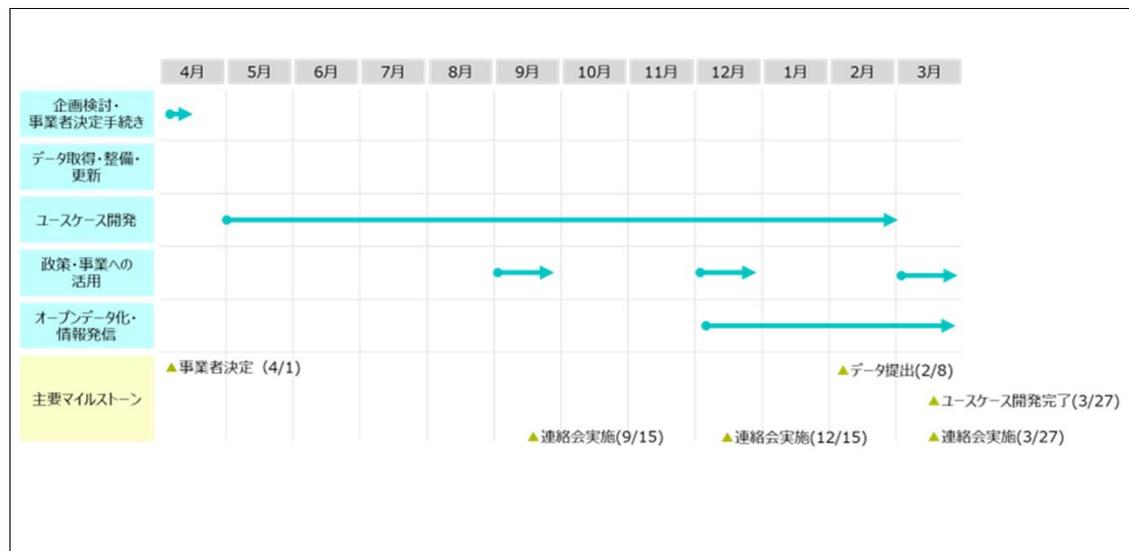


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	169,179人（令和2年10月時点）※R2国勢調査から引用
市域全域面積	10.12km ²
主な産業 地域課題等	<p>日本橋川沿いエリアでは、江戸五街道の起点である名橋「日本橋」を中心として、首都高速道路の移設撤去と日本橋川の再生に向けて、地元、国、東京都や関連開発事業者等と連携し、魅力あるまちづくりに取り組んできた。</p> <p>複数の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業等が連続的かつ長期的に進行していくため、地元をはじめ、国、東京都や関連事業者等と連携し、工事期間中のにぎわい創出を図りつつ、日本橋川の再生と魅力的で一体的な水辺空間の整備を推進していく。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	50未満	1-2千
担当部局	都市整備部都心再生推進課			

■ 補助事業実施項目

目標	日本橋川沿いエリアでは複数の事業が連続的かつ長期的に進行していくことから、3D都市モデルを活用し、住民代表や関係行政機関などの関係者として、より効果的な情報共有を図り、魅力的で一体的な水辺空間の整備推進を行う。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の進捗状況をはじめ、水辺空間の段階的な整備イメージや各事業完了後における将来のイメージ等を関係者と共有すること。 各事業が進行していく中で、工事期間中のにぎわい創出方策の検討が必要であること。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを用いたVRや切り出したパース等を使用して連絡会関係者との共有を図る。連絡会資料は区HPにも公開し、事業に対する区民等の理解促進を図る。 工事期間中のにぎわい創出方策について、具体的な対象エリアを想定して、3D都市モデル上で可視化しながら検討を行う。
事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> ユースケース開発に係る3Dモデル活用方策の検討
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した関係者とのイメージ共有 3D都市モデルを活用したにぎわい創出方策の検討・可視化
推進事業	—
総事業費（予定）	3,562（万円） ※うちR5年度 1,577.4（万円）
R5年度補助執行額	788.7（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	PLATEAU VIEWへの掲載 【UCデータ】
R5年度受託事業者	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ（事前調査） 株式会社 オリエンタルコンサルタンツ（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

13. 東京都中央区

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	50未満	1-2千

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	中央区全域	627.57km ²	R2年度整備済 (R4年度一部更新)
LOD1	道路 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク	中央区全域	627.57km ²	R4年度時点整備済
LOD2	建築物	2020年度整備範囲	32.0km ²	R2年度整備済 (R4年度一部更新)

■ 3D都市モデル整備エリア図



■ LOD 1 (建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク)

■ LOD 2 (建築物)

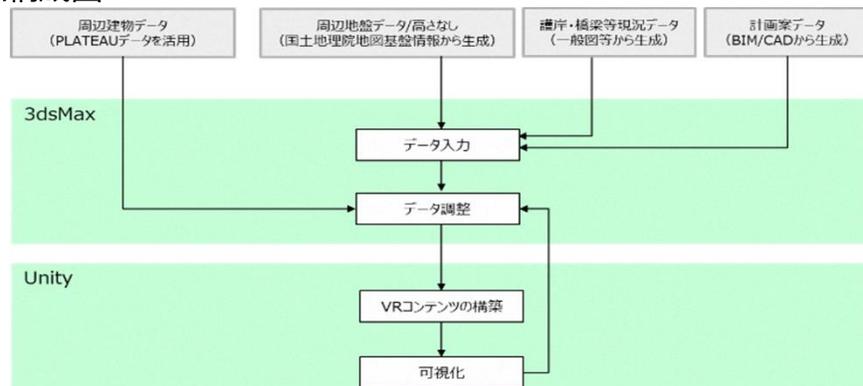
中央区のみ表示

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	—	—	—
測量成果	—	—	—
属性情報	—	—	—

■ ユースケース①概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した関係者とのイメージ共有
目的	「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」関係者等とわかりやすく共有すること。
取組内容	日本橋川沿いエリアにおける複数の事業について、段階的な整備状況や将来イメージを3D都市モデルで作成する。3D都市モデルを用いたVRや切り出したパース等を使用して関係者との共有を図る。（「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」での共有） 連絡会資料はHPにも公開し、事業に対する区民等の理解促進を図る。
実施体制	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

■ システム構成図



VRコンテンツの構築
合意形成ツールとして、連絡会構成員（住民代表、地域団体、関係事業者、河川管理者等関係行政機関、中央区）が共同で活用

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

13. 東京都中央区

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	50未満	1-2千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真(オルソ)(写真画像)、地形データ(高さ情報) 日本橋川防潮堤修景工事しゅん功図(護岸)、日本橋川施設管理図集(護岸)、日本橋船着場整備工事(日本橋船着場)道路台帳平面図(道路(区道、都道、国道))、管理平面図(道路(国道)) 日本橋橋梁図面(橋梁(日本橋))、江戸橋長寿命化詳細補足設計(橋梁(江戸橋))、一石橋(下)長寿命化基本設計(橋梁(一石橋))、橋梁調書(鎧橋、西河岸橋)(橋梁(鎧橋、西河岸橋)) 首都高日本橋区間地下化事業3Dモデル(首都高高架橋) 日本橋川周辺5地区再開発 施工BIM(再開発施工ステップ)、日本橋川周辺5地区再開発 完成イメージ(再開発計画案)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAUをベースに3D都市データを構築 各民間事業者の計画データの取込み 地方自治体の土木データ取込み 3D都市データを基にVRコンテンツを構築
政策・事業での 活用	対象エリアの現況および2040年までの段階的な整備状況、将来イメージを3D都市モデル上で表現する。上記3D都市モデルをVR上で表現する。「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」において、作成したVRのキャプチャ画像を資料や動画として提示し、各視点場での見え方を共有する。
オープンデータ化 情報発信	ユースケースデータ(CZML形式)をPLATEAU VIEWに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
連絡会関係者へのヒアリング・アンケート結果(%)	50%以上 (令和5年度)	100%

■ ユースケース開発成果イメージ図



日本橋川沿いエリアの段階的な整備状況や各事業完了後における将来イメージを示す、VRを用いた動画を作成した。連絡会において、関係者へ提示した。

連絡会の資料として、作成した3D都市モデルを切り出したパース図を使用し、段階的な整備状況や各事業完了後における将来イメージの共有を図った。

■ 今後の展望

日本橋川沿いの5地区の市街地再開発事業や首都高速道路日本橋区間地下化事業などの事業について、過年度からの変更内容を踏まえ、関係者と調整のうえ、3D都市モデルの更新を行う。(各再開発のデータ更新、護岸部の修景や緑化の配置などの反映)

引き続き、3D都市モデルを用いたVRや切り出したパース等を使用して関係者との共有を図る。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

13. 東京都中央区



■ ユースケース②概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したにぎわい創出方策の検討・可視化
目的	3D都市モデルを活用しにぎわいのイメージを可視化しながら検討すること
取組内容	各事業の工事期間中のにぎわい創出方策について、工事の進捗状況を踏まえながら、にぎわい創出方策の具体的な実施エリアを想定して、3D都市モデル上で可視化しながら検討を行う。
実施体制	株式会社 オリエンタルコンサルタンツ

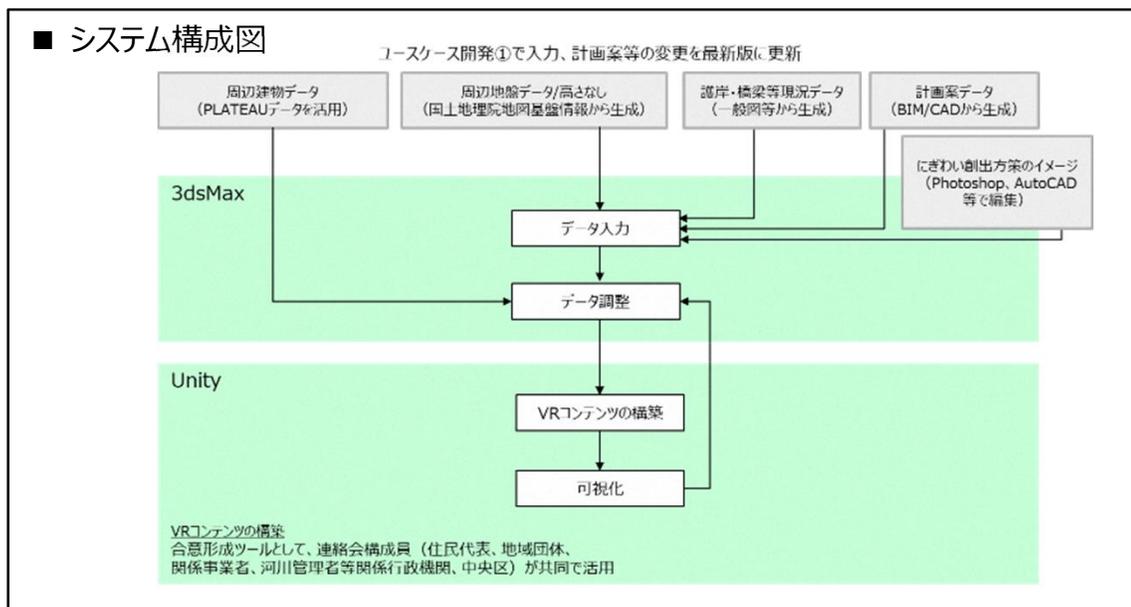
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 航空写真 (オルソ) (写真画像)、地形データ (高さ情報) 仮囲い活用イメージ画像 (テクスチャ用画像データ (にぎわい創出方策))
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAUをベースに3D都市データを構築。 各民間事業者の計画データの取込み。 地方自治体の土木データ取込み。 区および地域団体に検討しているにぎわい創出方策のイメージをモデル化。 仮囲いの活用や緑化などによる工事期間中のにぎわい創出方策を検討 3D都市データを基にVRコンテンツを構築。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> にぎわい創出方策 (仮囲いの活用、緑化など) を3D都市モデル上で表現する。 「日本橋川水辺空間の整備推進に関する連絡会」において、作成したVRのキャプチャ画像を資料や動画として提示し、各視点場での見え方を共有する。
オープンデータ化情報発信	ユースケースデータ (CZML形式) をPLATEAU VIEWに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
にぎわい創出方策実施	3案以上 (R5年度)	4案検討
連絡会関係者へのヒアリング・アンケート結果 (%)	50%以上 (R5年度)	90%

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

14. 東京都江戸川区

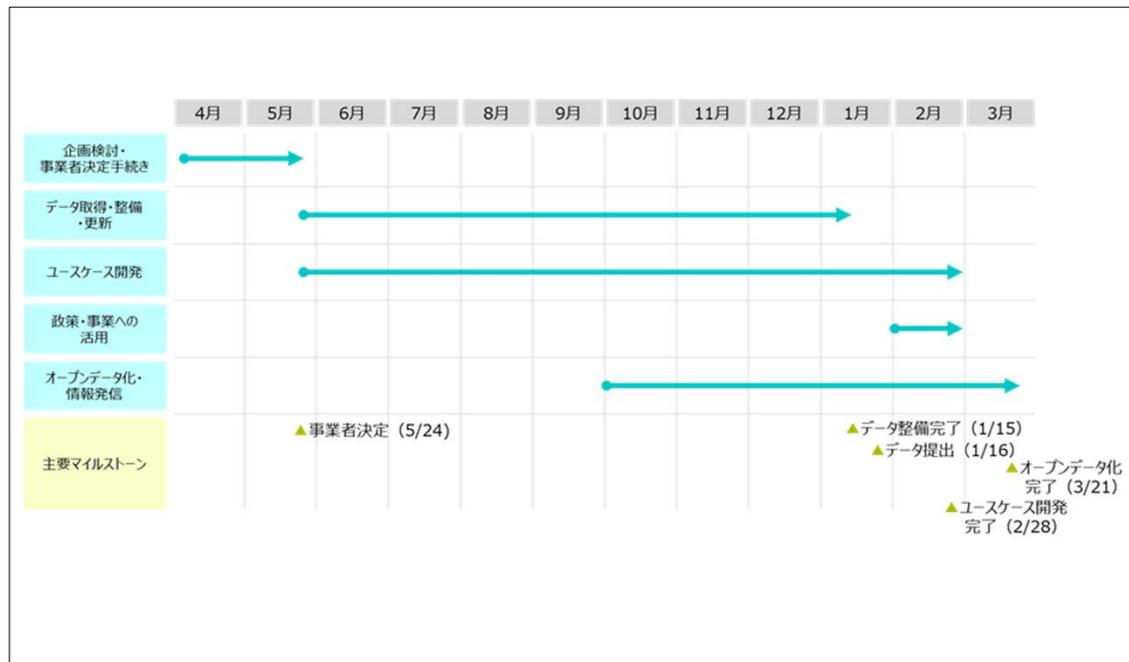


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約690,000人（令和5年11月時点）
区内全域面積	49.09km ² （令和4年4月時点）
主な産業 地域課題等	東京都23区の東部に位置し、人口が約69万人の都市。三方を河川、東京湾に囲まれ、23区で最も公園面積を持つ、都心区の中で水とみどりが豊かな地域。 荒川や江戸川、東京湾に囲まれ、陸域の7割が海拔ゼロメートル地帯のため、水害リスクが非常に高い。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	50-100	3-5千
担当部局	危機管理部防災危機管理課			

■ 補助事業実施項目

目標	浸水想定区域のわかりやすい可視化による防災意識の向上。
課題	高潮浸水想定区域図の3D化及び時系列シミュレーションデータ、公共施設のLOD2、橋梁のLOD2.1を作成し、浸水想定区域をわかりやすく可視化を行い、地域住民の防災意識の向上を目指すものである。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 建築物、道路（橋梁及び高架施設）との浸水想定区域の重畳による正確な浸水範囲等の可視化、分析。 地域住民の防災意識の向上。

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 既存の3D都市モデル（LOD1）を活用 3D都市モデル整備事業（LOD2・LOD2.1）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した水害リスクの可視化事業
推進事業	—

総事業費	3,661（万円）
R5年度補助執行額	1,500（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル、ユースケース開発データ】
-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	国際航業株式会社（事前調査、データ整備、ユースケース開発）
-----------	-------------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

14. 東京都江戸川区

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	50-100	3-5千



PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	江戸川区全域 江戸川区の341施設	49.09km ²	R2年度整備済 R5年度一部更新
	道路 都市計画決定情報 地形	江戸川区全域	49.09km ²	R2年度整備済 (更新無し)
	土地利用	江戸川区全域	49.09km ²	H29年度整備済 (更新無し)
	災害リスク	江戸川区全域	49.09km ²	R2年度整備済 (洪水浸水想定区域、 高潮浸水想定区域、 土砂災害警戒区域) R5年度新規整備 (高潮浸水想定区域)
LOD2	建築物	江戸川区内の341施設	—	R5年度新規整備

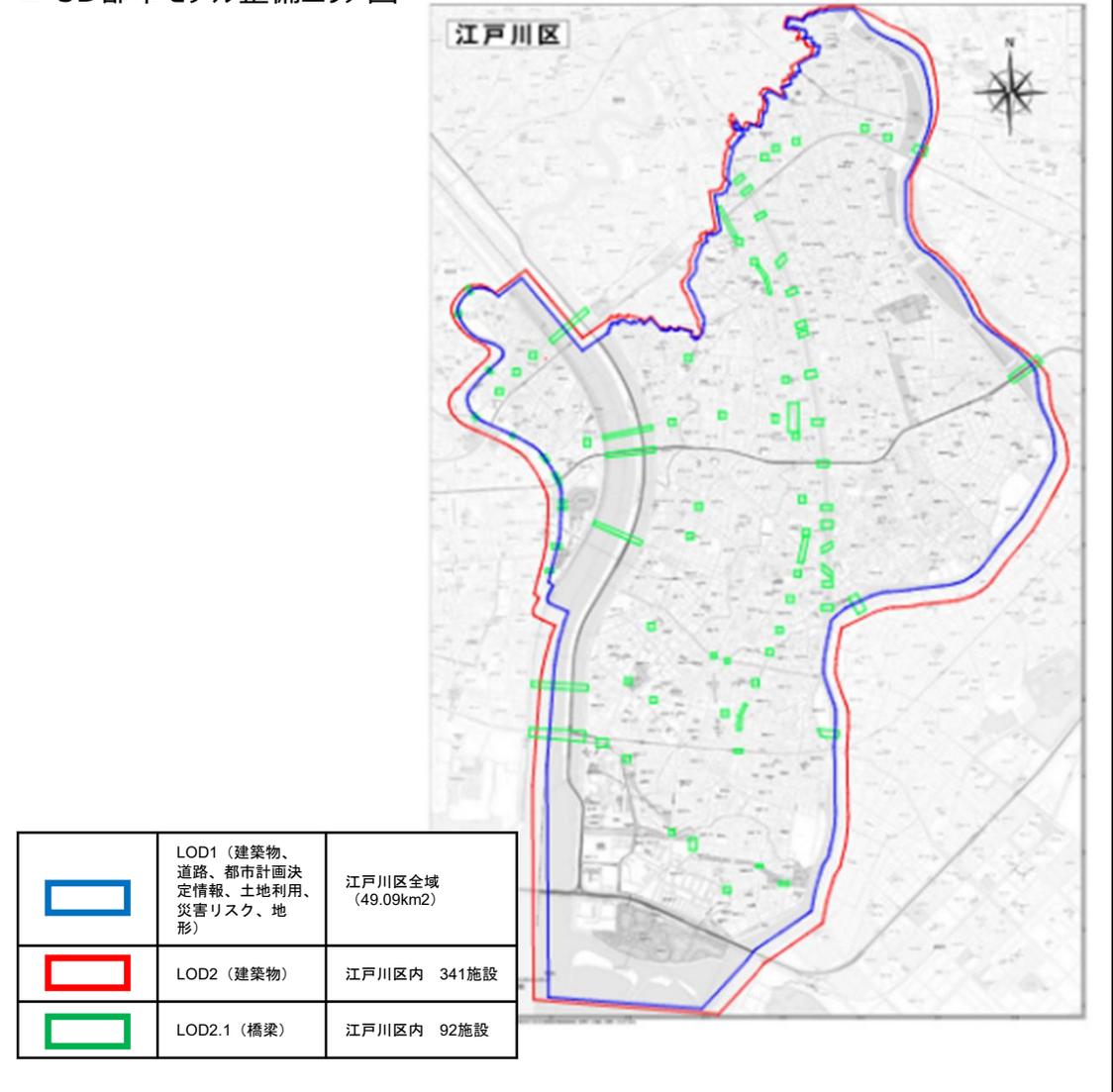
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2.1	橋梁	江戸川区内92施設対象	—	R5年度新規整備

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	- (既存3D都市モデル利用)	—	—
測量成果	R4年度東京都航空レーザ (令4関公第983号)	2022	2,500
属性情報	R3年度東京都土地利用現況調査 (建物現況調査)	2021	—

■ 3D都市モデル整備エリア図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

14. 東京都江戸川区

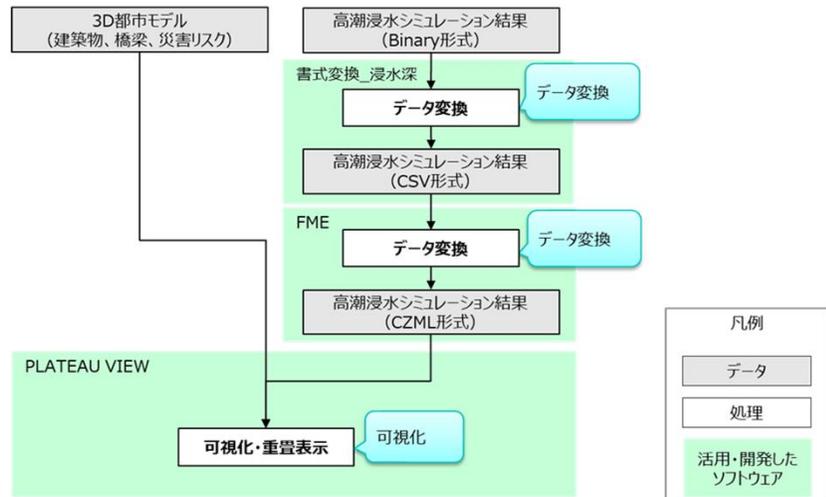
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	50-100	3-5千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した水害リスクの可視化事業
目的	浸水想定区域をわかりやすく可視化することで、効果的な住民避難対策の計画を目指す。
取組内容	高潮浸水想定区域の3D化及び時系列シミュレーションデータを作成。公共施設のLOD2、橋梁のLOD2.1を作成。3D化した災害リスクデータと3D都市モデルを重ね合わせ、災害リスクを住民へわかりやすく可視化。PLATEAU VIEWに搭載。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 建築物LOD2 橋梁LOD2.1 災害リスクLOD1 (高潮浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 高潮浸水シミュレーション結果 (メッシュ別時刻別浸水深)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 既存の高潮浸水シミュレーション結果を活用し、FMEによるデータ変換によりCZML形式の時系列浸水シミュレーションデータを作成。 PLATEAU上で3D都市モデルと時系列浸水シミュレーションデータを重畳表示し、公共施設や橋梁の浸水リスクや浸水の時間変化を3Dで可視化。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D化した災害リスクデータを3D都市モデル等と重ね合わせ、災害リスクを住民へわかりやすく可視化。 今後、水害防災講演会等で区民の防災意識向上のため活用していく。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川区HPへPLATEAU VIEWのリンクを記載 ユースケース開発データをPLATEAU VIEWに掲載

■ KPI

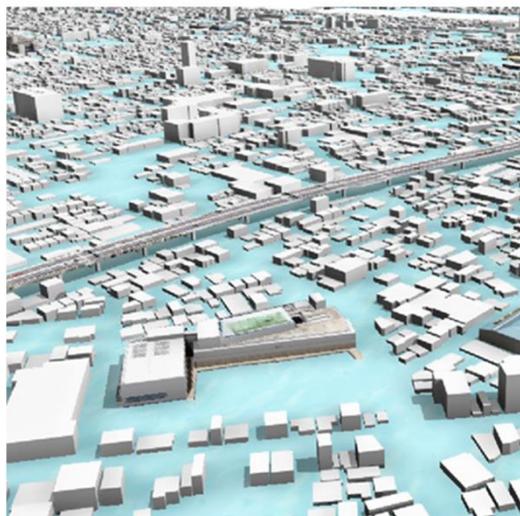
KPI	目標設定	達成状況
区防災職員へのアンケートにおける3D都市モデル活用に対する肯定的な意見	50% (R5年度)	90%

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

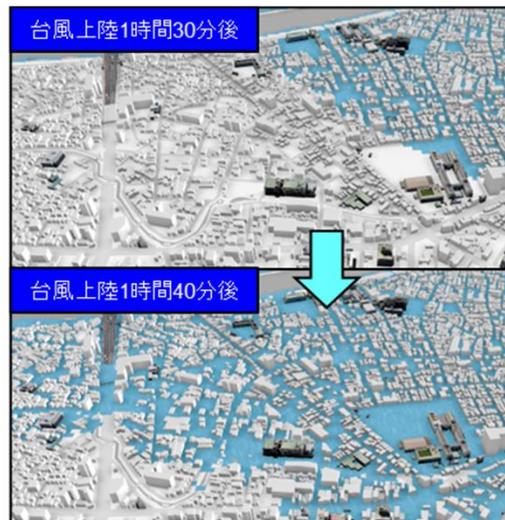
14. 東京都江戸川区

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	50-100	3-5千

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D化した高潮浸水想定区域データを、建築物LOD2や橋梁LOD2.1と重ねて表示し、災害リスクを住民へ分かりやすく可視化。



3D都市モデルと時系列浸水シミュレーションデータを重畳表示し、公共施設や橋梁の浸水リスクや浸水の時間変化を3Dで可視化。

■ 今後の展望

3D都市モデル・災害リスクデータの整備によりわかりやすく可視化が行えたため、区民への水害防災講演会等で活用し、防災意識向上のために活用したい。

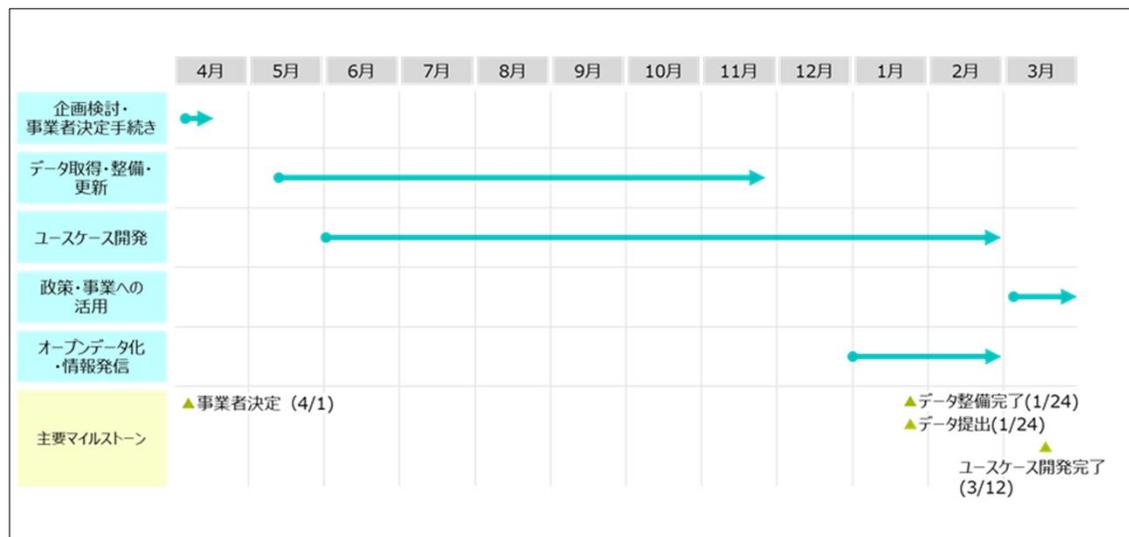
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

15. 東京都東村山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	151,598人（令和5年4月時点）
市域全域面積	17km ² （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	東京都の北西に位置し、都心まで30km圏内のアクセス便利なベッドタウン。 市域内には緑地、水辺空間、農地などの自然環境に恵まれ、都市近郊にありながらのどかな里山風景が残っている。近年、連続立体交差事業や都市計画道路事業等の都市基盤整備が進行中である。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	50未満	2-3千
担当部局	経営政策部経営改革課			

■ 補助事業実施項目

目標	河川の維持管理と都市型水害の抑制
課題	河川整備後の整備イメージの可視化や河川の段階的な整備による溢水シミュレーションを実施することにより、内部検討を深化させ、庁内・関係機関との合意形成を迅速化するとともに、住民説明会での活用を検討する。 また今後、大雨時の水位モニタリングや可視化した溢水範囲をもとにした避難経路の検討につなげる。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 庁内関係職員の3次元ビューワ利用方法理解度及び習熟度の向上。 住民（対外関係者）説明会での説明内容の理解度向上、住民（対外関係者）の理解のための積極的な3次元表示の利活用。（閲覧）
事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備（LOD2）（橋梁：一部を除く） 3D都市モデル整備（LOD3）（橋梁：前川（水路）一部） 3D都市モデル整備（LOD3）（地形：前川（水路）沿い）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 河川整備計画検討の進捗に応じたシミュレーションの実施及び検討 3次元ビューワの導入検討
推進事業	-
総事業費	3,479（万円）※うちR5年度 2,429（万円）
R5年度補助執行額	950（万円）
補助対象外の関連事業	-
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】
R5年度受託事業者	三井共同建設コンサルタント株式会社（事前調査） 朝日航洋株式会社（3D都市モデルの整備・更新・ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

15. 東京都東村山市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	50未満	2-3千

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通道路 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	市内全域	17km ²	R2年度整備済
LOD2	建築物	市内全域の一部 ランドマークのみ	—	R2年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	橋梁	前川（水路）橋梁	42橋	R5年度新規整備
LOD3	地形 橋梁	前川（水路）沿い 前川（水路）橋梁 の一部	0.1km ² 3橋	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

整備範囲

詳細度	整備範囲	整備地物
LOD1	市内全域（17km ² ） 整備済	基本セット
LOD2~3	整備対象河川周辺 （0.1km ² ）	橋梁
LOD3	整備対象河川周辺 （0.1km ² ）	前川（水路）沿い地形

凡例

LOD1（基本セット）	整備済
LOD2（前川（水路）橋梁）	
LOD3（中橋、第二前川橋、徳増寺橋）	
LOD3（前川（水路）沿い地形）	



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図(横断面図)	その他(横断測量成果 (20m間隔))	R3年度	その他(100)
平面図(台帳)	その他(橋梁台帳)	H25年度	その他(なし)
平面図(橋梁一般図)	その他(橋梁竣工図)	R2,3年度	その他(200)
平面図(斜め写真)	その他(橋梁写真)	R5年度	その他(なし)
測量成果	航空レーザ測量成果	R2年度	500
属性情報	—	—	—

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

15. 東京都東村山市

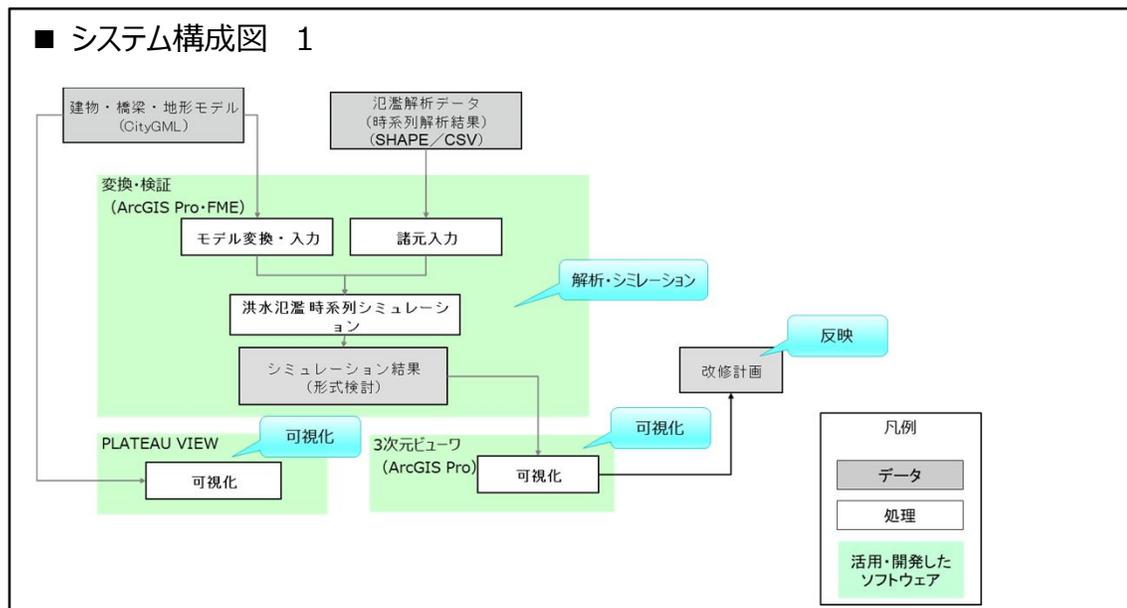
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可・分	15万以上	50未満	2-3千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	前川氾濫解析3D可視化
目的	都市型水害の抑制による安心した暮らしの実現に向けた、河川整備計画の作成における検討の深化。護岸等の地形及びまたがる橋梁を整備する対象エリアに、複数の条件のもとシミュレーションを行い、将来図の高度な検討を行う。
取組内容	今後の内部検討の深度化等のため、現況の前川の3D都市モデルを作成し、氾濫解析結果の試行データを3次元ビューにて重ねて可視化する。
実施体制	朝日航洋株式会社 三井共同建設コンサルタント株式会社

■ システム構成図 1



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 地形LOD3 橋梁LOD3
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 前川(水路)氾濫解析データ (破堤点 時系列データ (時系列毎浸水深))
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルを作成。 氾濫解析モデルを作成し、複数のシミュレーションを行う。 氾濫解析結果から3D表示用試行データの準備。 作成した3D都市モデルと氾濫解析結果を重ねて3D可視化試行。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 内部の関係職員でビューを利活用するための操作説明会を実施。 次年度以降、利活用 (河川整備計画作成での活用検討)、住民 (対外関係者) 説明会での活用検討。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

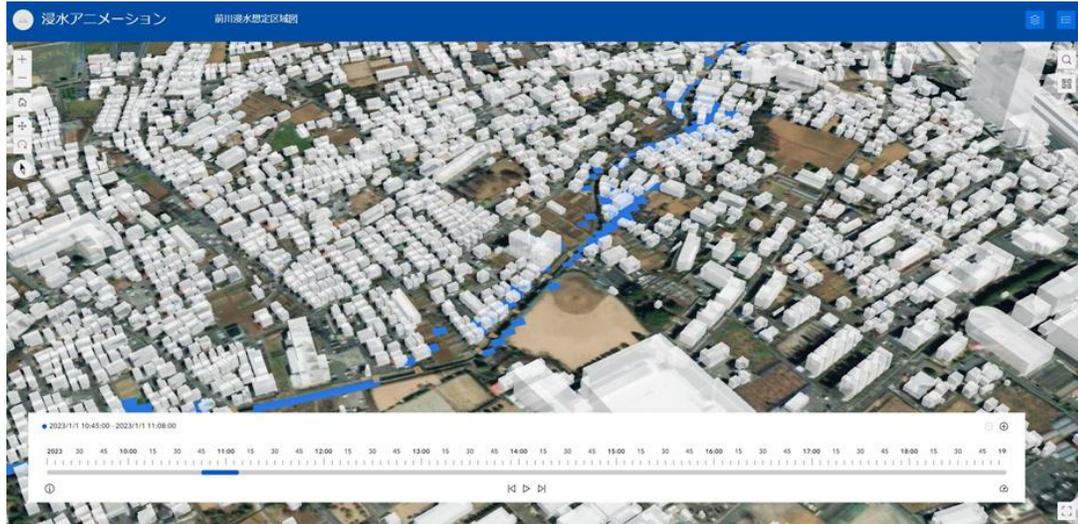
KPI	目標設定	達成状況
庁内関係職員向け説明会による庁内関係職員の3次元ビュー利用方法の理解度 (%)	90% (R5年度)	100% (R5年度)
住民 (対外関係者) 説明会での改修内容の理解度 (%)	90% (R7年度)	- (R7年度)
ウェブサイトでの閲覧数(pv)	5000pv (R7年度)	- (R7年度)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

15. 東京都東村山市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可・分	15万以上	50未満	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



- ・ 3D都市モデルと氾濫解析結果を重ね合わせてアニメーションで状況把握が可能となった。また様々なハザード情報と都市モデルの重畳も可能となった。今後改修計画の進捗状況に応じた結果の可視化をすることで、改修計画の効果を視覚的に理解する環境が構築された。

■ 今後の展望

次年度以降、改修計画の進捗や状況に応じて掘削河道及び遊水池モデル作成や周辺建物等の一部をLOD2化し可視化を検討。
内部の関係職員により、今後、可視化による内部検討の深度化、庁内・関係機関との合意形成の迅速化、住民説明会での活用の検討を行う。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

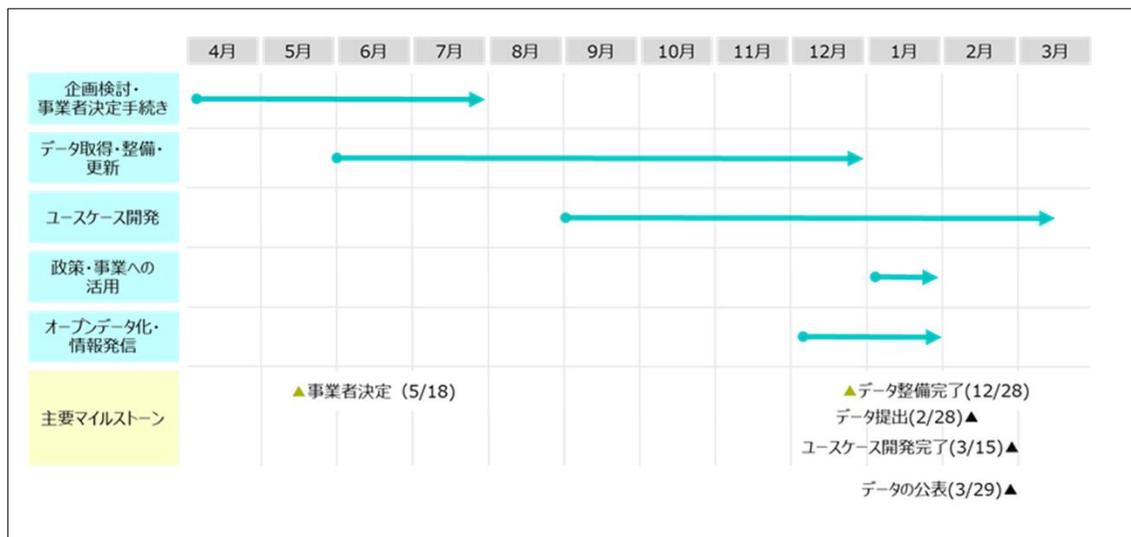
16. 東京都狛江市



■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	82,312人（令和5年11月時点）
市域全域面積	6.39km ²
主な産業 地域課題等	東京都23区の世田谷区に隣接した市である。小田急線狛江駅を中心とした商業中心都市。 6.39km ² の中に小田急線3駅があり、駅に賑わいがあるが、駅から少し離れると生産緑地が多く残っており、良好な住環境が広がる。多摩川にも隣接しており、自然景観が豊かである。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	5-15万	50未満	5-10千
担当部局	都市建設部まちづくり推進課			

■ 補助事業実施項目

目標	安心して暮らせる安全なまちの実現。
課題	東京都防災会議における被害想定を受け、住民の防災意識の向上を目指す。
創出価値	大規模延焼等にいたる経過の立体的な見える化を図り、市民参加・市民協働により、具体的な災害対策の検討を行う。

事前調査等	整備範囲や内容の検討に関する事前調査
3D都市モデル 整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備（LOD1） 3D都市モデル整備（LOD2）
ユースケース 開発	3D都市モデルを活用した火災延焼リスクの可視化
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルのオープンデータサイトの構築 庁内GISシステムの統合

総事業費（予定）	5,701.2（万円）
R5年度補助執行額	2,850.6（万円）
補助対象外の 関連事業	—

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 市ホームページに掲載【3D都市モデル策定に関する情報提供を掲載し、PLATEAU VIEW（外部リンク）にて見られることを周知】
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度 受託事業者	株式会社パスコ（データ整備・ユースケース開発）
---------------	-------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

16. 東京都狛江市

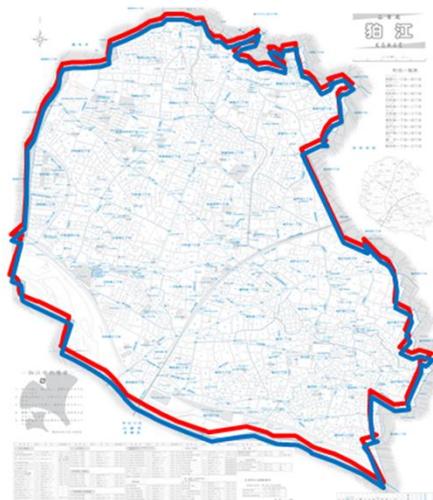
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物、交通道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形	市域全域	6.39km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	市域全域	6.39km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	狛江市全域（6.39km ² ）
	LOD2（建築物）	狛江市全域（6.39km ² ）

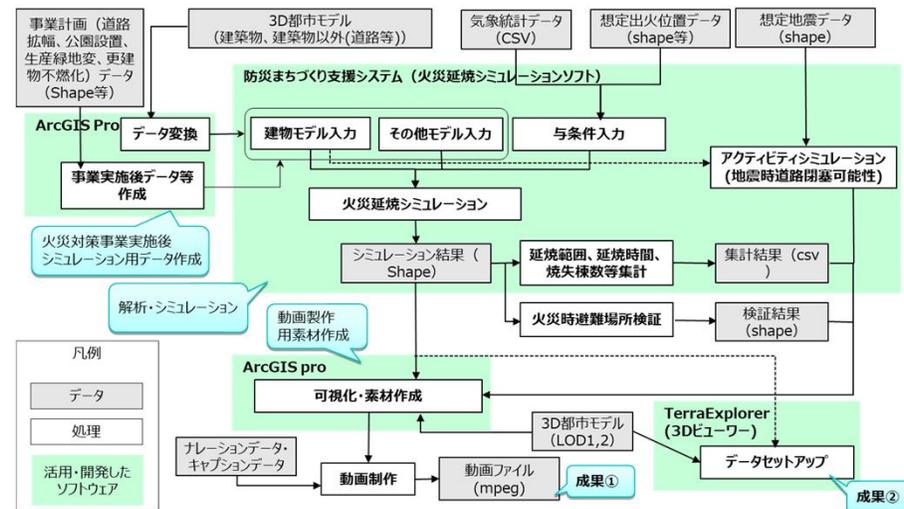


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図	H27年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R3年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H29年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	災害リスクの可視化
目的	東京都防災会議における被害想定を受け、住民の防災意識の向上。
取組内容	木造密集地域等を解消するため、建物不燃化率が向上した場合や道路拡幅した場合等、各種火災対策を推進した状況を想定し、火災シミュレーションのデータを3D都市モデル上で可視化して、住民向けワークショップや都市計画手続きの説明会等において周知意見を聴き、さらに検討を行い、防災計画等に活用する「災害リスクの可視化」を実施する。
実施体制	株式会社パスコ

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

16. 東京都狛江市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	5-15万	50未満	5-10千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (用途、計測高さ、地上階数、建築年、構造) 道路LOD1 都市計画決定情報LOD1 土地利用LOD1 災害リスクLOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 気象統計データ (季節毎: 平均風速、最大風速、最頻度風向等) 事業計画データ (道路拡幅、公園設置、生産緑地変、更建物不燃化等) (事業種別 (道路拡幅、公園設置、生産緑地変更、建物不燃化等)、事業計画範囲、位置、事業内容、事業計画年等) 想定出火位置データ (地区名、想定出火時間、想定出火季節) 想定地震データ (メッシュ毎地震震度)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 活用シーンに応じて、シミュレーションに用いる条件設計を行う。 設定した条件設計結果を踏まえ、LOD 2 データを用いて、シミュレーション用のデータを作成する。 基礎データを踏まえ、火災延焼シミュレーションを実施し、動画や火災対策事業合意形成のための資料作成。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 住民の防災意識向上のため、まちづくり懇談会にて動画を用いて説明を行う。 地区住民の合意形成を進め、地区計画等の都市計画決定を行う。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
庁内での3Dビューワーの活用回数、活用範囲 (部局)	5人以上、または3部局以上 (R5年度)	3月29日 庁内説明会実施 参加人数50名(9部局)

■ ユースケース開発成果イメージ図



シミュレーションに用いる事業実施後のモデルは、現況 3D都市モデルのデータから各種事業内容に応じて建物除去などを行い、将来のまちの姿を可視化し、シミュレーションを実施した。

視覚的に事業効果を示し、事業に対する必要性の理解を深めるツールとして、対策実施前・後のシミュレーション結果を3D都市モデル上で表現した動画を作成した。

■ 今後の展望

今回は市内の一部地域においてシミュレーションを行ったが、今後は別地区においても実施し、地域住民への説明の際に視覚的に表現することで、防災意識の向上させる取り組みやまちづくりの検討に活用を図りたい。

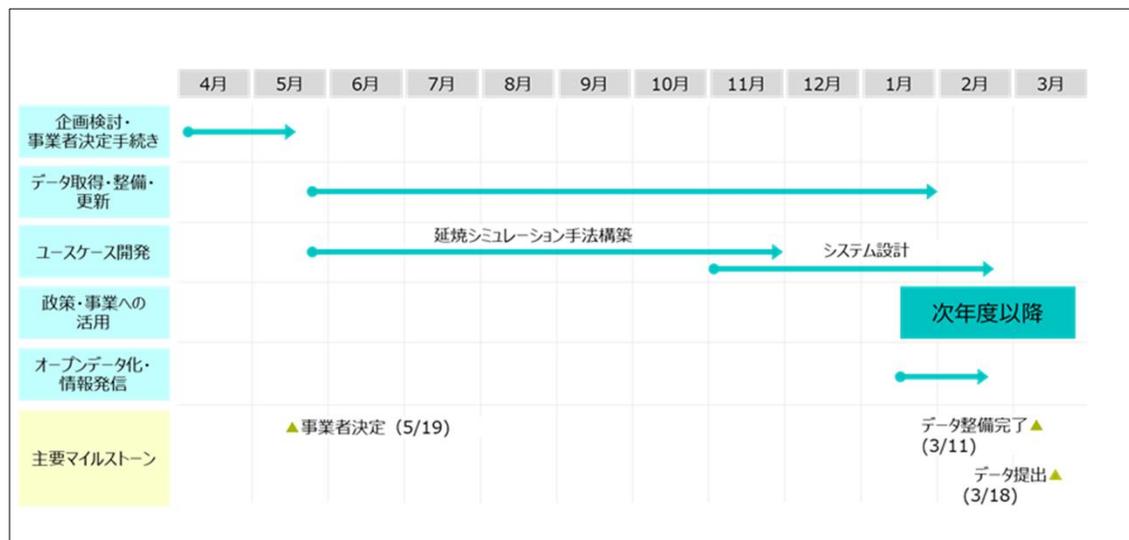
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

17. 神奈川県相模原市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	718,174人 (R5.10時点)
市域全域面積	328.91km ² (R5.4時点)
主な産業 地域課題等	<p>神奈川県の北西部に位置する政令市。市域に都市部と中山間地域を併せ持つ。</p> <p>リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）が設置予定である。「潤いと活力に満ち 笑顔と希望があふれるまち さがみはら」を総合計画の将来像として掲げ、少子化対策・雇用促進対策・中山間地域対策を分野横断的取り組み重点テーマとしており、人口減少・超高齢化社会に対応し、地方創生の取組を実施する。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可・分	15万以上	200-500	5-10千
担当部局	都市建設局まちづくり推進部都市計画課			



■ 補助事業実施項目

目標	消防力の強化を通じて災害に強い魅力あるまちをつくる。
課題	延焼シミュレーションの精度向上（現状：二階建ての建築物）や林野部での火災に対応するシミュレーターが国内に流通していないこと、また、一般市民向けの自主防災訓練や講演会等で効果的に周知できるツールが少ない状況にある。
創出価値	中心街や中山間地域における効果的な消火・救助活動を実施し、一般市民への防災意識の向上を図る。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル更新 (LOD1)・3D都市モデル整備 (LOD2) 都市計画基本図修正
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した延焼シミュレーターの高度化
推進事業	—
総事業費（予定）	20,572.3（万円） ※うちR5年度 7,999.8（万円）
R5年度補助執行額	3,999.6（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 市ホームページへの掲載【ユースケース】
R5年度受託事業者	国際航業株式会社（データ整備） 国際航業株式会社（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

17. 神奈川県相模原市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可・分	15万以上	200-500	5-10千

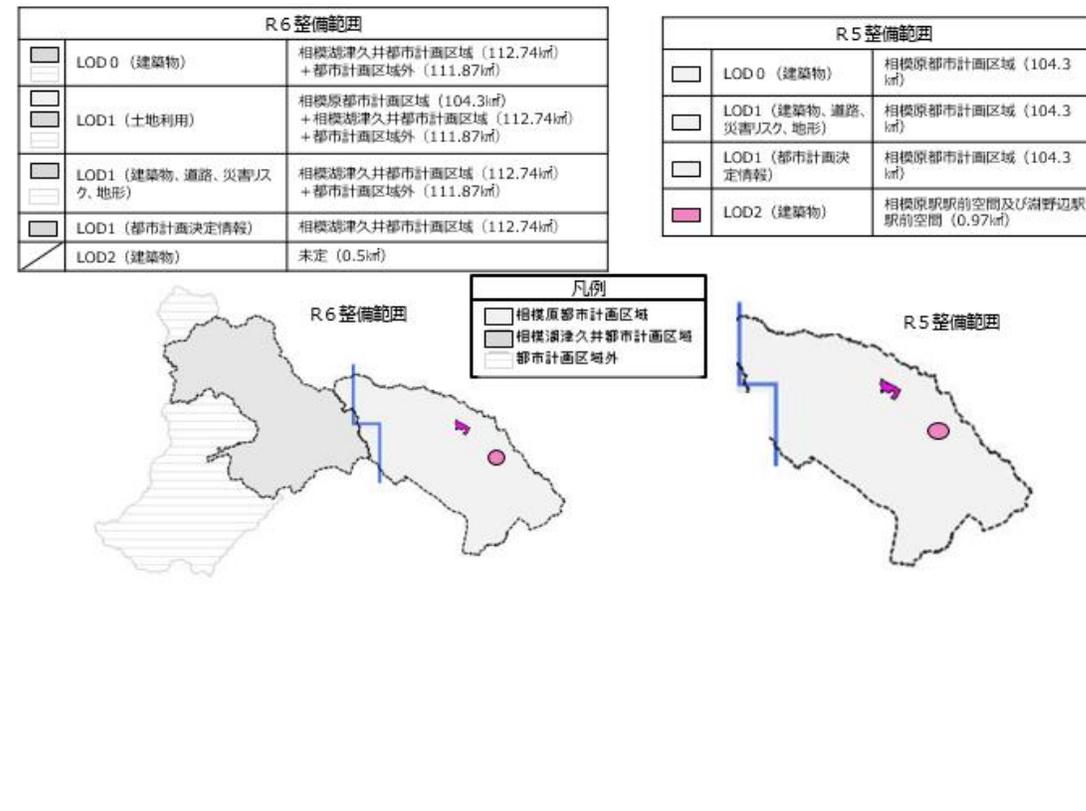


■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 地形	相模原都市計画区域の一部 相模湖津久井都市計画区域の一部 都市計画区域外	R5：104.3km ² R6：112.74km ² R6：111.87km ²	R2年度整備済 (R5年度一部更新) (R6年度一部更新) (R6年度新規整備)
LOD1	都市計画決定情報	相模原都市計画区域の一部 相模湖津久井都市計画区域の一部	R5：104.3km ² R6：112.74km ²	R2年度整備済 (R5年度一部更新) (R6年度一部更新)
LOD1	土地利用	相模原都市計画区域の一部 相模湖津久井都市計画区域の一部 都市計画区域外	R6：104.3km ² R6：112.74km ² R6：111.87km ²	R2年度新規整備 (R6年度一部更新) (R6年度一部新規整備)
LOD1	災害リスク	相模原都市計画区域の一部 相模湖津久井都市計画区域の一部 都市計画区域外	R5：104.3km ² R6：12.74km ² R6：111.87km ²	R2年度整備済 (R5年度一部更新) (R6年度一部更新) (R6年度新規整備)
LOD2	建築物	相模原駅駅前空間及び淵野辺駅駅前空間 未定	R5：0.97km ² R6：0.5km ²	R5年度新規整備 R6年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度、R6年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度、R4年度	—

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

17. 神奈川県相模原市

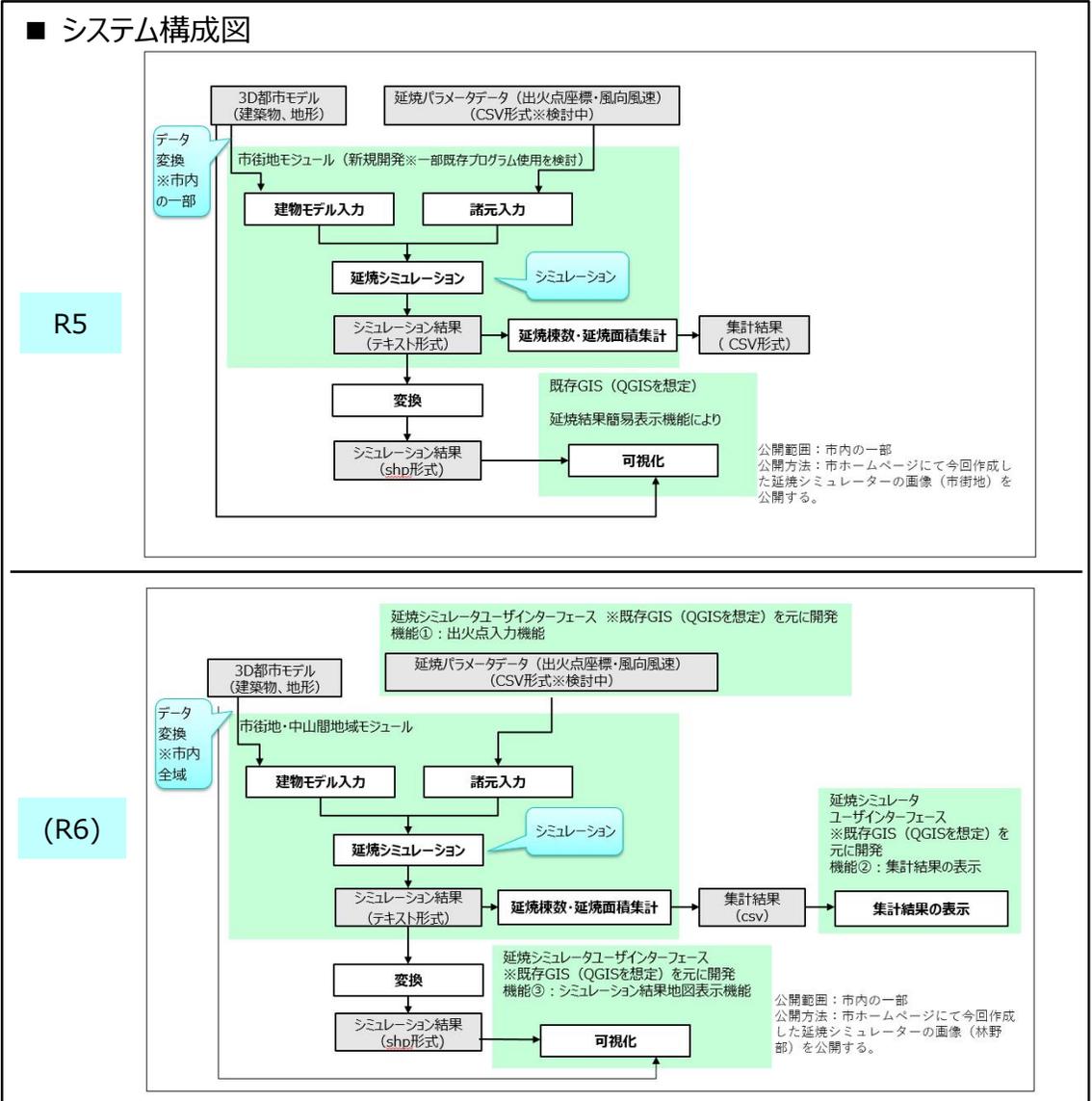
■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した延焼シミュレーターの高度化
目的	地形や建物の高さデータを加味することによる精緻な延焼シミュレーション
取組内容	相模原市は、日本の縮図のような市街地と山地の構成割合であり、市の中・西部の山地が市面積の約7割を占め、林野火災への対応・対策が喫緊の課題となっており、従来の延焼速度式に基づく市街地の延焼拡大予測に加えて、林野火災延焼シミュレーターを構築することで、市街地と山間部、市域全域を網羅したシームレスな延焼シミュレーションを実現する。
実施体制	国際航業株式会社

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可・分	15万以上	200-500	5-10千



PLATEAU
by MLIT



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

17. 神奈川県相模原市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可・分	15万以上	200-500	5-10千



PLATEAU
by MLIT

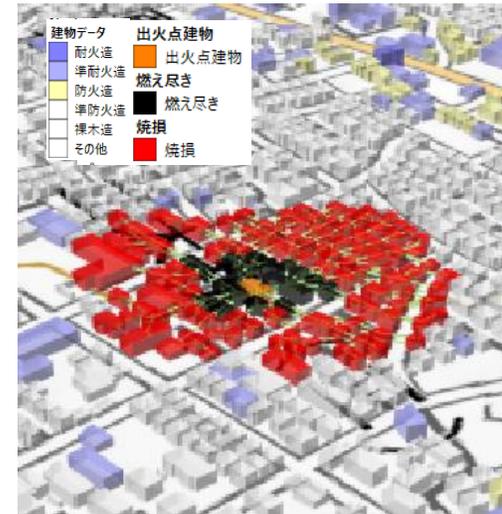
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (id、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 地形LOD1 (高さ)
活用データ (上記以外)	-
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 【R5】対象区域の3D都市モデルから建築物の建物形状・階数・構造等のシミュレーション基礎データを取得。 【R5】市街地延焼シミュレーションを行うための検討用モジュールを開発。 【R5】中山間地域延焼モジュール作成の手法を検討する。 【R6】市街地・中山間地域延焼モジュールの開発をする。 【R6】延焼シミュレーターのユーザインターフェースを開発する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 【R5】一定の出火点からのシミュレーション結果を地図 (GIS) 上に2D/3Dで表示可能にする。 【R6】ユーザ (市職員) が任意の出火点からのシミュレーションを実施可能とするソフトウェア (延焼シミュレーターユーザインターフェース) を開発し、専用端末に導入する。
オープンデータ化 情報発信	延焼シミュレーション画像を相模原市ホームページに掲載する。

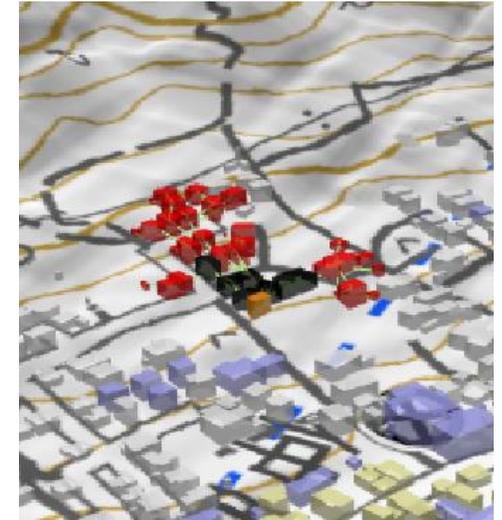
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
消防力の強化 (現場で活用が見込めると感じた職員の割合)	80% (R5年度)	83%
災害対策の推進 (自主防災訓練で活用が見込めると感じた職員の割合)	80% (R5年度)	83%

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D都市モデルにある属性情報を活用し、その結果を防災訓練等で公開し、防災意識の向上や普及啓発に活用する。



地形データを取り入れることで山間部においてもシミュレーションが可能となった。

■ 今後の展望

令和6年度は、林野部を含む延焼シミュレーターの開発を行うことにより、日本の国土の約7割を占める森林をカバーできるようになることから、全国の消防に活用していただきたい。
災害現場の気象情報等を取り込める機能などの拡充により、実災害でより効果的に活用できるようにしていきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

18. 神奈川県横須賀市



PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	375,176人（令和5年11月1日時点）
市域全域面積	市域全域面積：100.81km ² （令和5年7月1日時点）
主な産業 地域課題等	神奈川県南東部に位置する、人口約37万人の中核都市。明治初期に軍港が建設されたことにより都市が発展。終戦後も自動車産業等の興隆で都市が発展したが、近年人口減少傾向。 山間の地形が特徴。そのため土砂災害の危険エリアが多数分布している。コロナ前までは自然・歴史等の地域資源は豊富であるため観光客数は増加傾向。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	ア	15万以上	100-200	1千未満

担当部局	横須賀市 都市部 都市計画課
------	----------------

■ 補助事業実施項目

目標	まちづくりの関係者間で将来形を含むまちの在り方を共有することにより、合意形成の効率化・迅速化を図る。
課題	地域住民等とまちづくり検討を行う際、平面図等では認識に齟齬が生じる恐れや平面では見えてこない課題などが生じる恐れがある。
創出価値	3D都市モデルを用いることで、具体的なまちづくり検討を行えると共に、認識に齟齬が生じず、地域住民と一体的なまちづくり検討を推進することができる。

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	-
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した事業（VRを用いたまちづくり都市計画立案への活用）
推進事業	-

総事業費	1,302（万円） ※うちR5年度 702（万円）
R5年度補助執行額	351（万円）
補助対象外の関連事業	-

オープンデータ化・可視化・情報発信	市ホームページに掲載【ユースケース開発データ】
-------------------	-------------------------

R5年度受託事業者	パナソニック株式会社（ユースケース開発）
-----------	----------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

18. 神奈川県横須賀市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	横須賀都市計画区域市街化区域	66.27km ²	R2年度整備済
LOD1	道路(交通) 土地利用 災害リスク 地形	横須賀市市内全域	100.83km ²	R2年度整備済
LOD2	建築物	14箇所 ①横須賀美術館 ②横須賀芸術劇場 ③ザ・タワー横須賀中央 ④横須賀市役所 ⑤横須賀中央駅	①3棟 ②1棟 ③1棟 ④6棟 ⑤3棟	R2年度整備済

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	—	—	—
測量成果	—	—	—
属性情報	—	—	—

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	ア	15万以上	100-200	1千未満

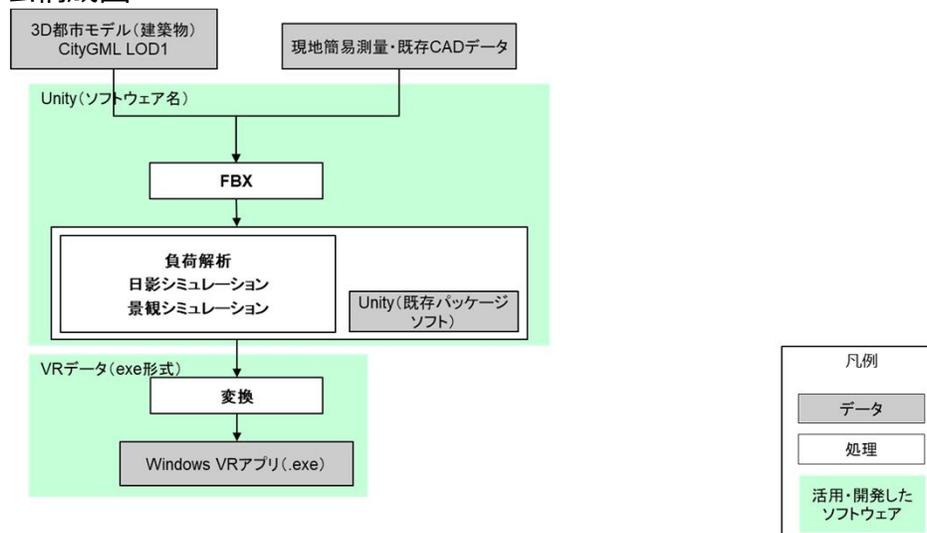


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要

テーマ	まちづくり：計画運用
ユースケース名称	3D都市モデル活用事業 (VRを用いたまちづくり都市計画立案への活用)
目的	関係者との全体イメージの共有、合意形成を迅速かつ効率的に図るコミュニケーションツールを開発。
取組内容	令和4年度に作成したVRツールの中で、追浜駅周辺の将来形の作成、市内環状線の将来形の作成を行った。 当該VRツールを用い、データに基づいた都市計画や都市開発の検討や地域住民を含む関係者とのコミュニケーションツールとして運用した。
実施体制	パナソニック株式会社

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

18. 神奈川県横須賀市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	ア	15万以上	100-200	1千未満



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (建築物 (形状)、地形 (形状))
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物以外のデータ (道路CAD、パース図)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> R4年度に作成した、VRアプリケーションを整備、追浜駅周辺、3・3・11号市内環状線の将来形を作成。 地域住民を含む関係者とのコミュニケーションツールとして活用。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 住民説明会で活用。 本市が運営している「追浜えき・まち・みちデザインセンター」で活用。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページでブラウザ上でUCを体験できるツールを公開。 作成したVRの画像をHPで公開を検討中。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市計画立案の効率化割合 (%)	70% (R5年度)	88%
都市計画立案の効率化作成累計数 (地区)	4地区 (R5年度)	4地区
都市計画立案の効率化団体数 (団体)	3団体 (R5年度)	2団体

KPI未達を受けて の今後の対応	配布を予定していた1団体の事業について、進捗が予定より遅れているため、合意形成の協議のタイミングで配布を行います。
---------------------	-----------------------------------------------------------

■ ユースケース開発成果イメージ図



追浜駅周辺の将来形の作成
追浜駅周辺は市街地再開発事業等の動きが顕著なエリアであるため、将来形のイメージをVRで作成。地域住民を含む関係者間で検討・合意形成ツールとして活用。



市内環状線の将来形の作成
3・3・11号市内環状線は、道路拡幅を予定しているため、将来形のイメージをVRで作成。地域住民を含む関係者間で検討・合意形成ツールとして活用。

■ 今後の展望

本ユースケースを用い、地域住民を含む関係者間でコミュニケーションツールとして活用を行い、VRで可視化したことによる課題を抽出し、各種計画に反映する。
横須賀市として、本ユースケースの使用を浸透させることを目指し、今後、道路整備、公園整備を行う際に本VRを活用してもらうよう、建設部に広報を行う。

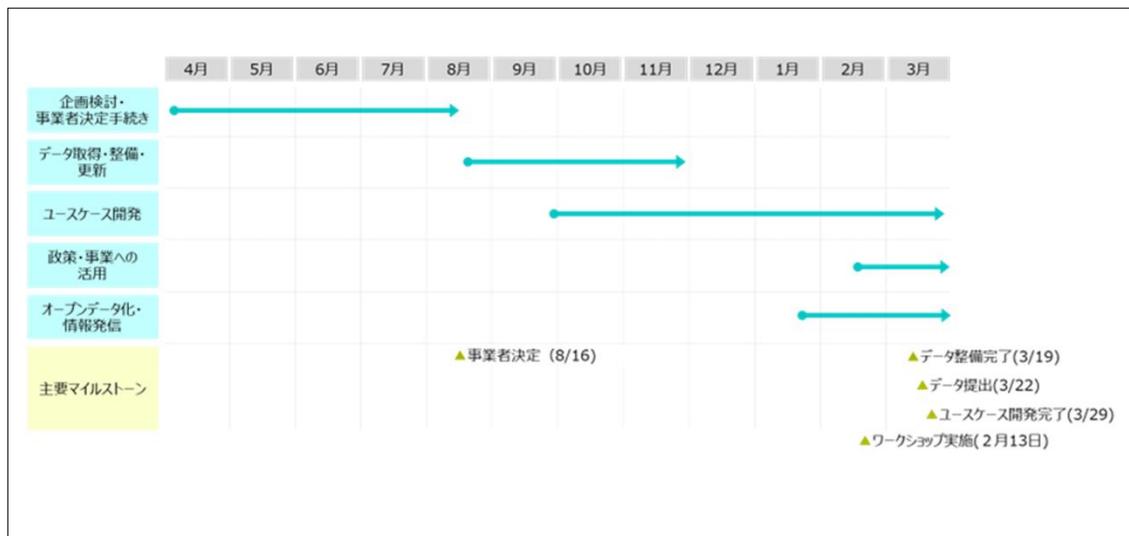
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

19. 神奈川県厚木市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約2,240,000人 (R5年4月時点)
市域全域面積	93.84km ²
主な産業 地域課題等	<p>神奈川県の中央に位置し、高規格幹線道路等のICが7箇所(予定2箇所)整備されるなど、交通結節点として多くの企業が立地しており、新たな産業系用地の創出など、まちづくりと一体となった企業誘致に取り組んでいる。</p> <p>誰もが快適に移動でき、地域で暮らし続け、働き続けることができる人にやさしい都市を目指し、立地適正化計画と地域公共交通計画を一体的に推進する、「厚木市コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画」をR3年に策定、公共交通と連携した都市づくりを進めている。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	50-100	2-3千
担当部局	まちづくり計画部都市計画課			



■ 補助事業実施項目

目標	災害に強い都市の実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> R5年3月に策定した「厚木市防災都市づくり計画」で「復興事前準備」の取組を進めることとしているが、「平時からの市民のまちづくりへの参加、市民の復興まちづくりへの理解」が課題となっている。 市民及び職員の復興事前準備の具体的なイメージづくりや災害リスクへの理解、防災意識の向上を図る必要がある。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化により、直感的に災害リスクを理解することが可能となり、浸水時の垂直避難の検討など、市民の防災意識が向上する。 市民・事業者・行政が被災想定を共有することで、復興事前準備の検討に向け、より具体的なイメージづくりが可能となる。
事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備 (LOD1,2)
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 (市民向け情報配信システムの構築)
推進事業	-
総事業費	2,523.4 (万円)
R5年度補助執行額	1,200 (万円)
補助対象外の関連事業	-
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センター、PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 市ホームページへの掲載【ユースケース】
R5年度受託事業者	朝日航洋(株)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

19. 神奈川県厚木市



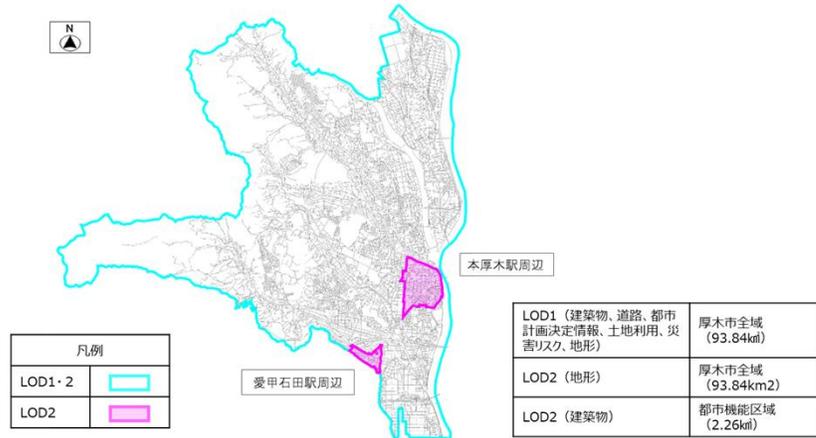
PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物、交通道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形	厚木市全域	93.84km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	都市機能誘導区域	2.26km ²	R5年度新規整備
LOD2	地形	厚木市全域	93.84km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

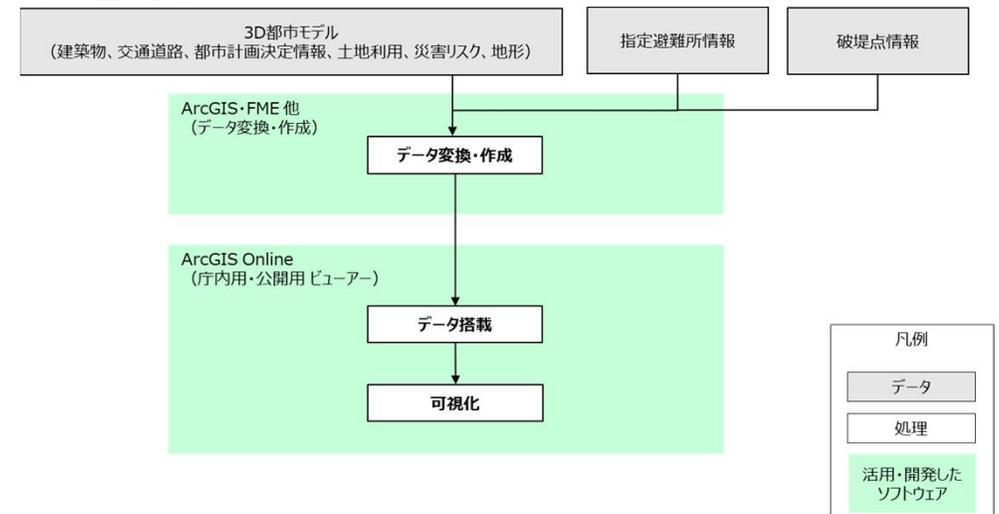


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（DMデータ）（既存）	R3年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	2,500
	既存資料（航空レーザ）	R2・3年度	500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—
	都市計画決定情報	R5年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	災害リスクの可視化による市民・事業者・行政の災害リスクへの理解、防災意識の向上及び災害への備えに取り組む。
取組内容	市内全域の洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化し、災害リスクの分析、効果的な防災・減災対策の検討に活用する。 洪水浸水想定区域については垂直避難建物の抽出表示と浸水シミュレーションの可視化表現を実施する。さらに、これを用いた住民向けワークショップを開催するとともに、地域の防災対策や復興事前準備の検討に活用する。
実施体制	朝日航洋（株）、厚木市

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

19. 神奈川県厚木市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	50-100	2-3千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 道路LOD1 都市計画決定情報LOD1 (区域名称) 土地利用LOD1 (土地利用情報) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域) 地形LOD2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地) 破堤点情報 (浸水時間、浸水深)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 作成した災害リスクデータと3D都市モデルを、ビューア上に重ね合わせ、災害リスクを分かりやすく可視化。 可視化した災害リスク等を市独自で作成した3D都市モデルビューアに搭載し、公開。
政策・事業での 活用	ビューアを活用し、地域での復興訓練等を実施し、災害に強いまちづくりや、災害が起きてからも早急に復旧・復興できるまちづくりを目指す。
オープンデータ化 情報発信	市ホームページへの掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
災害時の情報伝達手段や防災訓練の実施など、災害対応力向上の取組がすすんでいると思う市民の割合 (%)	56.6% (R6年度)	-
復興訓練等の実施 (件)	1件 (R5年度)	1件
復興まちづくりへの理解が深まったと思う職員の割合 (%)	80% (R5年度)	100%
災害からの早期復興・復旧実現のためには、全庁的に事前復興に取り組む必要があることが理解できた職員の割合 (%)	80% (R5年度)	91%

■ ユースケース開発成果イメージ図



市民向け3Dビューアの整備

市域全域の建築物を三次元化し、市民にわかりやすいビューアを整備。また、本厚木駅周辺及び愛甲石田駅周辺の都市機能誘導区域 (2.26 km²) はLOD2でより実空間に近い状態で再現。



災害リスクの可視化

洪水、土砂災害、地震など、市内で想定される災害リスク等を三次元で可視化。ビューアに搭載することで直感的な理解が可能となる。

■ 今後の展望

令和6年度から、実際にビューアを活用し、市民に市内の被災想定や復興について理解を深めてもらうための「復興まちづくり訓練」の実施を予定。3D都市モデルのオープン化により、多様な分野でのシミュレーションや分析が可能になることから、今後、民間企業や市内の大学等と連携した取り組みについても検討していきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

20. 長野県諏訪市

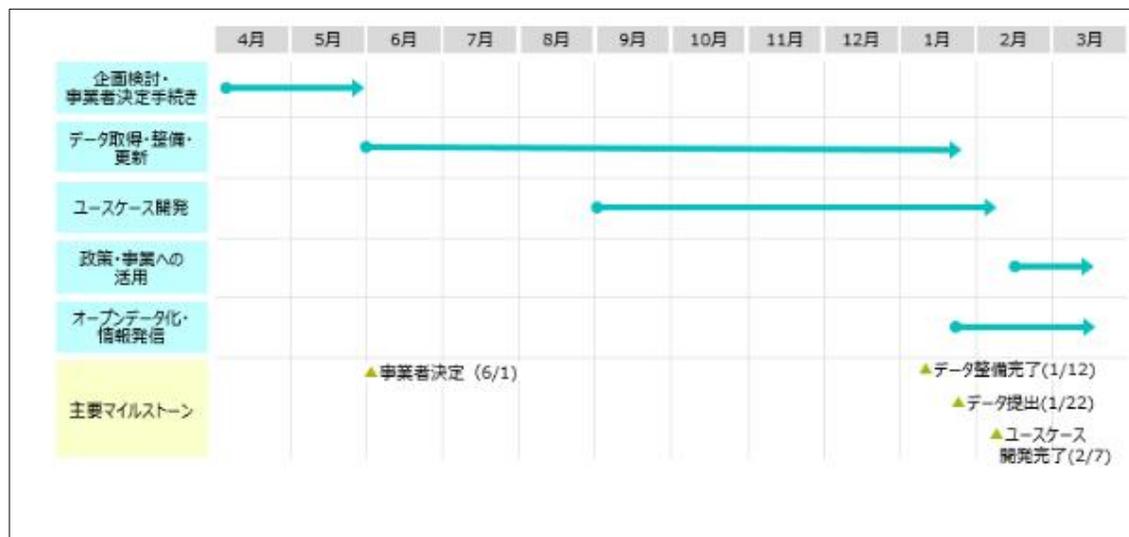


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	47,405人（令和6年2月時点）
市域全域面積	109.9km ² （令和6年2月時点）
主な産業 地域課題等	長野県のほぼ中央に位置し、面積は109.9km ² 、人口は約5万人。諏訪湖や霧ヶ峰、高島城や諏訪大社など自然と歴史にあふれた街であるとともに、モノづくりの伝統がいきづく産業都市でもある。 四方を山に囲まれた諏訪盆地内にあり、都市的な土地利用は約20%である。多くの1級河川が市内を縦断しているため、古くから氾濫被害が発生している。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	3-5万人	100-200	5-10千
担当部局	建設部都市計画課			

■ 補助事業実施項目

目標	防災対策の推進と住民の防災意識の醸成
課題	用途地域指定区域の約7割が浸水想定区域にあたり、また、想定される浸水深が大きい区域が多いことから、防災対策が課題。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、避難可能な高層建物を整理することで効果的な避難計画を策定する。 3D都市モデルを活用した浸水シミュレーション結果を分かりやすく示すことで、住民の防災意識が向上する。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 航空測量、デジタルオルソ作成・地形図更新 3D都市モデル整備 (LOD1)・3D都市モデル整備 (LOD2)
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルビューアの構築・導入
総事業費	5,218.4 (万円) (うち補助対象 4,799.0万円)
R5年度補助執行額	2,399.5 (万円)
補助対象外の関連事業	都市計画基本図印刷図作成
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 「すわなび」(諏訪市公開型GIS)【3D都市モデル】 「すわそらサイト」(諏訪市ホームページ)【3D都市モデル】
R5年度受託事業者	アジア航測株式会社 (データ整備) アジア航測株式会社 (ユースケース開発)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

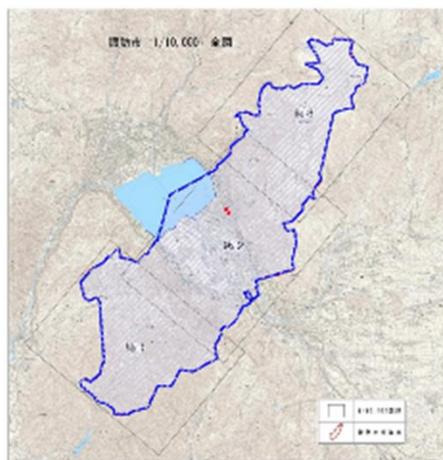
20. 長野県諏訪市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	諏訪市全域	109.9km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	上諏訪駅周辺区域	0.01km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



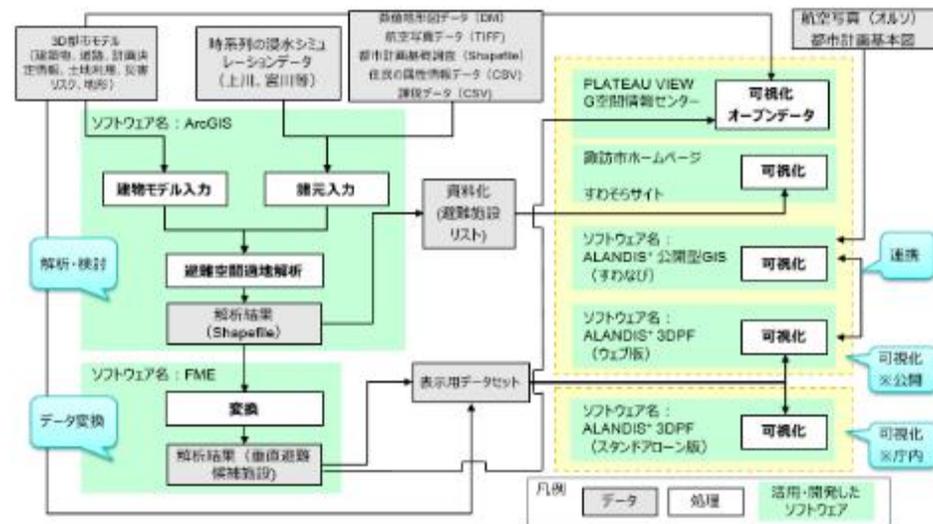
	LOD1 (建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形)	諏訪市全域 (109.9km ²)
	LOD2 (建築物)	上諏訪駅周辺区域 (0.01km ²)

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	3.都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	1.新規測量（航空写真）	R5年度	2,500
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R3年度	-

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	浸水想定区域を可視化することにより、住民の防災意識を醸成する。
取組内容	3D都市モデル上に浸水想定区域のデータと国土地理院の浸水ナビから引用した時系列浸水予測シミュレーションデータを重ね合わせる。 浸水想定区域を可視化し、浸水状況や垂直避難候補施設の情報を諏訪市HPで公開すると共に、教育現場や自主防災組織において活用する。
実施体制	アジア航測株式会社

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

20.長野県諏訪市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	3-5万人	100-200	5-10千

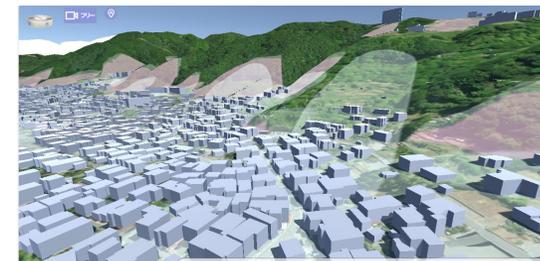
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害(特別)警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 数値地形図データ (地図情報レベル2500) 航空写真データ 都市計画基礎調査 (建物主用途、総建物階数、地下階数、地上階数、建物構造、地下用途、1階用途、2階用途、3階以上用途、1階床面積、延べ床面積、建物棟数フラグ) 住民の属性情報データ (生年月日、性別、住所、世帯コード) 課税データ (資産番号、所有形態コード、所在地番_大字コード、所在地番_小字コード、所在地番、家屋番号、現況新增区分、現況建築年、現況種類コード、現況構造コード、現況階数地上、現況階数地下、現況床面積_1F、現況床面積_1F以外) 浸水ナビデータ (最大浸水破堤点、洪水最大浸水深、洪水最短浸水開始時間、河川毎最大浸水深、河川毎最大継続時間) ため池 (浸水深) 土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地の崩壊・土石流・地滑り) (現象、箇所番号、箇所名)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルと国土地理院「浸水ナビ」の浸水深シミュレーションデータ、住民基本台帳の住民属性情報と重畳し、垂直避難候補施設の検討に活用する。 諏訪市ハザードマップの可視化及び避難所・避難場所と洪水ハザードマップを重ね合わせて情報の重層化を実施する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 諏訪市HPでため池含む浸水の様子、垂直避難候補施設の情報を住民へ公開・周知。 可視化結果を教育現場や自主防災組織において活用。
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルを諏訪市公開型GIS「すわなび」に掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
ウェブサイト (防災システム) へのアクセス数 (件)	81,000件/年 (R5年度)	106,800件/年 (R5年度)
職員へのアンケートによる「防災意識が向上した」と回答した人数の割合 (%)	80%以上 (R5年度)	80.0% (R5年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図



・河川が氾濫した場合の浸水の様子

・土砂災害計画区域等の指定状況

■ 今後の展望

今回は防災のユースケースにとどまっているが、今後は道路や下水道等のインフラ状況も反映させるなどし、まちづくり全体に活用できるような整備を進めていきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

21.新潟県新潟市



PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約768,000人 (R5年10月時点)
市域全域面積	726.19km ² (R5年7月時点)
主な産業 地域課題等	新潟市は、新潟県の北東部（下越地方）に位置する市。新潟県の県庁所在地で、人口約78.5万人の政令指定都市である。 幕末の開港5港の一つとして古くから港が開かれ、河川交通と海上交通の結節点として栄えてきた商業都市である。 現在、都心軸周辺エリアを「にいがた2km（ニキロ）」と名付け、人・モノ・情報の中心拠点となる稼げる都心づくりに取り組んでいる。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
活	ア	15万以上	500以上	3-5千
担当部局	経済部成長産業・イノベーション推進課			

■ 補助事業実施項目

目標	都市空間を活用した新たな経済圏の創出
課題	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍を経た産業構造の変化と社会の急速なデジタル化を踏まえた産業の高付加価値化、未来を牽引していく新たな成長産業の創出が必要。 XR、AI、IoT、ビッグデータ、ドローンなどの先端技術を活用した新サービスの実装環境が必要。 新たな産業を支えるXRなどのデジタル人材の育成と確保が必要。
創出価値	都市空間を活用した新たな経済圏の創出に向け、業種毎に有効なユースケースを開発し検証するとともに、クリエイターやエンジニア、デザイナーなど次世代を担う人材を育成する。
事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 航空測量・都市計画基礎調査 3D都市モデル整備 (LOD1~3)
ユースケース開発	3D都市モデルを活用したユースケースの開発と実装
推進事業	3D都市モデルやSTYLYを活用したハッカソンイベントの開催
総事業費 (予定)	11,343 (万円) ※うちR5年度 4,493.5 (万円)
R5年度補助執行額	2,246.7 (万円)
補助対象外の関連事業	XRコンテンツ実装事業
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 新潟市DXプラットフォーム専用サイト市ホームページ
R5年度受託事業者	(株)ナカノアイシステム (データ整備) (株)Psychic VR Lab (ユースケース開発)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

21.新潟県新潟市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

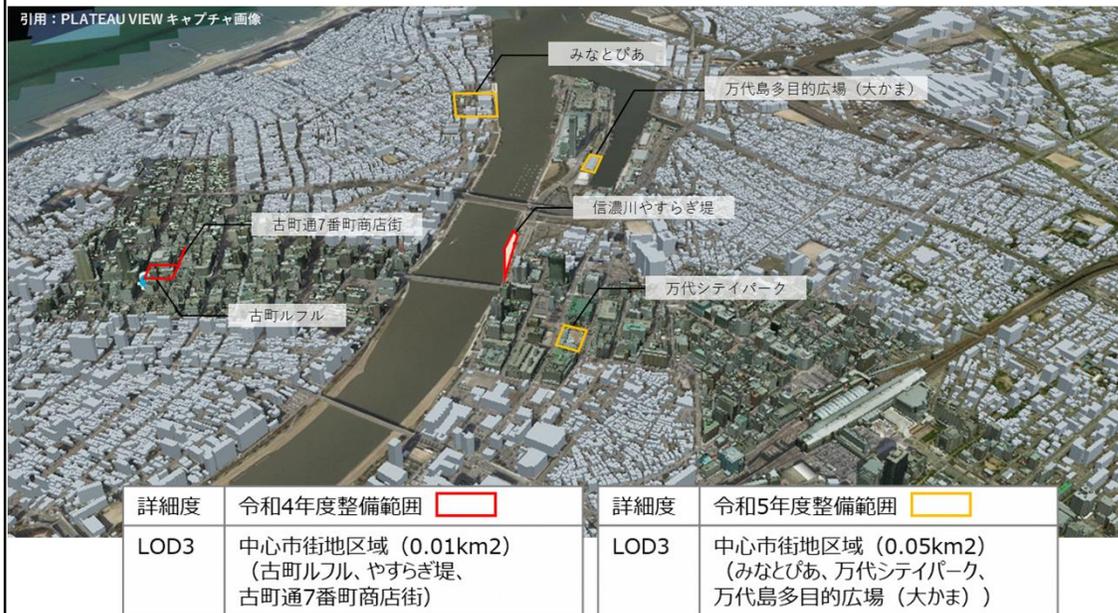
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 災害リスク 地形 都市計画決定情報 土地利用	新潟市全域の約85%	622.0km ²	R2年度整備済
		新潟市全域	726.2km ²	R2年度整備済
		新潟市全域	726.2km ²	R2年度整備済
		新潟市全域	726.2km ²	R2年度整備済
		都市計画区域 新潟市全域	237.0km ² 726.2km ²	R2年度整備済 R2年度整備済
LOD2	建築物	中心市街地区域	1.8km ²	R2年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	建築物 建築物	中心市街地区域 中心市街地区域	0.01km ² 約0.05km ²	R4年度新規整備 R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
測量成果	その他（3次元点群データ）	R5年度	500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	500

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

21.新潟県新潟市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
活	ア	15万以上	500以上	3-5千



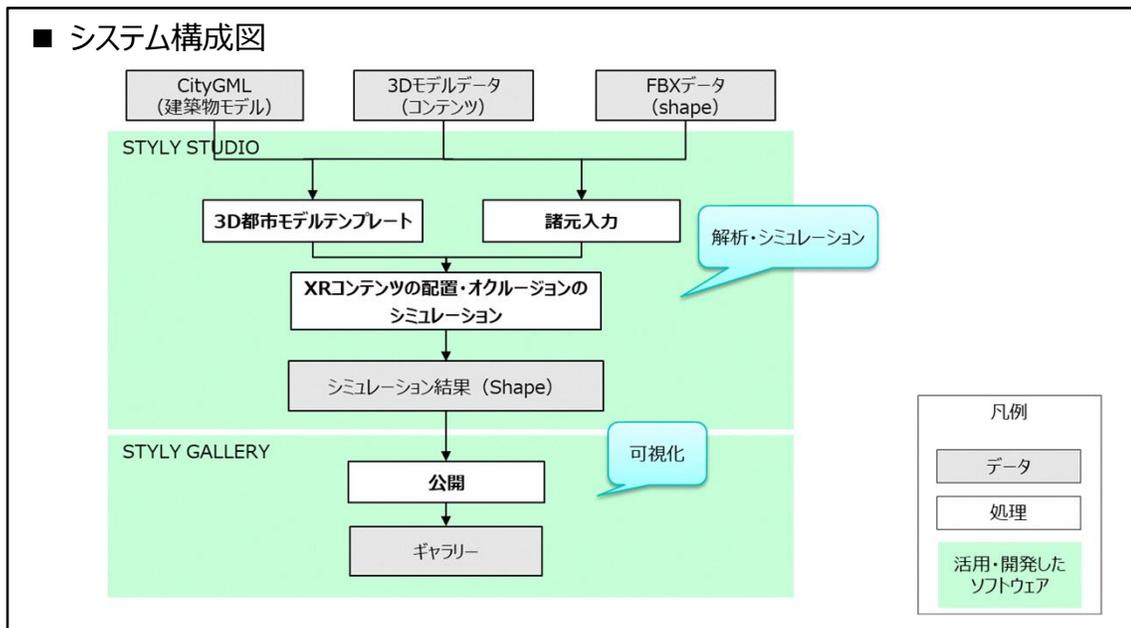
■ ユースケース概要

テーマ	地域活性化・観光・コンテンツ
ユースケース名称	NIIGATA XR プロジェクト
目的	<ul style="list-style-type: none"> 都市空間を活用した新たな経済圏の創出に向け、業種毎に有効なユースケースを開発し検証する。 クリエイターやエンジニア、デザイナーなど次世代を担う人材を育成する。
取組内容	都市空間を活用した新たな経済圏の創出に向けた、業種ごとの課題解決や付加価値向上に資するユースケースを開発し検証する。
実施体制	(株)Psychic VR Lab

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	建築物LOD1・2・3 (屋根、付属物、開口部)
活用データ (上記以外)	-
ユースケース開発方法	<p>① 3D都市モデルを活用したユースケースの開発と実装</p> <ul style="list-style-type: none"> 整備した3D都市モデルを活用して、STYLY上でコンテンツを制作し、コンテンツの空間配置などのシミュレーションを実行する。 <p>② 3D都市モデルやSTYLYを活用したイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> XRを活用した新たなサービスを創出する人材の育成とビジネスの機会を創出するイベントを開催する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成とビジネス機会の創出イベントの開催。 都市空間を活用した経済圏の創出。
オープンデータ化情報発信	新潟市DXプラットフォーム専用サイト市ホームページ

■ システム構成図



■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルやXRプラットフォームの活用件数 (件)	6件 (R6年度)	延べ9件 (R5年度時点)
XRコンテンツ・サービスの延べ利用回数 (回)	800回 (R5年度)	1,193回 (R5年度)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

21.新潟県新潟市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
活	ア	15万以上	500以上	3-5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



ビジネスイベントに合わせて公開したXRコンテンツ
「Bandaijima Sample Works」



「にいがたXRスクール」の様子（左上）と
スクール生の作品

3D都市モデルを活用したユースケースの 開発と実装

新しい経済圏創出に向け、STYLY上でコンテンツを制作し、市内企業に対し、XR分野への参入やXRを活用した施策の導入などを促した。

3D都市モデルやSTYLYを活用した イベントの開催

XRを活用した新たなサービスを創出する人材の育成とビジネスの機会を創出するイベント「にいがたXRスクール」を開催した。

■ 今後の展望

整備した3D都市モデルを活用して、「エンターテインメント」「広告」「まちづくり」の分野でユースケース開発を行ってきたが、今後はそれ以外の分野での活用も検討する。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

22.新潟県加茂市

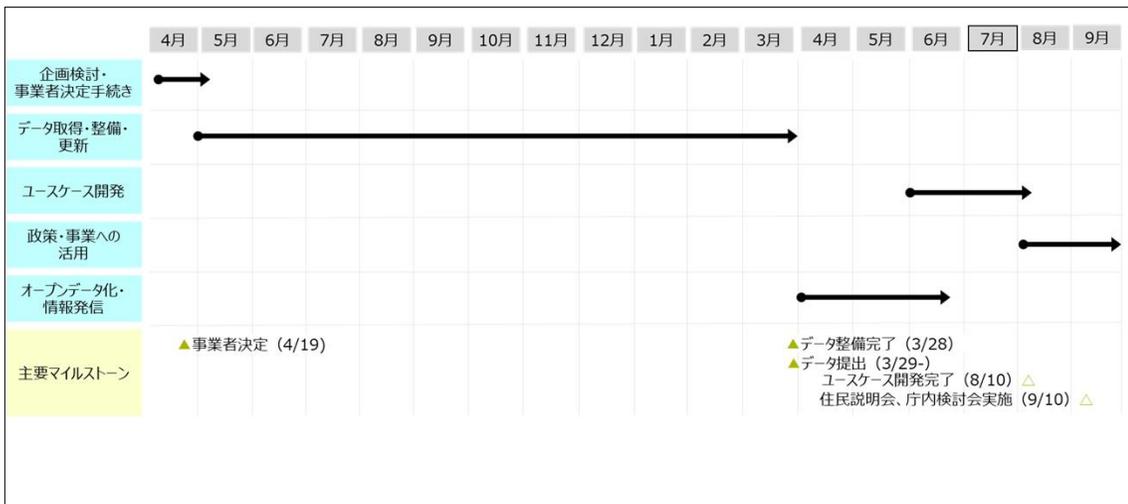


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約25,000人（令和5年4月時点）
市域全域面積	133.72km ² （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	新潟県のほぼ中央に位置する一般市。東は奥早出栗守門県立自然公園の粟ヶ岳から、西は信濃川を超えた平野部に至る東西約17kmの細長い市域である。 市域の約70%は山岳丘陵部分で占められ、粟ヶ岳に源を発する加茂川が市街地を縦貫して信濃川に注いでいる。農業は米のほかナシやモモの優良な産地として、工業は桐たんすの全国有数の生産地である。加茂駅周辺において商業圏を形成している。 人口は約2万5千人。

■ 令和5年度スケジュール ※繰越



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	1-3万人	100-200	5-10千
担当部局	建設課都市計画係			

■ 補助事業実施項目

目標	災害に強い都市を実現する。
課題	一級河川3河川に囲まれていることで、市内の大部分が浸水想定区域内に存在し、また土砂災害警戒区域も305か所存在していることから、災害リスクの高い地域である。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識が向上する。 現在策定中の加茂市都市計画マスタープラン等の策定過程にあたり、災害リスク情報を加味した土地利用方針等の方向性等に資する。

事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> オルソ画像の作成・数値地形図の新規図化・都市計画基礎調査 3D都市モデル整備 (LOD1)・3D都市モデル整備 (LOD2)
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業
推進事業	3D都市モデルのオープンデータの構築

総事業費	5,388 (万円)
R5年度補助執行額	2,500 (万円)
補助対象外の関連事業	対象区域外 (山間地) の撮影・デジタルオルソ画像の作成

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 市HP上で3D都市モデルの概要掲載及びPLATEAU VIEWへの直リンク掲載 【3D都市モデル】
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	株式会社オリス (データ整備)
	株式会社オリス (ユースケース開発)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

22.新潟県加茂市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	1-3万人	100-200	5-10千



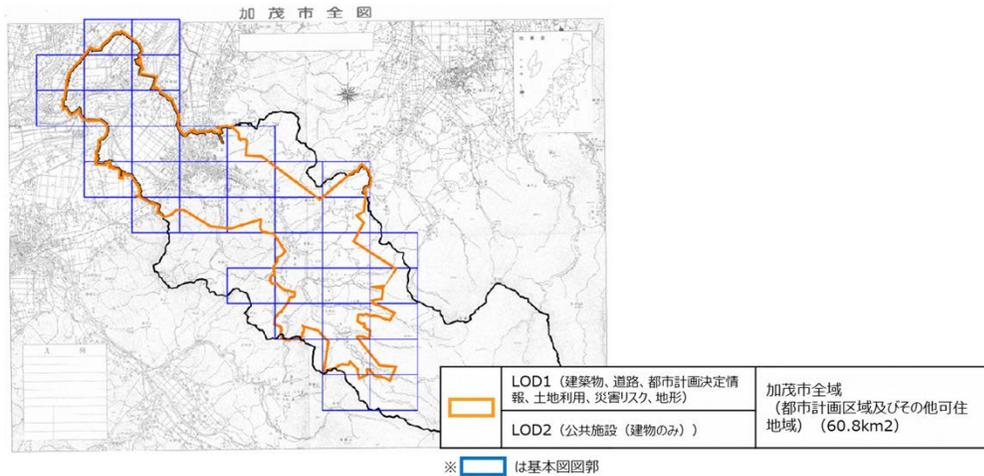
PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 災害リスク 地形	加茂市全域	60.8km ²	R5年度新規整備
LOD1	都市計画決定情報 土地利用	加茂市全域(都市計画区域内)	30.0km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	公共施設のみ	約150棟	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

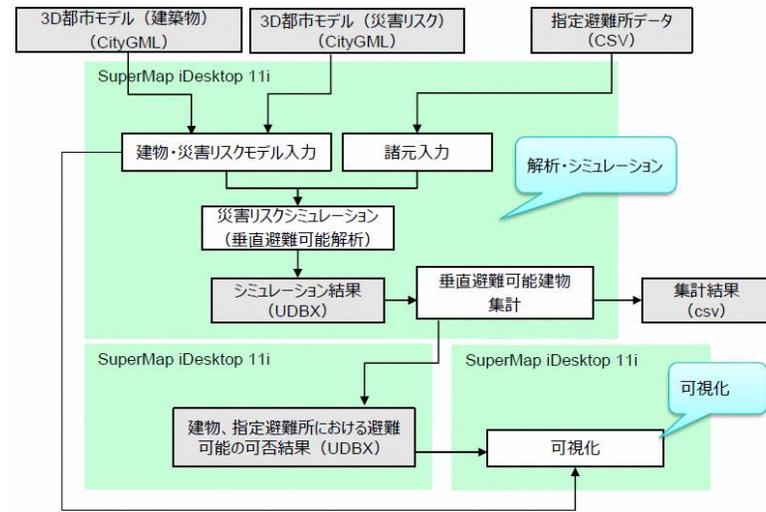


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（新規作成）	R5年度	2500
測量成果	新規測量（航空写真）	R5年度	1000
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R5年度	—

■ ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	大雨時の水位モニタリングや、被災予測による効果的な対応を図り、住民の防災意識を向上させる。
取組内容	市内の可住地域内を対象として、浸水想定及び土砂災害警戒区域の三次元表示を行い、リスクを立体的に可視を行う。 これを活用した住民への防災出前講座等を実施する。
実施体制	株式会社オリス

■ システム構成図



22.新潟県加茂市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	1-3万人	100-200	5-10千



PLATEAU
by MLIT

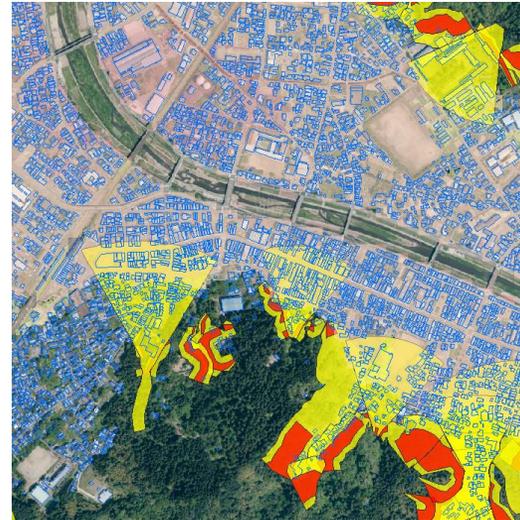
■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (用途、計測高さ) 建築物LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 建物データと洪水浸水想定区域図とを重ね合わせ、浸水想定区域内で一定の属性条件に合致する建物(階数、構造、用途等)を抽出し3Dビューア内で可視化。 既存の避難施設等ともあわせて可視化し、地域ごとの垂直避難建物候補を抽出。 浸水想定区域図、土砂災害警戒区域を三次元化し、リアスティックに表現をする。 災害時における「立ち退き避難が必要な建物、垂直避難の可能な建物」を抽出する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民等に対し洪水及び土砂災害リスクに対する意識醸成のための説明会等で活用。 庁内防災担当部局への3D都市モデルデモを実施。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
災害リスク情報の可視化による理解度(%)	90% (R5年度)	R6年度 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



建物と災害リスクの重合表示

建物と浸水想定区域・土砂災害警戒区域を重合表現することにより災害リスクを可視化し、地域住民の災害リスクに対する意識向上を図る。



災害時、緊急的な垂直避難建物候補の表示

建物モデルと浸水想定区域を重合、3D表現することにより災害時緊急的な垂直避難が可能な公共施設を把握する事により今後の避難施設更新等の検討資料とする。

■ 今後の展望

今回作成したユースケースを基に防災意識向上に活用するほか、防災に関してより高度な活用方法について検討したい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

22.新潟県加茂市

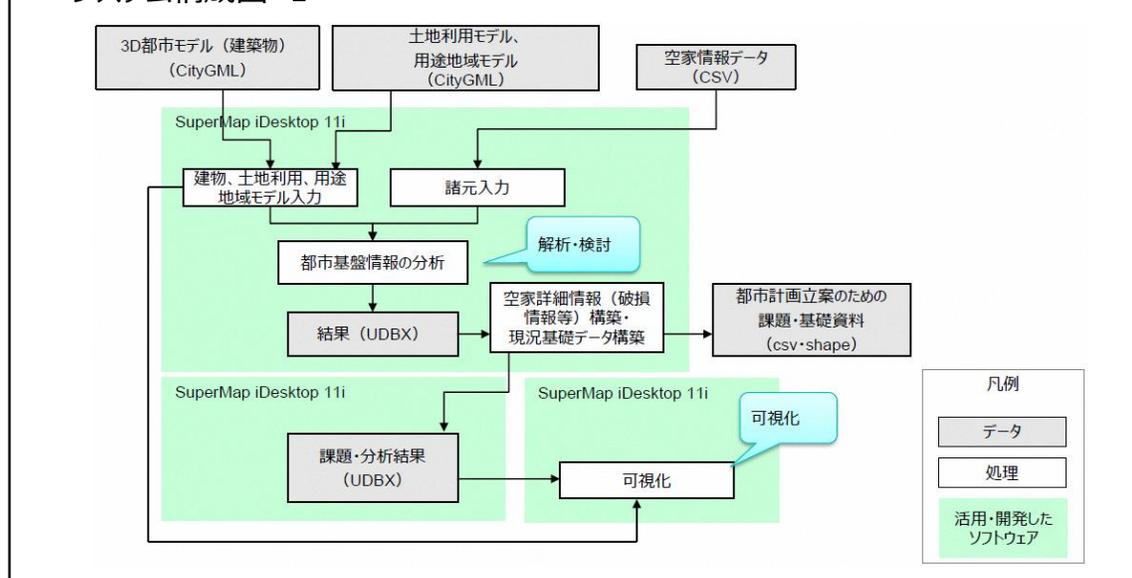
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	1-3万人	100-200	5-10千



■ ユースケース②概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり、都市計画立案への活用事業
目的	土地・建物等の利用について適切な規制や誘導を行い、自然や農地などと調和したまちの形成を目的とする。
取組内容	建物利用現況を属性情報として付与した3D都市モデルLOD1（一部LOD2）と土地利用現況図を重ね合わせ、都市の利用状況について分析を行う。この結果を踏まえ、都市計画マスタープラン策定・見直し等の基礎資料として活用する。
実施体制	株式会社オリス

■ システム構成図 1



■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (用途、計測高さ) 建築物LOD2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画LOD1 (地区区分、人口、土地利用、都市施設)
活用データ (上記以外)	空家情報 (所在地)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用して、都市基盤情報の分析を実行。(都市計画マスタープラン策定に向けた、現状の把握・分析・基礎データを構築する。) 空き家情報を建物モデルとマッチングさせ、地区区分や土地利用現況と照らし合わせ集計等行う。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープラン策定・見直し等の基礎資料として活用する。 立地適正化計画の必要性を含め、策定に係る検討材料として活用する。
オープンデータ化情報発信	-

■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
職員に対する3D都市モデルを活用した都市計画に関する検討会の開催回数 (回)	1回 (R5年度)	R6年度 計測予定

22.新潟県加茂市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	1-3万人	100-200	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



都市構造の可視化

建築物、土地利用現況、用途地域区分、航空写真を重ね合わせ、情報表示する。



都市の現状把握、課題の可視化

空き家情報を建物モデルとマッチングさせ、用途地域区分や土地利用現況と照らし合わせて集計等を行い、都市の現状把握、課題の見える化を行う。

■ 今後の展望

今回作成したユースケースによる都市の現状や課題を基に、都市計画マスタープラン策定・見直し等の基礎資料として活用したい、また立地適正化計画の必要性を含め、策定に係る検討材料として活用、市街地活性化にも活用したい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

23. 岐阜県岐阜市

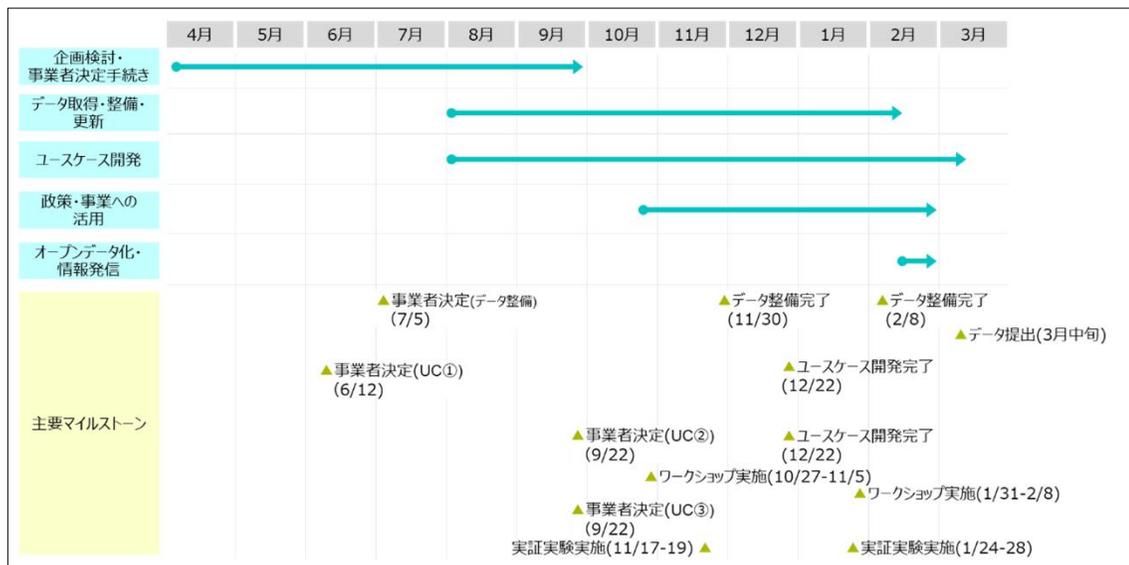


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	401,280人（令和5年11月時点）
市域全域面積	203.6km ² （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	1996年に中核市になった岐阜県の県庁所在地である。岐阜県の南西部に位置し、市の南部は平坦地形、北部は丘陵地形となっている。 JR東海道線の岐阜駅、名鉄名古屋本線の名鉄岐阜駅の北側に中心市街地、それを囲むように周辺市街地、さらにその外延部に農地が広がる。土地利用の内訳は、森林・農用地が約49%、宅地が約27%となっている。（令和2年版岐阜市統計書） また、市内の北東から南西には一級河川長良川が横断する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・交	可・分	15万以上	200 - 500	5 - 10千

担当部局	都市建設部都市計画課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	人がつながる 創造が生まれる しなやかさのあるまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> センターゾーンの各エリアとエリア間をつなぐ連携軸の魅力や利便性を高めて、ゾーン全体のにぎわいや快適性の創出、回遊性の向上。 市民一人ひとりの防災意識の向上と行動促進。 通学路における効果的な交通安全対策の実現。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 市民目線のわかりやすい情報を提供し、一人ひとりの防災意識の向上と行動促進につなげる。 まちの未来を創造できる議論を活性化し、センターゾーンの連携軸の魅力や利便性を高め、にぎわいや快適性の創出、回遊性の向上につなげる。

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備 (LOD1) 数値地形図データ更新 3D都市モデル整備 (LOD2)
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したまちづくり計画への活用事業 3D都市モデルを活用した交通事故リスクの可視化事業
推進事業	3D都市モデルを活用した統合型GISプラットフォームの構築

総事業費（予定）	18,364（万円） ※うちR5年度 9,553.0（万円）
R5年度補助執行額	4,776.5（万円）
補助対象外の関連事業	広場計画案の作成

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	アジア航測(株)（データ整備、ユースケース開発） MS&ADインターリスク総研(株)（ユースケース開発）
-----------	---------------------------------------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

23. 岐阜県岐阜市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・交	可・分	15万以上	200-500	5-10千



PLATEAU
by MLIT

3D都市モデル整備状況（基本セット）

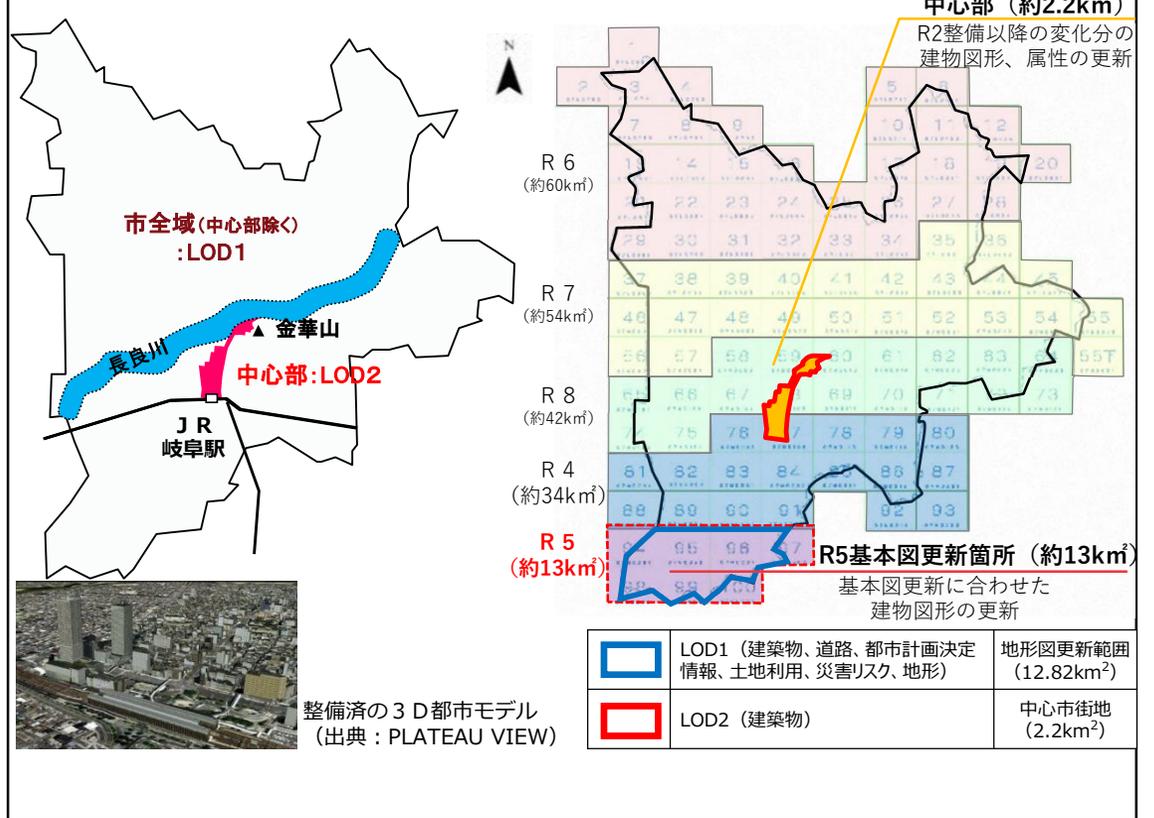
※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD0	建築物	市全域 R4地形図更新範囲 R5地形図更新範囲	203.6km ² 128.3km ² 12.8km ²	R2年度整備済 R4年度更新 R5年度更新
LOD1	建築物	市全域 R4地形図更新範囲 R5地形図更新範囲	203.6km ² 128.3km ² 12.8km ²	R2年度整備済 R4年度更新 R5年度更新
LOD1	交通（道路） 都市計画決定情報	市全域	203.6km ²	R2年度整備済
LOD1	土地利用	市全域	203.6km ²	R4年度更新
LOD1	災害リスク	土砂災害区域 洪水浸水想定区域	—	R2年度整備済
LOD1	地形	市全域	203.6km ²	R2年度整備済 R4年度更新
LOD2	建築物	岐阜市中心市街地	2.2km ²	R2年度整備済 R4年度更新 R5年度更新

3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	都市設備（アーケード）	岐阜市中心市街地	2.2km ²	R4年度整備済
LOD2	都市設備（アーケード）	岐阜市中心市街地	2.2km ²	R4年度整備済

3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図	2023年度	2,500
測量成果	航空写真撮影成果	2022年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査	2022年度	—

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

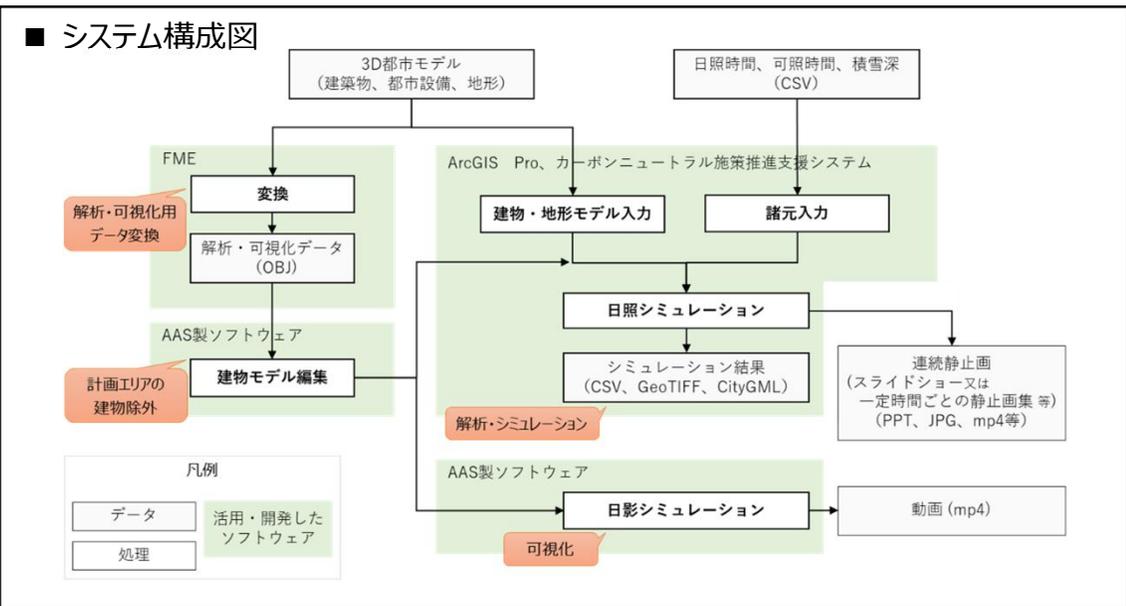
23. 岐阜県岐阜市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・交	可・分	15万以上	200-500	5-10千



■ ユースケース①概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称①	3D都市モデルを活用したまちづくり計画への活用事業
目的	令和3年度に都市計画決定された柳ヶ瀬広場について、3D都市モデルを活用した日照シミュレーションに基づく広場の計画検討を行うことで、良質な滞留空間を創出し、歩行者などが憩い、利用したくなる魅力的な広場の整備を行うことを目的とする。
取組内容	柳ヶ瀬広場における日照条件等をシミュレーションすることで、広場に延びる日差しや周辺建物及びアーケードの日陰の影響を把握し、緑陰効果の高い樹木の配置や遮熱性の高い施設素材を採用するなどの検討を実施した。
実施体制	アジア航測（株）、（株）ミュキデザイン



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (計測高さ・建築物IDを使用) 地形LOD1 都市設備LOD1・2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 可照時間 (実証エリアに該当する地点の日の出入り及び南中時のデータを解析対象年の1年分のデータ) 日照時間 (実証エリアに該当する地点の日照時間の月合計のデータ) 積雪深 (実証エリアに該当する地点の平均年の水平面全天日射量の1年分のデータ)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 広場計画地の既存建築物・アーケードを削除したデータを生成し、柳ヶ瀬広場及び周辺の日射量・日陰シミュレーションを行い、シミュレーション結果のラスターデータやテクスチャを作成する。 シミュレーションを行うために必要となるパラメータ等は、協議により決定する。 日影シミュレーションの結果から、柳ヶ瀬広場に必要施設の配置、遮熱性素材等の選定や効果を検討する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 柳ヶ瀬広場の計画に活用。 日照シミュレーション動画を関係者への説明に活用。
オープンデータ化情報発信	各課の関連ページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
日照シミュレーション及び広場の計画検討に要した期間 (月)	8ヶ月 (2023年度) 3D都市モデルを活用した日照シミュレーションの想定期間	8ヶ月

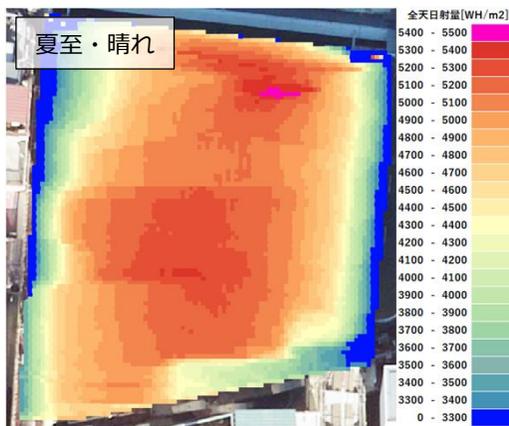
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

23. 岐阜県岐阜市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・交	可・分	15万以上	200 - 500	5 - 10千

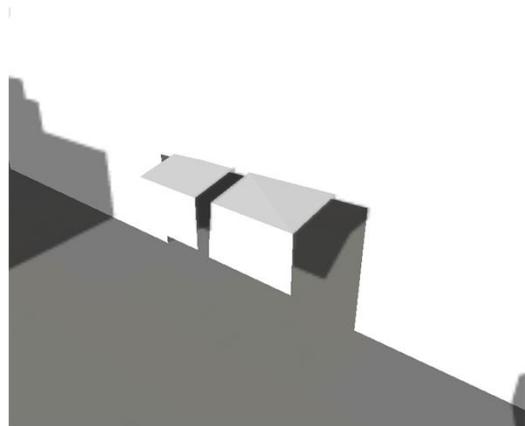


■ ユースケース開発成果イメージ図



日照量シミュレーション

- ・春(秋)分、夏至、冬至の日の全天日射量等をシミュレーションし、広場に延びる日差しや日陰を把握した。
- ・緑陰効果の高い樹木の配置等の配置計画の検討に活用した。



周辺店舗ひさし設置時の日陰シミュレーション

- ・広場計画に伴う既存建物等の撤去により、日照条件が変わる周辺店舗において、軒先に"ひさし"を設置した際の日影状況をシミュレーションした。

■ 今後の展望

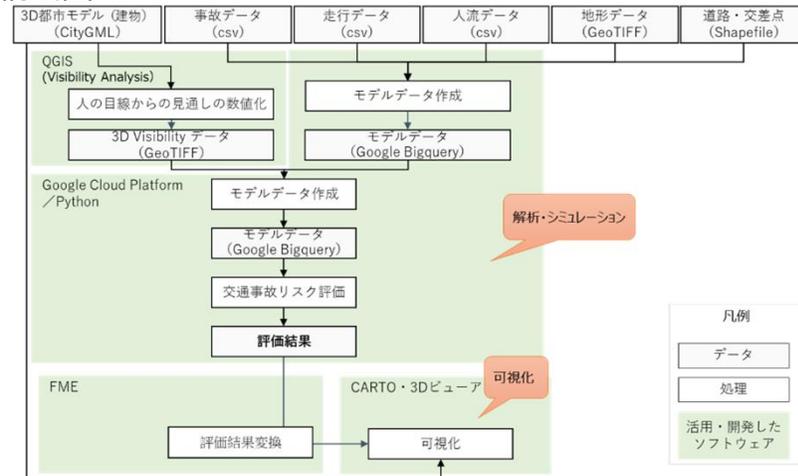
日照、緑陰効果や遮熱性舗装のシミュレーション結果を、動画形式などでわかりやすく公開し、周辺店舗や地元住民の合意形成にも活用したい。

良質な滞留空間の創出につなげ、歩行者などが憩い、利用したくなる魅力的な広場整備につなげたい。

■ ユースケース②概要

テーマ	交通・物流・モビリティ
ユースケース名称②	3D都市モデルを活用した交通事故リスクの可視化事業
目的	市内全道路・交差点における交通事故リスクの評価及び可視化を行い、効果的な安全対策を図ること。
取組内容	<p>各種関係者と協働で現地確認し、通学路の安全対策を実施している。</p> <p>より効果的な交通安全対策を行うため、交通事故実績や車両走行データなどのビッグデータに加え、3D都市モデルの建物モデルに基づく道路の見通しの数値化データを取り入れ、AI技術を活用した交通事故発生リスク評価を行った。</p> <p>交通事故発生リスク評価結果を3D都市モデルで可視化し、潜在的危険個所を直感的に把握することで、ワークショップを通して地域の交通事故リスクを共有し、具体的な安全対策箇所・内容を立案した。</p>
実施体制	MS&ADインターリスク総研株式会社

■ システム構成図



23. 岐阜県岐阜市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・交	可・分	15万以上	200-500	5-10千



PLATEAU
by MLIT

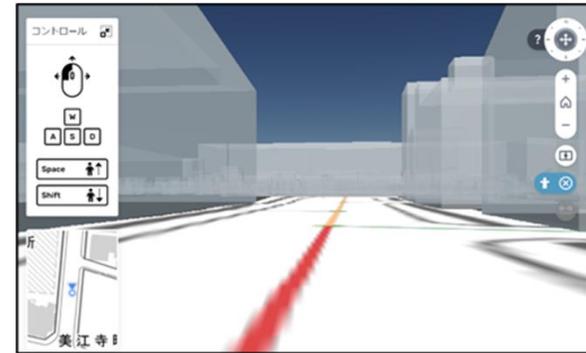
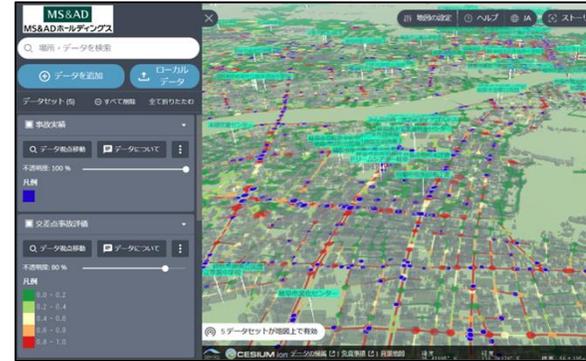
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (計測高さ)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 事故データ (緯度経度、事故タイプ、事故関連者情報) 走行データ (緯度経度、急加速、速度等) 人流データ (緯度経度、タイムスタンプ、UUID) 地形データ (標高、斜面傾斜、斜面方位) 道路データ (道路形状、交差点位置、道路管理者、道路規制情報)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生リスクAIアセスメントを用いて、交通事故データや車両走行データ、地形データ、人流・人口データ、道路データ等から、交通事故リスク評価用の2Dモデルデータを作成する。 3D都市モデルの建物データを用いて、Visibility Analysisで人の目線からの見通しを数値化し、交通事故リスク評価用の3Dモデルデータを作成する。 作成したデータをもとに、AIを用いたリスク解析を実施し、各道路におけるリスク評価値を算出し、3D都市モデルのビューワー上で可視化する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 各道路、交差点における交通事故発生リスク評価結果を3D都市モデル上にわかりやすく可視化する。 ワークショップにおいて、可視化したデータ等をもとに地域の交通事故リスクを共有し、具体的な安全対策箇所・内容を立案する。
オープンデータ化 情報発信	各課の関連ページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
アンケート回答者割合 (%)	70% (R5年度)	90%

■ ユースケース開発成果イメージ図



交通事故発生リスク評価結果

- 市内の全ての道路において、道路(区間)や交差点の潜在的事故発生評価を行い、リスク評価値別の色分けにより、潜在的な危険箇所を把握。
- リスク評価値を3Dビューワ上に表示。

歩行者の視点位置

- 歩行者の視点位置 (高さ1.6m) でマップ表示し、視認性のシミュレーションが可能。

■ 今後の展望

今後は、市内各地区で実施するワークショップにて、導入した交通事故発生リスク評価等を活用し、ワークショップにて合意形成された対策必要箇所、対策内容、優先順位に基づき、必要な安全対策を実施していく。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

23. 岐阜県岐阜市

■ ユースケース③概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり計画への活用事業【R4年度～R5年度事業】
目的	公共交通と歩行者が共存し、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を目指し、岐阜市中心市街地における道路空間を活用したまちづくりを推進することを目的とする。
取組内容	R4年度は、懇談会等において、3D都市モデルを活用した道路空間の再構築案を作成し、道路空間の再構築案の理解を深め、効果的に議論を進めた。 R5年度は、前年度に方向づけた道路空間のあり方について、実証実験や懇談会等において、より具体的に議論を進める。
実施体制	株式会社オリエンタルコンサルタンツ

※R5年度は実証実験や懇談会の実施のため、システム構成図は掲載しない。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
道路空間の再構築案のイメージが湧き、理解をしたアンケート回答者の割合(%)	80% (R5年度)	87%

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・交	可・分	15万以上	200-500	5-10千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



R6.1.24～1.28に実施した長良橋通りトランジットモール社会実験では、実験区間にイメージパースを掲示するなど、将来イメージを市民等に広く周知した。



金華橋通りでは道路空間の再構築に向けて、実際に沿道施設等と将来イメージを共有する意見交換会をおこない、R5.11.17～11.19に道路空間利活用社会実験を開催した。

■ 今後の展望

R5年度は社会実験等をととして、来訪者等に将来イメージの共有を図ったが、今後基本計画策定や継続的に実施する社会実験等で活用することで理解を深め、さらなる市民の機運の醸成を図る。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

23. 岐阜県岐阜市

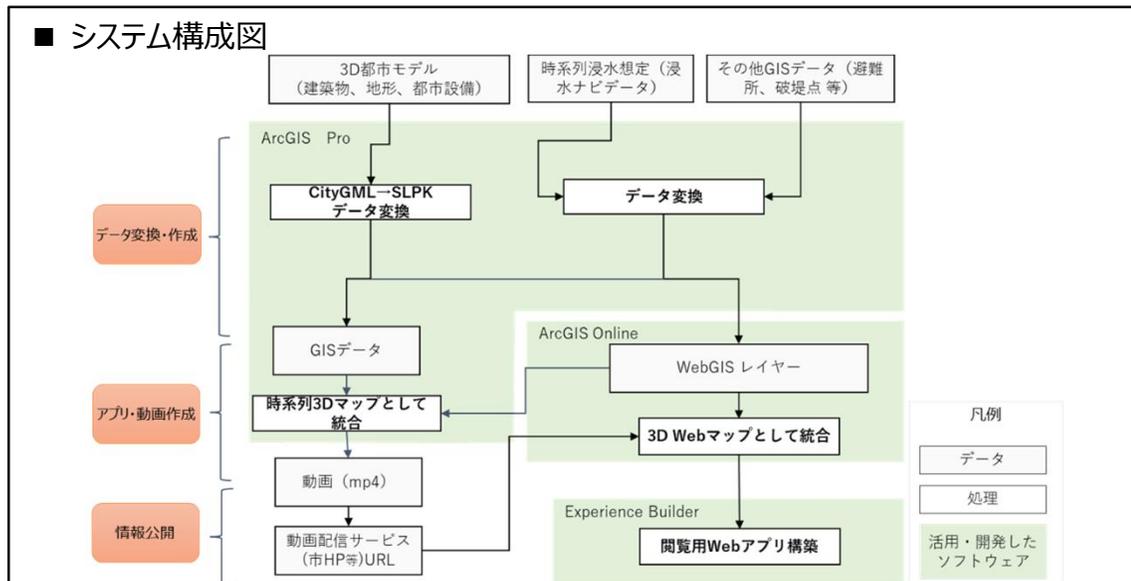
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・交	可・分	15万以上	200 - 500	5 - 10千



■ ユースケース④概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 ※本事業対象外（デジタル田園都市国家構想交付金等により実施）
目的	3D都市モデルを活用した洪水ハザードマップを作成し、「岐阜市総合防災安心読本アプリ」や「都市防災部HP」等の閲覧環境を整備することで、市民の防災意識の向上を図り、命を守るための適切な避難行動の促進を目的とする。
取組内容	位置情報の取得機能を設け、市全域の災害リスクに加え、ユーザーの位置情報に応じた身近な地域の災害リスクの把握を可能とする。 時間の経過に伴う浸水の発生状況を大規模被害が予測される場所や各地域が持つ災害リスクに合わせた浸水シミュレーション動画を作成し、地域の防災訓練・講和会で上映し、防災知識の向上を図り「日常の備え」や「被災時の適切な避難行動」を促進する。
実施体制	ESRIジャパン株式会社

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2（計測高さ・建築物IDを使用。（想定）） 地形LOD1 都市設備LOD1・2
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 時系列浸水深データ（各破堤点ごと・経過時間ごとの3Dポリゴンデータ） 破堤点（破堤点の位置のポイントデータ） 避難所（避難所の位置のポイントデータ 属性はそのまま使用）
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル上に、オープンデータを活用して3Dデータ化した各河川の浸水想定区域図や水害危険情報図を表示し、指定した位置や取得した情報の箇所における想定浸水深や避難所位置等の情報や機能を実装する。 選定した箇所において浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの時間変化に伴う浸水発生状況を示す浸水シミュレーション動画（アイビューや鳥瞰）を作成し、各地が持つ浸水災害リスクを伝える。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 3D化した洪水ハザードマップを作成する。 浸水シミュレーション動画（mp4等を想定） 地域の防災訓練・講和会の説明資料を作成し、市民の理解度を深めて、具体的な議論を進める。
オープンデータ化情報発信	各課の関連ページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災対策を意識しているアンケート回答者の割合 (%)	80% (R6年度)	R6年11月5週 計測予定

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

23. 岐阜県岐阜市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・交	可・分	15万以上	200 - 500	5 - 10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D洪水ハザードマップ

PCに加え、スマートフォンやタブレットなどで市内任意の位置の浸水想定が視覚的に把握できる。



浸水シミュレーション動画

浸水開始から最大浸水深を経て、浸水終了までの浸水状況の時間変化をアイビューなどで視る。

■ 今後の展望

市HPやスマートフォン・タブレット向け防災アプリで市民向けに発信する。
アプリに搭載した位置情報の取得機能により、市全域の災害リスクに加え、ユーザーの位置情報に応じた身近な地域の災害リスクの情報提供を行う。
地域ごとに実施する防災訓練、防災教育や防災講話等で活用し、防災に関する関心を高める。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

24. 岐阜県美濃加茂市

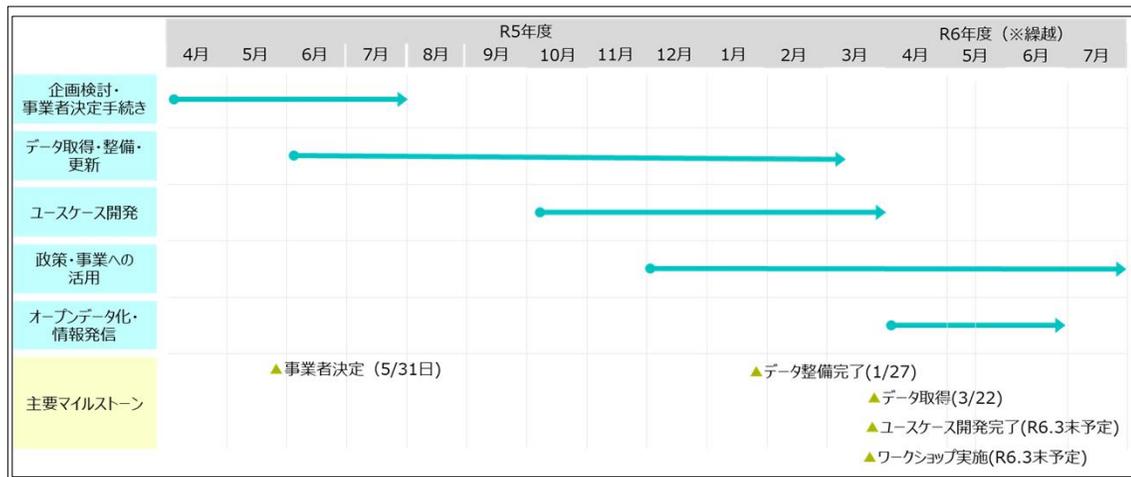


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	57,513人（令和6年2月1日現在）
市域全域面積	74.81km ²
主な産業 地域課題等	<p>木曽川と飛騨川の合流点、中部圏域の中心に位置し、古くから旧中山道の宿場町である太田宿を中心として栄えてきた。現在でも東海環状自動車のインターチェンジをはじめ、国道2路線、鉄道3路線の結節点となっており、交通アクセスにも恵まれていることから、企業誘致が進み人口が増加している。</p> <p>中山道の宿場町「中山道太田宿」などの地域資源をまちづくりに活用し、観光やレジャーが盛んで市内外から多くの人々が訪れている。人口の約1割が外国人で多文化共生の取組みも盛んである。</p>

■ 令和5年度スケジュール ※繰越



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	5-15万	50-100	1千未満

担当部局	都市政策部都市計画課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	景観や環境に配慮した居心地の良いまちづくりに向けた市街地再整備の実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> JR美濃太田駅を中心とする中心市街地の拠点性が失われつつあるため、新たな視点でのまちづくりによる中心市街地の活性化。 美濃太田駅周辺地区（中心市街地）の核となる美濃太田駅南地区において、景観や環境に配慮した居心地の良いまちづくりに向けた市街地再整備計画の立案。
創出価値	都市の再整備計画事業において建物属性等の可視化によりリアルな資料提示となることで説明会等での認識共有が期待される。

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	-
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した市街地再整備計画立案活用事業
推進事業	-

総事業費	4,212（万円） ※うちR5年度 100（万円）
R5年度補助執行額	50（万円）
補助対象外の関連事業	3D都市モデルを活用したまちづくり協議会等の開催

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】
-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	アジア航測株式会社岐阜支店（データ整備） 大日コンサルタント株式会社（ユースケース開発）
-----------	-------------------------------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

24. 岐阜県美濃加茂市

■ 3D都市モデル整備状況 ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	美濃加茂市都市計画区	74.81km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	美濃太田駅南側エリア	1km ²	R4年度整備済

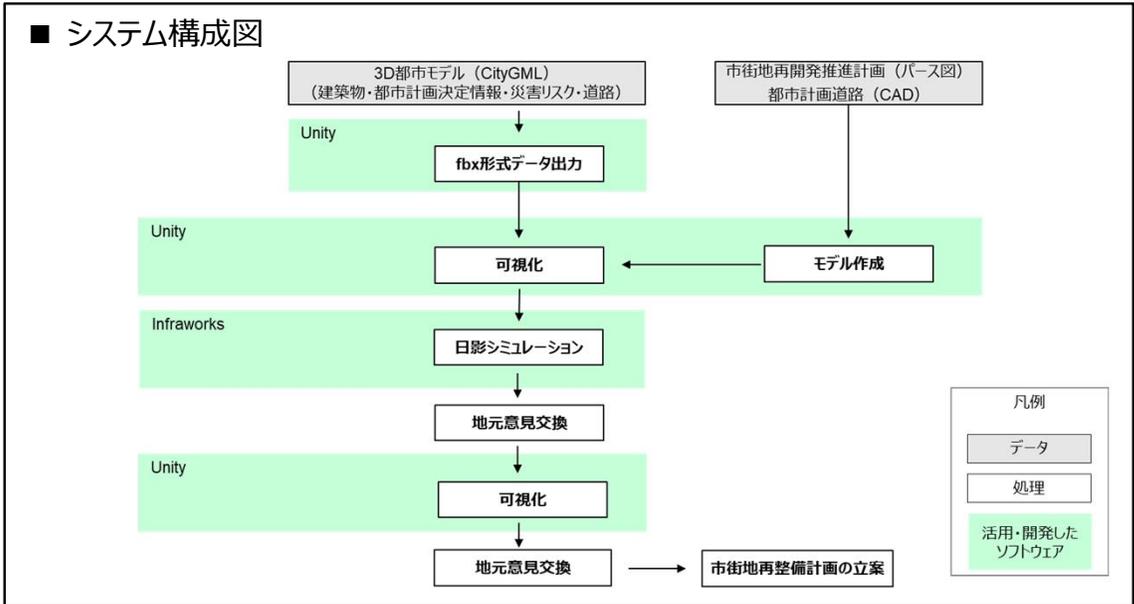
■ 3D都市モデル整備エリア図

	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	美濃加茂市全域（74.81km ² ）
	LOD2（建築物）	美濃太田駅南側エリア（1km ² ）

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R4年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存） 都市計画基礎調査（修正）	H30年度 R5年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した市街地再整備計画立案活用事業
目的	当地区において見込まれる市街地再開発事業等の計画を可視化立案
取組内容	中心市街地の核となる美濃太田駅南地区において、3D都市モデルLOD2によって美濃太田駅南地区をビジュアルに表現する。 さらに、当地区に見込まれる市街地再開発事業の計画を反映させて可視化し、住民や来訪者のニーズを反映しつつ景観や環境に配慮した居心地の良いまちづくりに向けた市街地再整備計画を立案する。
実施体制	大日コンサルタント株式会社



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

24. 岐阜県美濃加茂市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	5-15万	50-100	1千未満



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2 (計測高さ) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域) 道路LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 市街地再開発推進計画 都市計画道路
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル上に、都市計画道路情報及び美濃太田駅地区市街地再開発事業の推進計画を3D化する。 3D可視化ソフトを用いて、時間帯毎の日影状況シミュレーションを行い、現状を分かりやすく表現し、地域におけるリスク分析や課題抽出を行い、再整備にむけた着眼点を整理する。 市街地再開発事業の理事会・総会、住民説明会、都市計画審議会の資料として提示し、事業計画の理解深化及びイメージ共有させる。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 市民の理解促進を図る市街地再開発事業及び周辺整備イメージ、準備組合サイトの公表にむけた調整、イメージに対する意見収集。 都市計画決定に向けた住民説明会、都市計画審議会への活用。 美濃太田駅南地区市街地再開発事業 事業計画 (案) への活用。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
成果を活用し説明会等を実施した回数 (回)	2回 (R5年度)	R6年度 計測予定
説明会での参加者の回答割合 (%)	50% (R5年度)	R6年度 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



美濃太田駅南地区の整備計画などを
三次元化し、リアリスティックに表現



市街地再整備計画の立案

■ 今後の展望

美濃太田駅南地区市街地再開発事業で、市民や準備組合等の事業説明会などにおいて活用する。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25. 静岡県

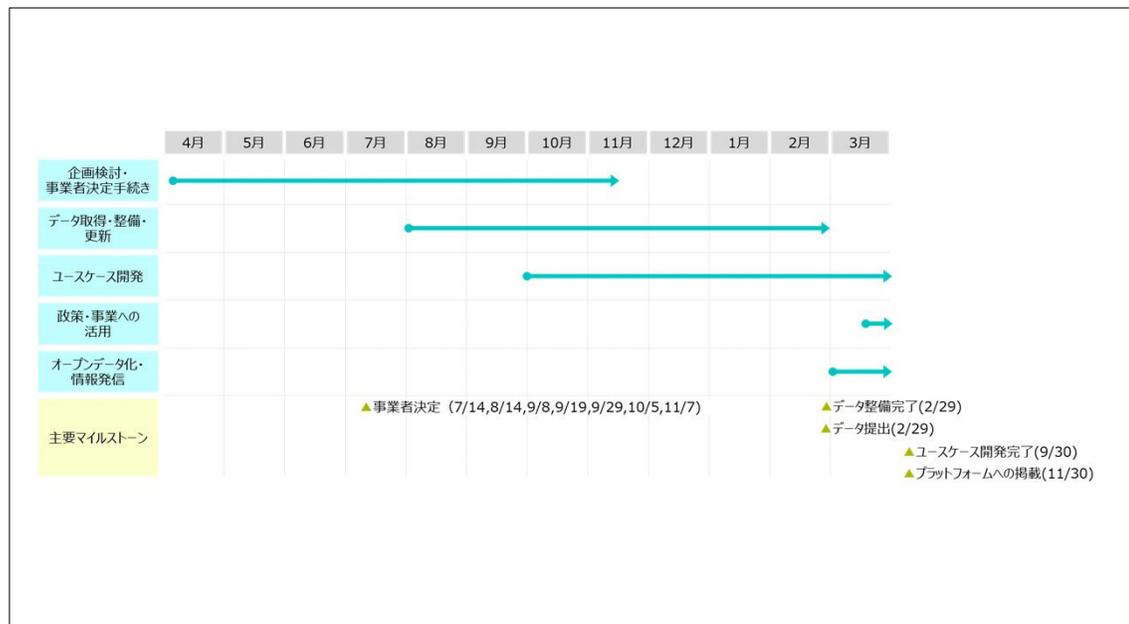


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約360万人（令和2年10月時点）
県域全域面積	7,777km ²
主な産業 地域課題等	日本のほぼ中央に位置し、南側は駿河湾、遠州灘に面する。全国有数の工業地域であるほか、富士山、三保の松原などの世界遺産や伊豆半島ジオパークなどの観光資源を有する。3次元データを災害復旧や観光等の様々な分野に活用するVIRTUAL SHIZUOKA構想を推進。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	500以上	10千以上
担当部局	交通基盤部都市計画課 交通基盤部建設政策課未来まちづくり室			

■ 補助事業実施項目

目標	3次元データ活用による安全・安心で利便性が高く快適に暮らせる地域の形成
課題	<ul style="list-style-type: none"> 作成からの時間経過による施設台帳の老朽化、現況地形との不整合が発生している。 各種台帳が別々に存在することから任意地点の管理施設及び災害ハザードの把握に多大な時間を必要としている。 防災先進県として、災害による被害を最小限に抑えることができるよう防災・減災対策を早急に進め、県民や企業の防災意識の向上させる必要がある。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> インフラ施設の施設台帳や点検台帳等と3次元仮想空間の統合によるマネジメントの効率化。 災害リスクの可視化による住民の防災意識向上と避難行動の実効性向上。

3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した施設管理の可視化事業（データ作成）
推進事業	WEBGISのデータ更新等

総事業費（予定）	72,200（万円） ※うちR5年度 23,000（万円）
R5年度補助執行額	11,500（万円）

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 東京都デジタルツイン3Dビューア上で公開【3D都市モデル】
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	朝日航洋（データ整備） フジヤマ、静岡コンサルタント、東日、三菱総合研究所、日建技術コンサルタント、不二総合コンサルタント（ユースケース開発）
-----------	----------------------------------------------------------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25. 静岡県

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	500以上	10千以上

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

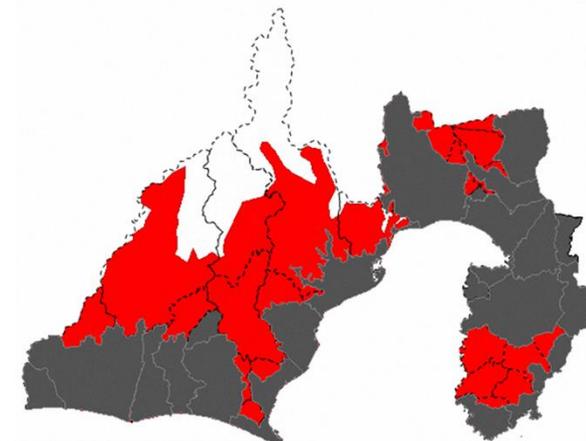
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	県内26市町の都市計画区域 上記除く県全域（航空レーザー未 取得範囲を除く）	2563.61km ² 2862.03km ²	R4年度整備済 R5年度新規整備
LOD1	交通（道路）	県内31市町	625km	R5年度新規整備
LOD1	都市計画決定 情報	県全域の都市計画区域（政令市を 除く） 市街化区域モデルを追加	3033.57km ²	R4年度整備済 R5年度追加整備
LOD1	土地利用	県全域（政令市、整備済の市を除 く）	2654.58km ²	R4年度整備済
LOD1	災害リスク	洪水浸水想定区域、高潮浸水想定 区域、津波災害計画区域モデル 土砂災害警戒区域モデル	5,425.64km ²	R4年度整備済 R5年度追加整備
LOD1	地形	県全域（静岡市、浜松市の都市計 画区域、山間地を除く。LOD3として 整備）	6010.33km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	富士山周辺エリア	1,032棟	R4年度整備済

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	地形	県全域 （静岡市、浜松市の都市計 画区域、山間地を除く）	6,010.33km ²	R4年度整備済

■ 3D都市モデル整備エリア図

詳細度	範囲
建築物LOD1	全県域（未整備区域） 22市町 2862.03km ² （静岡市、浜松市、富士宮市、島田 市、富士市、磐田市、藤枝市、御殿場 市、下田市、裾野市、御前崎市、菊川 市、牧之原市、東伊豆町、河津町、南 伊豆町、松崎町、西伊豆町、長泉町、 小山町、川根本町、森町） ※静岡市、浜松市は各市が独自に整備した範 囲（都市計画区域内）を除く
道路LOD1	31市町 約622km （熱海市、三島市、富士宮市、伊東 市、島田市、富士市、磐田市、焼津市、 藤枝市、御殿場市、袋井市、下田市、 裾野市、湖西市、伊豆市、御前崎市、 菊川市、伊豆の国市、牧之原市、東伊 豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西 伊豆町、函南町、清水町、長泉町、小 山町、吉田町、川根本町、森町）



凡例	
R5実施範囲	
整備済み範囲	

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ） （既存）	R2年度	2,500
測量成果	既存資料（航空レーザー）	R1 - R3年度	500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	-

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25. 静岡県



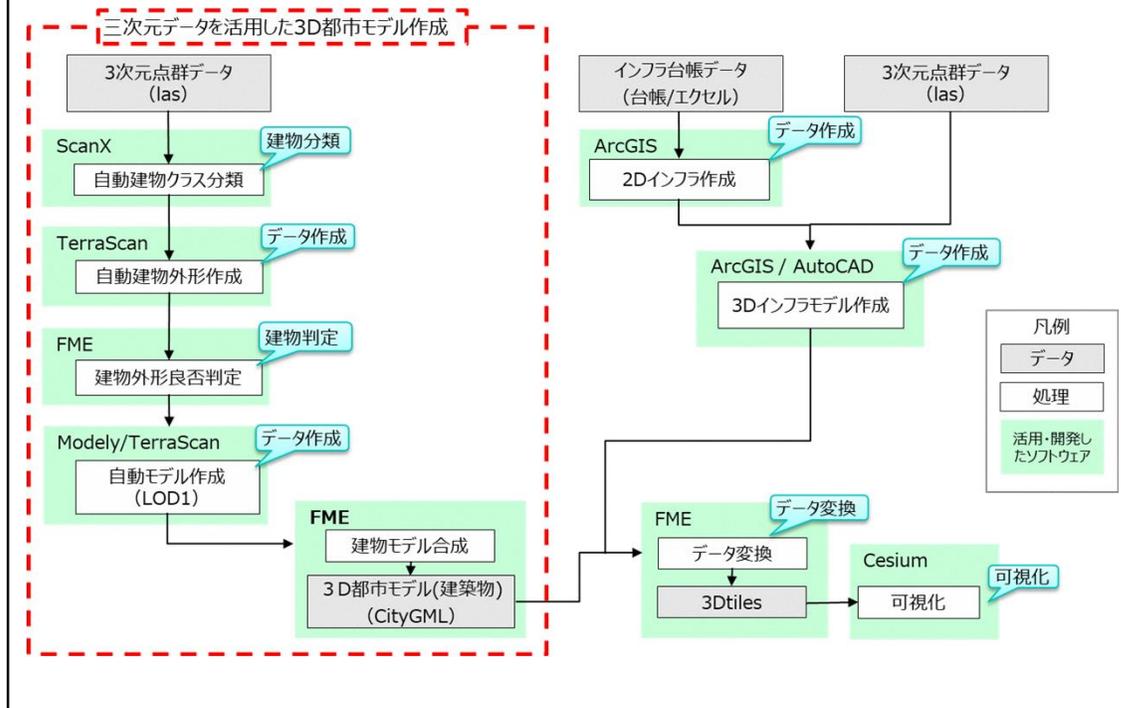
PLATEAU
by MLIT

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	500以上	10千以上

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した施設管理の可視化事業
目的	インフラ施設の施設台帳や点検台帳等と3次元仮想空間の統合によるマネジメントの効率化。
取組内容	3D都市モデルと道路、河川・海岸、砂防、港湾・漁港の各種施設の台帳や点検記録等の重ね合わせにより、一元的にデータを蓄積、確認ができる環境を構築することで、施設の維持管理の効率化や災害対応の迅速化を図る。 (河川・海岸、砂防：R5年度完了／道路、港湾・漁港：R6年度以降も継続)
実施体制	フジヤマ 東日 日建技術コンサルタント 不二総合コンサルタント 静岡コンサルタント 三菱総合研究所

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25. 静岡県

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 道路LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 3次元点群データ（座標情報） インフラ台帳データ（道路、河川・海岸、砂防、港湾・漁港の各種施設の台帳（施設名称・管理番号、施設の構造に関する情報、各根拠法による分類、図面））
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 道路、河川・海岸、砂防施設港湾・漁港の各種施設の台帳や点検記録等に座標情報等の位置情報を付与する。 3D都市モデルと各種台帳等データを3次元空間上で重ね合わせ、一元的にデータを蓄積、確認ができる環境を構築する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 台帳を可視化して、施設の位置や構造等を迅速に把握できるようにし、県職員及び県民に公開する。 可視化した施設から簡易に台帳情報を閲覧することが可能となる。職員の業務効率向上や県民が管理機関まで来庁する手間が省ける。
オープンデータ化 情報発信	東京都デジタルツイン3Dビューア上で公開 https://3dview.tokyo-digitaltwin.metro.tokyo.lg.jp

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	500以上	10千以上



PLATEAU
by MLIT

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
施設管理の効率化（時間）	1,382時間 (R5年度) 1,209時間 (R10年度)	R6年度 計測予定
防災ハザードマップの理解促進（人）	15,000人 (R5年度) 20,000人 (R10年度)	R6年度 計測予定

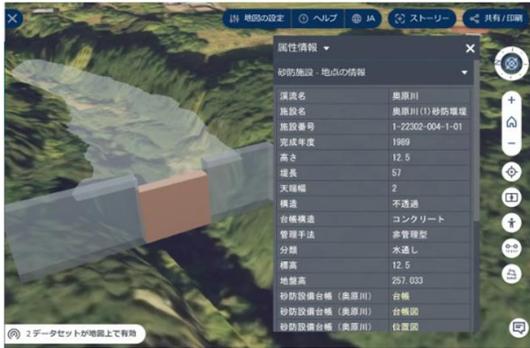
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

25. 静岡県

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	500以上	10千以上

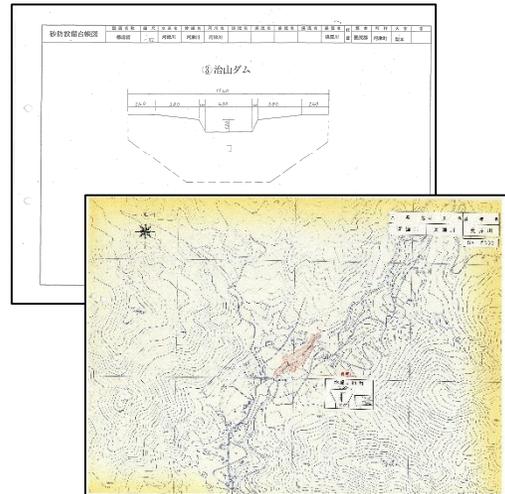


■ ユースケース開発成果イメージ図



施設台帳の可視化

台帳を可視化して、施設の位置や構造等を迅速に把握できるようにし、県職員及び県民に公開する。



施設台帳情報の閲覧

可視化した施設から簡易に台帳情報を閲覧することが可能となる。職員の業務効率向上や県民が管理機関まで来庁する手間が省ける。

■ 今後の展望

引き続き施設台帳の可視化を進める。課題解決につながるよう操作研修等により職員への浸透を図る。

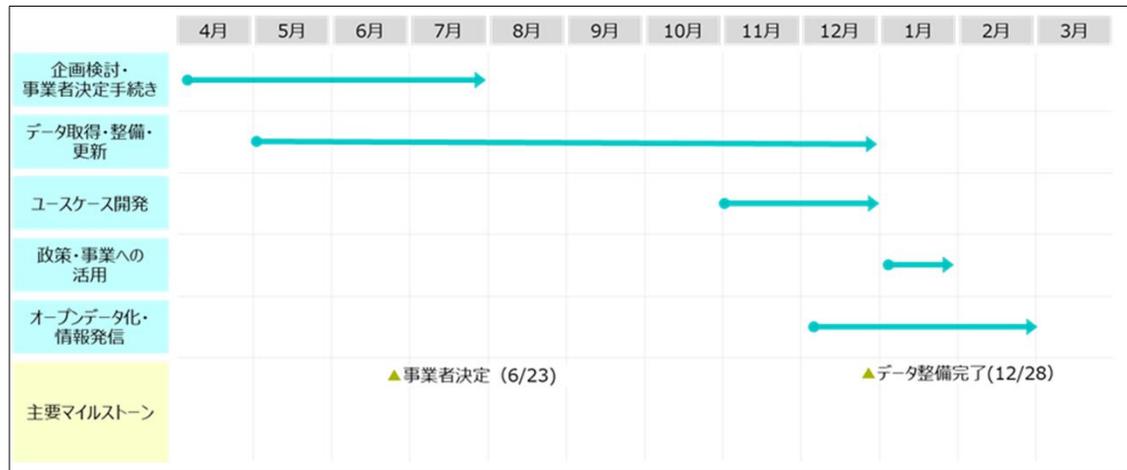
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

26. 静岡県静岡市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	680,913人（令和5年3月時点）
市域全域面積	1,411.93 km ² （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	静岡市は人口68万人、城下町として栄えてきた静岡都心、国際拠点港湾の清水港を擁する港町の清水都心、合併により市境が取り払われた新都心である草薙・東静岡副都心の3極が核となり、高度な都市機能を備えた静岡県中部地域の中核都市として発展した。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	500以上	1千未満
担当部局	都市局都市計画部都市計画課			



■ 補助事業実施項目

目標	都市防災検討への活用及び災害対応力の向上
課題	大規模災害時における市民の安全確保行動など事前に災害リスクに対する意識を醸成する必要がある。
創出価値	オープンデータ化「PLATEAU VIEW」などで、災害リスクをより視認することができ、市民の防災意識向上等を図ることが期待できる。

事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルの製品仕様の検討 庁内既存資料の活用と作業方法の検討 オープンデータ化の方針検討
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 資料収集整理・災害リスク情報データ作成（LOD1） City GML変換 及び品質評価・オープンデータ作成 成果品のとりまとめ及び業務報告書の作成
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 閲覧システム設定 災害情報の可視化による防災訓練（図上訓練）での活用
推進事業	—

総事業費（予定）	2,000（万円） ※うちR5年度 844.8（万円）
R5年度補助執行額	422.4（万円）
補助対象外の関連事業	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画策定 都市基本計画作成 都市計画基本図修正

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 静岡市オープンデータポータルサイトに掲載 【3D都市モデル】
-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	株式会社バスコ（データ整備）
	株式会社バスコ（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

26. 静岡県静岡市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 地形	静岡都市計画区域	234.9km ²	R4年度整備済
LOD1	災害リスク	R4年度 洪水浸水想定区域図（安倍川・藁科川流域）整備済 R5年度 上記除く、 ・洪水予報河川・水位周知河川（9流域）の整備 ・内水浸水想定区域 ・高潮浸水想定区域 ・津波浸水想定区域 ・土砂災害警戒区域 ・静岡都市計画区域	234.9km ²	R4年度一部整備済 R5年度新規整備
LOD2	建築物	静岡市のランドマークとなる建築物	5棟対象	R4年度一部整備

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	500以上	1千未満



PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	・3D都市モデル:建築物 ・防災情報マップデータ	R4年度	2,500
測量成果	・航空レーザ	R3年度	500
属性情報	・防災情報マップデータ ・地域防災計画	R4年度	2,500

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

26. 静岡県静岡市



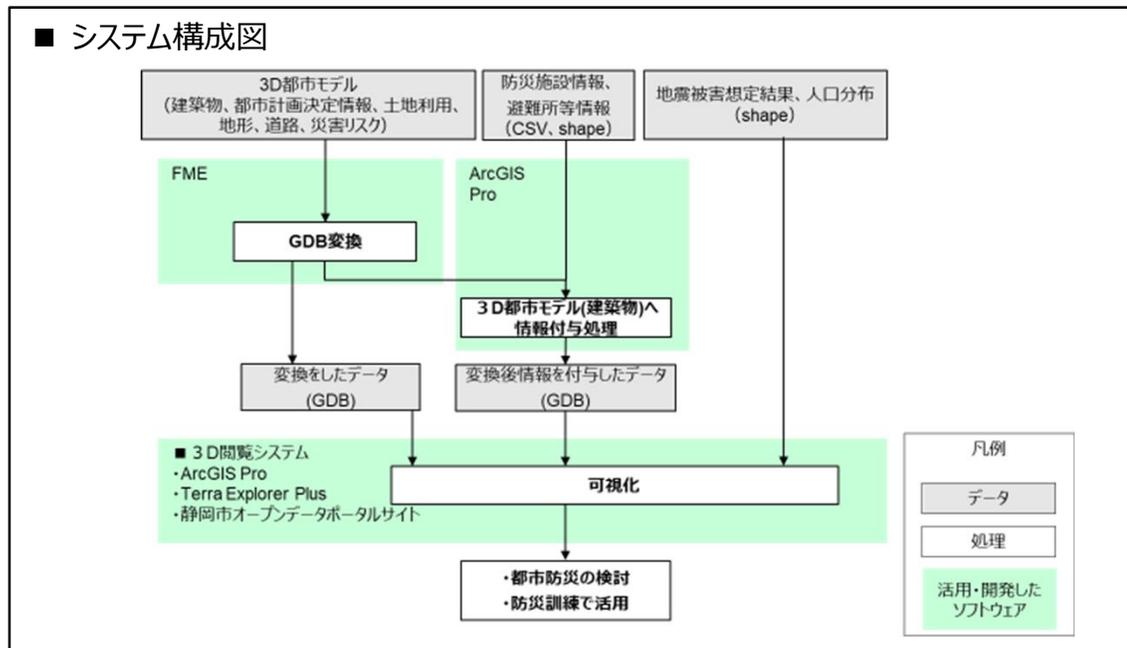
PLATEAU
by MLIT

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	500以上	1千未満

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	災害リスク情報可視化による都市防災検討への活用事業
目的	災害リスク情報を可視化し都市防災検討への活用するほか、防災訓練で活用することにより職員の災害対応力の向上を図る。
取組内容	3D都市モデルを活用して、視覚的に災害リスクや防災情報をデジタル上に集積・表現することで、災害対応力の向上を図る。
実施体制	株式会社パスコ

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報LOD1 (用途地域、立地適正化計画(都市機能誘導区域、居住誘導区域)) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、内水浸水想定区域、高潮浸水想定区域、津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 避難所等情報 (避難所名称、所在地、災害種別) 防災施設情報 (施設名称、所在地) 地震被害想定結果 (延焼危険度・想定震度分布・液状化可能性分布) 人口分布 (R4年度整備済み 人口動態 (3時期))
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 整備した3D都市モデルの建築物データに、避難施設・防災施設 (防災情報マップより) 及び施設情報 (地域防災計画) を属性付与する。 災害リスク情報及び防災情報マップにある地震被害想定結果のデータを、3D都市モデルに重ね合わせて可視化する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 都市防災検討に伴う各種会議や防災訓練における3D都市モデルを活用した都市の防災上の課題をより理解しやすいよう表現した資料作成。 災害リスク情報のほか、避難施設・防災施設情報を付与した3D都市モデル (建築物LOD1) をG空間情報センター及び静岡市オープンデータポータルサイトで公表し、民間活用 (市民・事業者) を期待し、周知する。 大規模災害に備え、都市局で行う職員向けの防災訓練に活用するほか、都市の防災上の課題や減災に向けたソフト及びハード対策の検討材料として活用する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを静岡市オープンデータポータルサイトに掲載。 https://open.city.shizuoka.jp G空間情報センター PLATEAU VIEW

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

26. 静岡県静岡市

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
災害対応力の向上に効果的と感じる職員の割合 (%)	80%以上 (R5年度)	95% (R5年度)

■ ユースケース開発成果イメージ図



建物モデルに含まれる建物階数と浸水ランクの属性値を利用して、垂直避難が可能な建物であるかの可視化を実現した。



想定震度分布と建物モデルに含まれる建築年や建物構造、避難施設情報等の属性情報を重ね合わせることで、潜在する災害リスクの可視化を実現した。

■ 今後の展望

今年度、モデル構築した防災のユースケース（避難施設情報等の属性付与や延焼危険度、想定震度分布等の可視化）を活用し、今後は、関係部局と連携し、地域の防災力向上に向けた、適切な避難経路等の検討（訓練等）に活用したい。

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	500以上	1千未満



PLATEAU
by MLIT

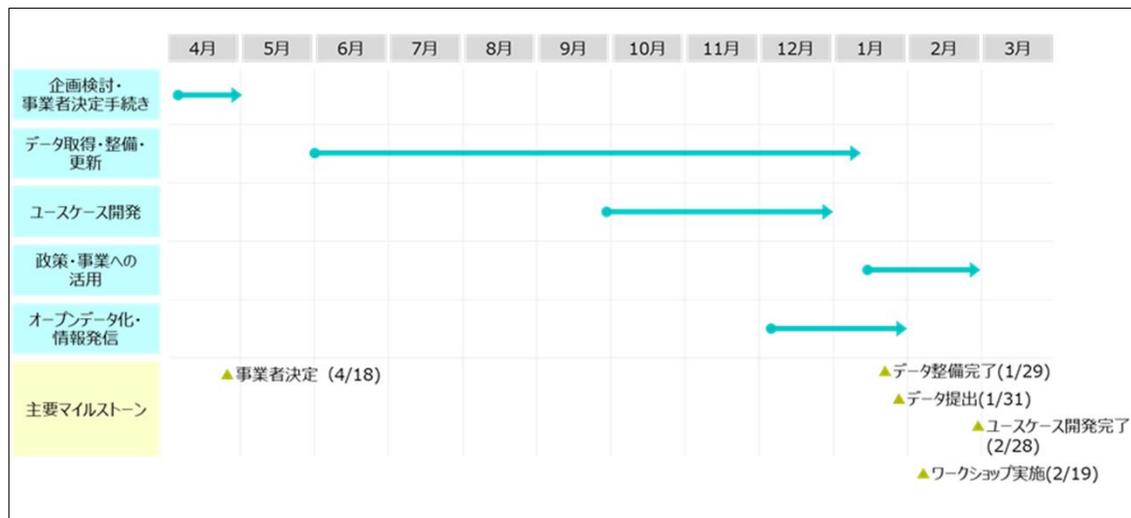
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

27. 愛知県豊橋市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	369,045人（令和5年11月時点）
市域全域面積	262.00km ² （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	愛知県の東南端に位置し、東は静岡県、北は豊川市・新城市と接している。南は太平洋、西は三河湾に面し、温暖な気候に恵まれている。市の西部は三河港を擁する臨海工業地域、南部は渥美半島へと広がる農業地域、北部・東部は弓張山地を中心とした丘陵地域である。また、豊橋筆など古くからの地場産業もある。「人づくりNo.1のまち」を目指し、子育てや教育の分野に重点を置いた様々な施策を進めており、共働き子育てしやすい街ランキング2022（日経xwoman/日本経済新聞社）総合編では、首都圏の自治体が上位を占める中、全国3位に選ばれた。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	200-500	3-5千
担当部局	都市計画部都市計画課			



■ 補助事業実施項目

目標	安全・安心を兼ね備えた住みよいまちの実現 命の安全、心の安心が確保されたまちを目指す
課題	<ul style="list-style-type: none"> 一級河川豊川をはじめ、河川沿いなどで既に市街地が形成されており、市街地が洪水、高潮、津波などの浸水想定区域に含まれている。 「利便性の高さ」と「災害リスク」の共存という難しい課題に取り組み、市民が安全・安心して暮らせるまちを目指す必要がある。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 洪水や高潮、津波、土砂災害といった災害リスクを3次元で可視化する。 さらに、洪水における時系列浸水シミュレーションデータを3次元で可視化することで、市民や地域の防災意識を向上する。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基礎調査 3D都市モデル整備 (LOD1) ・3D都市モデル整備 (LOD2)
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した浸水シミュレーション事業
推進事業	—
総事業費（予定）	4,930.8（万円） ※うちR5年度 3,550.8（万円）
R5年度補助執行額	1,775.4（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ】 庁内ビューア【3D都市モデル/UCデータ】
R5年度受託事業者	株式会社パスコ（都市計画基礎調査） 国際航業株式会社（3D都市モデル整備事業、3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

27. 愛知県豊橋市



■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	豊橋市全域	262.00km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物 交通	避難所等のランドマーク 豊橋駅周辺	約20施設 0.5km ²	R5年度新規整備 R6年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

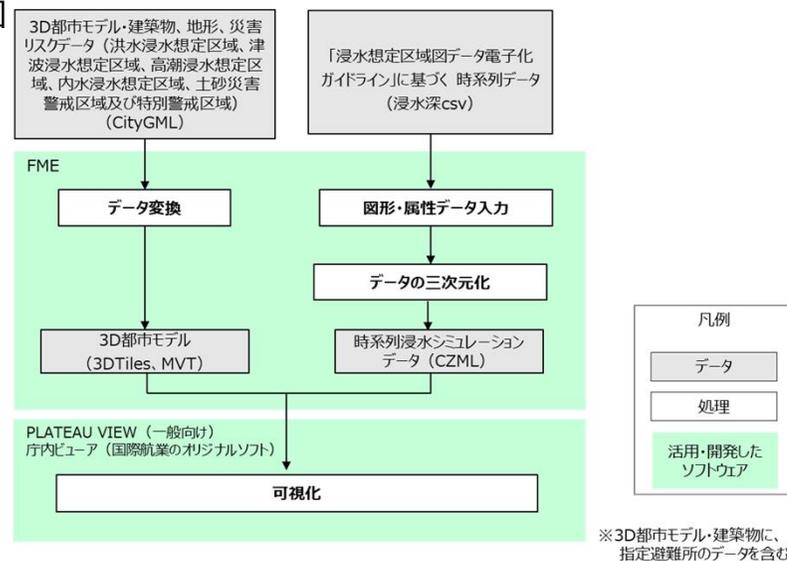


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R5年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	洪水浸水想定区域の時系列シミュレーションデータを3次元で可視化し、災害の様子をわかりやすくすることで、市民の防災意識の向上を図る。
取組内容	本市は河川沿いに市街地が形成されていることから、洪水の災害リスクを抱えている。そこで、洪水の時系列浸水シミュレーションデータを3D都市モデル上で重ね合わせ可視化することで、住民が指定避難所等への避難行動などを浸水の広がりを読み取りやすくなるなど防災意識の向上につなげる。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

27. 愛知県豊橋市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD0・1・2 災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域）
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 「浸水想定区域図データ電子化ガイドライン」に基づく時系列データ（浸水深CSV、流速、浸水時間）
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> オープンデータの浸水シミュレーションデータを基に、破堤点を決め、浸水深、流速、浸水時間のCSVデータ等を活用し、時系列浸水シミュレーションデータを3次元化する。 3D都市モデルに時系列浸水シミュレーションデータを重ね合わせ、時間と共に広がる浸水などを可視化し、浸水深が変化していく様子をよりわかりやすく再現する。 指定避難所等を表示することで、住民が避難ルートをイメージできるようにする。
政策・事業での 活用	動画にまとめ、住民にワークショップ等で活用する。ワークショップでは洪水時の避難ルートなどを住民がイメージすることで、地域の課題や対策などを意見交換することで、市民や地域の防災意識が向上する。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWで公開。

■ KPI

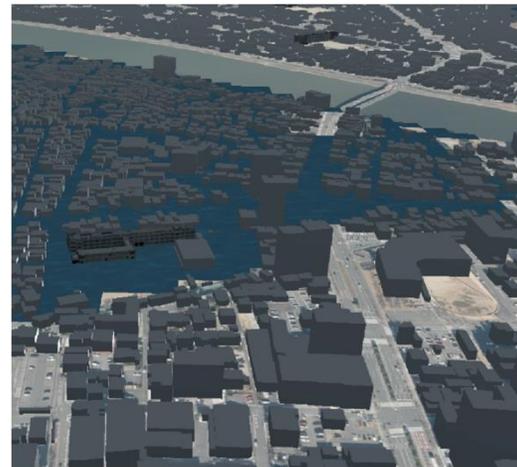
KPI	目標設定	達成状況
防災訓練・講話の参加人数（人）	63,000人 (R5年度)	59,200人 (R5年度)
災害を分かりやすく理解でき、避難行動等を考えるようになったと回答したワークショップ参加者の割合（%）	80%以上 (R5年度)	88.6% (R5年度)

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	200 - 500	3 - 5千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



洪水時の時系列浸水シミュレーションの可視化

3D都市モデル上で洪水時の時系列浸水シミュレーションを可視化する。時間とともに浸水範囲が広がる様子や浸水深さが徐々に深くなっていく様子をよりわかりやすく再現する。



住民ワークショップでの活用

動画にまとめ、住民にワークショップ等で活用する。ワークショップでは洪水時の避難ルートなどを住民がイメージしながら、地域の課題や対策などを意見交換することで、市民や地域の防災意識の向上を図る。

■ 今後の展望

豊橋駅東側地区をLOD2で整備するとともに、企業や大学等での活用に向けてオープンデータ化する。
LOD2データを活用し、熱環境解析と人の滞在データを重ね合わせて人流を分析し、まちなかのにぎわい創出に向けた取組みにつなげる。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

28. 愛知県春日井市

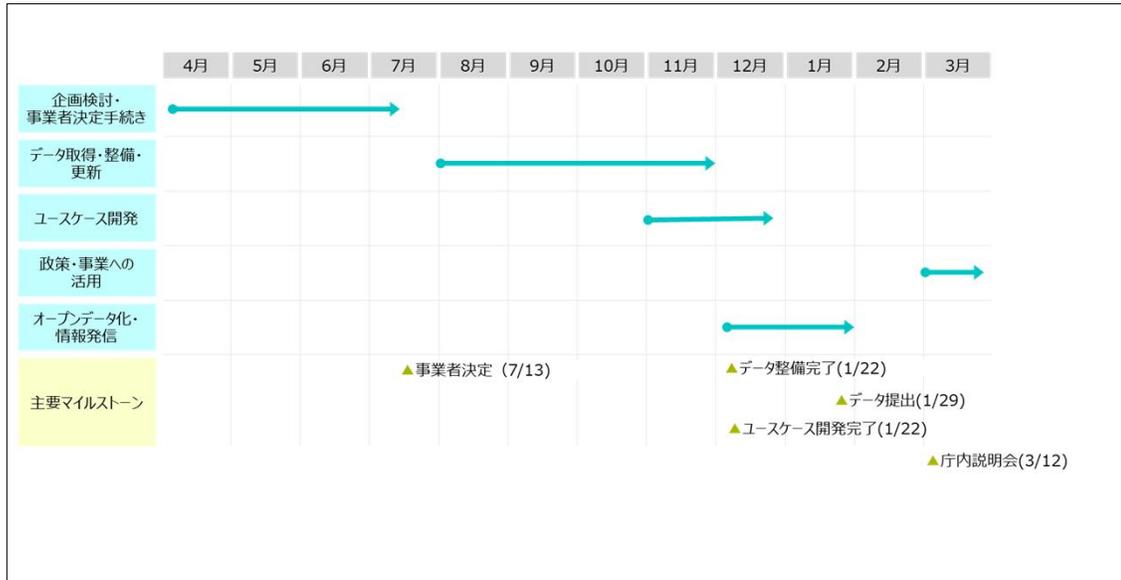


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約310,000人（令和5年4月時点）
市域全域面積	92.78km ² （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	名古屋市都市圏の北東部に位置し、人口約31万人を擁する住宅都市である。 東名高速道路、中央自動車道、名古屋第二環状自動車道や、一般国道19号線、155号線などの幹線道路網、並びにJR中央本線、名鉄小牧線、東海交通事業城北線、愛知環状鉄道といった鉄道網を有するほか、県営名古屋空港に隣接する等、利便性の高い広域交通網を有する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	15万以上	50 - 100	1千未満
担当部局	まちづくり推進部都市政策課			

■ 補助事業実施項目

目標	災害に強いまちづくり
課題	庄内川、内津川、八田川が増水し、雨水を河川に排水できない場合、市内の広範囲で浸水が想定される。
創出価値	三次元化した雨水出水浸水の時系列データを3D都市モデルに重ね合わせ豪雨などによる浸水被害の軽減に活用する。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD2（建築物））
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した雨水出水浸水想定の時系列表示
推進事業	3Dビューワーの整備 ※職員が操作できるArcGIS及びインストールするPCを購入。
総事業費	647（万円）
R5年度補助執行額	240（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 ・ PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ】 ・ 市のHPでPLATEAU VIEWのURLを掲載 【3D都市モデル/UCデータ】
R5年度受託事業者	国際航業株式会社（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

28. 愛知県春日井市

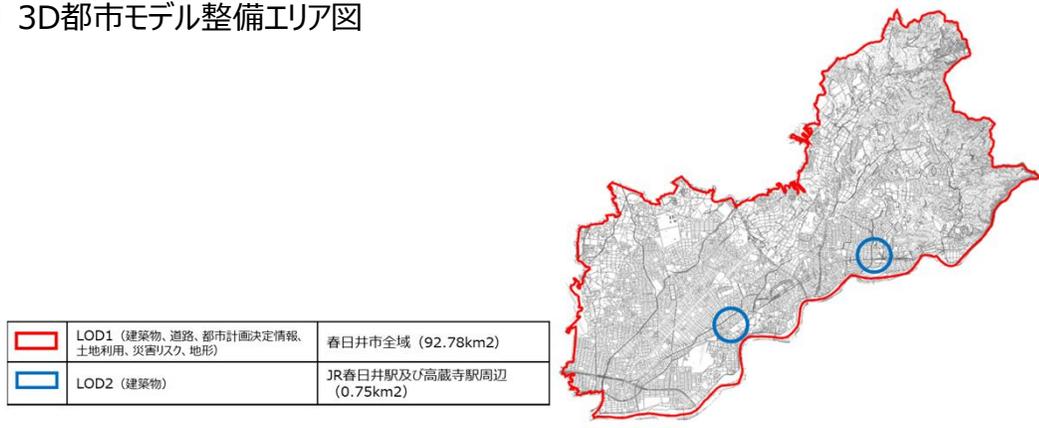
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	15万以上	50 - 100	1千未満

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	春日井市全域	92.78km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	高蔵寺駅周辺	0.75km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

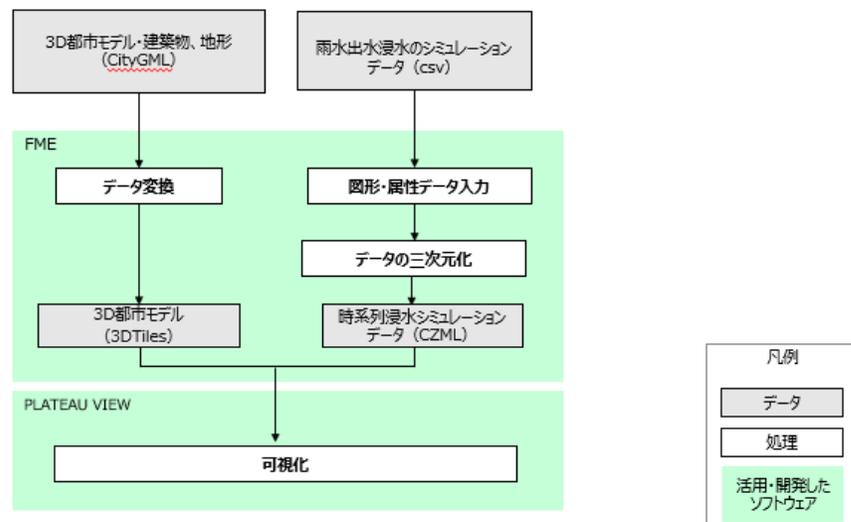


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R2年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯／都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した雨水出水浸水想定の時系列表示
目的	既存の雨水出水浸水のシミュレーションデータを利用し、三次元化した雨水出水浸水の時系列データを3D都市モデルに重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化することにより、住民の防災意識を向上する。
取組内容	庄内川、内津川、八田川が増水した場合、市南西部の鉄道駅周辺で雨水出水が想定されるため、シミュレーションデータを3D都市モデル上で重ね合わせ、浸水被害の軽減に活用する。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



28. 愛知県春日井市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	15万以上	50 - 100	1千未満



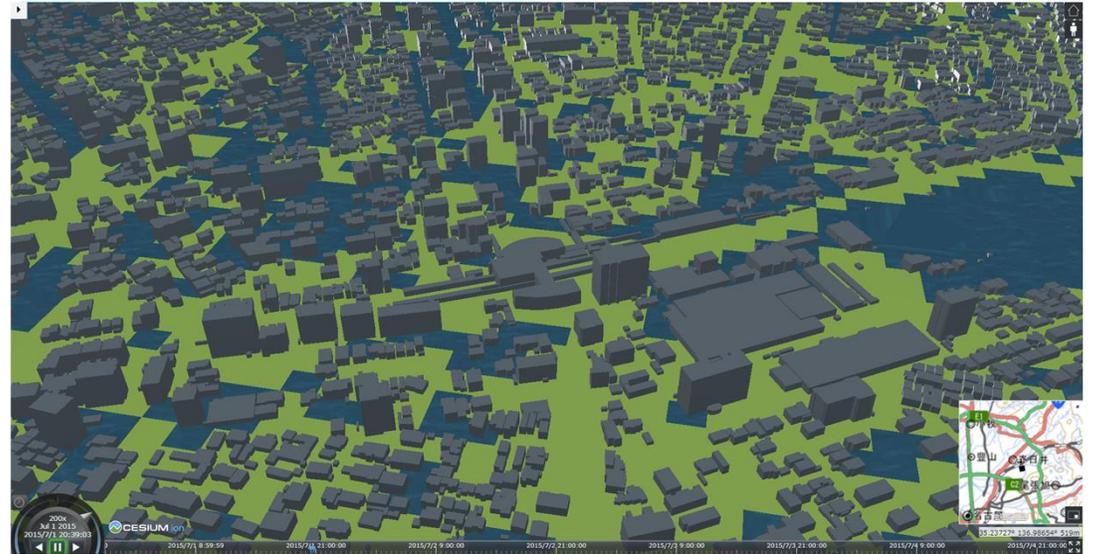
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、浸水ランク、浸水深)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 内水浸水想定シミュレーションデータ (浸水深CSV、流速、浸水時間)
ユースケース 開発方法	3D都市モデル及び三次元化した時系列浸水想定区域図データをビューア上に重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化する。
政策・事業での 活用	住民説明会等で活用する機会を増やすべく、庁内説明会で庁内職員に周知する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ユースケースデータをPLATEAU VIEWに掲載 市のHPでPLATEAU VIEWのURLを掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
利活用検討者数/参加者 (%)	30%以上 (R5年度)	100% (9/9)

■ ユースケース開発成果イメージ図



既存の雨水出水浸水のシミュレーションデータを利用し、三次元化した雨水出水浸水の時系列データを3D都市モデルに重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化した。

■ 今後の展望

今回の防災のユースケースに関連して、避難経路の検索が可能なユースケースや、インフラの維持管理、ヒートアイランド現象への対策など、3D都市モデルのさらなる活用のため、検討を進める。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

29. 愛知県豊田市

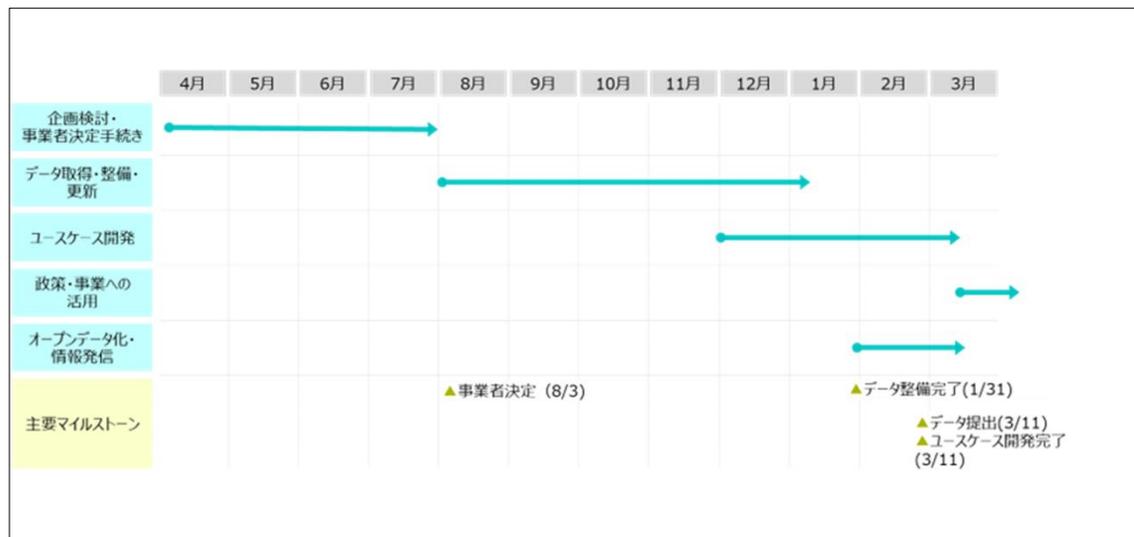


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約416,586人（令和5年12月時点）
市域全域面積	918.32km ² （令和5年12月時点）
主な産業 地域課題等	<p>愛知県の北部に位置し、中核市、中枢中核都市に指定されている。自動車産業が盛んであり、人口は約42万人を擁する。</p> <p>市役所などの行政機関や企業等が集中する豊田市中心部は、地形的に浸水しやすく、広い範囲で10mを超える浸水深が想定されている。</p> <p>3D都市モデルを活用し、住民への災害リスクの可視化や洪水時の対応行動の支援、市災害対策本部におけるタイムラインの検討を行い、水災害に対して脆弱なまちの課題を解決する。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	500以上	1-2千

担当部局	建設部河川課
------	--------

■ 補助事業実施項目

目標	誰もが災害リスクを正しく理解し、適切な事前対策を実施できるデジタルツインモデルの構築
課題	豊田市中心部は、地形的に浸水しやすく、広い範囲で10mを超える浸水深が想定される。誰もが災害リスクを正しく理解し、適切な事前対策を実施できるデジタルツインモデルを構築する。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識が向上する。 災害対策本部の対応行動とその判断基準を検討することで、タイムライン作成に役立つ。
事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備 (LOD2)
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクの可視化による犠牲者ゼロの取組 災害対策本部におけるタイムライン作成による防災体制強化
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルのビューワセットアップ 3D都市モデルのオープンデータ化
総事業費	1,188 (万円)
R5年度補助執行額	1,000 (万円) ※早期実装タイプとして採択。
補助対象外の関連事業	-
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】
R5年度受託事業者	株式会社パスコ (データ整備) 株式会社パスコ (ユースケース開発)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

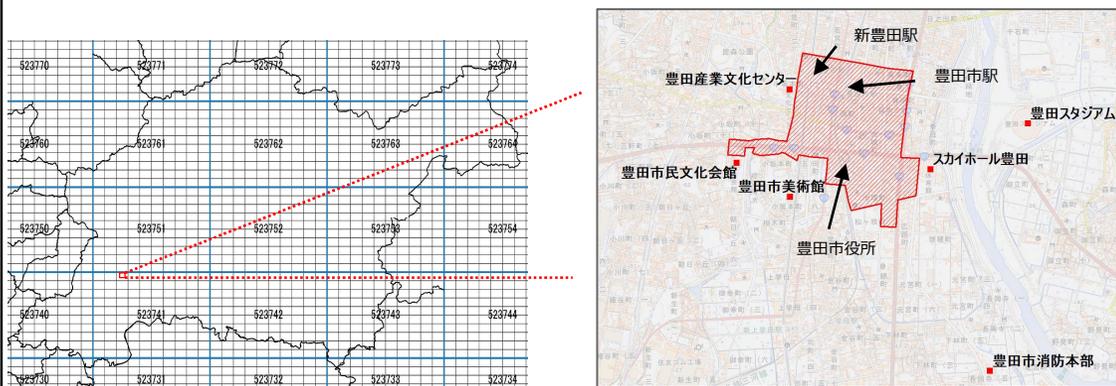
29. 愛知県豊田市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物、交通（道路） 都市計画決定情報、土地 利用、地形	市全域	—	R4年整備済
LOD1	災害リスク	市全域一部 (矢作川流域)	—	R4年整備済 R5年度一部更新
LOD2	建築物	豊田市役所周辺	0.8km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

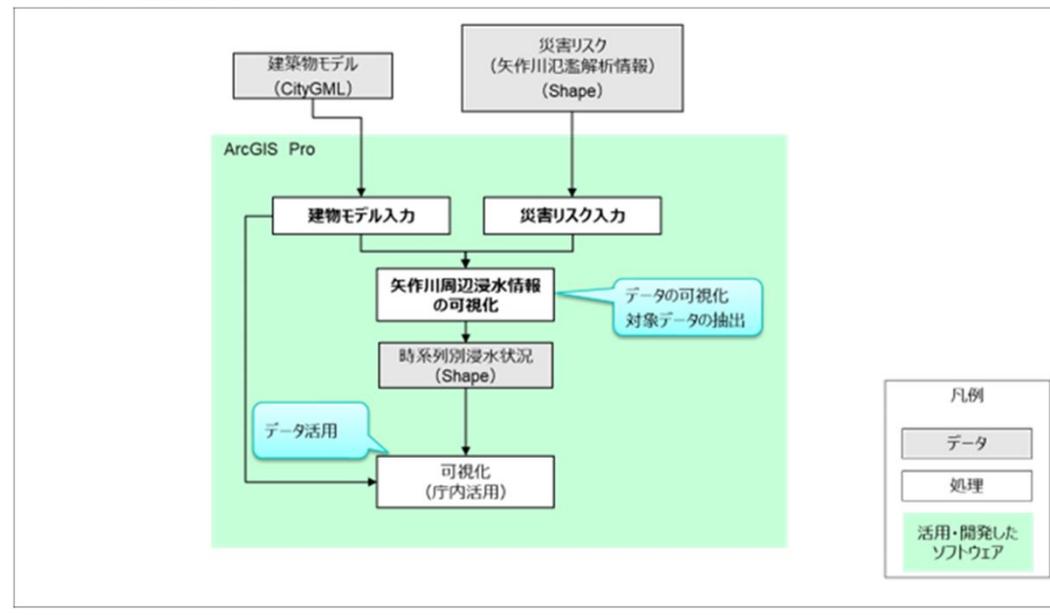


項目	活用するデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）（既存）	R2年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	H30年度、R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	—
その他	3D都市モデル（ver3.0） 3D都市モデル（ver3.2）	R4年度 R5年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	災害リスクの可視化による犠牲者ゼロの取組
目的	水害による被害軽減
取組内容	市全域（矢作川氾濫解析情報（国土交通省 豊橋河川事務所管内））の浸水想定区域を対象として、災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化する。
実施体制	株式会社パスコ

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

29. 愛知県豊田市

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・LOD2 (地上階数) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 矢作川氾濫解析情報 (破堤時間ごとの浸水エリア、浸水深、浸水継続時間)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 矢作川氾濫解析情報 (国土交通省 豊橋河川事務所管内) の主要破堤地点時系列浸水想定データの3Dデータを作成。 3D都市モデルビューワに搭載し、任意地点から鳥瞰的にリアルな浸水状況を可視化。 住民、事業所等の災害リスク及び避難方法等に対する理解を深め、避難確保計画の策定支援等に活用。
政策・事業での 活用	時系列浸水ビューワを活用し、住民、事業所等の災害リスクや避難方法等に対する理解を深め、避難計画の策定等を推進する。
オープンデータ化 情報発信	-

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
要配慮者利用施設の避難確保計画提出提出率 (%)	100% (R5年度)	94% (R6年3月15日)

R5年度KPI未達を受けての
今後の対応

防災部局と連携し、UCを活用しながら対象施設の避難確保計画作成を促す。

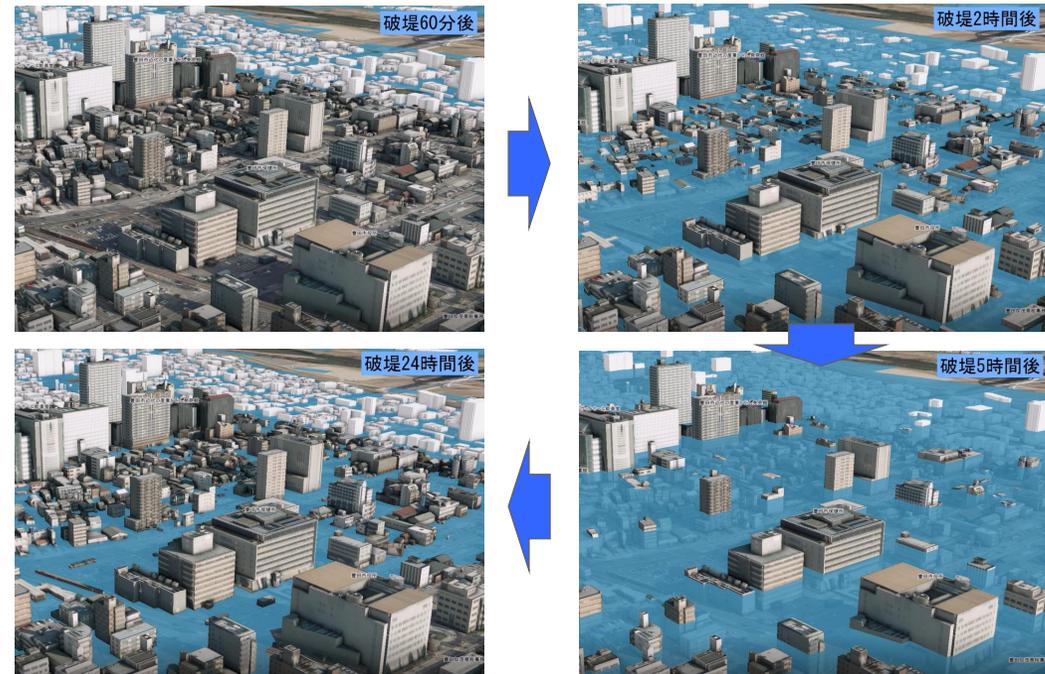
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	500以上	1-2千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図

(BP314 (矢作川右岸 37.80 K) 破堤からの時系列想定浸水)



■ 今後の展望

今後、今回作成した時系列毎の浸水3Dデータを市民向けのポータルサイトに公表し、市民の防災意識の向上や避難計画の策定の推進等に活用したい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

29. 愛知県豊田市



PLATEAU
by MLIT

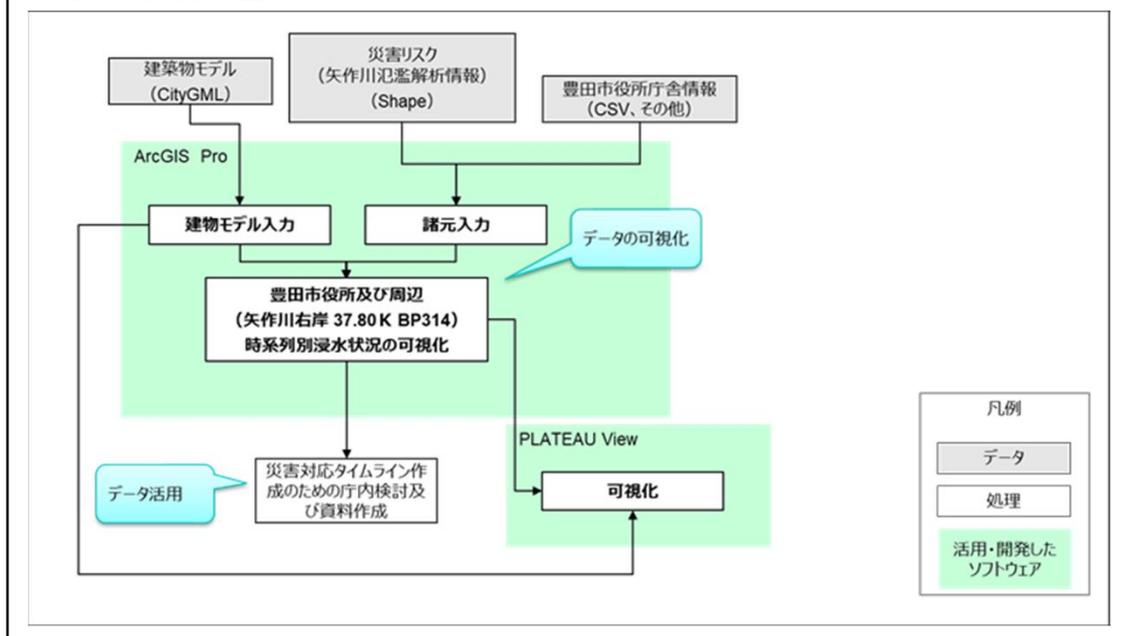
■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	災害対策本部におけるタイムライン作成による防災体制強化
目的	防災体制の強化
取組内容	市役所庁舎の建物を対象にLOD2のデータを作成し、災害対策本部における時系列的な洪水対応行動についてのタイムラインを作成することで、防災体制の強化を図る。
実施体制	株式会社パスコ

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2 (地上階数) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 豊田市役所庁舎情報 (庁舎内設備、フロア情報) 矢作川氾濫解析情報 (破堤時間ごとの浸水エリア、浸水深、浸水継続時間)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 市役所庁舎等のLOD2データを作成、3D浸水想定データと重ね合わせ、洪水時の被害状況について可視化する。 洪水シナリオ、災害対応タイムラインの作成、各課への普及を実施する。
政策・事業での 活用	災害対策拠点の移転等の主要対応行動の時系列的な整理とその判断基準について検討し、プロトタイプ版災害対応タイムラインを作成することにより、豊田市災害対策本部全体の災害対応能力の向上を図る。
オープンデータ化 情報発信	-

■ システム構成図



■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
災害対策本部のタイムライン作成作成率 (%)	100% (R5年度)	100% (R6年3月15日)

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

30. 愛知県日進市

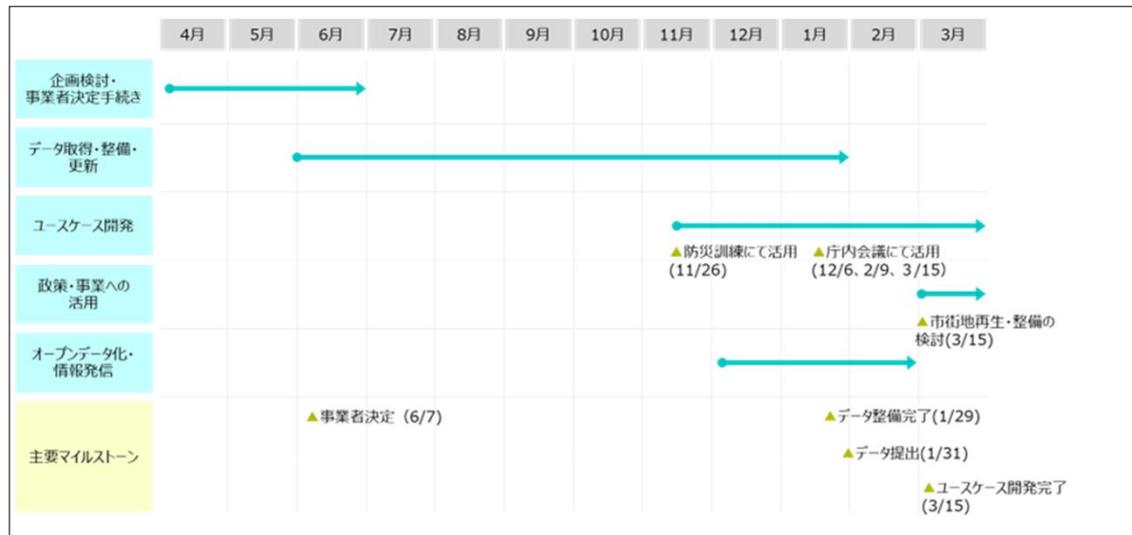


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	93,910人（令和5年12月時点）
市域全域面積	34.91km ² （令和5年12月時点）
主な産業 地域課題等	愛知県の中央部に位置し、名古屋市と豊田市との間にある緑豊かな住宅都市であり、今後も人口増加が予測されている。また、5つの大学が立地する学園都市で、市内外の各大学と連携協力協定を締結している。 3D都市モデルを、災害時の避難行動を促す普及啓発及び市民の防災意識向上や鉄道駅周辺市街地の再生、整備に向けた取り組みの検討に活用する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	5-15万	50未満	1千未満
担当部局	都市整備部都市計画課			

■ 補助事業実施項目

目標	安全・安心な暮らしが続けられるまちを創る。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害等から市民を守るため、災害に強い都市基盤整備を進めるとともに、市民の防災意識の向上が必要。 人口増加が進んでおり、鉄道駅周辺の再生、整備による土地の高度利用を検討する等、多様な利便機能の向上が必要。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクを可視化することで市民の防災意識が向上する。 市街地のまちづくりについて、鉄道駅周辺市街地の再生、整備の総合的な実施可能性の検討における認識共有がしやすくなる。
事前調査等	都市計画基礎調査
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備（LOD1） 3D都市モデル整備（LOD2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 3D都市モデルを活用した都市計画立案への活用事業
推進事業	—

総事業費（予定）	2,830（万円） ※うちR5年度 343.2（万円）
R5年度補助執行額	171.6（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 市ホームページでの掲載。
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度 受託事業者	国際航業株式会社（データ整備）
	国際航業株式会社（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

30. 愛知県日進市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	5-15万	50未満	1千未満



PLATEAU
by MLIT

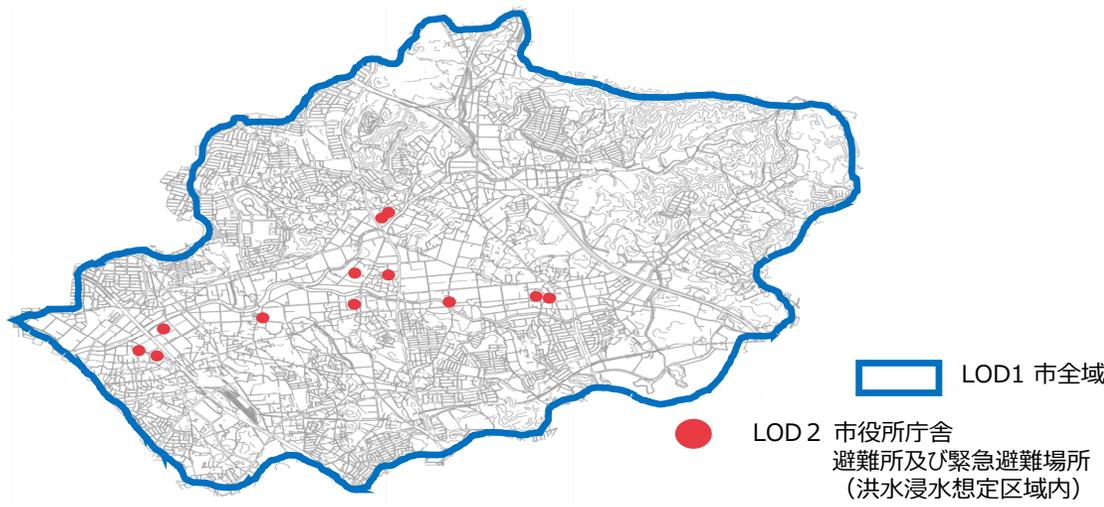
3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	市全域	34.91km ²	R4年度整備済
LOD1	土地利用	市街化区域 市街化想定区域	17.91km ²	R5年度更新
LOD2	建築物	市役所庁舎 避難所及び緊急避難場所 (洪水浸水想定区域内)	93棟 (12施設)	R5年度整備

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R4年度	2,500
測量成果	資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査 (土地利用現況)	H30年度	—
	都市計画基礎調査 (建物利用現況)	R4年度	—
	都市計画基礎調査 (土地利用現況更新)	R5年度	—

3D都市モデル整備エリア図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

30. 愛知県日進市

■ ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	市民の防災意識向上
取組内容	自然災害等から市民を守るため、浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域を三次元化し、リスクを可視化する。 また、地域の防災訓練等を行い、市民の防災意識向上に活用するとともに、大学連携事業によりドローンでの取得データをもとに災害発生時の被害状況把握への活用方法について検討を行う。
実施体制	国際航業株式会社[データ作成] 中部大学中部高等学術研究所国際GISセンター[連携協力大学]

■ ユースケース②概要

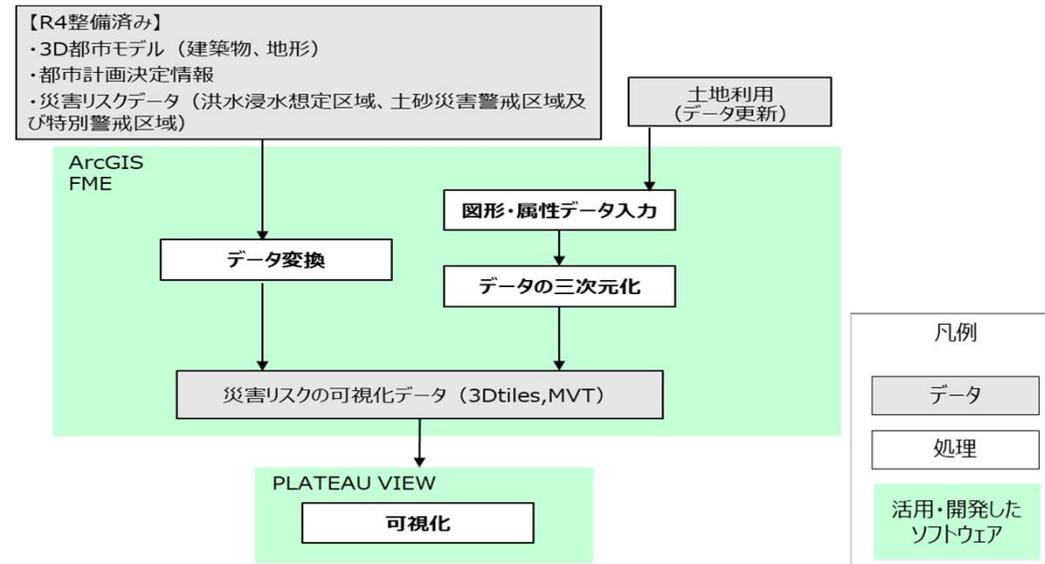
テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した都市計画立案への活用事業
目的	鉄道駅周辺市街地の再生、整備の総合的な実施可能性の検討。
取組内容	都市の利用状況について可視化をし、鉄道駅周辺市街地の再生・整備の総合的な実施可能性の検討に活用する。
実施体制	国際航業株式会社

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	5-15万	50未満	1千未満



PLATEAU
by MLIT

■ システム構成図



※2つのユースケースとも同じシステム構成図で実施

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

30. 愛知県日進市

■ ユースケース① 開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1、LOD2（名称、計測高さ、地上階数） 災害リスクLOD1（洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域）
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルと3次元化した土砂災害警戒区域及び特別警戒区域を重ね合わせ、リスクを可視化。 3D都市モデルと3次元化した浸水想定区域等を重ね合わせ、リスクを可視化。
政策・事業での 活用	住民向けの防災訓練での活用。
オープンデータ化 情報発信	市ホームページでの掲載。

■ KPI

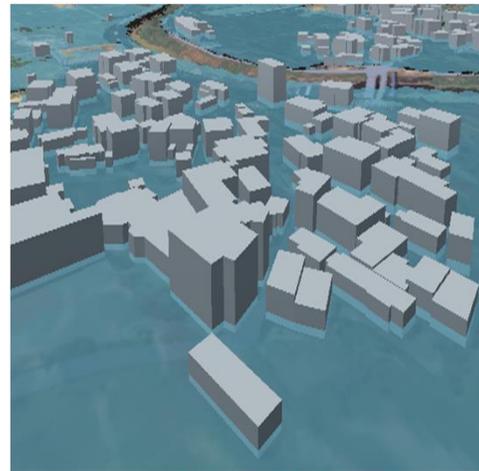
KPI	目標設定	達成状況
会議等における活用回数(回数)	3回(R5年度)	3回
防災訓練にて、防災意識が向上したと感じる市民の割合(%)	50% (R5年度)	96%
災害対策に対する満足度(%)	38%(R6年度)	R6年度 計測予定
自宅の浸水を心配する市民の割合(%)	21%(R6年度)	R6年度 計測予定

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	5-15万	50未満	1千未満

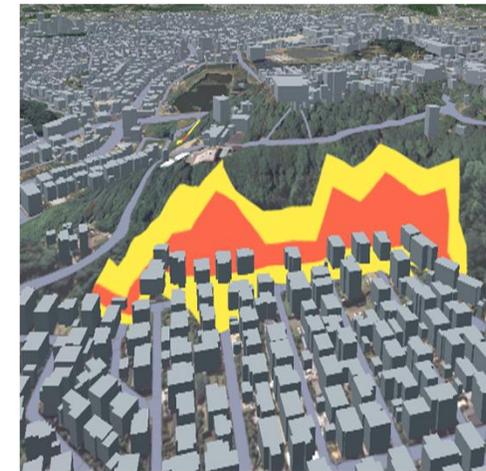


PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



浸水する恐れのある範囲を防災訓練等で公開し、市民の防災意識の向上や普及啓発に活用。



土砂災害の恐れのある範囲を防災訓練等で公開し、市民の防災意識の向上や普及啓発に活用。

■ 今後の展望

大学との連携事業を進め、ドローン等で取得したデータを組み合わせ、土砂災害の危険が高い建物を視覚的に把握することで、市民の安全安心の確保に向けて活用したい。また、防災訓練などで活用し、市民への防災意識向上につなげたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

30. 愛知県日進市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	5-15万	50未満	1千未満



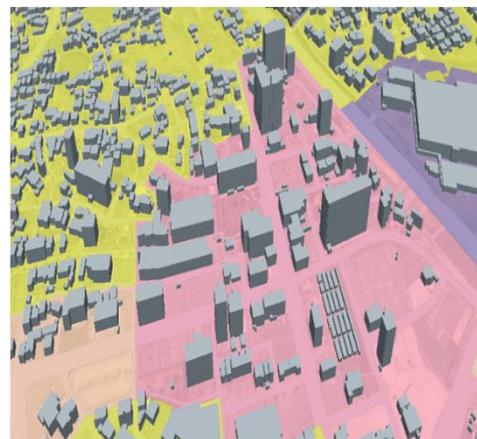
■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称、分類、決定日、決定主体、公称面積等)
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	建物利用状況を属性情報として付与した3D都市モデルと3次元化した都市計画情報を重ね合わせ、都市の利用状況について可視化。
政策・事業での 活用	鉄道駅周辺市街地の再生・整備に向けた庁内会議で活用。
オープンデータ化 情報発信	市ホームページでの掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
会議等における活用回数 (回数)	3回 (R5年度)	3回
自宅周辺の居住環境に魅力を感じると 考える市民の割合 (%)	63.6% (R6年度)	R6年度 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



都市計画決定情報を3D都市モデル上で重ね合わせ、市街地再生・整備の総合的な検討、施策実施に活用。



建物高さ情報を3D都市モデル上で重ね合わせ、市街地再生・整備の総合的な検討、施策実施に活用。

■ 今後の展望

今後は市民向けワークショップ等で3D都市モデルを活用し、イメージや認識を共有するなど、効率的なまちづくり検討につなげる。
また、必要に応じて新しい都市計画情報に更新し、市民への情報公開を継続する。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

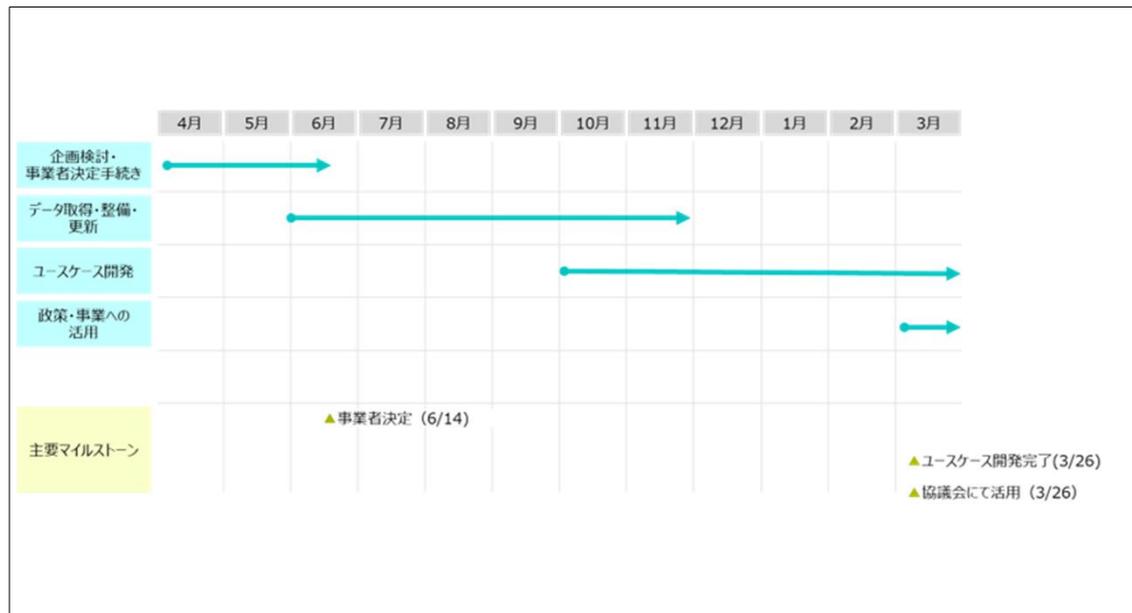
31.三重県四日市市



■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約310,000人（令和5年3月時点）
市域全域面積	206.5km ² （令和5年3月時点）
主な産業 地域課題等	三重県の北部に位置し、人口は約31万人。東西交通の要衝に位置し、古くから東海道の宿場町であるとともに、港町として栄え、現在は我が国有数の産業都市として発展している。 近鉄四日市駅周辺の中心市街地では、官公庁施設、商業施設、オフィスなど都市機能が集積している。現在、中央通り周辺を中心として中心市街地再編に向けて取り組んでいる。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	200 - 500	1千未満
担当部局	都市整備部都市計画課			

■ 補助事業実施項目

目標	東海地域をリードする西の中核都市に相応しい、多様な都市機能が集積し、人で賑わい、まちの魅力にあふれるまちづくりの推進
課題	リニア時代のスーパーメガリージョン形成による交流人口の拡大効果を活かした、中心市街地におけるデータを活用した憩いと賑わいづくりへの環境整備と魅力向上。
創出価値	3D都市モデルによって中心市街地をビジュアルに表現し、中央通りの再編計画案を重ね合わせ、多角的な視点から細部検討を行うとともに、住民への説明や、関係者調整会議のツールとして活用する。また、別途計測する人流データ等を統合し、賑わい創出の検討や、中心市街地の再編に合わせたスマートシティ化に向けた取り組みにおいて活用する。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	—
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した中心市街地再編計画への活用事業
推進事業	—
総事業費（予定）	1,060（万円） ※うちR5年度 360（万円）
R5年度補助執行額	180（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ】 公開用ビューアのリンクを四日市市ホームページに掲載 【3D都市モデル】
R5年度受託事業者	国際航業（株）三重営業所（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

31.三重県四日市市

3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	四日市市全域	206.5km ²	R4年度整備済
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	四日市市全域	206.5km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	中央通りの沿道建物[近鉄四日市駅～JR四日市駅]	0.28km ²	R4年度整備済

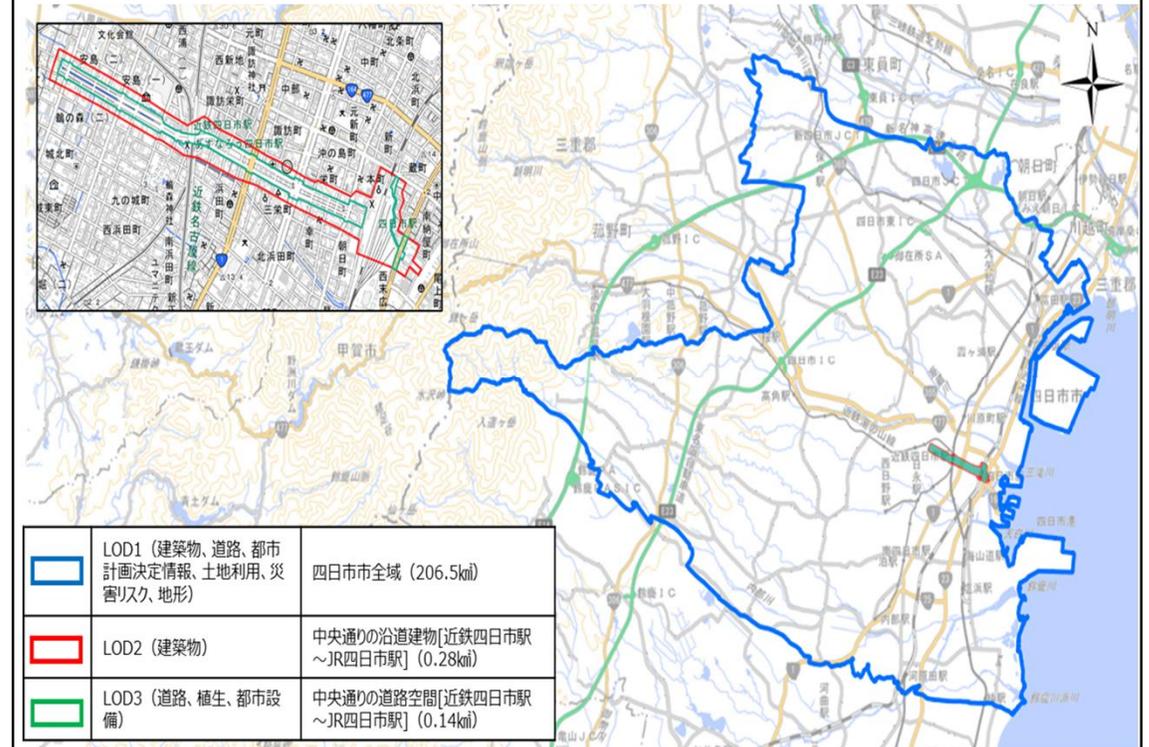
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	数値地形図（DMデータ）（既存） （修正）	H29年度 R4年度	2,500
測量成果	その他（車載写真レーザ測量）	R4年度	500
	既存資料（航空写真）	R2年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H29年度	—

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	200 - 500	1千未満



PLATEAU
by MLIT

3D都市モデル整備エリア図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

31. 三重県四日市市

■ ユースケース概要

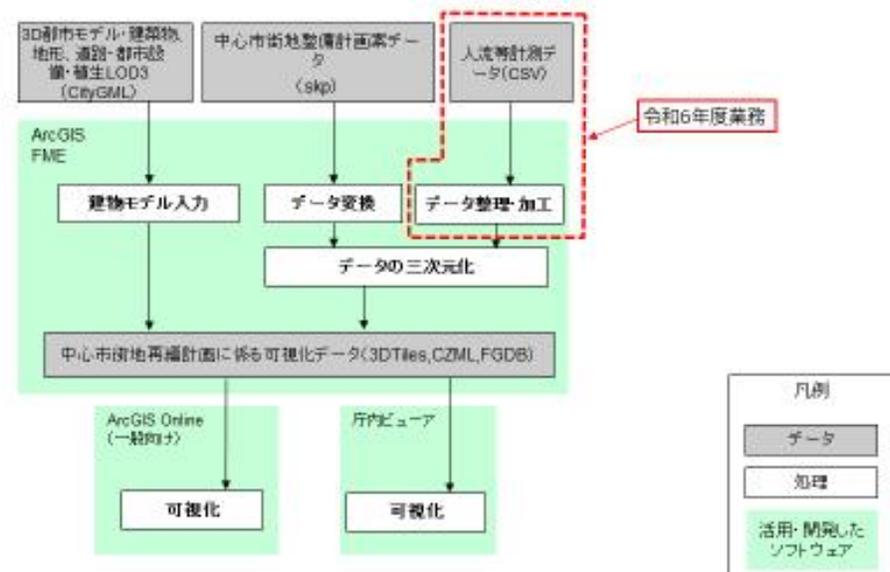
テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した中心市街地再編計画への活用事業【R5,R6年度事業】
目的	リニア時代のスーパーメガリージョン形成による交流人口の拡大効果を活かした、中心市街地におけるデータを活用した憩いと賑わいづくりへの環境整備と魅力向上。
取組内容	<p>検討中の整備計画案データを3D都市モデルに重畳し、将来の都市像を可視化し、将来景観を分かりやすく表現し、市民向け広報やパブリックコメントなどへ活用する。</p> <p>人流データを3D都市モデルに重畳することで、中心市街地の回流・流動状況を把握し、賑わい創出の検討や、中心市街地の再編に合わせたスマートシティ化に向けた取組みにおいて活用する。</p>
実施体制	R5年度国際航業（株）三重営業所

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	200 - 500	1千未満



PLATEAU
by MLIT

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

31.三重県四日市市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	15万以上	200-500	1千未満

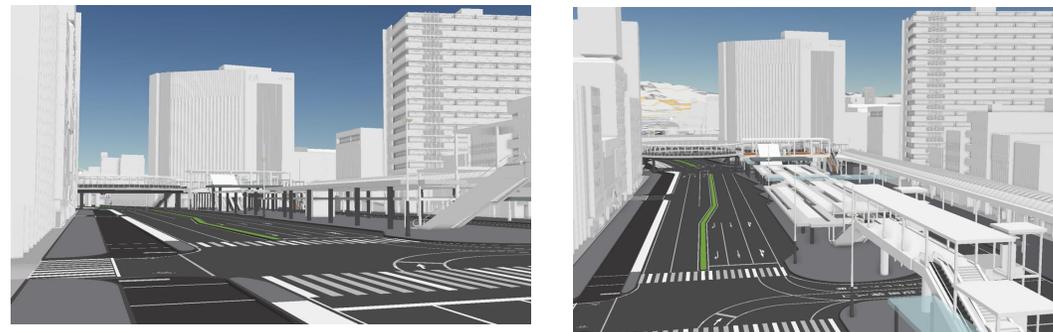
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 道路・都市設備・植生LOD3 (機能、区間種別) 地形LOD1 (名称)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地整備計画案データ (座標系、位置情報など) 人流の計測データ (日時 / 座標 / など)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地整備計画案データ (SKP) を3D都市モデルに重畳可能なデータに変換し、重ね合わせを行う。 人流データを (CSV等) を3D都市モデルに重畳可能なデータに変換し、重ね合わせを行う。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 関係者調整会議等において中心市街地整備計画案の検証ツールとして活用。 人流データの解析結果により、中心市街地賑わい創出施策の検討に活用。【R6年度】
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 3Dビューアによる将来都市景観を四日市市ホームページにて公開。【R5年度】 人流の回流・流動状況を四日市市ホームページにて公開。【R6年度】 公開用ビューアのリンクを四日市市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
3D都市モデルへのデータ重畳に対する満足度 (%)	90% (R5年度)	90%
中心市街地の歩行者流量の増加 (人)	(平日)60,596人 (休日)61,460人 (R6年度)	R6年度 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



将来都市景観の表現

検討中の中心市街地整備計画案を可視化し、市民向け広報等に活用する。

■ 今後の展望

市民向け広報や賑わい創出及びスマートシティ化に向けた庁内検討等に活用する。

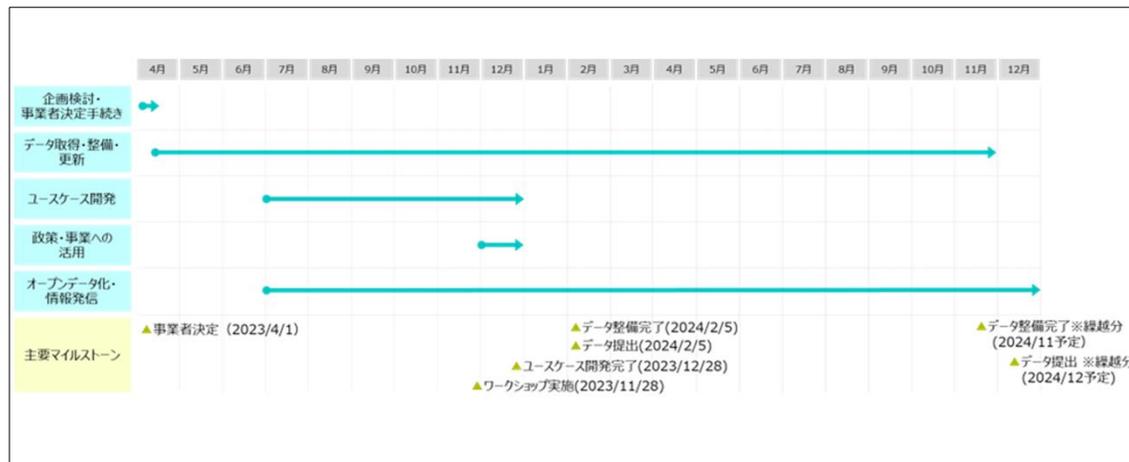
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

32.大阪府河内長野市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	99,337人（令和5年10月時点）
市域全域面積	109.63km ² （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	<p>昭和29年4月1日、長野町・三日市村・高向村・天見村・加賀田村・川上村が合併して大阪府内18番目の市制を施行し、河内長野市が誕生した。</p> <p>面積約109km²、北東部に近鉄南大阪線、また南海高野線が市域を縦走しており、大阪都市圏のベッドタウンとして急速に発展を遂げた。市域の約7割は森林が占めており、大阪府の土砂災害警戒区域の約20%が集中している。人口は約10万人だが、平成12年2月をピークに、少子高齢化が顕著となっている。</p>

■ 令和5年度スケジュール ※繰越



PLATEAU
by MLIT

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	可	5-15万	100-200	2-3千

担当部局	都市づくり部都市計画課
------	-------------

■ 補助事業実施項目

目標	人々に選ばれるまちづくりの実現（快適に暮らせるまち、観光で訪れるまち、効率的で便利なまち）
課題	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府の土砂災害警戒区域の約20%が集中しているなど、災害リスクが高いため、市民の防災意識のさらなる向上が必要。 少子高齢化の進展に伴い、公共交通再配置、新しいモビリティ支援（自動運転など）等、高齢者の生活利便性の改善が必要。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識を向上するとともに、今後の防災計画や避難経路を効果的に策定。 3D都市モデルを活用し、移動支援が必要な地区の抽出や移動手手段の検討、自動運転への活用可能性を検討し、移動支援検討会議に報告。

事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 市内全域の3D都市モデル整備事業（LOD1） 3D都市モデルの道路情報基盤データ整備（LOD3） 地形図の修正による共通基盤の整備
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスク・避難路可視化事業 3D都市モデルを活用した公共交通事業の検討
推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル等を活用した防災・まちづくりワークショップの開催 3Dビューワの開発

総事業費（予定）	9,675（万円） ※うちR5年度 2,726（万円）
----------	-----------------------------

R5年度補助執行額	1,362.9（万円）
-----------	-------------

補助対象外の関連事業	3D都市モデルを活用した公共交通事業の検討
------------	-----------------------

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEW搭載後、公開型GISを活用した情報ポータルサイトを構築
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	アジア航測(株)（データ整備）
	アジア航測(株)（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

32.大阪府河内長野市



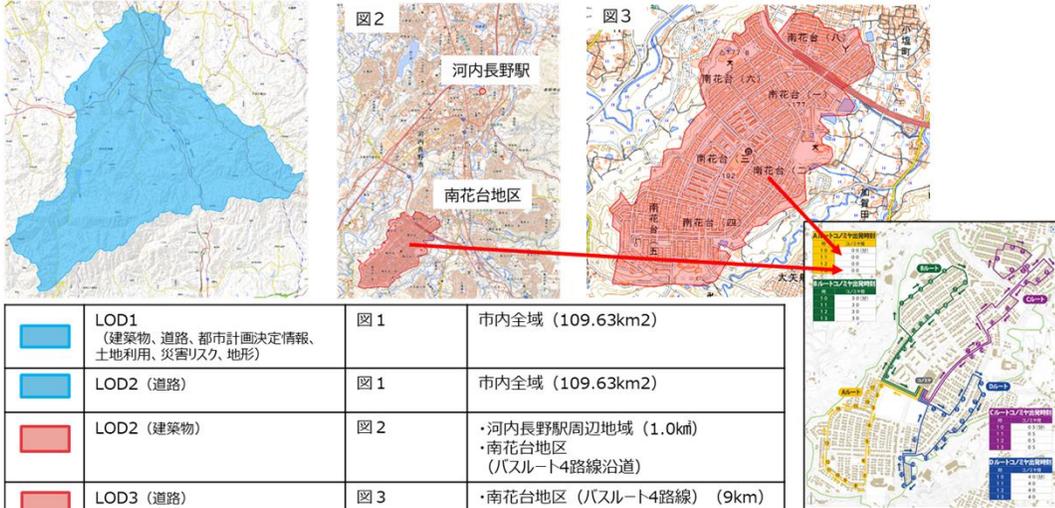
PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	市全域 R4全域整備 R6地形図更新データ反映	109.63km ²	R4年度整備 R6年度修正
LOD1	交通（道路）	R4年度に60km整備 R5市全域整備 R6更新	—	R4～6年度 新規整備
LOD1	都市計画決定情報 土地利用 地形	市全域	109.63km ²	R4年度整備
LOD1	災害リスク	市全域・浸水リスクを有する河川 (石川・天見川・石見川・加賀田川・西除川)	109.63km ²	R4年度整備
LOD2	建築物	河内長野駅周辺地域 南花台地区（バスルート4路線沿道）	1.0km ² 0.3km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD2	道路	R4年度に60km整備 R5年度に323km整備 R6年度に24km整備	—	R4～6年度 新規整備
LOD3	道路	南花台地区 (バスルート4路線) (9km)	—	R5年度新規整備

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H23年度	2,500
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
平面図	その他 (地番図（GISデータ）)	未定	—
平面図	大阪府DMデータ	H23年度	2,500
測量成果	既存資料 (航空写真)	R2年度	2,500
測量成果	MMSデータ	R5年度	—
測量成果	航空レーザデータ	R2年度	—
属性情報	建築確認申請	R5年度	—

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

32.大阪府河内長野市

■ ユースケース①概要

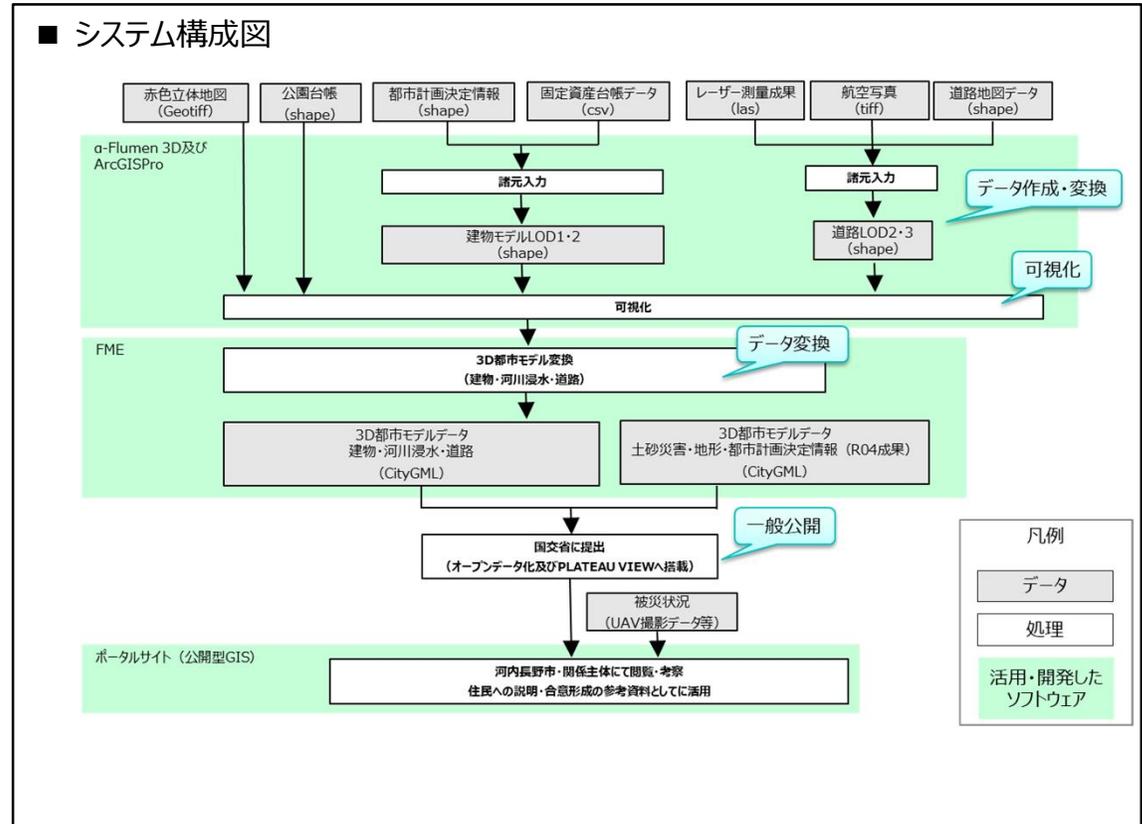
テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスク・避難路の可視化及び災害発災時の被災状況の共有
目的	災害時の避難場所・避難ルート of 可視化、災害時避難計画の住民への浸透、住民への災害リスク・危険性のイメージ喚起。
取組内容	<p>■ 社会的な課題 大阪府の土砂災害警戒区域の約20%が集中し、南海トラフ地震、大雨豪雨災害の発生が懸念されており、市民の安全確保対策が急務となっている。</p> <p>■ ユースケース開発の取り組み 災害リスク情報（洪水浸水想定区域等）を3D都市モデルにより三次元で視覚的に整備し、住民向けワークショップで参考資料として活用することで、住民の災害リスクを理解の促進を行う。 また、災害時に市の保有するドローン等で取得した被災状況の確認結果を3D都市モデルに重ね合わせ、オープンデータとすることで、被災状況の関係機関との共有の高度化を推進する。</p>
実施体制	アジア航測(株)

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	可	5-15万	100-200	2-3千



PLATEAU
by MLIT

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

32.大阪府河内長野市

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (名称、計測高さ)、道路LOD2 都市計画決定情報LOD1 (用途地域情報) 災害リスクLOD1 (土砂災害警戒区域)、地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報データ (都市計画・景観規制・環境規制等) 固定資産データ (地番図、家屋図等) 公園台帳データ (一時避難場所位置、面積、名称等) 道路地図データ、赤色立体地図データ
ユースケース 開発方法	3D都市モデルと三次元化した各種災害リスクデータを重ねあわせ、災害リスクを3Dビューアで可視化。(R4~R5年度)
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 住民説明会で可視化した災害リスクを示しワークショップなどを通じて、災害への意識を高める。(R4~R5年度) 発災時に被災状況をポイント表示登録して大阪府・警察等との情報共有を検証。(R6年度) 3D都市モデルおよび高精度道路地図等を一元的に可視化・管理するシステムを導入し、継続的な利活用を促進する。(R4~R6年度)
オープンデータ化 情報発信	公開型GISを活用した情報ポータルサイトを構築。

■ KPI

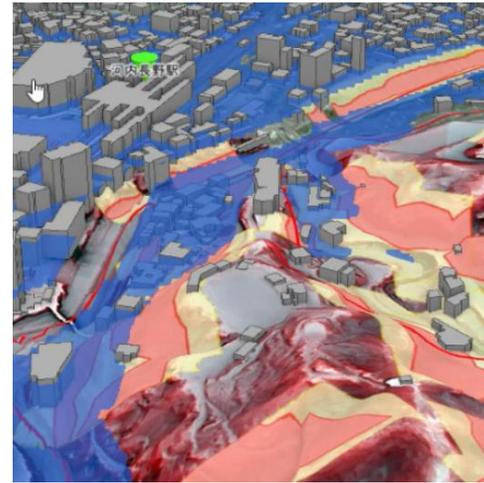
KPI	目標設定	達成状況
災害リスクの説明会参加者の肯定的評価 (%)	5割以上 (R4年度)	77.3% (R5年1月)
災害リスクの説明会参加者の肯定的評価 (%)	5割以上 (R5年度)	70.5% (R5年12月)
災害時避難行動の説明会の参加者の肯定的評価 (%)	5.5割以上 (R6年度)	R6年12月 計測予定

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	可	5-15万	100-200	2-3千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



災害リスクイメージ

土砂災害警戒区域、浸水想定区域
を重ね合わせた例
(河内長野駅周辺地域)



住民説明会の様子

末広地区、寺元地区の住民に対して、
災害リスクの説明会を実施

■ 今後の展望

整備した3D都市モデルデータに、被災状況（発災時に被災状況をポイント表示登録）などを重ね合わせ、大阪府・警察等の関係機関との効率的な情報共有方法を検証する。

検証結果は、災害時避難行動の説明会への報告するとともに、説明会の参加者にアンケートを取り、効果を検証する。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

32.大阪府河内長野市

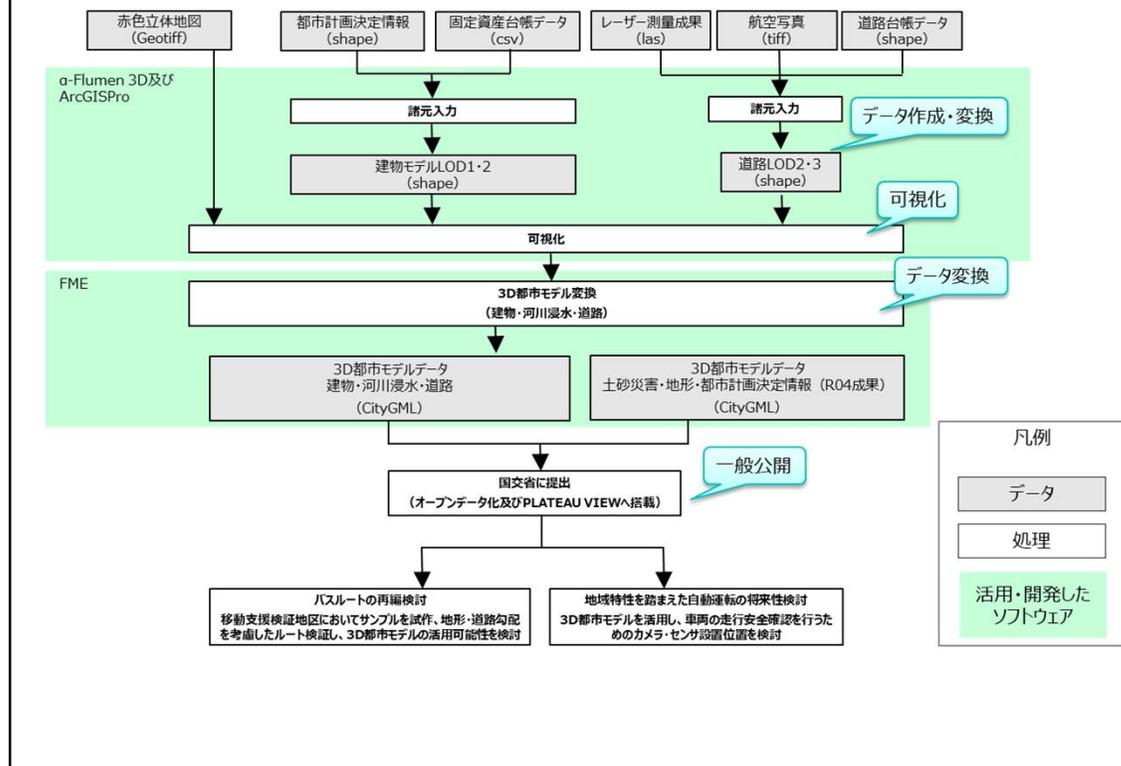
■ ユースケース②概要

テーマ	モビリティ・ロボティクス
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した公共交通事業の検討
目的	河内長野市における公共交通事業の最適化。
取組内容	<p>■ 社会的な課題 自動運転等の検討は南花台で実施中だが、将来的には地形的に不便な他の開発団地や交通空白地においても移動支援の検討を進める必要がある。</p> <p>■ ユースケース開発の取り組み（R6年度） 下記の2つのユースケースを実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル及び関連データセットを活用して、車両の自動走行安全確認を行うためのカメラやセンサーの配置位置の検討。 3D都市モデル及び整理した基礎情報をもとに、移動支援の手段を検討し、3D都市モデルの活用可能性を検証。 上記のユースケースで整備したデータは、地域の移動支援を考える会議等において検討資料として活用予定。
実施体制	アジア航測(株)

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	可	5 - 15万	100 - 200	2 - 3千



■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

32.大阪府河内長野市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・交	可	5-15万	100-200	2-3千



PLATEAU
by MLIT

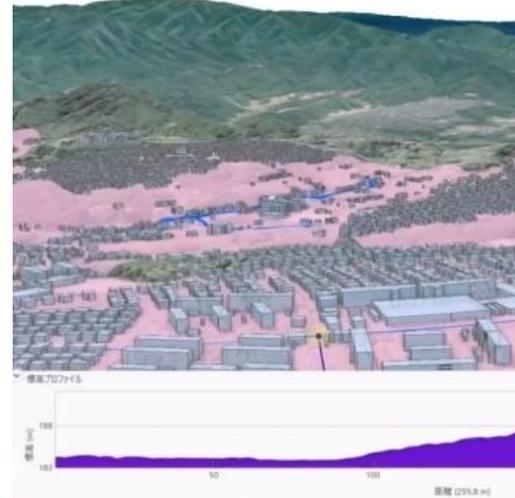
■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (名称、計測高さ)、道路LOD2・3 都市計画決定情報LOD1 (用途区域情報) 災害リスクLOD1 (土砂災害警戒区域)、地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画決定情報データ (都市計画規制、景観規制、環境規制等) 固定資産データ (地番図、家屋図、路線価、状況類似、所有者等) 道路地図データ、MMSデータ 赤色立体地図データ
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルと公共交通網、高さデータを付与したデジタル道路台帳、人口等を重ねて3Dビューアで可視化する。(R5年度) 移動支援のための基礎情報 (歩道有無、勾配) を整理する。(R5年度) 公共交通空白地の整理を行い、3D都市モデルと重ねて可視化する (R6年度)
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 南花台地区について、3D都市モデル及び関連データセットを活用して、車両の自動走行安全確認を行うためのカメラやセンサーの配置位置の検討を行う。(R6年度) 楠ヶ丘地区について、整理した基礎情報をもとに、移動支援の手段を検討し、3D都市モデルの活用可能性を検証する。(R6年度) 地域の移動支援を考える会議等において検討資料として活用。(R6年度)
オープンデータ化 情報発信	公開型GISを活用した情報ポータルサイトの構築。

■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
移動支援検討会議の参加者の肯定的評価 (%)	5割以上 (R6年度)	R6年12月 計測予定
移動支援検討会議の参加者の肯定的評価 (%)	5割以上 (R6年度)	R6年12月 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D都市モデルを用いた勾配分析イメージ

移動支援手段の検討における
3D都市モデルの活用可能性を検証。



道路LOD3整備イメージ

車両の自動走行安全確認のための
カメラやセンサーの配置位置の検討に
使う基礎資料。

■ 今後の展望

R6年度に下記のユースケースを行い、河内長野市の交通政策への活用を検討予定。

- ① 南花台地区について、建築物LOD2、道路LOD3などの3D都市モデルを活用し車両の自動走行安全確認を行うためのカメラやセンサーの配置位置の検討。
- ② 楠ヶ丘地区について、バスルートなどの移動支援の手段を検討への3D都市モデルの活用可能性を検証。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

33. 兵庫県たつの市

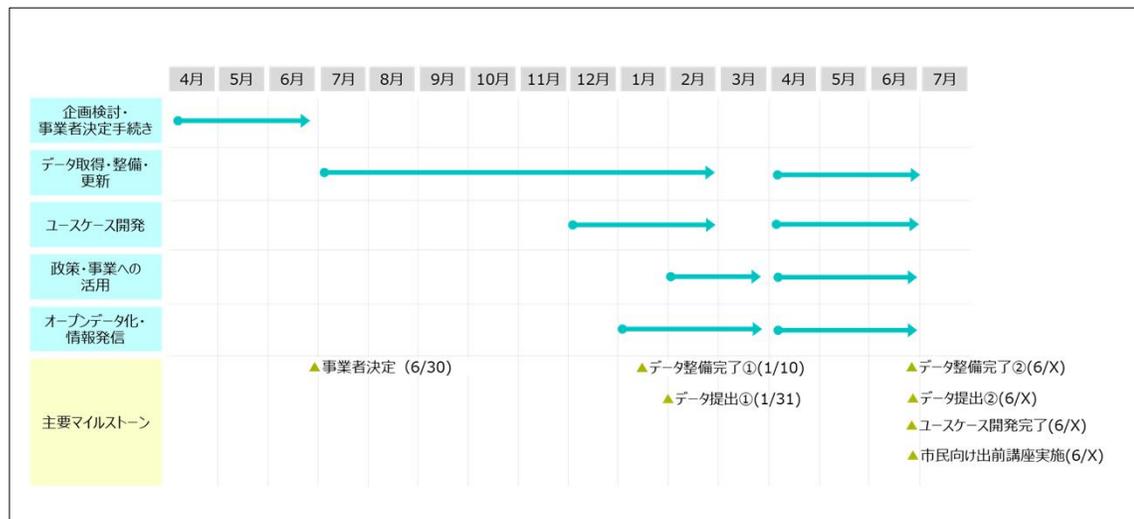


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	73,649人（令和5年3月末時点）
市域全域面積	210.87km ² （令和5年3月末時点）
主な産業 地域課題等	<p>兵庫県の南西部の西播磨地域に位置し、市域の北側は山地が広がり、南は瀬戸内海に面し、南北に貫く形で揖保川が流れている。豊かな風土が生み出した手延素麺や醤油醸造、皮革産業、かばん産業等の地場産業が根づく一方で、ハイテク産業や電機産業も発展を続けている。人口は約7.4万人。</p> <p>R5年度は、「未来応援 住みたいまち たつの ～夢を広げる未来のかたち～」を予算編成テーマに掲げ、活力と魅力ある力強いまちづくり等を目指し、龍野IC周辺まちづくりや小中一貫校整備、インクルーシブ公園の整備などに取り組むこととしている。</p>

■ R5年度スケジュール ※繰越



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	5-15万	200-500	5-10千
担当部局	都市政策部都市計画課			

■ 補助事業実施項目

目標	直感的な3D災害マップ作成による市民の防災意識の啓発、自己防災意識の向上
課題	ハザードマップ等の情報が複雑であり、最大限に活用されていない可能性がある。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 浸水シミュレーションデータを3D化し災害リスクをわかりやすく示すことで、市民の防災意識を向上させる。 その他、空き家の3D可視化による過疎対策に向けた土地活用シミュレーションや周辺景観シミュレーションによる市内の自然の魅力発信など、災害対策以外にも活用を検討する。
事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図修正に係る調査等 3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討 ユースケース開発に係る調査検討
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備 (LOD1) 3D都市モデル整備 (LOD2) 都市計画基本図修正
ユースケース開発	浸水シミュレーションデータの3D可視化による市民の防災意識啓発事業
推進事業	3D対応GISシステム導入
総事業費	6,398.4 (万円)
R5年度補助執行額	3,154.2 (万円)
補助対象外の関連事業	-
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ】 たつの市ホームページに掲載 【3D都市モデル/UCデータ】
R5年度受託事業者	<p>株式会社パスコ神戸支店（データ整備）</p> <p>株式会社パスコ神戸支店（ユースケース開発）</p>

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

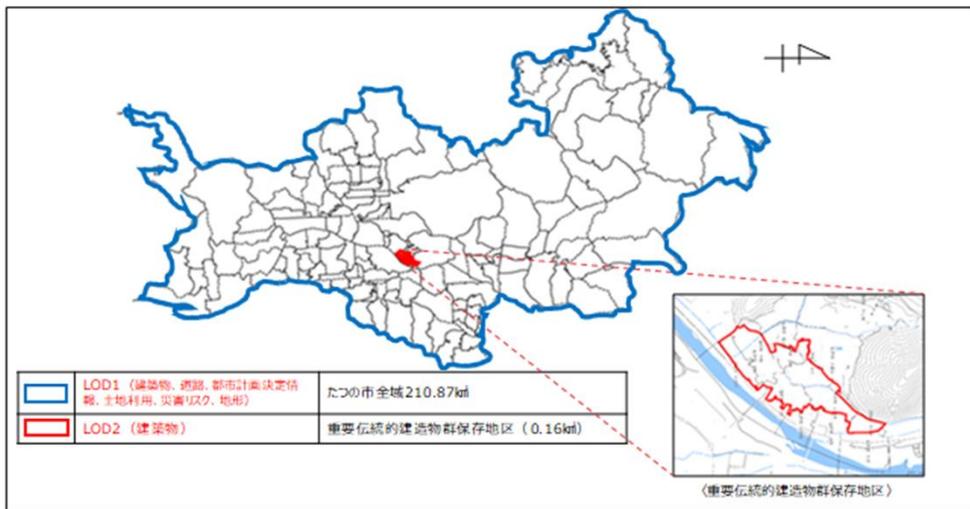
33. 兵庫県たつの市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	たつの市全域	210.87km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	重要伝統的建造物群保存地区	0.16km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

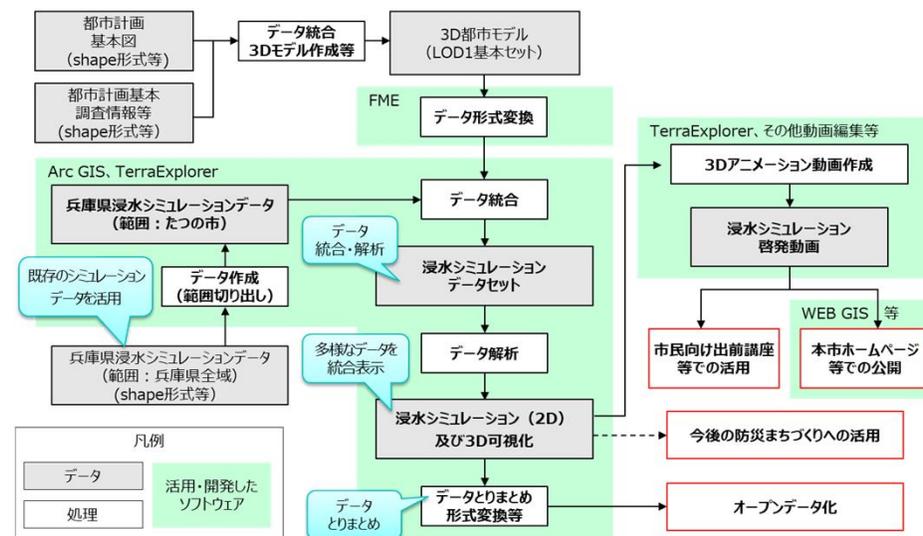


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基本調査（既存）	R4年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	浸水シミュレーションデータの3D可視化による市民の防災意識啓発事業
目的	災害時を想定した市民の防災意識の向上とマイ・タイムラインの検討
取組内容	ハザードマップ等の情報が複雑であり、最大限に活用されていない可能性があることから、市域全域を対象とし、防災マップの災害リスク情報を3Dで表示する。これを用いた住民向けワークショップを実施することで、市民に分かりやすく災害リスクを理解してもらい自己防災意識を啓発する。リスク回避に向けた災害対策の見直し検討に活用する。
実施体制	株式会社パスコ神戸支店

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

33. 兵庫県たつの市

■ ユースケース開発方法

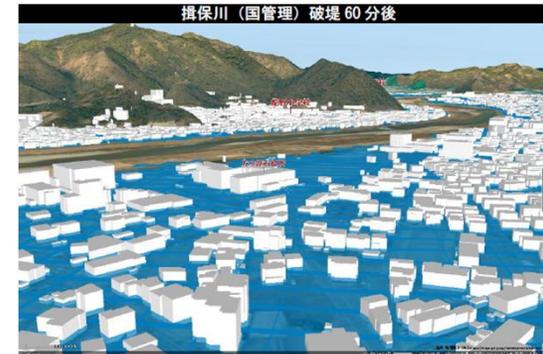
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (建物高さ・形状) 建築物LOD2 (建物高さ・形状) 都市計画決定情報LOD1 (たつの市域全域 (210.87km²)) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 浸水シミュレーションデータ 家屋図データ (重要伝統的建造物群保存地区内の建物図形データ)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> FMEを使用し変換した3D都市モデルに兵庫県浸水シミュレーションデータを重ね合わせ、時系列での3D浸水シミュレーションを3D対応のGISビューア内で可視化する。 3D都市モデル上に浸水シミュレーションデータを重ね、時間ごとの浸水範囲及び建物の浸水状況・高さを可視化する。
政策・事業での活用	可視化したシミュレーションデータを活用し、市民向け出前講座等を実施するとともに、市のホームページで公開する。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 3Dシミュレーションデータをたつの市ホームページに掲載 G空間情報センター及びPLATEAU VIEWへの掲載

■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解度 (%)	80% (R5年度)	R6年度 計測予定

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	5-15万	200-500	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



建物(LOD1)と洪水浸水想定の上重表示

市域全域を対象として作成するLOD1と浸水シミュレーションデータをテラエクスプローラーで3D可視化したもの。作成する河川については、市内の河川から主なものとして5河川程度を選定し、浸水範囲が市域全域となるように進めている。



建物(LOD2)と洪水浸水想定の上重表示

重要伝統的建造物群保存地区を対象として作成するLOD2と浸水シミュレーションデータをテラエクスプローラーで3D可視化したもの。作成する河川については、地区に接し、被害規模の大きい揖保川のみとしている。

■ 今後の展望

今回は河川の洪水浸水シミュレーションだけであるが、河川氾濫以外の防災の他、重要伝統的建造物群保存地区をLOD2整備しており、それを活用した災害時における避難経路を検討・地区防災計画の策定、修理修景事業での活用や観光分野での活用を検討していきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

34. 兵庫県三木市

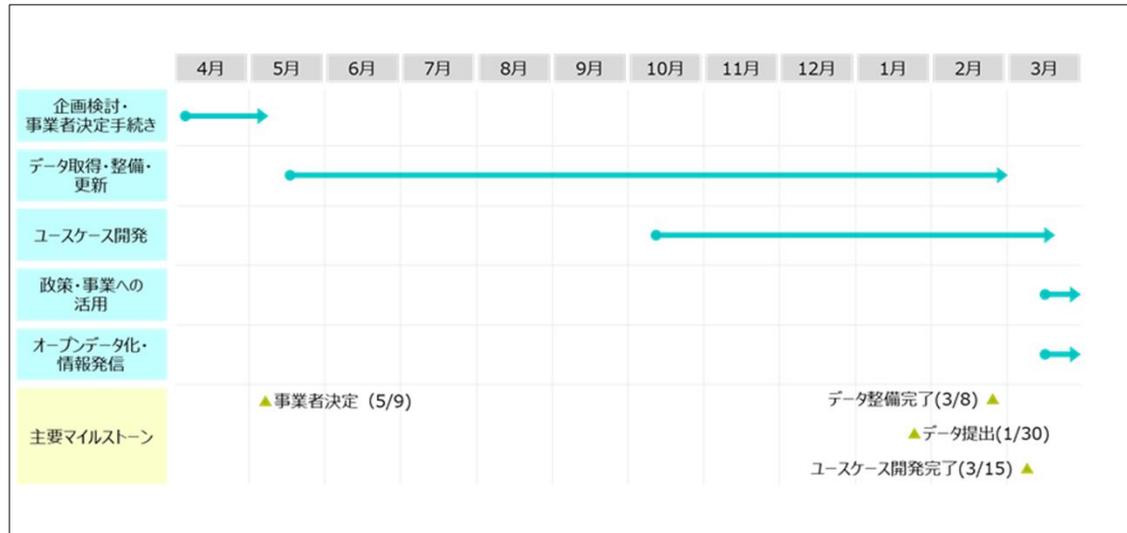


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約74,000人（令和6年2月時点）
市域全域面積	176.51km ² （令和6年2月時点）
主な産業 地域課題等	<p>兵庫県の南東に位置し、美囊川周辺には平野部が広がり、それを囲むようになだらかな丘陵地、台地で構成され緑豊かな自然に恵まれている。金物産業が主要で「金物のまち」として全国的に知られている。また、山田錦の生産量、品質が全国一。</p> <p>優れた高速道路網が形成されており、ゴルフ場の数は25か所で西日本の市町村中最多。</p> <p>スマートシティモデル地区に採択、少子高齢化や旧市街地の活力低下が課題。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	5-15万	100-200	5-10千

担当部局	都市整備部都市政策課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	子供から高齢者まで必要に応じた暮らしの支援、安全・安心に暮らせる環境の整備、まちの魅力の向上
課題	<ul style="list-style-type: none"> 大雨時の被災予測による災害リスクの認識と効果的対応の検討。 市民の防災意識の向上。 洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識が向上する。 洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発。
事前調査等	—
3D都市モデル 整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備に向けた都市計画図修正業務 3D都市モデル整備 (LOD1) 3D都市モデル整備 (LOD2)
ユースケース 開発	<ul style="list-style-type: none"> 防災マップの啓発資料の作成 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	—

総事業費	7,150 (万円)（うち補助対象 6,461.6万円）
------	------------------------------

R5年度補助執行額	3,230.8 (万円)
-----------	--------------

補助対象外の 関連事業	<ul style="list-style-type: none"> 地図の縮小編纂 出力用データ作成
----------------	-----------------------------------------------------------------------------

オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 市ホームページへの掲載【ユースケース】
-----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度 受託事業者	株式会社パスコ（データ整備）
	株式会社パスコ（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

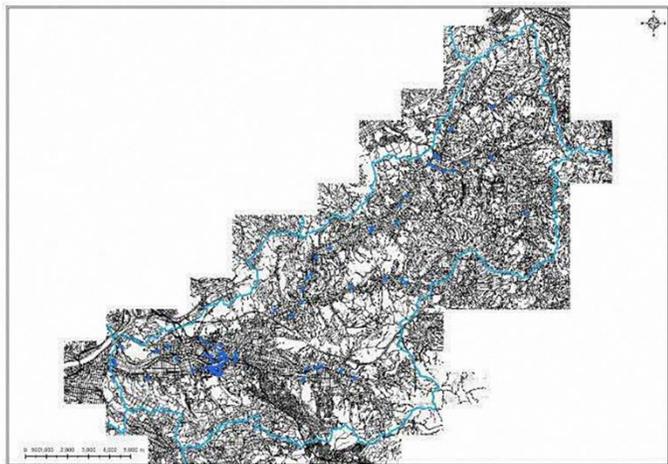
34. 兵庫県三木市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	三木市全域	176.51km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	市内点在	浸水想定区域内の避難施設 市内約75か所	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

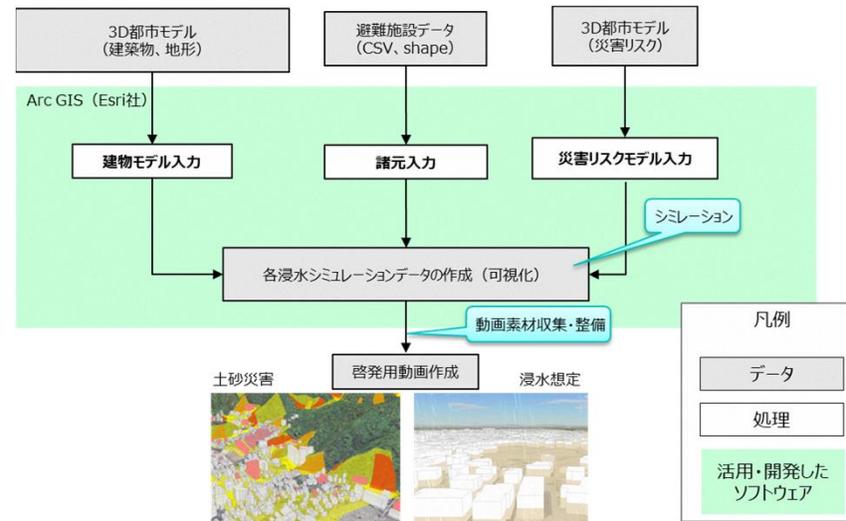


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査	R2年度～R4年度	—

■ ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した防災マップの啓発資料
目的	大雨時の被災予測による災害リスクの認識、洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発。
取組内容	3D都市モデル整備で作成するハザードデータ等を活用して、洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発を図るための動画作成を行う。
実施体制	株式会社パスコ

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

34. 兵庫県三木市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	5-15万	100-200	5-10千

■ ユースケース① 開発方法

活用データ (3D都市モデル)。	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (計測高さ) 地形LOD1 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップの内容をもとに、市で想定される被害やハザードマップの利用方法について紹介する動画のシナリオ及び台本を作成。 視聴者が市の地形を直感的に理解しやすくするために、3次元地形モデルによる動画素材を整備。 ハザードマップの周知・啓発を図るための動画作成。 ナレーション、BGMが挿入された3次元地形モデルによる動画をYouTubeにアップロード可能なファイルサイズ、形式等で作成する。
政策・事業での 活用	作成した成果をホームページに公開すると共に、住民向けの説明会やワークショップで活用する。
オープンデータ化 情報発信	洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発を図るための動画を三木市ホームページに掲載。

■ KPI

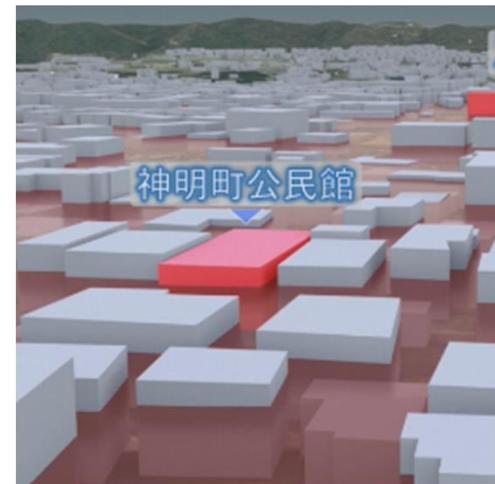
KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解促進 (%)	90% (R6年度)	R7年1月3週 計測予定
洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発 (人)	15,000人 (R5年) 17,500人 (R6年)	R6年度 計測予定

※ユースケース開発完了が3月中旬となり、ホームページ等への公開が年度末となったため、R5年度はKPI計測できなかった。

■ ユースケース開発成果イメージ図



建築物と洪水浸水想定区域(L2)の3D都市モデルを重ね合わせ、浸水が想定される範囲を三次元で可視化。浸水するエリアを俯瞰撮影した映像を動画内に掲載した。



洪水浸水想定区域(L2)を浸水ランクで色分け表示を行い、建築物が浸水する状況を撮影し、動画内で美囊川沿い等における浸水リスクを説明する際に使用した。

■ 今後の展望

ホームページに掲載する動画を多くの方に見ていただくため、広報への掲載や記者発表を行うなど、積極的なPRを行う。
防災に関する説明会やワークショップで活用し、住民の防災意識の向上に役立てる。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

34. 兵庫県三木市

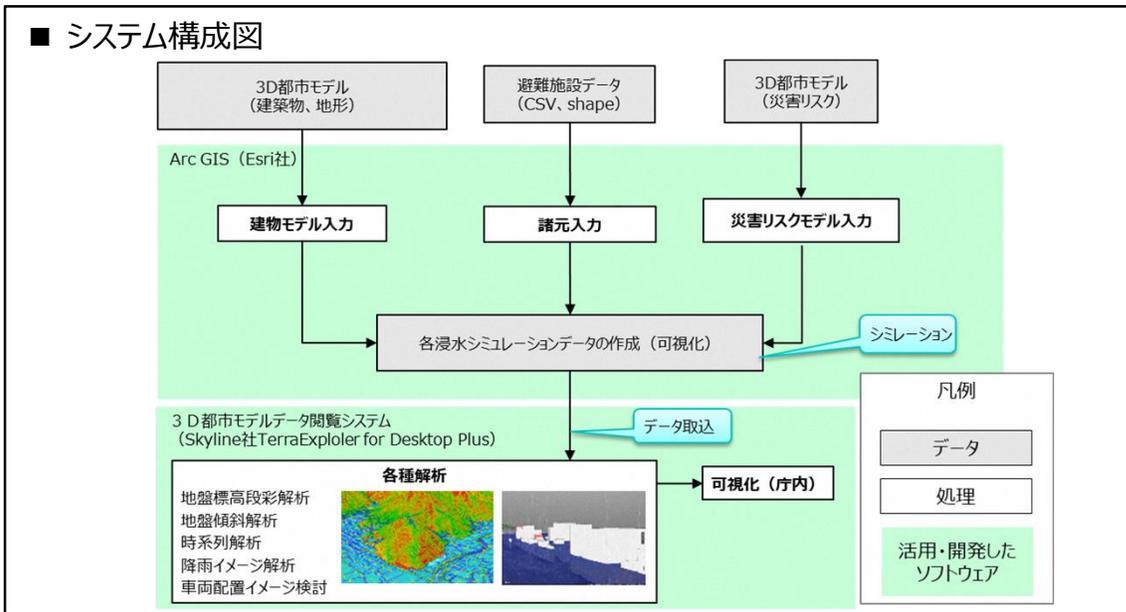
■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	大雨時の被災予測による災害リスクの認識と効果的対応の検討。
取組内容	避難施設をLOD2で作成し、扉や窓等の可視化により、建物のどの辺りまで浸水するのかを分かり易く示す。 地域住民や施設管理者に対して、具体的に災害リスクを認識していただく。 視覚的に分かり易く表現した3D災害リスクデータを閲覧できるビューアを整備したスタンドアロン方式のパソコンを導入し、地域住民への説明や庁内で活用する。
実施体制	株式会社パスコ

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	5-15万	100-200	5-10千



■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

34. 兵庫県三木市

■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (計測高さ) 地形LOD1 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査を行い、建物の側面や建物の壁面等の写真を撮影し、テクスチャモデルを作成した避難所のLOD2データを基に、土砂災害警戒区域や浸水被害想定区域と重畳させた3D災害リスクデータを作成。 実装した3D都市モデルデータを閲覧・操作するための3D都市モデルデータ閲覧システムを導入し動作を確認。
政策・事業での 活用	3D災害リスクデータを視覚的に分かり易く表現し、地域住民への説明や庁内で閲覧・活用する。
オープンデータ化 情報発信	洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発を図るための動画を三木市ホームページに掲載。

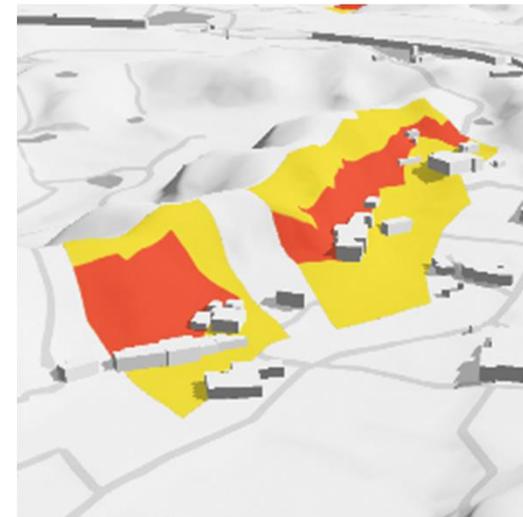
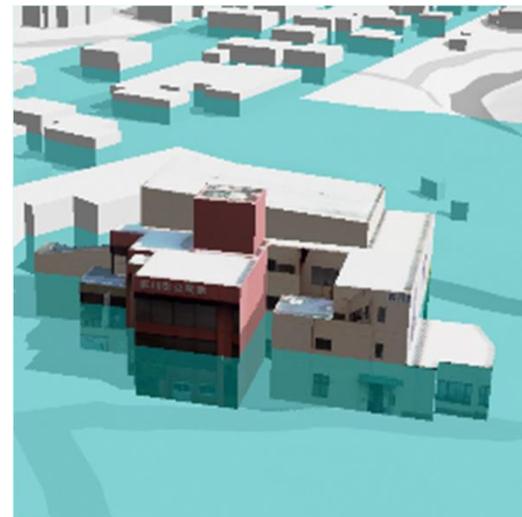
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解促進 (%)	90% (R6年度)	R7年1月3週 計測予定
洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発 (人)	15,000人 (R5年) 17,500人 (R6年)	R6年度 計測予定

※ユースケース開発完了が3月中旬となり、ホームページ等への公開が年度末となったため、令和5年度はKPI計測できなかった。

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	5-15万	100-200	5-10千

■ ユースケース開発成果イメージ図



建築物と災害リスクデータ（洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域）を重畳させることにより、視覚的に分かり易く表現した。

指定避難所については、壁面にテクスチャを貼ることで、建物のどの辺りまで浸水するのかを確認することができ、垂直避難の可否を検討することができる。

■ 今後の展望

今回は防災のユースケースにとどまっているが、3D都市モデルデータ閲覧システムを導入することから、都市計画変更時の検討や各種計画策定時の基礎資料作成に活用したい。

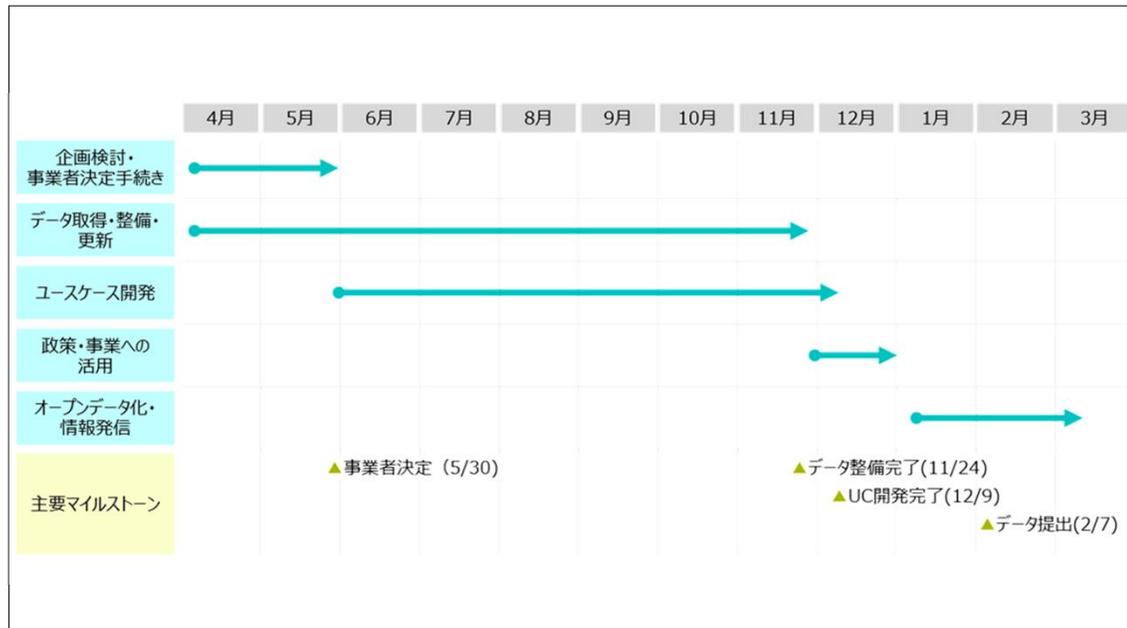
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

35.和歌山県和歌山市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約360,000人（令和2年10月時点）
市域全域面積	209km ² （令和4年4月時点）
主な産業 地域課題等	紀伊半島の北西部に位置する中核市であり、市の中央部を紀の川が東西に流れ、北部は和泉山脈、北西部から南部は紀淡海峡や和歌浦湾に面している。人口は約36万人である。 紀州藩の城下町であり、関西国際空港、第二阪和国道、京奈和自動車道、JRきのくに線等によりアクセスしやすい地理的条件である。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	200 - 500	1千未満
担当部局	都市計画部都市計画課			



■ 補助事業実施項目

目標	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまちの実現
課題	和歌山市の市街化区域の約5割が津波浸水想定区域（南海トラフ巨大地震）にあたり、防災対策が急務。
創出価値	大規模災害発生時、いち早く復興に取り組むことができるように、3D都市モデルを活用することで想定される被害やまちづくりの課題を事前に把握しやすくする。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデルの属性拡張
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した事前復興準備への活用事業
推進事業	—

総事業費	572.0（万円）
R5年度補助執行額	286.0（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 和歌山市ホームページにてG空間情報センターへの誘導【3D都市モデル/UCデータ】
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	アジア航測株式会社（データ整備）
	アジア航測株式会社（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

35. 和歌山県和歌山市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	【R4】和歌山市全域 【R5】建物構造（木造・非木造区分）、建物階（地上階）及び津波避難施設の属性を追加。	209km ²	R4年度整備済 R5年度拡張
LOD1	交通（道路） ※国直轄事業にて整備 土地利用 災害リスク 地形	和歌山市全域	209km ²	R4年度整備済 （更新無し）
LOD1	都市計画決定情報	【R4】和歌山市全域 【R5】都市計画道路のみ新規整備	209km ²	R4年度整備済 R5年度更新
LOD2	建築物	【R4】15棟程度 【R5】R4年度整備地物について、建物構造（木造・非木造区分）、建物階（地上階）及び津波避難施設の属性を追加。	—	R4年度整備済 R5年度拡張

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

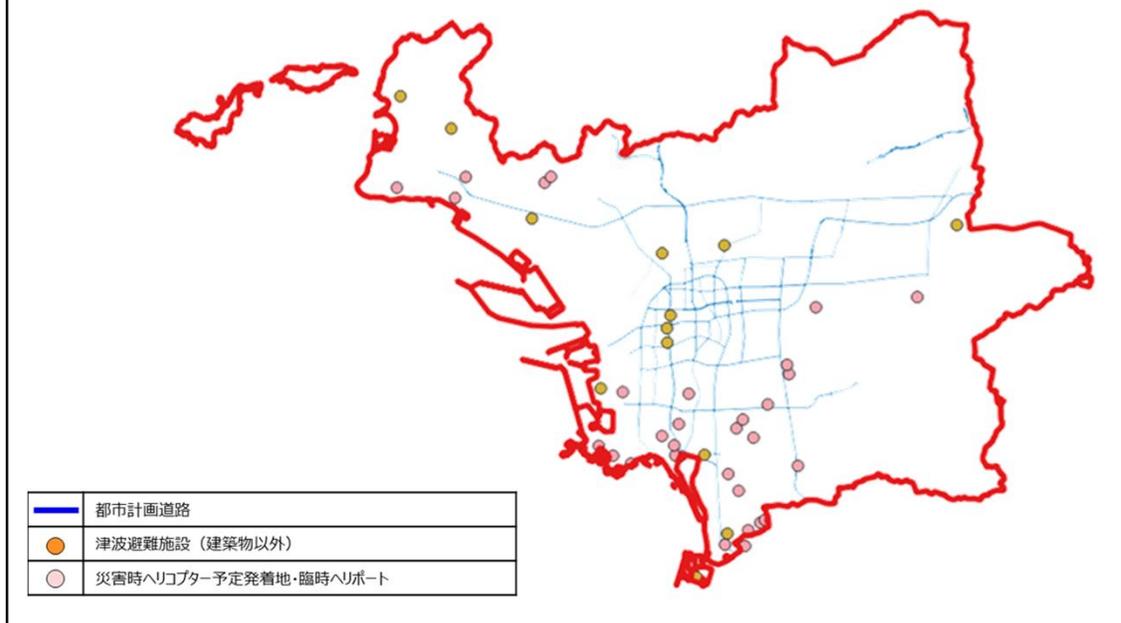
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	汎用都市オブジェクト ※津波避難施設（建築物以外）	和歌山市全域ポイントデータ	209km ²	R5年度新規整備
LOD1	汎用都市オブジェクト ※災害時ヘリコプター予定発着地・臨時ヘリポート	和歌山市全域ポイントデータ	209km ²	R5年度新規整備

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	200 - 500	1千未満



PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	R4年度	2,500
平面図	その他 （避難場所及び避難所情報一覧）	R4年度	その他 （緯度経度）
平面図	その他 （災害時ヘリコプター予定発着地・臨時ヘリポート情報一覧）	R4年度	その他 （紙図面）
測量成果	—	—	—
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R2年度	—

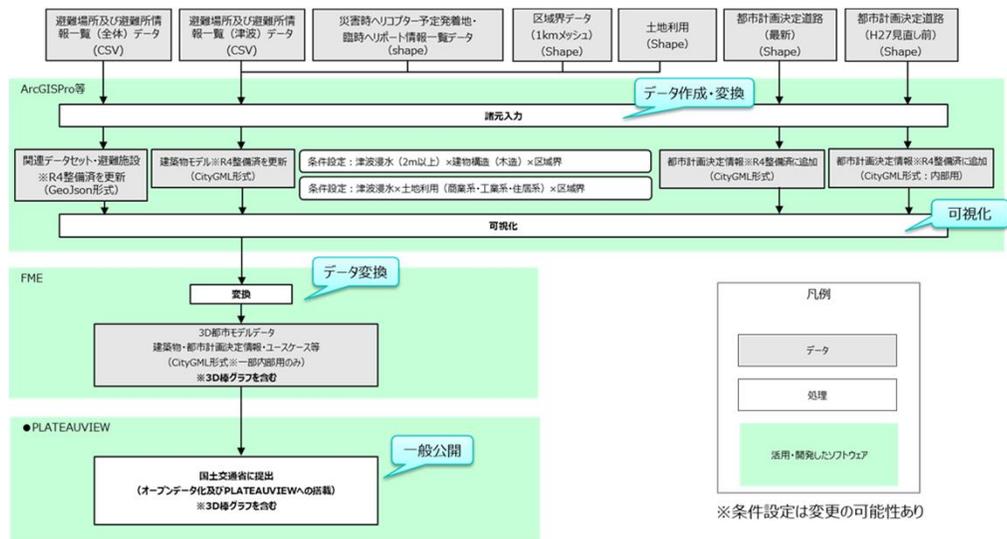
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

35.和歌山県和歌山市

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した事前復興準備への活用事業
目的	事前復興準備に3D都市モデルを活用し、まちの課題を集約する。
取組内容	南海トラフ地震における被災想定建築物等を可視化。 事前復興準備に関する庁内協議で活用。
実施体制	アジア航測株式会社

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (建物用途、建物高さ、建物構造、建物階数、災害リスク情報) 都市計画決定情報LOD1 (都市計画道路) 災害リスクLOD1 (津波浸水想定区域 (南海トラフ巨大地震)) 汎用都市オブジェクトLOD1 (災害時ヘリコプター予定発着地・臨時ヘリポート)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 土地利用別浸水面積可視化データ 被災想定建築物可視化データ
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 土地利用別の浸水想定面積を3D棒グラフで可視化する。 津波浸水2.0m以上の区域内に存する木造建築物数を3D棒グラフで可視化する。
政策・事業での 活用	防災業務 (事前復興準備) への活用が効果的であると感じる人の割合 (アンケート) を調査し、課題について整理をおこなう。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山市オープンデータカタログサイトにてG空間情報センターへの誘導。 PLATEAU VIEWへユースケースデータ掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災業務への活用が効果的であると感じる人の割合 (%)	60% (R5年度)	80.3%

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

35. 和歌山県和歌山市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	200 - 500	1千未満

■ ユースケース開発成果イメージ図



土地利用別浸水面積可視化データ
(上から、住宅用地、商業用地、工業用地)
高さ：メッシュ内の各土地利用面積
色：各土地利用の浸水割合



被災想定建築物可視化データ
高さ：浸水深2m以上の区域内に存
する木造建築物の棟数
色：メッシュ内の最大浸水深

■ 今後の展望

今後、庁内セクションごとに、事前復興準備に関する検討をより具体性を持たせて進める中で、3D都市モデル及びR5ユースケースデータを積極的に活用し、検討の深度化を図りたい。

また、3D都市モデルを活用した、交通事故発生リスクの評価を実施し、通学路交通安全プログラムの高度化につなげたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

36. 広島県

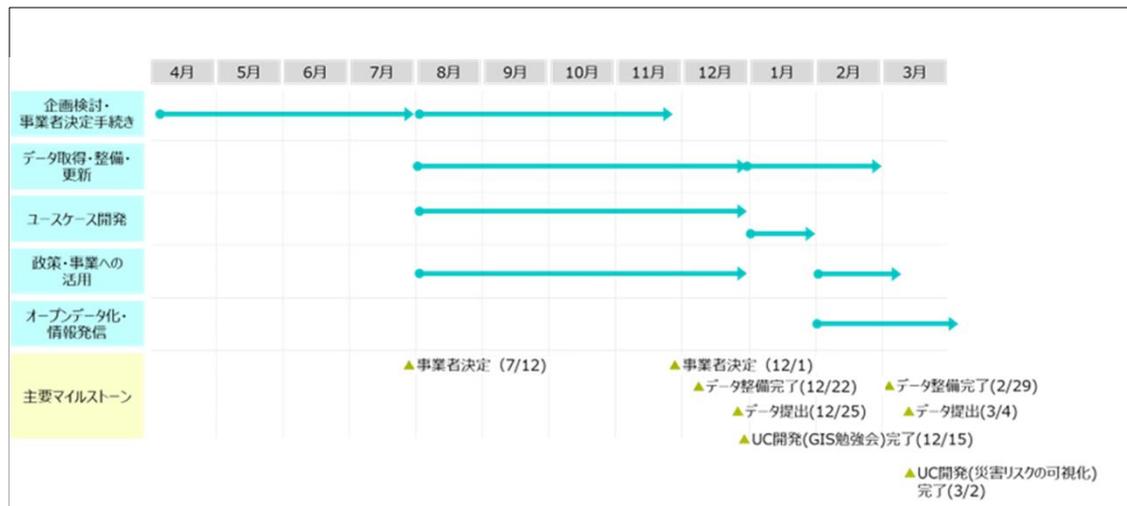


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	23,171人(竹原市) (令和5年10月時点)
市域全域面積	竹原都市計画区域 118.3km ² (令和5年10月時点)
主な産業 地域課題等	<p>竹原市は、広島県沿岸部のほぼ中央に位置し、瀬戸内海の豊かな自然と温暖な気候に恵まれている。市内南北を2級河川「賀茂川」「本川」が流れ、周囲は朝日山を中心に三方を山に囲まれている。竹原市の特色を活かし“住みやすさ”“暮らしやすさ”に磨きをかけ、暮らしの満足度を向上させるため、将来都市像に「暮らし誇らし、竹原市」を掲げ、まちづくりを展開することとしている。</p> <p>3D都市モデルを活用し災害リスクを可視化することで、災害に強く、暮らしの満足度が高いまちづくりを実現する。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	1-2千
担当部局	土木建築局都市計画課			

■ 補助事業実施項目

目標	自助・共助・公助が一体となった災害に強い都市の実現
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市民の防災・減災に対する意識の醸成や知識の普及。 正確な情報を迅速かつ的確に伝えていく手段の構築。 災害発生時に行政・地域・企業等が一丸となった対応。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルと土砂災害ハザードや洪水・高潮・津波の浸水想定区域などの災害リスク情報を3Dマップ上で重ね合わせ、災害リスクをより分かりやすく可視化することで、住民の防災意識を醸成。 住民向け防災講座等で活用し、防災情報メールの登録を促進。
事前調査等	-
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基礎調査 3D都市モデル整備 (LOD1)・3D都市モデル整備 (LOD2)
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 GIS活用勉強会
推進事業	-
総事業費	1,652 (万円)
R5年度補助執行額	826 (万円)
補助対象外の関連事業	-
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 広島県オープンデータサイトDoboXへの掲載【3D都市モデル】
R5年度受託事業者	<p>アジア航測株式会社 (データ整備)</p> <p>アジア航測株式会社(ユースケース開発:災害リスク可視化、GIS勉強会) 中電技術コンサルタント株式会社 (ユースケース開発:災害リスク可視化)</p>

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

36. 広島県

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	1-2千



PLATEAU
by MLIT

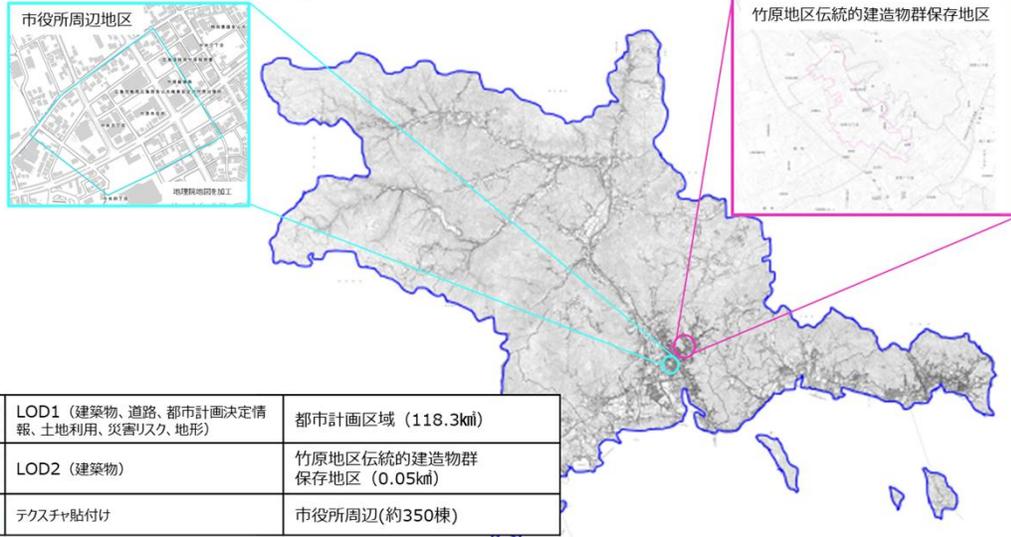
3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	竹原都市計画区域 テクスチャ貼付け	118.3km ² 約350棟	R5年度新規整備
LOD1	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	竹原都市計画区域	118.3km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	竹原地区伝統的建造物群 保存地区	0.05km ²	R5年度新規整備

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（既存）	H25年度	2,500
測量成果	既存資料（航空レーザー）	H30年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（新規）	R5年度	—

3D都市モデル整備エリア図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

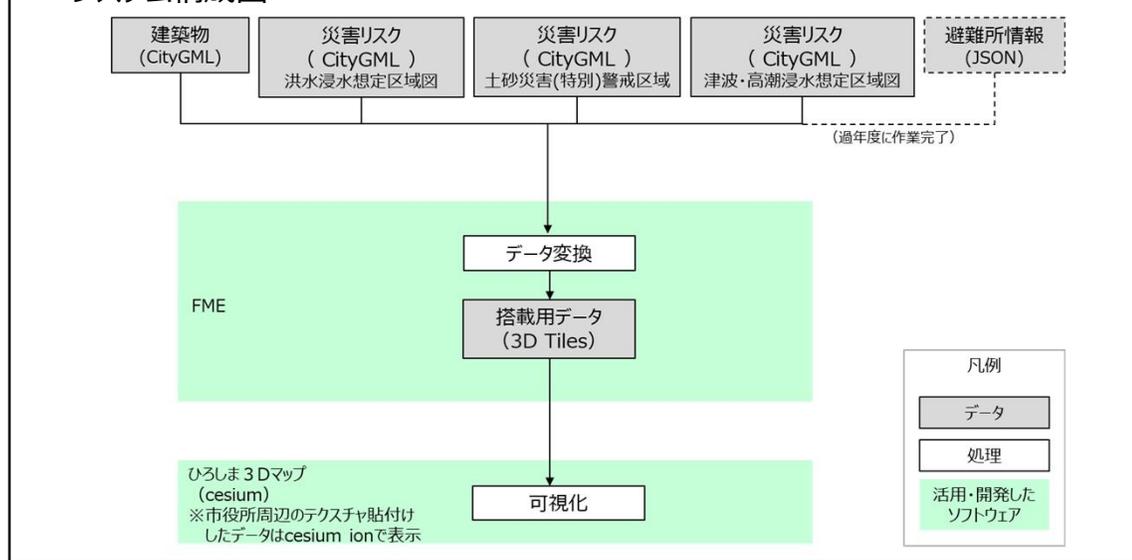
36. 広島県

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	1-2千

■ ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	住民の防災意識の醸成。
取組内容	3D都市モデルに避難所情報を重畳し、災害リスクをわかりやすく可視化する。 住民向けの防災講座等で活用し、防災情報メールの登録促進に取り組む。
実施体制	アジア航測株式会社、中電技術コンサルタント株式会社、竹原市

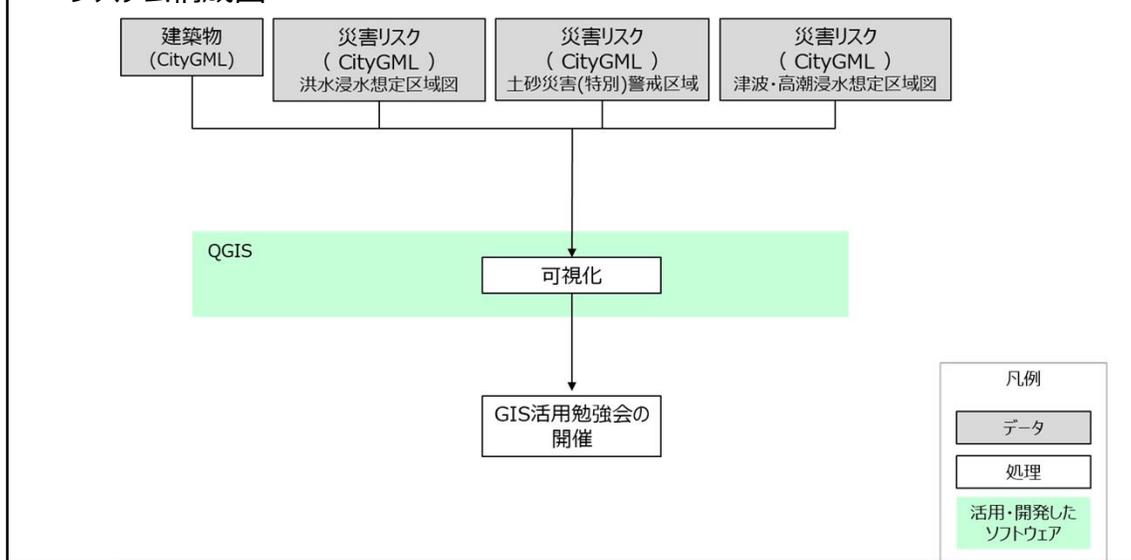
■ システム構成図



■ ユースケース②概要

テーマ	その他
ユースケース名称	GIS活用勉強会
目的	都市計画基礎調査等（3D都市モデルを含む）の活用を推進するための研修活動。
取組内容	GISシステムを活用することで、都市計画基礎調査情報等の必要なデータに3D都市モデルを重畳し、データの利用者が、それぞれの地域課題の解決に向けた簡易な分析ができるようになることを目指して行政職員及び民間企業向けの研修活動を行う。
実施体制	アジア航測株式会社

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

36. 広島県

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (用途、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域、津波・高潮浸水想定区域図)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるようにFMEを活用して、3D Tilesに変換。 DoboXの「3Dマップ」を活用して、統合表示。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 竹原市の3D都市モデルに避難所情報を重畳し、インフラマネジメント基盤「DoboX」にて公開。 住民向け防災講座等で活用し、防災意識の醸成を図るとともに、竹原市防災情報メールの登録促進を図る。
オープンデータ化 情報発信	インフラマネジメント基盤「DoboX」にて公開。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災情報メール累計登録者数 (人)	2,700人 (R5年度時点)	3,649人 (R6年3月時点)

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	1-2千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



竹原市防災講演会で活用

3D都市モデルを活用した災害ハザード情報の確認方法や、竹原市防災情報メールについて説明。



3D都市モデルの可視化

DoboXの「3Dマップ」で3D都市モデルを確認することが可能。

■ 今後の展望

防災情報メールの登録者の増加を目指して、引き続き防災講座等での活用を検討する。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

36. 広島県

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (用途、計測高さ、地上階数) 災害リスクLOD1 (浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域、津波・高潮浸水想定区域図)
活用データ (上記以外)	—
ユースケース 開発方法	GIS活用勉強会において、自らが都市計画基礎調査情報等(3D都市モデル含む)の可視化方法及び分析方法を習得し、それらのデータの利活用を推進することで、データ利用者の理解度を向上させることによって今回整備した3D都市モデルの活用推進を目指す。
政策・事業での 活用	QGISを利用して都市計画基礎調査情報(3D都市モデル含む)に必要なデータを重畳し、利用者自らがそれぞれの地域課題の解決に向けた簡易な分析ができるようになることを目指して研修活動を行う。
オープンデータ化 情報発信	インフラマネジメント基盤「DoboX」にて公開。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
勉強会の理解度 (%)	50%以上	92%

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防・他	可	15万以上	500以上	1-2千



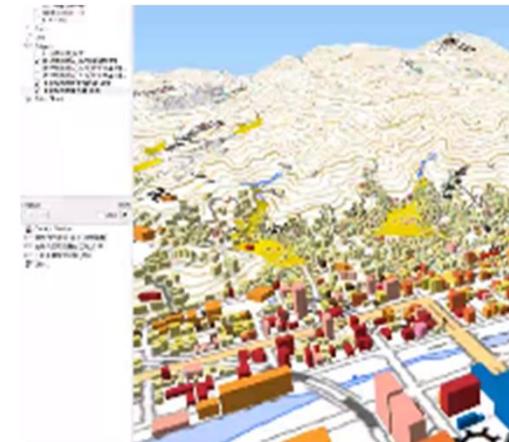
PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



行政及び民間企業向けの GIS研修で活用

都市計画基礎調査情報(3D都市モデル含む)を活用した地域課題の解決に向けた簡易な分析方法を説明。



3D都市モデルの可視化

QGIS上で3D都市モデルを確認することが可能。

■ 今後の展望

データの利活用に向けた活動を今後検討する。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

37. 鳥取県米子市

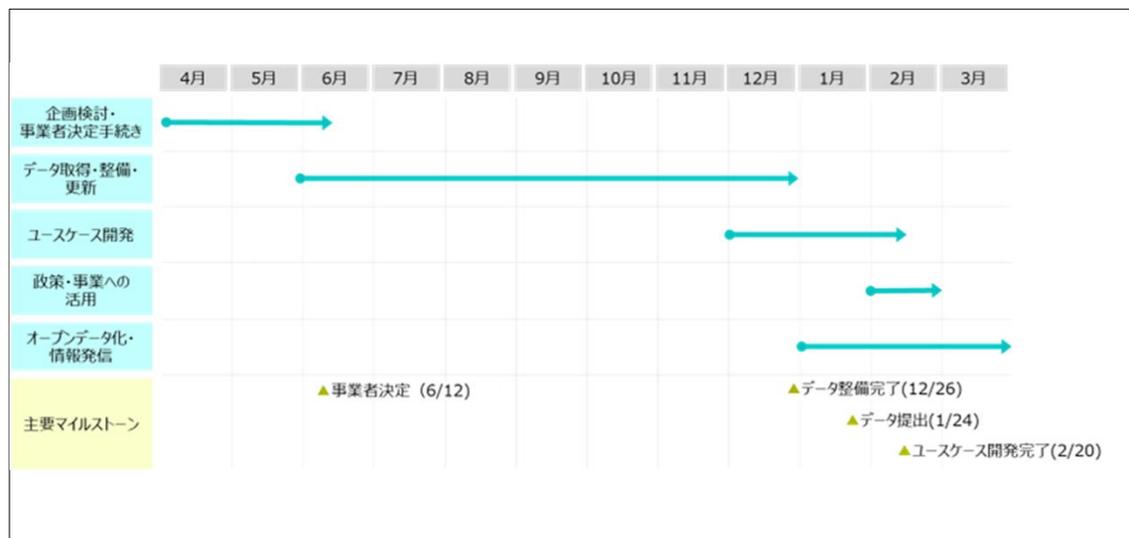


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	145,213人（令和5年10月時点）
市域全域面積	132.42km ² （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	<p>豊かな自然環境であるが故に、洪水浸水などの水害のリスクを有しており、特に郊外における人口減少や高齢化による地域コミュニティの低下も課題となっている。国土強靱化による災害リスクの低減や地域コミュニティの維持、スマートシティによる独自のまちづくり政策を推進する必要がある。</p> <p>3D都市モデルを活用し、都市計画立案の検討や窓口業務の効率化、民間開発における情報収集の効率化の課題を解決する。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	5-15万	100-200	5-10千
担当部局	総合政策部都市創造課			

■ 補助事業実施項目

目標	DXの推進によるEBPMに基づく市民サービスの向上
課題	市全体の約5割が洪水浸水想定区域（想定最大規模）にあり、特に観音寺地区などにおいては3m以上の浸水が想定され防災対策を行う必要があるとともに、「歩いて楽しいまちづくり」の実現のため、本市の魅力を視覚的にアピールする必要がある。
創出価値	3D都市モデルを活用し、災害リスクを3D都市モデルによる可視化することで地域の災害リスクの可視化や避難ルートの具体的検討を行っていくとともに、3D都市モデルに都市計画関連の情報を重ね合わせ、様々な視点から本市の魅力を検討しステークホルダーと共有。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図更新 航空測量 3D都市モデル整備（LOD1・LOD2）
ユースケース開発	都市空間に関する情報の集約による行政事務の効率化
推進事業	3D都市モデルビューワ整備
総事業費（予定）	16,169（万円） ※うちR5年度 5,762.4（万円）
R5年度補助執行額	2,881.2（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 米子市HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載予定
R5年度受託事業者	国際航業株式会社（データ整備） 国際航業株式会社（ユースケース開発）

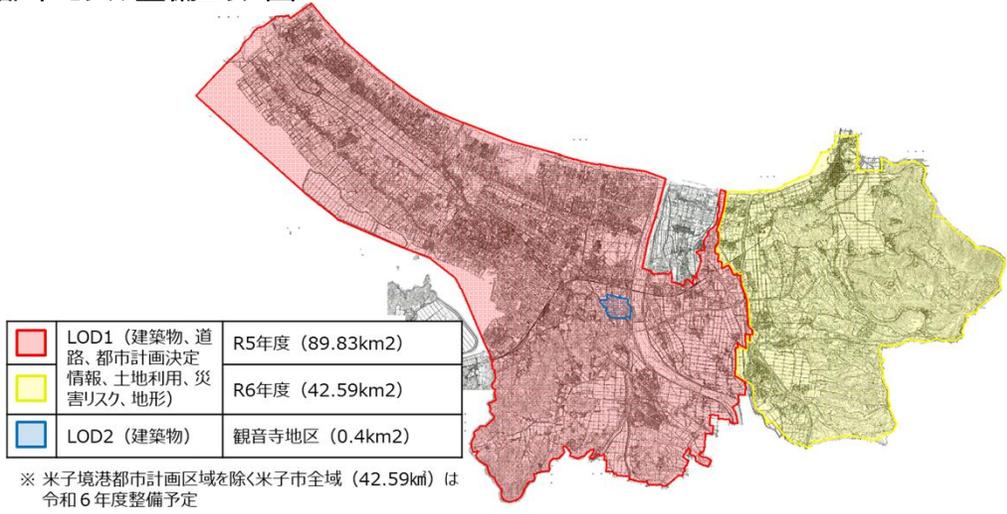
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

37. 鳥取県米子市

■ 3D都市モデル整備状況 ※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	米子境港都市計画区域	89.83km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	観音寺地区	0.4km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

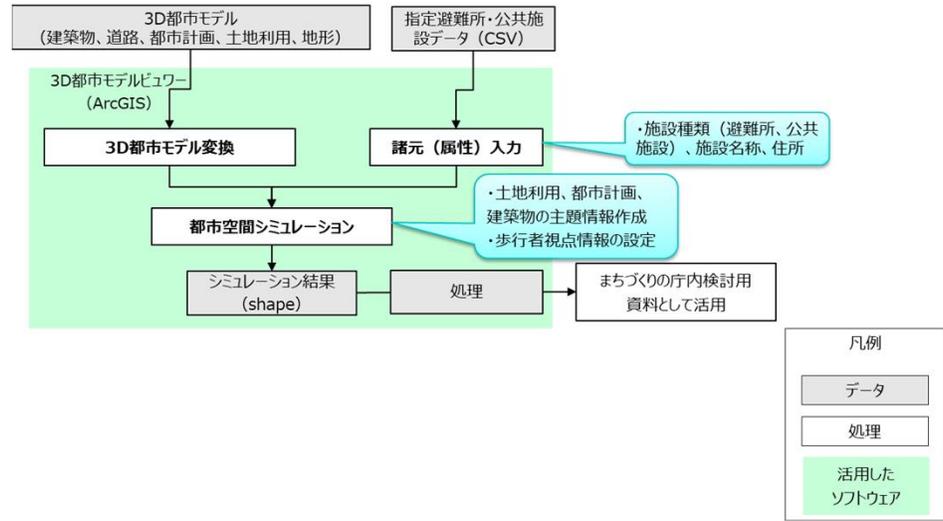


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	1.都市計画基本図（新規作成）	R5年度	2,500
測量成果	1.航空写真（新規測量）	R5年度	2,500
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	都市空間に関する情報の集約による行政事務の効率化
目的	都市空間に関する情報の3D可視化し一元化することで、都市計画立案の検討や窓口業務の効率化、民間開発における情報収集の効率化のために活用する。3D都市モデルビュー（3D都市モデルに都市計画情報や施設情報を実装し都市空間を可視化）をアウトプットとし、まちづくりの庁内活用に活用。
取組内容	3D都市モデル上に都市空間に関連するデータを重ね合わせ、データ利活用の推進を図り、データの流通、活用することで自立的で個性豊かな地域社会の形成、新たな事業の創出を目指す。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



凡例

- データ
- 処理
- 活用したソフトウェア

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

37. 鳥取県米子市



PLATEAU
by MLIT

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	5-15万	100-200	5-10千

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称) 災害リスクLOD1 (浸水想定区域 (洪水、津波)、土砂災害警戒区域) 交通 (道路) LOD1 (名称、機能、用途)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報 (避難所名称、所在地、災害種類) 公共施設情報 (公共施設名称、所在地)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルと都市空間データを活用して、ArcGISの機能を利用し主題データの作成機能、歩行者視点ナビゲーション機能等を実行。 シミュレーション結果を活用し、建物高さの色分け、都市計画基礎調査情報の色分け (土地利用等)、災害リスクの色分け (浸水深) などの設定を行い、各種主題データを作成。作成された情報をもとに、地区ごとに歩行者視点による可視化を実施。
政策・事業での 活用	3D都市モデルビューワ (3D都市モデルに都市計画情報や施設情報を実装し都市空間を可視化) をアウトプットとし、まちづくりの庁内検討に活用。
オープンデータ化 情報発信	米子市HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載予定。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
各種対応を行った職員が効率的と感じた割合 (%)	70% (R5年度)	100% (R5年度)
職員の作業に対して効率化されたと感じた割合 (%)	70% (R5年度)	100% (R5年度)
公開された3D都市モデルの閲覧件数 (件/年)	6,000件/年 (R6年度)	R7年3月4週 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



・3D都市モデル上に浸水区域や都市計画決定情報、公共施設情報を集約し、都市空間を可視化。

・3Dビューワ歩行者機能による街並みの可視化を実現。

■ 今後の展望

米子市全域における3D都市モデルを整備し、都市空間に関する情報集約による行政事務のさらなる効率化、充実化を実現する。また、洪水浸水シミュレーションを実施し、避難ルートの検討への活用や地域住民の啓発及び災害リスクの理解度を深めていく。米子駅周辺ウォーカブル推進事業への庁内検討資料の作成や完成イメージへの活用を行い、「歩いて楽しいまちづくり」の実現を目指す。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

38. 鳥取県境港市

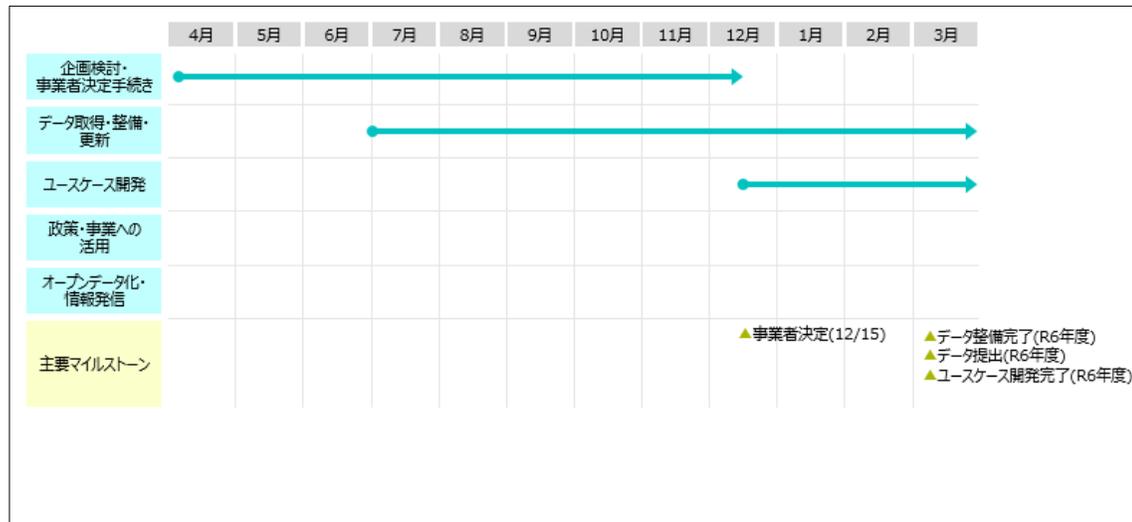


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	32,774人（令和5年3月時点）
市域全域面積	29.11km ² （令和5年3月時点）
主な産業 地域課題等	<p>三方が海に開けた地形的な特性を生かし、水産業を基幹産業として、古くから港を中心に発展してきた。地形的な特徴として、本市の位置する弓浜半島が砂州により形成された土地であることから、地盤の高低差が少なく、高潮や大雨による外水の影響を受けやすい。</p> <p>外水の影響を受けやすい一方で、これまでの各種水害ハザードマップは二次元であり、浸水の時系列的な変化が把握できなかったが、3D都市モデルを活用し、三次元・時系列での水害可視化を行うことで住民の防災意識の向上を図る。</p>

■ 令和5年度スケジュール ※繰越



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	分	3-5万	50未満	3-5千
担当部局	建設部下水道課			

■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルに想定最大降雨による浸水シミュレーション結果を重ねることで、内水による浸水の広がりや可視化し、事前防災の意識向上を図る。
課題	これまでの公開されている水害ハザードマップは、浸水被害の結果が二次元で表示されており、浸水範囲や浸水深の時系列な過程が把握できないという課題があった。
創出価値	事前防災の観点から浸水の被害範囲を時系列に把握し、水平方向だけでなく、鉛直方向に避難することを把握しておくことで、効率的・効果的な避難行動を促進するとともに、住民の防災意識の向上を図り、避難行動による自助・共助を促進する。

事前調査等	-
3D都市モデル 整備・更新	-
ユースケース 開発	3D都市モデルを活用した水害リスクの可視化事業
推進事業	-

総事業費 (予定)	6,860 (万円) ※うちR5年度 4,275.7 (万円)
R5年度 補助執行額	2,137.8 (万円)
補助対象外の 関連事業	雨水管理総合計画策定事業

オープンデータ化 ・可視化 ・情報発信	浸水シミュレーション動画を境港市ホームページに掲載【ユースケースデータ】
---------------------------	--------------------------------------

R5年度 受託事業者	日水コン（浸水シミュレーション・浸水リスク評価）
---------------	--------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

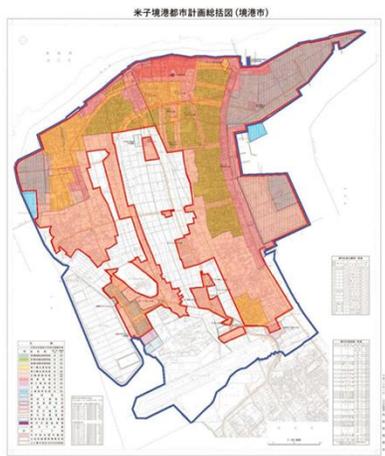
38. 鳥取県境港市

3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	境港市全域	29.11km ²	R4年度整備済
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	境港市全域	29.11km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	市街化区域及び市街化調整区域 住宅密集地	15.79km ²	R4年度整備済

3D都市モデル整備エリア図



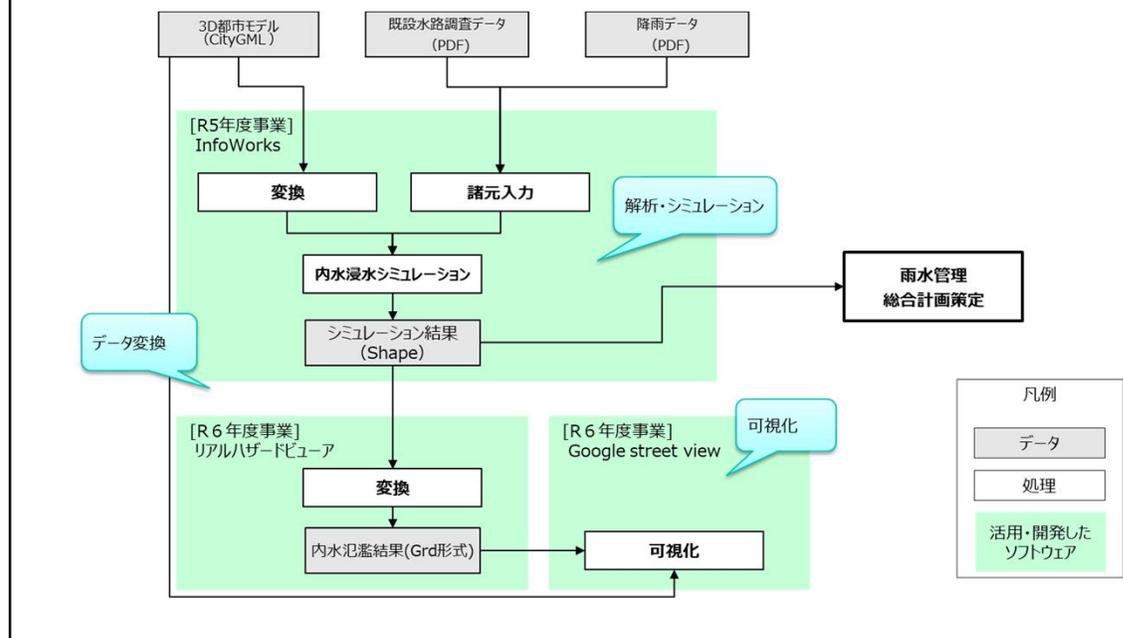
	LOD1 (建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形)	境港市全域 (29.11km ²)
	LOD2 (建築物)	市街化区域及び市街化調整区域住宅密集地 (15.79km ²)

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	4. 数値地形図 (DMデータ) (既存)	R4年度	1,000
測量成果	4. 既存資料 (航空レーザー)	R3年度	1,000
属性情報	1. 都市計画基礎調査 (既存)	H30年度	-

ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3Dモデルを活用した水害リスクの可視化事業
目的	事前防災の意識向上。
取組内容	住民の避難行動計画に役立てるために、3D都市モデルを活用し、豪雨による浸水被害(浸水エリア、浸水深さ)の広がりを時系列で可視化するものである。
実施体制	日水コン

システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

38. 鳥取県境港市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	分	3-5万	50未満	3-5千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発方法

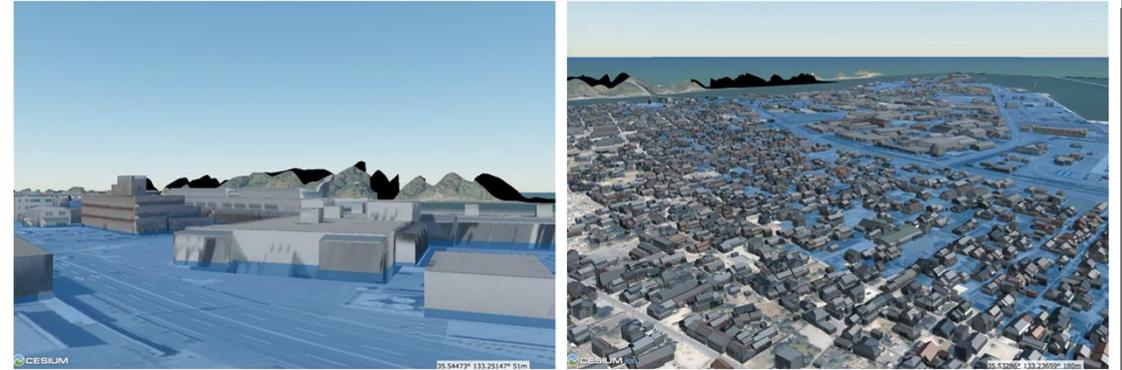
活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD2 (屋根、側面) 建築物LOD1 (名称、用途、分類、計測高さ、地上階数) 地形LOD1 (名称) 都市計画決定情報LOD1 (区域名称) 災害リスクLOD1 (浸水深、継続時間)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 降雨データ (既往最大降雨データによる外水位) 既設水路調査データ (既設水路形状)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動を踏まえた計画降雨、想定最大降雨等による浸水シミュレーションを実施し、内水浸水想定区域図を作成する。 作成した内水浸水想定区域図を3D都市モデルと重畳し、時系列により災害リスク情報を可視化する。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 浸水シミュレーション結果データ (R5年度のアウプット) を雨水管理総合計画策定に活用。 庁外向けweb-GISの構築 (R6年度のアウプット予定)。
オープンデータ化 情報発信	浸水シミュレーション動画を境港市ホームページに掲載。

■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
地域の災害リスクについての理解促進 (%)	100% (R5年度)	R6年度 計測予定
地域の災害リスクについての理解促進 (%)	100% (R7年度)	R7年度 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図

※画像はPLATEAUより引用



浸水被害予測をより視覚的に表示

テクスチャにより建物をリアルに表現することで、避難規模の内水による浸水被害予測を、浸水深と建物の外壁から、より視覚的に表現する。

浸水被害予測をリアルタイム表示

避難規模の浸水被害予測を時系列に表現することで、事前防災の観点から、市民が効率的・効果的な避難計画を立案できるよう公開する。

■ 今後の展望

津波、洪水等の浸水被害についても、3D都市モデルを活用して時系列に可視化するよう防災部局と調整しており、あらゆる水害リスクに対して、住民の防災意識の向上を図る。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

39. 鳥取県日吉津村

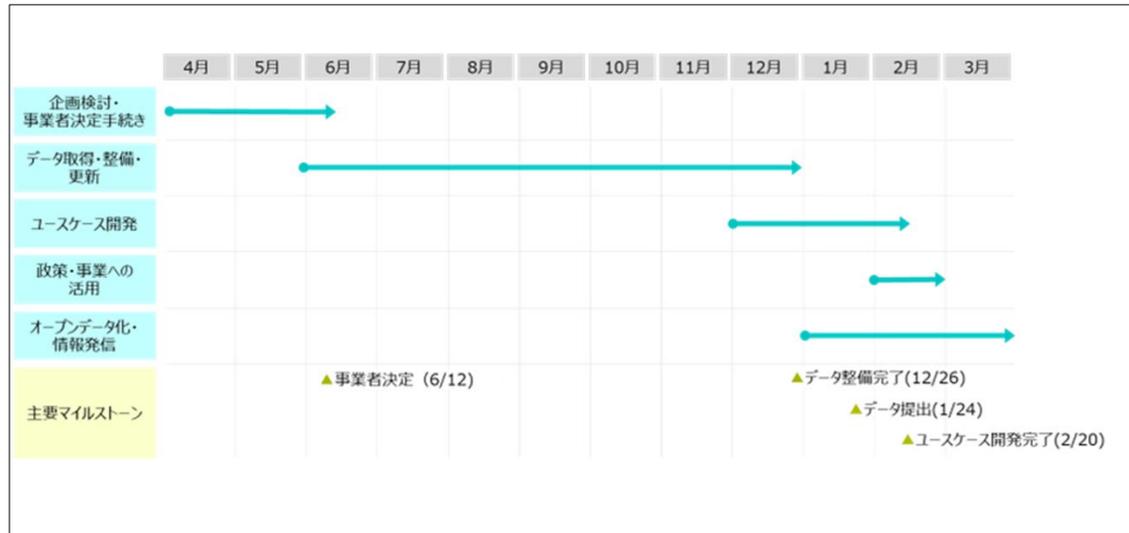


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	3,629人（令和5年11月時点）
村域全域面積	4.16km ² （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	鳥取県の西部に位置する村。 周囲を米子市に囲まれており、境港市、米子市、南部町などの観光地に行くための拠点地点。人口は約3,600人。 大型ショッピングモールや病院、子育て関連施設、小学校等の各種関連施設が村の中心に集約されており、暮らしやすさ、交通の利便性など、立地条件が良い。 3D都市モデルを活用し、都市計画立案の検討や窓口業務の効率化、民間開発における情報収集の効率化の課題を解決する。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	1万未満	50未満	1千未満

担当部局	総合政策課
------	-------

■ 補助事業実施項目

目標	DXの推進による業務の改革
課題	頻発化・激甚化する災害リスクへの対応。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 住民の利便性の向上。 業務効率化 人的資源を再配置し行政サービスの更なる向上。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図更新 航空測量 3D都市モデル整備（LOD1） 3D都市モデル整備（LOD2）
ユースケース開発	都市空間に関する情報の集約による行政事務の効率化
推進事業	3D都市モデルビューワー整備

総事業費	397.5（万円）
R5年度補助執行額	397.5（万円）※早期実装タイプとして採択
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル/UCデータ】 PLATEAU VIEWに搭載後、日吉津村HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載予定
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	国際航業株式会社（データ整備）
	国際航業株式会社（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

39. 鳥取県日吉津村



PLATEAU
by MLIT

3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	日吉津村全域	4.16km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	日吉津村中心市街地	0.09km ²	R5年度新規整備

3D都市モデル整備エリア図

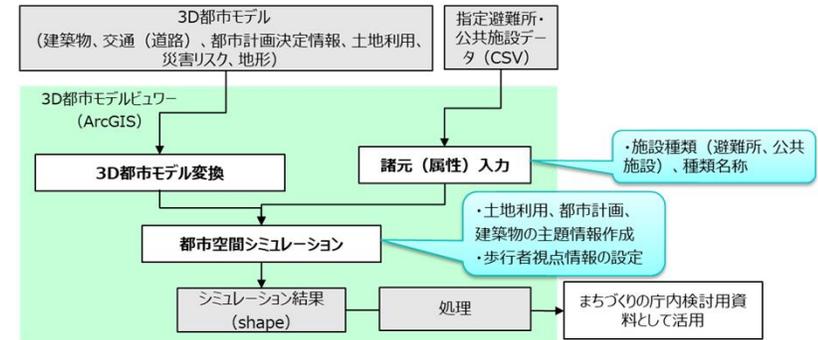


項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	1.都市計画基本図（新規作成）	R5年度	2,500
測量成果	1.航空写真（新規測量）	R5年度	2,500
属性情報	1.都市計画基礎調査（既存）	R4年度	—

ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	都市空間に関する情報の集約による行政事務の効率化
目的	都市空間に関する情報を3D可視化し一元化することで、都市計画立案の検討や窓口業務の効率化、民間開発における情報収集の効率化のために活用。
取組内容	3D都市モデル上に都市空間に関連するデータを重ね合わせ、データ利活用の推進を図り、データの流通、活用することで自立的で個性豊かな地域社会の形成、新たな事業の創出を目指す。
実施体制	国際航業株式会社

システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

39. 鳥取県日吉津村



PLATEAU
by MLIT

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	1万未満	50未満	1千未満

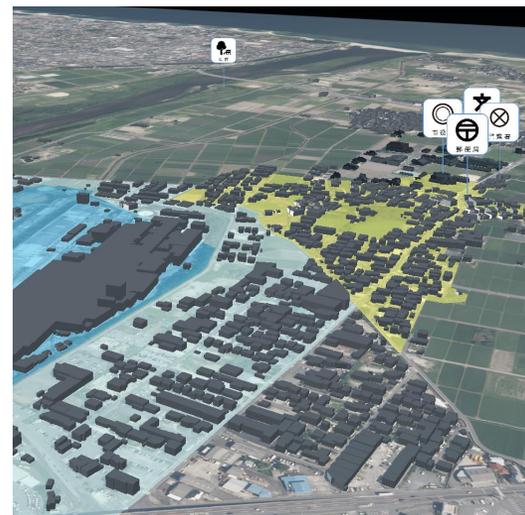
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2(名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 交通LOD1(道路)(名称、機能、用途) 都市計画決定情報LOD1(区域名称) 土地利用LOD1(分類、公称面積、所有者区分、所有者) 災害リスクLOD1(浸水想定区域(洪水、津波)、土砂災害警戒区域) 地形LOD1(名称、詳細度)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地、災害種類) 公共施設情報(公共施設名称、所在地)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルに都市空間情報(都市計画、災害リスク等)を付与し、日吉津村のまちなみを3Dにて可視化するため、ArcGISで閲覧できるようにジオデータベースに変換。公共施設等の目標物の位置及び名称を入力。 ArcGISによる3Dの可視化を行うため、建物高さの色分け、都市計画基礎調査情報の色分け(土地利用等)、災害リスクの色分け(浸水深)などの設定を行い、各種主題データを作成する。作成された情報をもとに、地区ごとに歩行者視点による可視化を実施。
政策・事業での 活用	3D都市モデルビューワ(3D都市モデルに都市計画情報や施設情報を実装し都市空間を可視化)をアウトプットとし、まちづくりの庁内検討に活用。
オープンデータ化 情報発信	PLATEAU VIEWに搭載後、日吉津村HPにPLATEAU VIEWのリンクを掲載予定。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
窓口・電話対応の効率化	70%(R5年度)	100%
作業時間が効率化	70%(R5年度)	100%

■ ユースケース開発成果イメージ図



・3D都市モデル上に浸水区域や都市計画決定情報、公共施設情報を表現し、都市空間を可視化。

3Dビューワ歩行者機能による街並みの可視化を実現。

■ 今後の展望

都市空間に関する情報を3D都市モデル上に集約、可視化したことにより、都市計画の立案検討への活用やオープンデータ化による民間開発における情報収集の効率化を図り、行政事務の効率化、充実化を実現する。また、データ利活用の推進を図り、データの流通、活用することで自立的で個性豊かな地域社会の形成、新たな事業の創出を目指す。
浸水区域等の災害リスク情報を可視化したことにより、地域住民の防災意識の啓発及び災害リスクの理解度を深めていく。

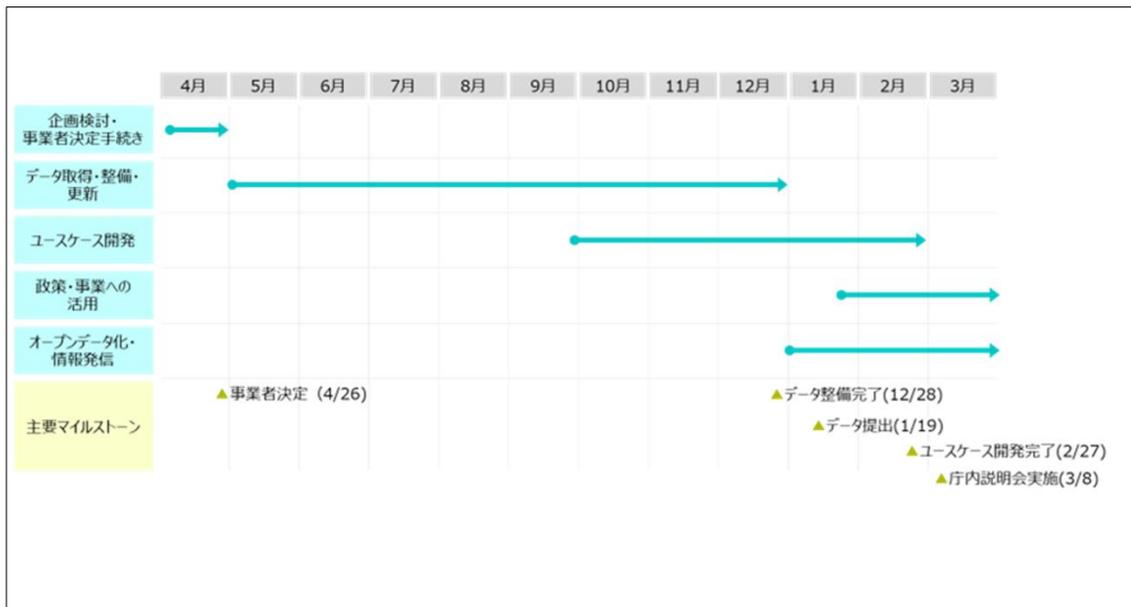
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

40. 徳島県徳島市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	247,246人（令和5年11月時点）
市域全域面積	191.52km ² （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	徳島県の東部に位置する県庁所在地。産業、政治、経済、文化、教育、情報等の様々な機能が集積する拠点都市。 本市の課題として、激甚化・頻発化する自然災害のリスクへの対応がある。 3D都市モデルを活用し、災害リスクを可視化し、住民の防災意識の向上を図る。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	100-200	5-10千
担当部局	企画政策部都市計画課			



■ 補助事業実施項目

目標	激甚化・頻発化する大規模自然災害や南海トラフ地震に備え、一人ひとりが考え行動する「防災意識が高いまち、徳島」を実現。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 居住する場所の災害リスクの認識。 避難先（避難所・避難場所）及びその収容人員数の認識。 複数の避難経路及び避難時の危険箇所の認識。
創出価値	災害に備えるため、「災害リスク」や「避難先」のほか、「浸水シミュレーション」の可視化による住民の防災意識の向上。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備（LOD1）・3D都市モデル整備（LOD2） 3D都市モデル整備（LOD3）
ユースケース開発	災害リスク（浸水・危険箇所）3D可視化避難対策事業
推進事業	オープンデータ化

総事業費	8,998（万円）
R5年度補助執行額	1,483（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 浸水シミュレーション動画を徳島市ホームページに掲載【3D都市モデル動画】
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	国際航業（データ整備） 国際航業（ユースケース開発）
-----------	-------------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

40. 徳島県徳島市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	徳島市全域	191.52km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	徳島市中心市街地活性化基本計画の区域の一部	1.3km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD3	地形	国土地理院等の既存航空レーザ測量成果の範囲	165.18km ²	R5年度新規整備

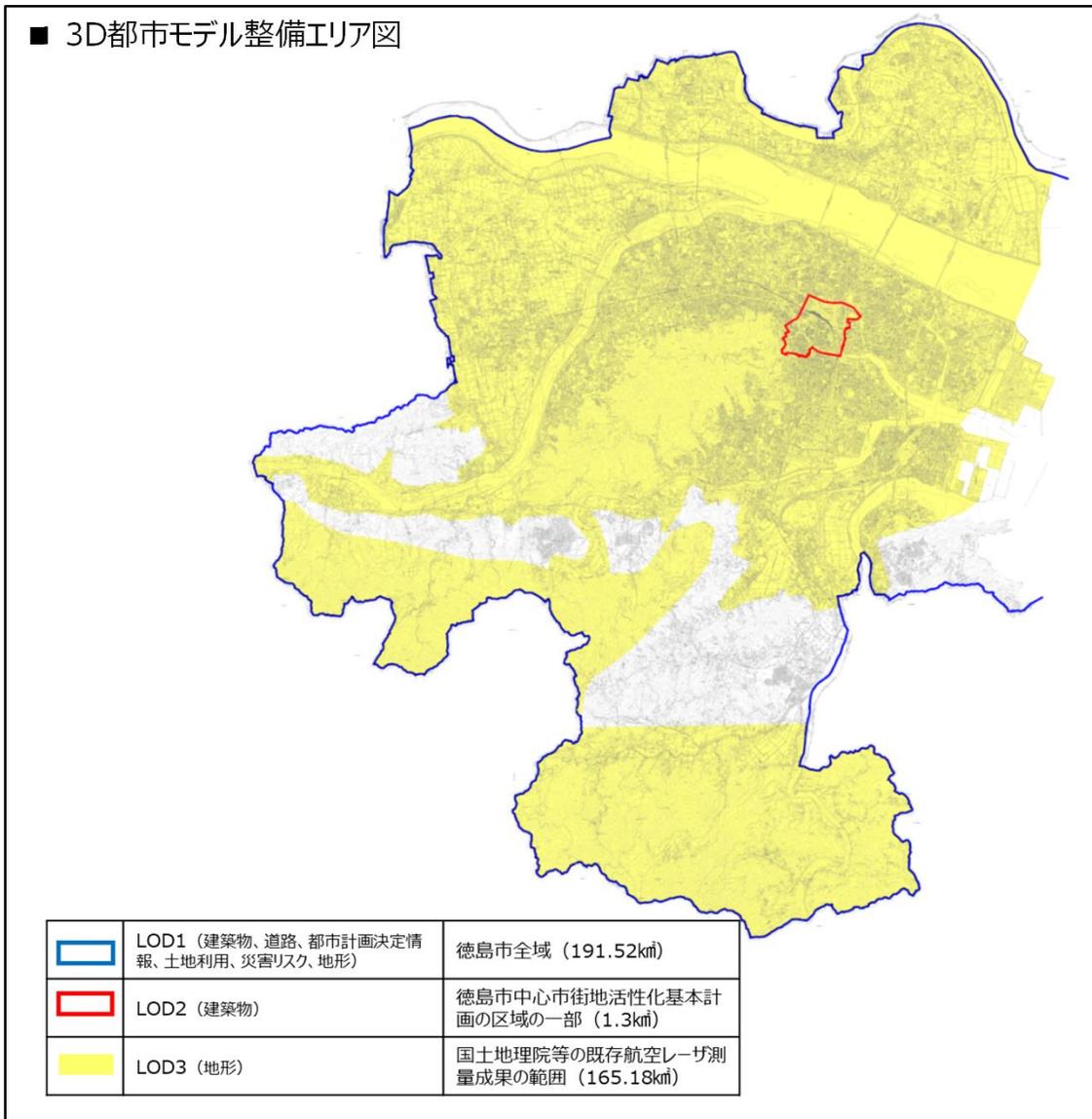
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	新規作成	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	新規作成	1,000
		R2年度	1,000
		R元年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H24年度	500
		H21年度	500
		H30年度	—

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	100-200	5-10千



PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備エリア図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

40. 徳島県徳島市

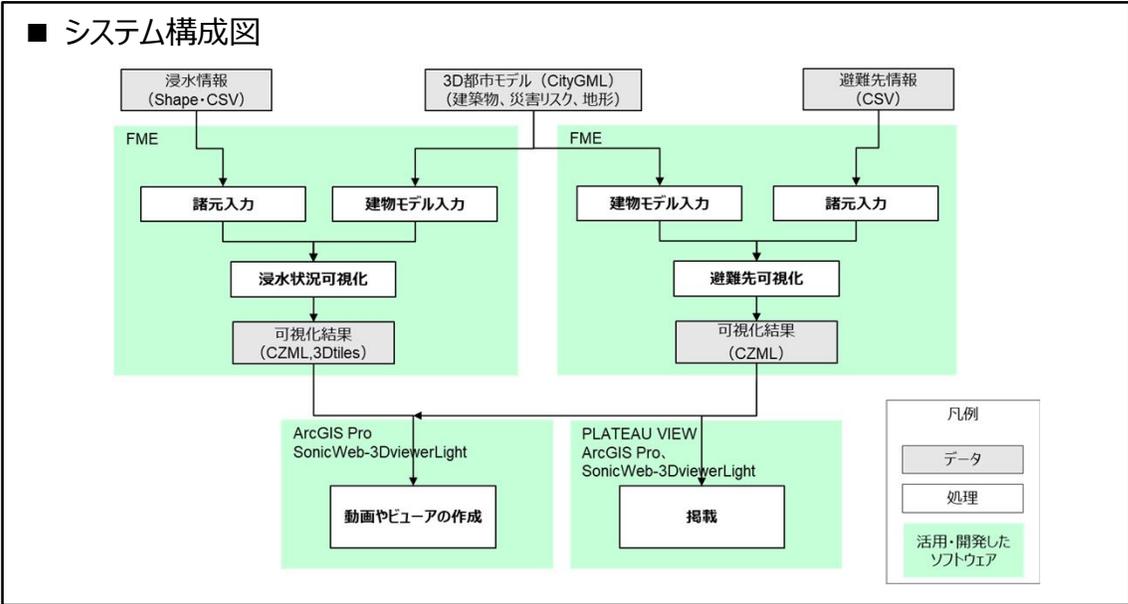
■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	災害リスク（浸水・危険箇所）3D可視化避難対策事業（時系列浸水シミュレーション・避難路危険箇所の可視化）
目的	災害に備えるため、「災害リスク」や「避難先」のほか、「浸水シミュレーション」の可視化により住民の防災意識の向上を図る。
取組内容	津波・洪水・土砂災害・高潮など各種災害リスク情報の三次元表示を行い、各エリアの可視化を行うとともに、①既存の時系列ごとの浸水シミュレーション、②避難先（避難所・避難場所）を可視化することで、避難行動時、「いつ」「どこに」「どんな経路で」避難をすべきかを認識してもらう。 本ユースケースを動画等で市民向けに公開するほか、市内の各学校・住民向けワークショップ等で活用し、防災意識向上を推進する。
実施体制	国際航業

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	100-200	5-10千



■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

40. 徳島県徳島市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	15万以上	100-200	5-10千



PLATEAU
by MLIT

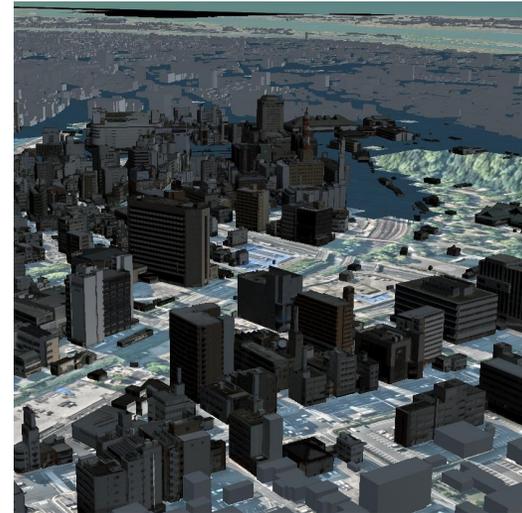
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (計測高さ) 建築物LOD2 (テクスチャ) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、高潮浸水想定区域、津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域) 地形LOD1・3
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 浸水情報(洪水・津波の時系列ごとの浸水深) 避難先情報(避難所・避難場所名称、所在地、災害種別)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 洪水・津波等の浸水深等の情報と3D都市モデルと組み合わせることで時系列ごとの浸水シミュレーションを可視化。 本市の避難先 (避難所、避難場所) 情報と、3D都市モデルを組み合わせることで、避難先を可視化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 既存の浸水シミュレーションデータを用いて時系列ごとの浸水状況を可視化し、市民にも分かりやすい動画やビューアを作成する。 避難先 (避難所、避難場所) を可視化し、市民が災害リスクを踏まえた避難先を認識できる資料を作成する。
オープンデータ化 情報発信	浸水シミュレーション動画を徳島市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
庁内説明会により防災意識が向上したと感じる市職員の割合 (%)	80% (R5年度)	96.4%
小・中学校等の防災学習で活用 (累計校数)	5校 (R6年度)	R6年度 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



作成した建築物LOD1、LOD2へ洪水浸水想定区域の時系列シミュレーション可視化データをレイヤードさせ表示。



作成した建築物LOD1、LOD2へ避難所をアイコンで種別分けしたデータをレイヤードさせ表示。

■ 今後の展望

今後は、民間での3D都市モデルの活用を促進し、多様な分野での地域課題解決型サービスの社会実装を図るため、アイデアソン・ハッカソン等の開催、実証フィールドの提供・協力・支援などの取組みを行う。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

41. 香川県さぬき市

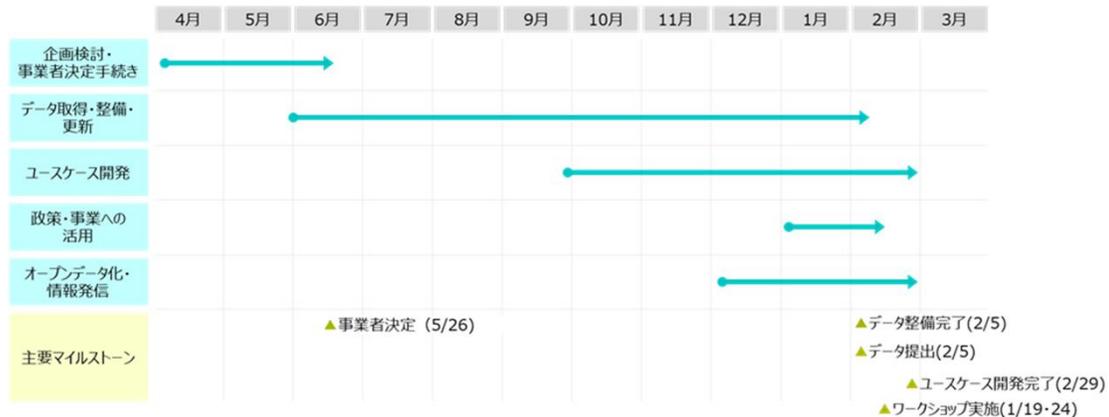


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	45,212人（令和5年10月時点）
市域全域面積	158.63km ² （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	<p>2002年4月1日、津田町、大川町、志度町、寒川町、長尾町の5町が合併してさぬき市が誕生した。</p> <p>市内を国道11号、高松自動車道、JR高徳線が東西に横断しており、阪神地区へは3時間弱でアクセスできる立地である。</p> <p>人口減少と少子高齢化が市全域で進んでおり、土砂災害警戒区域が全市で指定、津波浸水想定区域が市街地内にも指定されており、災害危険性が高い状況である。</p> <p>「災害に対する安全性」への取り組みに対する市民要望も強く、安全性の向上への取り組みが急務である。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・住	可	3-5万	100-200	2-3千

担当部局	建設経済部 都市整備課
------	-------------

■ 補助事業実施項目

目標	“強い”まちづくりを前提とした、暮らしが持続する「まとまり」と「補完」のまちづくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震に備え、災害リスクをさらに効果的に可視化し、市民の防災意識のさらなる向上が必要。 津波浸水想定区域を含む居住誘導区域における効果的な避難環境の整備。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識を向上するとともに、今後の防災計画や避難経路を効果的に策定。 庁内検討をふまえ、避難訓練等防災まちづくりイベントで活用し、市民の行動変容を促進。
事前調査等	3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備事業（LOD1, LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	庁内3D都市モデル閲覧システムの構築
総事業費（予定）	4,500（万円） ※うちR5年度 2,400（万円）
R5年度補助執行額	1,200（万円）
補助対象外の関連事業	<ul style="list-style-type: none"> 公開型GISの構築 都市計画基本図の修正
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 3D都市モデル・ユースケースデータ（整備箇所）をさぬき市ホームページに掲載
R5年度受託事業者	アジア航測株式会社（データ整備/ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

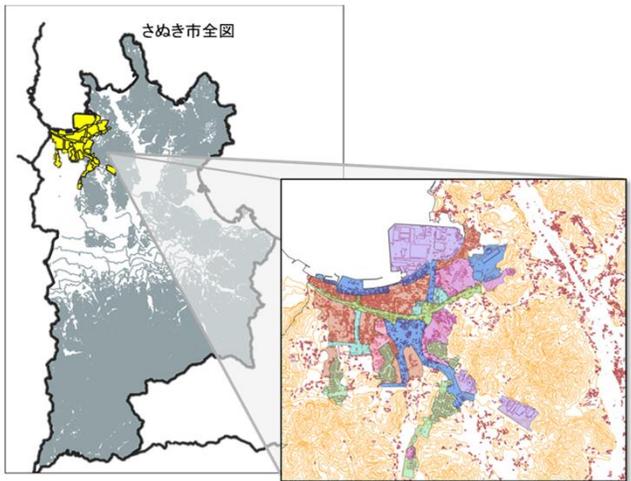
41. 香川県さぬき市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	さぬき市全域	158.63km ²	R5年度新規整備
LOD1	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	さぬき市全域 さぬき市内居住誘導区域	158.63km ² 4.75km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	さぬき市内 居住誘導区域	4.75km ² 1,000棟	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



・整備範囲
さぬき市全域 (158.63km²)
LOD1レベル
用途地域 (4.75km²)
LOD2レベル

凡例	
LOD1	158.63km ²
LOD2	防災拠点等 1,000棟

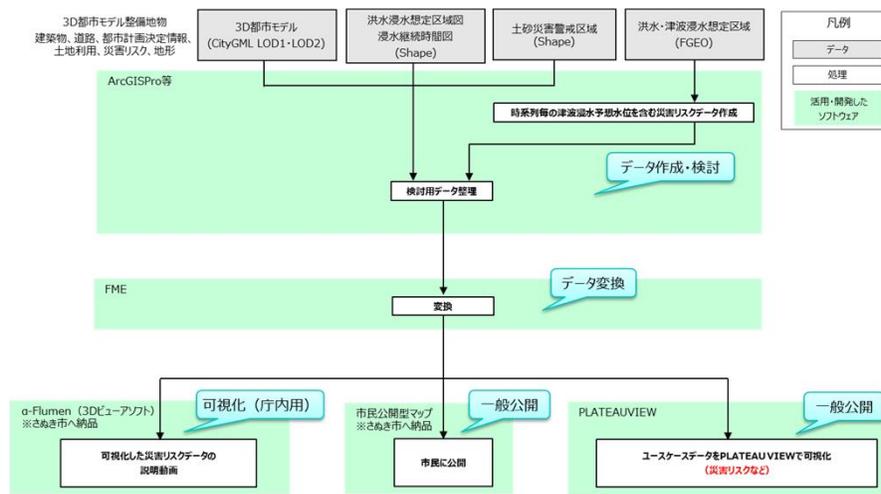
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正） ※本補助事業対象外	R5年度修正	2,500
測量成果	航空写真測量（既存）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H30年度	-

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・住	可	3-5万	100-200	2-3千

■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯 / 都市計画・まちづくり / 住民参加
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	津波浸水想定内区域を含む居住誘導区域における効果的な避難環境の整備
取組内容	市内全域での災害リスク情報の3次元表示を行い、市が抱えるリスクを可視化するとともに、特に、津波浸水想定区域内にある居住誘導区域を対象として、浸水想定情報を搭載し時系列毎の予想水位を表示することにより、今後の防災計画や避難経路設定に向け、庁内検討に活用する。また、避難訓練等防災まちづくりイベントでの活用などにより、市民の行動変容を促す。
実施体制	アジア航測株式会社四国支店

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

41. 香川県さぬき市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・住	可	3-5万	100-200	2-3千



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2(建物名称、建築確認申請番号、敷地/延床/図形/面積、構造種別、浸水規模、浸水ランク、浸水深、継続時間、区域区分、現象区) 都市計画決定情報LOD1(区域名称、分類、決定日、決定主体、公称面積、市区町村等) 災害リスクLOD1(洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地、災害種類) 洪水浸水想定区域図(想定最大規模・計画規模(2種類)) 津波浸水到達時間情報(30cm津波浸水到達時間) 土砂災害警戒区域
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 庁内で閲覧できる3D都市モデル閲覧システムを構築。 3D都市モデル(LOD1・LOD2)と3次元化した浸水想定区域図を重ね合わせ、災害リスクについて3D都市モデル閲覧システムへインストールし、可視化。
政策・事業での 活用	(仮) さぬき市DX推進本部の会議にて、ユースケース結果を報告し、今後のDX活用に向けた基礎資料とする。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル・ユースケースデータを、さぬき市市民公開マップサイトに掲載。(R5年度構築、R6年度から運用予定) 3D都市モデル・ユースケースデータ(整備箇所)をさぬき市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
住民の防災意識向上に役立つと感じる関係部署職員の割合(%)	50% (R5年度)	77.2%
肯定的評価を行った災害リスクの説明会参加者の増加割合(%)	+10% (R8年度)	R8年度 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



災害リスクの可視化結果

上図：高潮浸水(さぬき市役所付近)

下図：土砂災害(長尾地区周辺)



関係部署職員説明会の様子

防災意識の向上を目的に都市計画、危機管理対応部署に対して都市モデル・災害リスクを説明。

■ 今後の展望

今年度整備した都市モデルを活用し、下記のユースケースを実施予定である。

- ① 住民への災害リスクの説明会の実施
避難ルートや要支援者の避難方法の検討にも活用予定
- ② 志度地区(居住誘導地区)のまちづくりにおける課題把握と庁内検討活発化
大学の移転、高校3校の新設統合が数年後に予定されているため、都市構造の変化や空家等の発生予測等を可視化し、まちの変遷や今後課題を整理

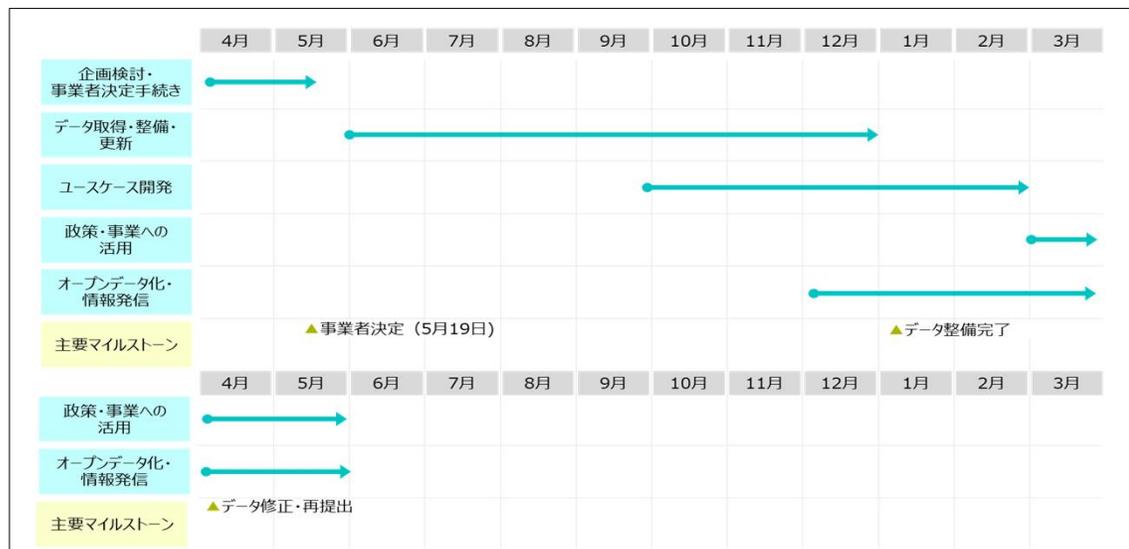
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

42. 愛媛県東温市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	33,168人（令和5年11月時点）
市域全域面積	211.3km ² （令和5年11月時点）
主な産業 地域課題等	<p>愛媛県の中央部に位置する中山間地域。県都松山市の東に隣接する都市近郊型のまちで、古くから関西方面への交通の要所。本市の少子高齢化による人口減少の問題に対応するため、コンパクトで持続可能なまちづくりを目指す必要があり、令和5年度より、本格的に都市計画マスタープランの改定及び立地適正化計画の策定を進めることとしている。また、市内河川の氾濫や中山間地域特有の災害リスクも課題である。</p> <p>3D都市モデルを活用し、災害リスク可視化するとともに、データに基づく都市計画を策定する。</p>

■ 令和5年度スケジュール ※繰越



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	3-5万	200-500	2-3千

担当部局	産業建設部都市整備課
------	------------



■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用したまちづくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少が進んでおり、効率的なまちづくりとしてコンパクト化に向けたとり組みが必要。 市中央に1級河川があり、氾濫した場合の影響が大きい。また中山間地域の急斜面近くに集落が多く、理解しやすい災害リスクの周知方法が課題。 本市の特性（交通利便性・企業誘致）を最大限に活用するため、データの可視化が必要。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、災害リスクをわかりやすく示すことで市民の防災意識を向上。 効率的なまちづくりについて、3D都市モデルへ人流などのデータを可視化することで、市民やステークホルダーとの認識共有がしやすくなる。
事前調査等	仕様検討・資料収集、調査
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備（LOD1）・3D都市モデル整備（LOD2） CMSIディター登録
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した都市計画立案への活用事業
推進事業	-
総事業費（予定）	6,070（万円） ※うちR5年度2,070（万円）
R5年度補助執行額	1,035（万円）
補助対象外の関連事業	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープラン改定 立地適正化計画策定
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 市ホームページの紹介ページにプラトビューへのリンクを掲載
R5年度受託事業者	国際航業株式会社（データ整備/ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

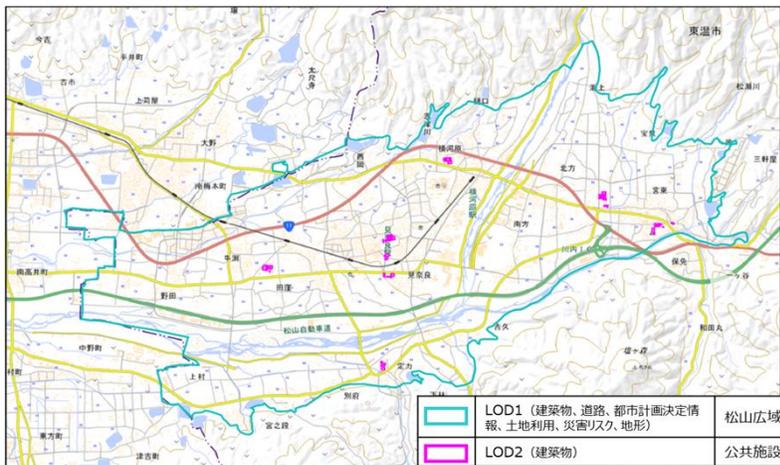
42. 愛媛県東温市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物・交通（道路） 市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	松山広域都市計画区域 (東温市域)	24km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	公共施設	10施設	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



LOD2 公共施設 ※施設管理者と調整
中
市役所庁舎、支所、中央公民館、図書館
小学校4、中学校2

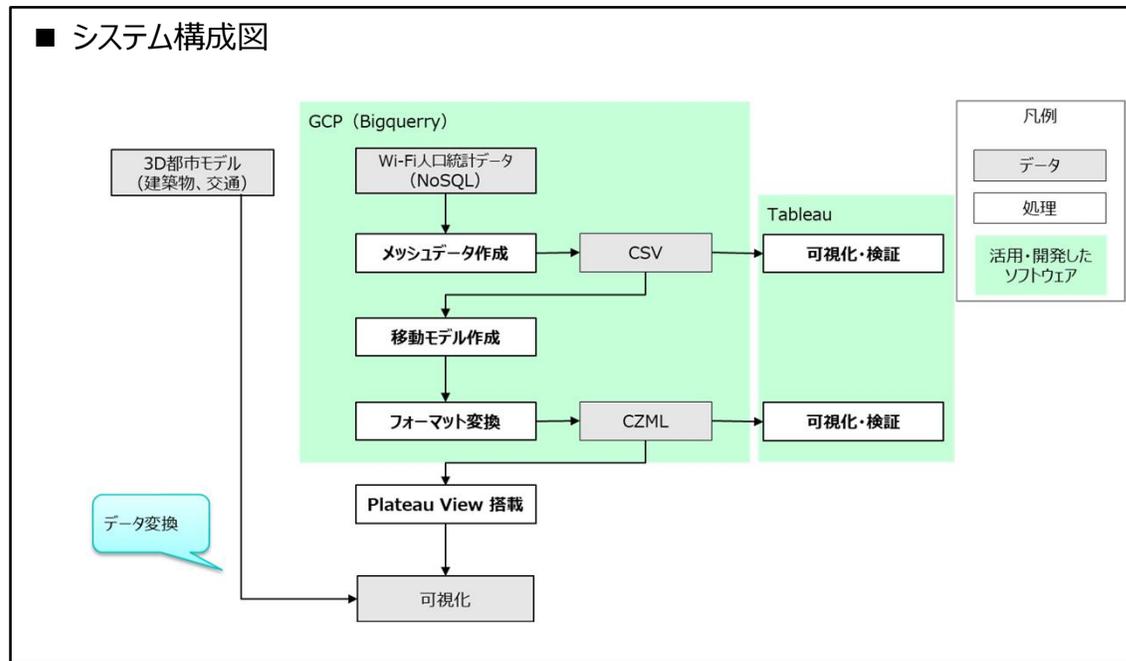
	LOD1 (建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形)	松山広域都市計画区域 (24km ²)
	LOD2 (建築物)	公共施設10棟

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図 (既存)	H30年度	2,500
測量成果	既存資料 (航空写真)	H30年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査 (修正) 建築確認DB	R2年度 R5年度	-

■ ユースケース①概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり事業 (都市計画)
目的	都市データを活用した持続可能なまちづくりの立案及び市民への可視化を図る。
取組内容	3D都市モデルと人流データ重ね合わせ、都市計画立案への活用と市民への可視化を図る。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

42. 愛媛県東温市

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2(用途、構造種別、建築年、地上階層、延床面積、土地利用) 交通LOD1 (道路) 都市計画決定情報LOD1 (松山広域都市計画区域) 土地利用LOD1 (松山広域都市計画区域) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fi人口統計データ (ユーザーID、性別、年代 (10代～60代)、推定居住地) GPSデータ (性別、年代、就業地)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 人流データをクラウド上のBIツール (Tableau) により可視化。 3D都市モデルと人流データを重ね合わせて、Plateau Viewで可視化。
政策・事業での 活用	都市計画マスタープラン、立地適正化計画。エリア設定と人流データを重ね、計画過程を可視化。(市HPで公開)
オープンデータ化 情報発信	市ホームページの紹介ページにPLATEU VIEWへのリンクを掲載。

■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
データに基づく都市計画の策定 (計画数)	2計画 (R5年度)	R6年度 計測予定

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	3-5万	200-500	2-3千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



・人流分析元データ
(人口推移の可視化)

・人流分析
(時間ごとの各エリアの人流推移
主だった人流移動をアーク形状で表現)

■ 今後の展望

今回は、都市の現状把握を行うための人流データ及び防災情報を活用した分析を行った。

今後、分析結果を反映した都市計画の効果について、都市構造に関するシミュレーション等を活用し、都市の効率的な発展につなげたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

42. 愛媛県東温市

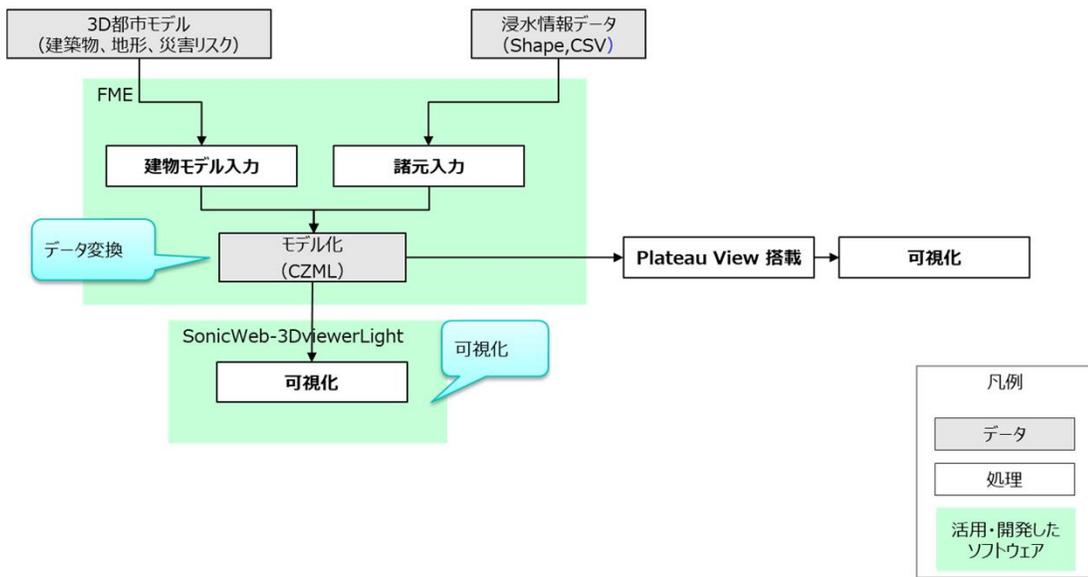
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	3-5万	200-500	2-3千



■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり事業（防災）
目的	都市データを活用した持続可能なまちづくりの立案及び市民への可視化を図る。
取組内容	3D都市モデルへ三次元化した浸水想定区域図データを重ね合わせ、災害リスクを反映した都市計画立案への活用と市民への可視化を図る。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2 (建築物) 交通 (道路) LOD1 都市計画決定情報LOD1(松山広域都市計画区域) 土地利用LOD1(松山広域都市計画区域) 災害リスクLOD1(洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 浸水情報 (洪水の時系列ごとの浸水深)
ユースケース 開発方法	対象区域の3D都市モデルと地点別浸水シミュレーションデータを重ね合わせて可視化。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 浸水状況シミュレーション等の可視化 (PLATEAU VIEWによる公開) し、庁内調整会議等で報告。 可視化された浸水状況を都市計画マスタープラン、立地適正化計画に反映。(市HPで公開)
オープンデータ化 情報発信	市ホームページの紹介ページにPLATEAU VIEWへのリンクを掲載。

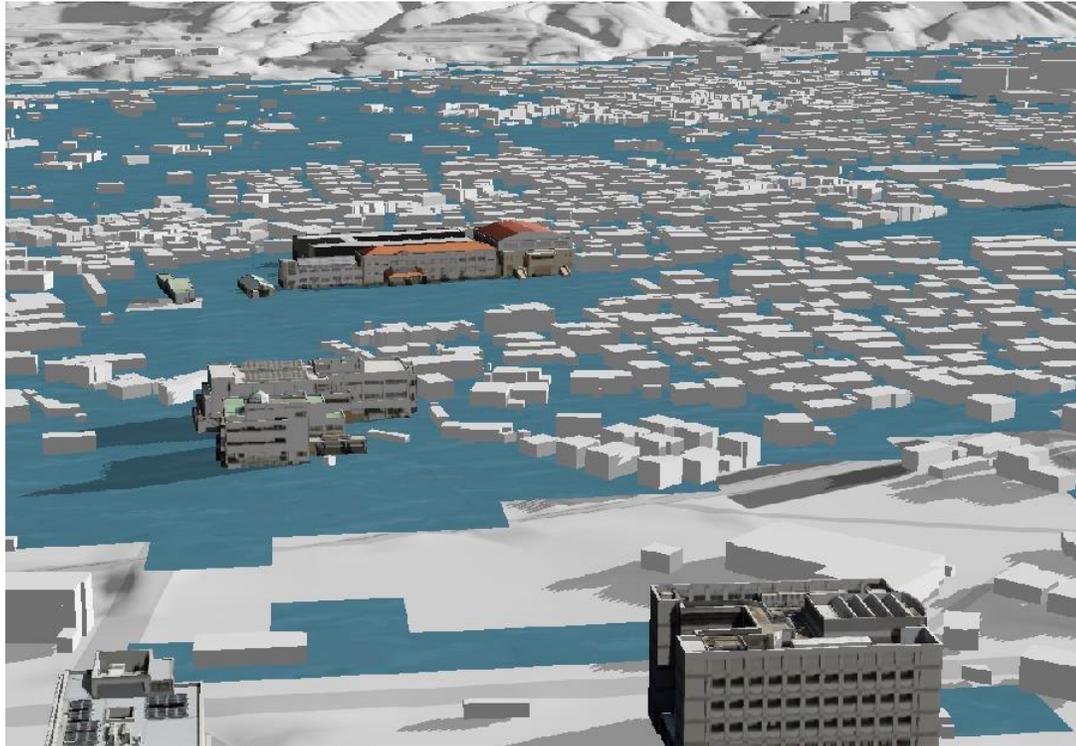
■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
防災施策に有効に活用できると回答した職員の割合 (%)	50% (R5年度)	R6年度 計測予定
防災に関する市民の理解度 (%)	30% (R7年度)	R7年度 計測予定

42. 愛媛県東温市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可	3-5万	200-500	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



重信川の破堤箇所（2箇所）のシミュレーションデータ

■ 今後の展望

令和6年度に予定している立地適正化計画の防災指針等の説明資料として、防災のユースケースを活用し（可視化）、浸水リスクへ認知度や区域設定の理解度向上に活用したい。

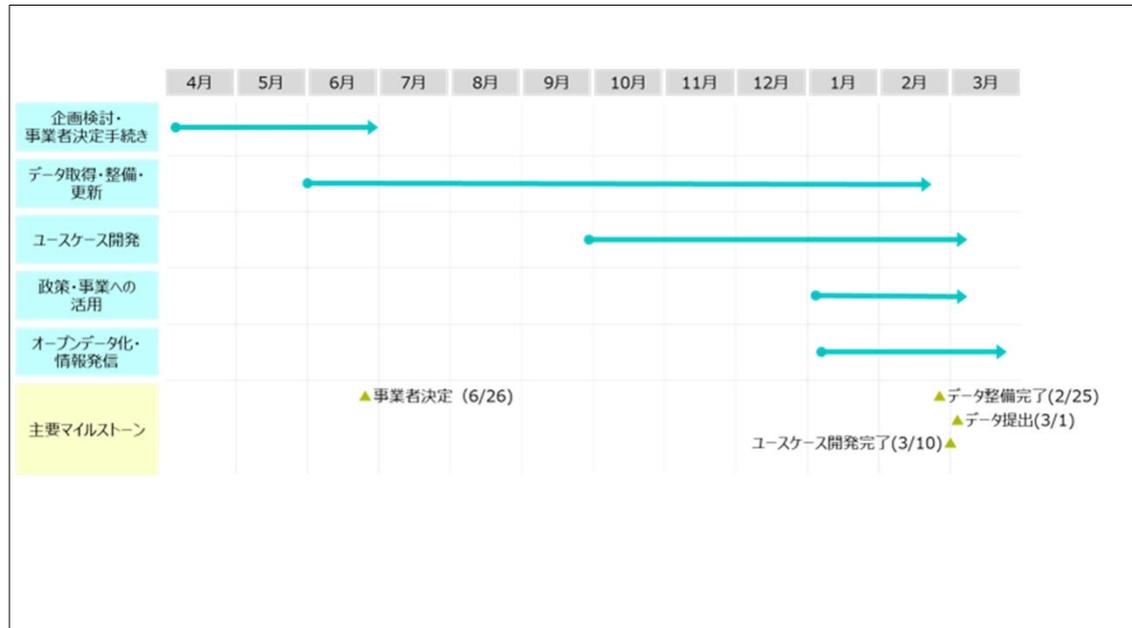
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

43. 福岡県うきは市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	27,838人（令和5年10月時点）
市域全域面積	117.46km ² （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	福岡県の南東部に位置し、南側に耳納連山、北側を筑後川と接する自然豊かな地域。豊かな自然に加え、伝建地区や工業団地を有し、歴史・文化と商工業が融合・調和する魅力的なまちである。都市計画区域設定に向け、まちづくりを検討する必要がある。 3D都市モデルを活用し、都市計画施策立案の効率化、防災意識向上、景観・まちづくり等の課題を解決する

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	可・分	1-3万	100-200	2-3千

担当部局	都市計画準備課
------	---------



■ 補助事業実施項目

目標	限りある土地を有効活用するため、バランスのとれた土地利用を目指す
課題	<ul style="list-style-type: none"> 市全体としての防災意識（自助・共助・公助）。 現準都市計画区域の見直しを含めた都市計画区域設定。 伝統的建設物群保存地区等の活用検討及び街並み・景観整備等促進。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した都市計画区域設定の説明資料。 3D都市モデルを活用した市全域の災害リスク理解度促進・向上。 3D都市モデルを活用した景観・まちづくりの整備・保存への利活用。
事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	3D都市モデル整備（LOD2）
ユースケース開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用したまちづくり・都市計画立案への活用事業 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 3D都市モデルを活用した景観保存・整備事業への活用事業
推進事業	—

総事業費（予定）	10,880（万円） ※うちR5年度 2,398（万円）
R5年度補助執行額	1,150（万円）
補助対象外の関連事業	—

オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 3D都市モデル及びユースケースデータをうきは市公開型GISサイトに掲載【過年度建築物モデル（H21、H29）、新規建築物LOD2】 PLATEAU VIEW、公開型GISサイトのURLをうきは市ホームページに掲載
-------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

R5年度受託事業者	朝日航洋(株)福岡支店（データ整備/ユースケース開発）
-----------	-----------------------------

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

43. 福岡県うきは市

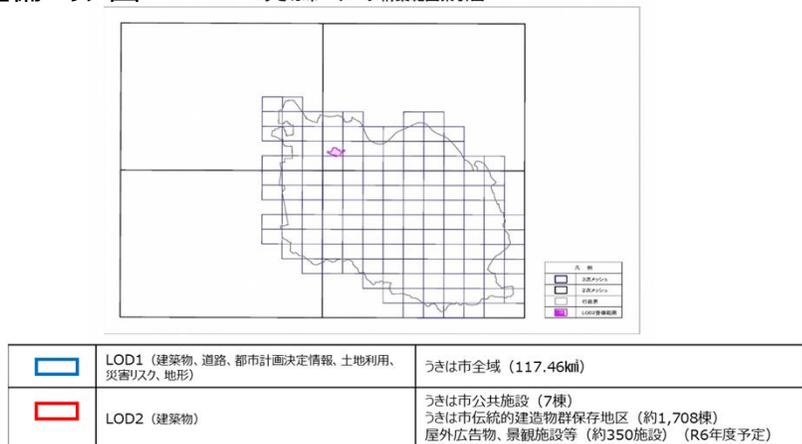
■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	うきは市全域	117.46km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	うきは市公共施設一部 伝統的建造物群保存地区等	7棟 1,839棟	R4年度整備済 R5年度整備

■ 3D都市モデル整備エリア図

うきは市 データ構築範囲索引図



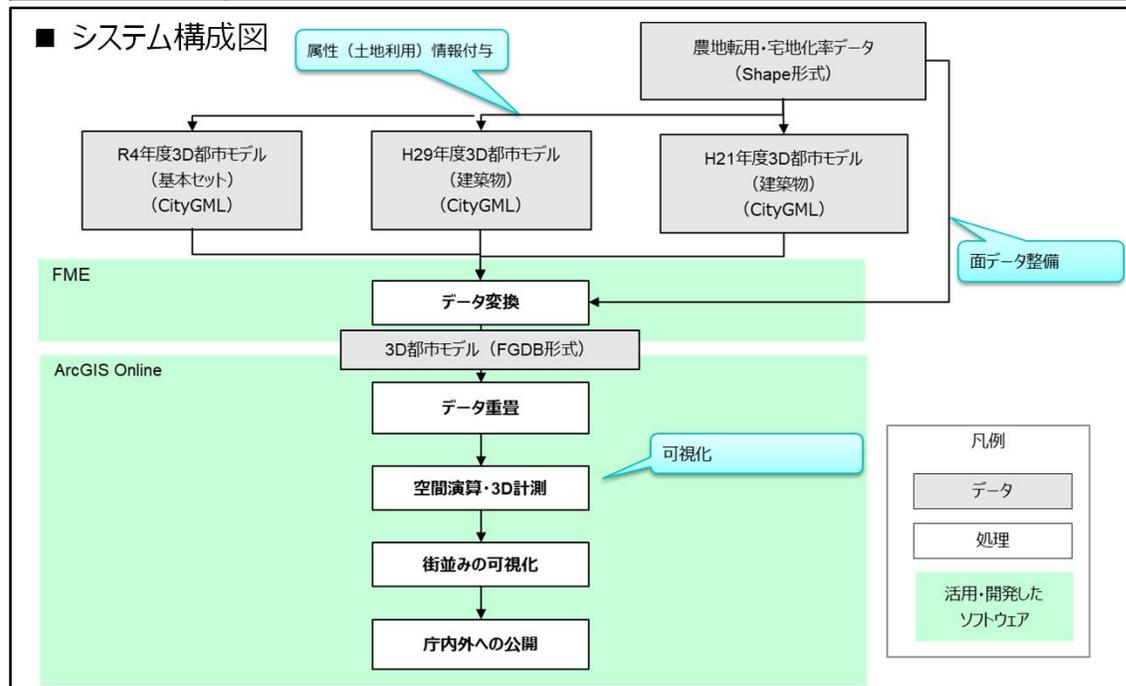
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図	R4年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R4年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査	R4年度	—

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	可・分	1-3万	100-200	2-3千

■ ユースケース①概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり・都市計画施策立案への活用事業
目的	都市計画区域の設定に向けた市街地形成（街並みの変遷）の可視化。
取組内容	都市計画区域設定に向け、H21年度とH29年度の航空写真を使用し、過年度の3D都市モデルを作成する。作成した3D都市モデルへ建築年や農地転用や宅地化率データ等の情報を付加し、複数年にわたる農地転用、市街地形成の可視化（街並みの変遷）を行い、県や農政局等の関係機関との協議や分析に活用を図る。また、都市施設等の検討にも活用を図る。
実施体制	朝日航洋(株)福岡支店

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

43.福岡県うきは市

■ ユースケース①開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 土地利用LOD1 (土地利用区分) 都市計画決定情報LOD1 (準都市計画区域、伝統的建造物群保存地区、街なみ環境整備事業地区)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 農地転用情報 (位置、面積、転用年、転用用途、転用区分等) 宅地化率情報 (宅地区分等)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 過年度の航空写真測量、都市計画基本図 (H21年度) 及び家屋現況図 (H29年度) 成果を使用し、建築物の過年度3D都市モデルデータを作成。 複数年の3D都市モデル (H21年度・H29年度・R4年度) に対し、宅地の広がりわかるよう農地転用及び宅地化率の情報を付与。 複数年の3D都市モデル (H21年度・H29年度・R4年度) の市街化形成を可視化。
政策・事業での 活用	出力結果である市街化形成可視化データをPLATEAU VIEWや3Dビューア(ArcGISOnline等)を使用し、都市計画区域設定に向けた検討の基礎資料とする。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル及びユースケースデータをうきは市公開型GISサイトに掲載【過年度建築物モデル (H21・H29)】 PLATEAU VIEW、公開型GISサイトのURLをうきは市ホームページに掲載

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
都市計画区域設定の検討 (件)	4件 (R5年度)	4件

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	可・分	1-3万	100-200	2-3千



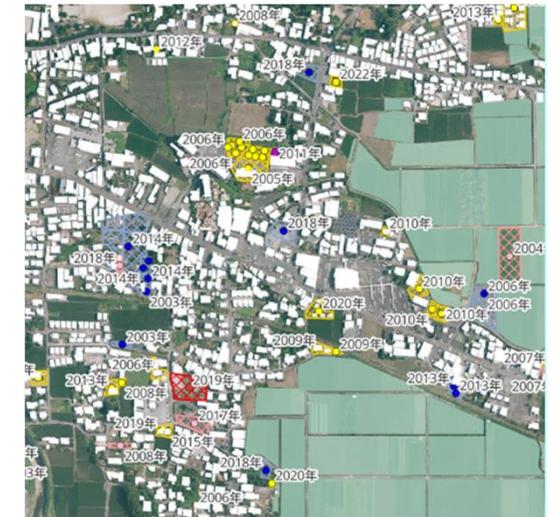
PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発成果イメージ図



市街化形成の可視化

複数年の建物モデルを作成し、重ねて表示することで、市街化形成を可視化。



市街化形成の可視化

建物モデルと農地転用情報を重ねて表示することで、市街化形成を可視化。

■ 今後の展望

今回は市街化形成可視化のユースケースにとどまっているため、今後は、都市計画区域、用途地域の検討や、立地適正化計画等の区域の検討にも活用したい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

43. 福岡県うきは市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	可・分	1-3万	100-200	2-3千

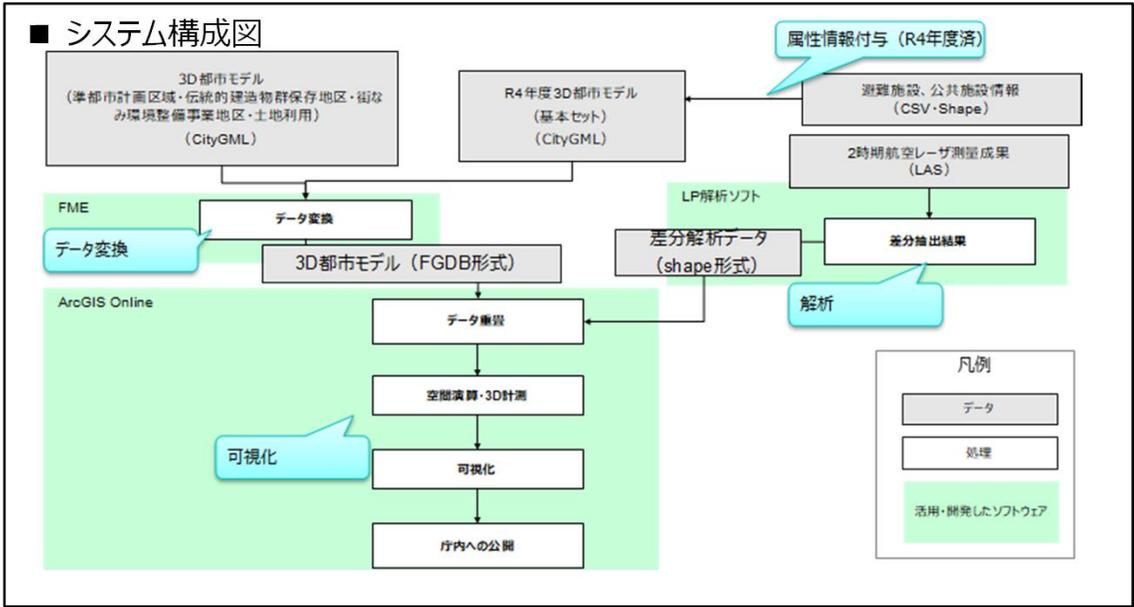


■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	盛土等の危険箇所の把握
取組内容	H21年度及びR3年度の航空レーザ測量成果を使用し、山間部の差分抽出を行う。差分抽出を行ったデータより、近年の土砂移動の把握、開発行為の把握、盛土の把握結果を抽出する。 さらに、差分抽出結果データとR4年度に作成した福岡県が定める土砂災害データ等と3D都市モデルを重ね合わせ、危険盛土の把握等を行う。
実施体制	朝日航洋(株)福岡支店

■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 土地利用LOD1 (土地利用区分) 都市計画決定情報LOD1 (準都市計画区域、伝統的建造物群保存地区、街なみ環境整備事業地区) 災害リスクLOD1 (洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地、災害種類) 公共施設情報(公共施設名称、所在地、用途) 2時期航空レーザ測量成果(土砂移動量)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるようにFMEを活用して変換。 変換した3D都市モデルと2時期航空レーザ測量成果の差分抽出結果を活用して、ArcGISOnline上にデータを重畳、災害リスクを可視化。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 2時期の航空レーザ測量成果を使用した差分抽出結果データ。 出力結果である差分抽出結果データと3D都市モデルを3Dビューア (ArcGISOnline等)上で重畳し、都市計画区域設定に向けた検討の基礎資料とする。
オープンデータ化情報発信	- (基礎資料用データとして庁内で活用)



■ KPI

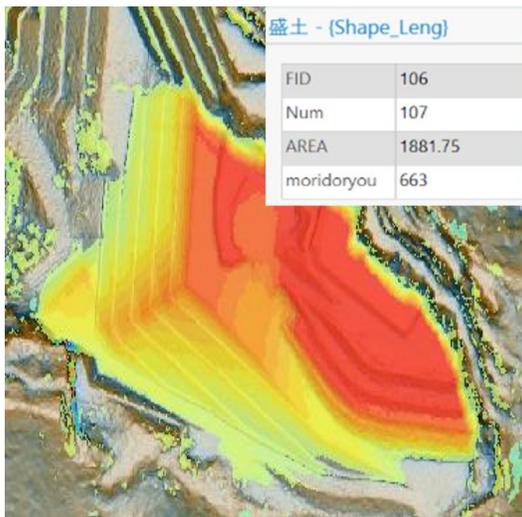
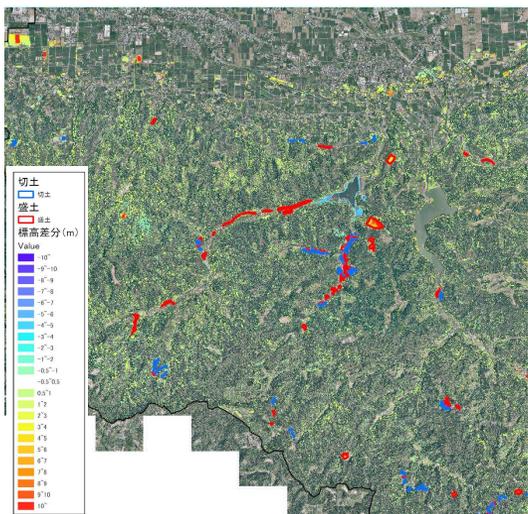
KPI	目標設定	達成状況
危険盛土箇所等の把握に役立つと感じる防災関係部署職員の割合 (%)	70% (R5年度)	80%

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

43. 福岡県うきは市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	可・分	1-3万	100-200	2-3千

■ ユースケース開発成果イメージ図



災害リスクの可視化

2時期のレーザー測量成果より差分抽出し、地形変化の箇所を可視化

災害リスクの可視化

2時期のレーザー測量成果より差分抽出し、盛土等の土砂移動量を把握

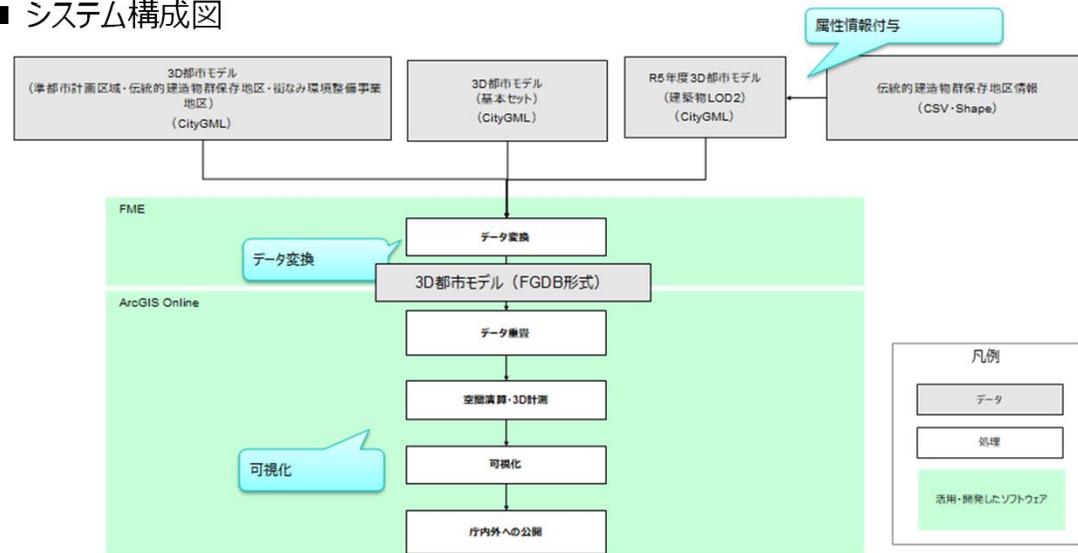
■ 今後の展望

今回は災害リスク可視化のユースケースにとどまっているため、今後は、災害リスクを踏まえた、都市計画区域、用途地域の検討や、立地適正化計画等の区域の検討にも活用したい。

■ ユースケース③概要

テーマ	地域活性化・観光・コンテンツ
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した景観保存・整備事業への活用事業
目的	伝統的建造物群保存地区等の今後の景観保存・利活用の検討、街づくり及びウォカブル区域等の検討。
取組内容	伝統的建造物群保存地区等の景観保存・利活用、景観整備、街づくり、ウォカブル区域の検討を行うための基礎資料として、伝統的建造物群保存地区等のエリアについて、景観情報、その他伝統的建造物群保存地区等の情報を付加したLOD2を作成する(1,839棟)。景観保存・整備事業、景観改善推進事業(国土交通省事業)への検討として利活用を図る。
実施体制	朝日航洋(株)福岡支店

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

43. 福岡県うきは市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防・活	可・分	1-3万	100-200	2-3千



■ ユースケース③開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2(名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 都市計画決定情報LOD1(準都市計画区域、伝統的建造物群保存地区、街なみ環境整備事業地区) 災害リスクLOD1(洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的建造物群保存地区情報(指定物件の有無、保存計画番号、建築時期、建築物種別、施設名、改修履歴等)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 対象区域の3D都市モデルをソフトウェアで活用できるようにFMEを活用して変換。 3D都市モデル(新規建築物LOD2)を活用して、ArcGISOnline上にて伝統的建造物群保存地区の街並みを再現、重畳した結果を活用し、景観情報の可視化。
政策・事業での 活用	出力結果である景観情報・可視化データを3Dビューア(ArcGISOnline等)を使用し、伝建地区等の景観保存・利活用、景観整備、街づくり、ウォークアブル区域の検討を行うための基礎資料とする。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル及びユースケースデータをうきは市公開型GISサイトに掲載。 PLATEAU VIEW、公開型GISサイトのURLをうきは市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
景観・まちづくりの整備・保存(件)	1件 (R5年度)	1件

■ ユースケース開発成果イメージ図



景観情報の可視化

伝統的建造物群保存地区等の建物をLOD2で表示し景観施設を可視化。



景観情報の可視化

建物に伝統的建造物群保存地区等の属性情報を付与。

■ 今後の展望

今回は伝統的建造物群保存地区等の景観情報可視化のユースケースにとどまっているため、今後は、景観計画改定の検討や、伝統的建造物群保存地区等の保存・利活用のための地域計画等の検討にも活用したい。

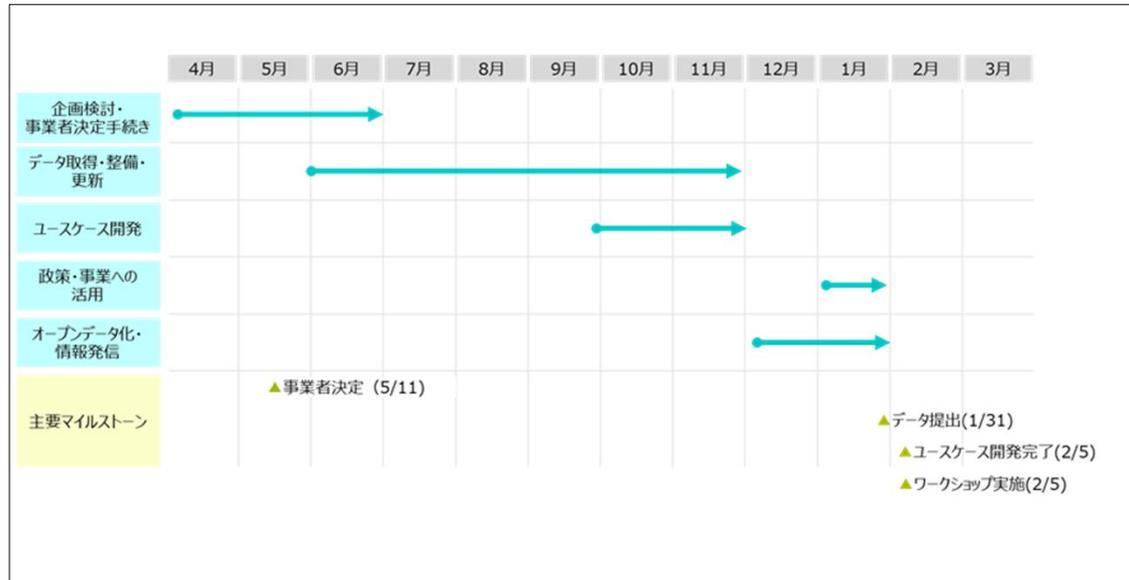
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

44.福岡県筑前町

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	30,433人（令和5年10月時点）
町域全域面積	67.1km ² （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	<p>福岡県の筑紫平野の北部に位置し、米・麦・大豆の土地利用型農業を中心とした田園地域。近年は、福岡都市圏や久留米広域圏に隣接しているという恵まれた立地条件を背景に、人口増加が続いている。</p> <p>3D都市モデルを活用し、近年の大雨災害等に伴う災害リスクの可視化、都市計画への活用を実施する。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	3-5万	50-100	3-5千

担当部局	都市計画課
------	-------



■ 補助事業実施項目

目標	防災・減災対策の充実 機能的な都市・ゆとりある住まいの現実
課題	近年の大雨災害等に伴う災害リスク情報可視化による、現況の把握及び防災意識の向上。 基礎調査データ可視化による、現況把握及び都市計画マスタープラン・用途地域の変更検討。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを防災訓練等に利用することで、現況の災害リスクを理解し、避難経路の検討資料として町民の防災意識を向上。 用途地域見直しによる住民への説明や関係機関との協議資料として適切なコミュニケーションを実現。 町の特性と根拠に基づく政策立案の実現。
事前調査等	航空写真測量・都市計画基本図修正
3D都市モデル 整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備事業（LOD1） 3D都市モデル整備事業（LOD2）
ユースケース 開発	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業 3D都市モデルを活用した都市計画マスタープラン・用途地域の変更検討への活用事業
推進事業	
総事業費（予定）	3,100（万円）
R5年度補助執行額	1,550（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・ 可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 3D都市モデルや開発したユースケースの概要を紹介する動画を筑前町ホームページに掲載【3D都市モデル】
R5年度受託事業者	国際航業株式会社（データ整備/ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

44. 福岡県筑前町

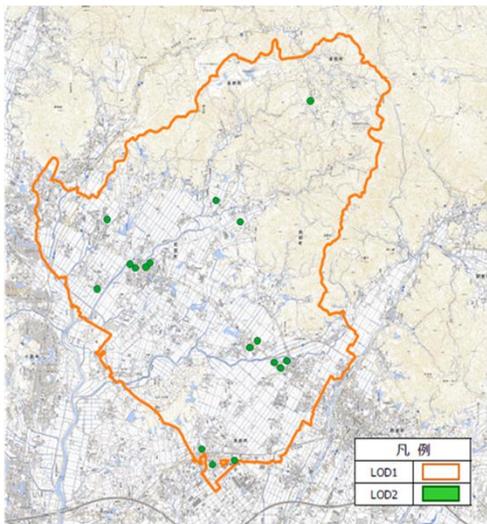


■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 災害リスク 地形 都市計画決定情報 土地利用	筑前町全域	67.1km ²	R5年度新規整備
		筑前町都市計画区域	67.1km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物		17施設	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備エリア図



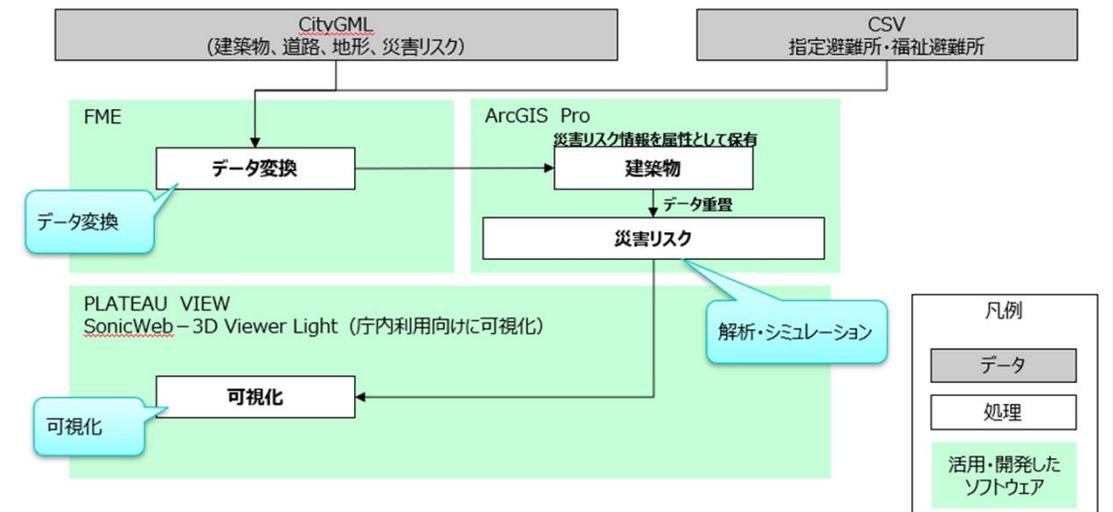
	LOD1 (建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形)	筑前町全域 (67.1km ²)
	LOD2 (建築物)	17施設

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

■ ユースケース①概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	地域住民の防災意識の向上及び危機管理体制の強化。
取組内容	近年の大雨災害等に伴う災害リスクに備えるため、災害リスク情報の三次元表示を行い、災害リスクの可視化を行い、職員等による防災訓練への活用やオープンデータとしてPLATEAU VIEWで公開し住民の防災意識向上へ役立てる。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

44.福岡県筑前町

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	3-5万	50-100	3-5千



PLATEAU
by MLIT

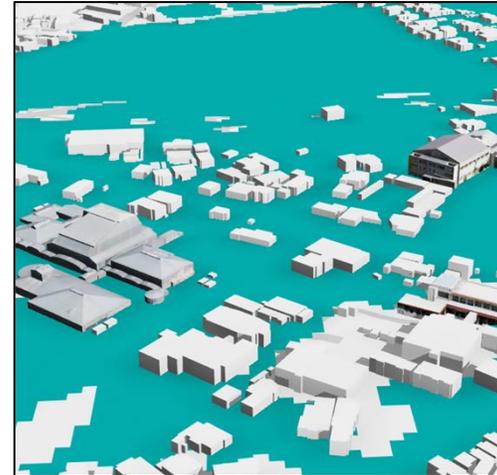
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD0・1・2(名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 道路LOD1(路線名称) 災害リスクLOD1(洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、ため池) 指定避難所・福祉避難所LOD1(名称、収容人数等) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所・福祉避難所 (施設名・住所・収容人数)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルと3次元化した浸水想定区域、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域、ため池氾濫区域を重ね合わせ、3Dビューワで可視化。 計画基本降雨(L1)及び想定最大降雨(L2)を用いて時系列浸水深の可視化を実施。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスク情報の三次元表示を行い、エリアのリスクを可視化し防災意識向上を図る。 町職員等の防災訓練に活用するとともに住民に公開し、自主防災組織の図上防災訓練に活用する。 3Dビューワを用いて、災害リスク課題の抽出を実施。
オープンデータ化 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWによる掲載。 3D都市モデルや開発したユースケースの概要を紹介する動画を筑前町ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
防災担当職員への説明 (件)	1件 (R5年度)	1件 (R6.3.28実施)
住民団体への機能説明 (団体)	5団体 (R6年度)	R6年度 計測予定

■ ユースケース開発成果イメージ図



3D都市モデルと3次元化した浸水想定区域、時系列浸水シミュレーションデータの重ね合わせを実施。



指定避難所・福祉避難所の3Dデータを作成して可視化を実施。

■ 今後の展望

今年度作成・公開したデータを住民団体への説明資料として活用する。説明会では、住民自らが洪水時の避難ルートなどをイメージすることで、より一層の防災意識の向上につなげる。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

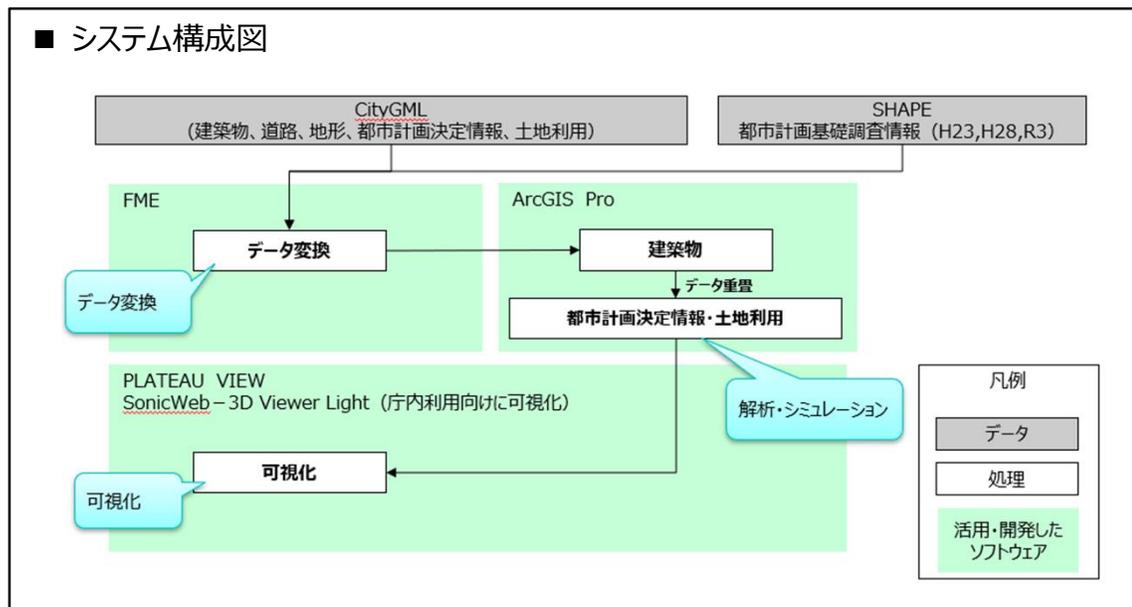
44.福岡県筑前町

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	3-5万	50-100	3-5千

■ ユースケース②概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり・用途地域見直しへの活用事業
目的	用途地域における土地利用の適正化
取組内容	都市計画マスタープラン及び用途地域の変更を検討するため、基礎調査データや公共交通データ、昼間人口の可視化を行い、用途地域の見直しの基礎資料とする。用途地域見直しによる住民への説明資料、県及び国等との協議資料として活用する。
実施体制	国際航業株式会社

■ システム構成図



■ ユースケース②開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD0・1・2 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数、建築年) 道路LOD1 (路線名称) 都市計画決定情報LOD1 (名称、分類、指定建蔽率、面積等) 地形LOD1
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基礎調査 (建物利用現況)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルと3次元化した都市計画情報を重ね合わせ、3Dビューワで可視化。 3Dビューワを用いて都市計画マスタープラン及び用途地域見直し検討を実施。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画情報の三次元表示を行い、都市計画マスタープラン・用途地域の見直しの基礎資料とする。この基礎資料は住民への説明や関連機関との協議においても活用。 高精細 (レベル1000) な航空写真を活用し、建ぺい率・後退距離等の不適合物件調査に活用する。
オープンデータ化情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWによる掲載。 3D都市モデルや開発したユースケースの概要を紹介する動画を筑前町ホームページに掲載。

■ KPI

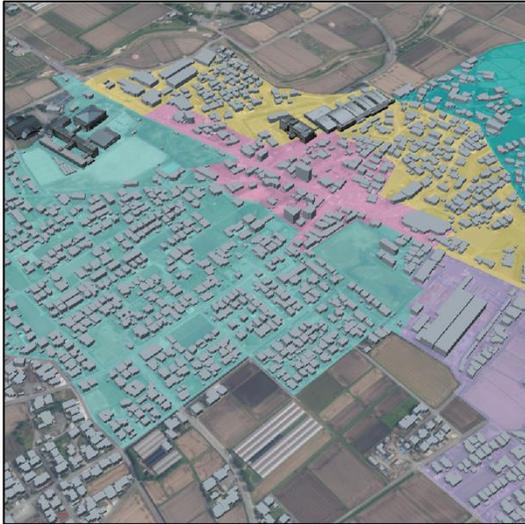
KPI	目標設定	達成状況
公開型GIS (都市計画分野) の閲覧数 (pv)	30pv (R5年度)	83pv (R6.3.29確認)
都市計画マスタープランの変更回数 (1回)	1回 (R8年度)	R8年度 判明予定

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

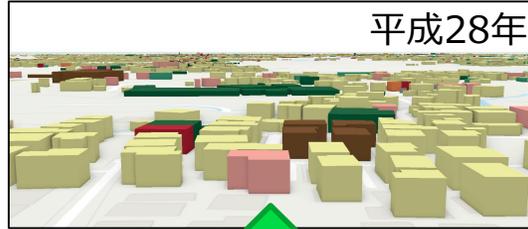
44.福岡県筑前町

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	3-5万	50-100	3-5千

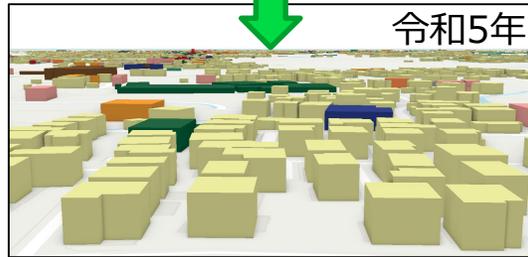
■ ユースケース開発成果イメージ図



3D都市モデルと都市計画情報の重ね合わせを実施。



平成28年



令和5年

過去の都市計画基礎調査情報をもとに、過去の街並みを再現。現在の街並みへの変遷を可視化。

■ 今後の展望

今年度作成したデータは都市計画マスタープランや用途地域の見直しの基礎資料として活用する。

今後は都市計画マスタープランや用途地域の見直し案を、今年度作成したデータと重ね合わせ3Dで表現することで、計画見直し後のイメージを具体化する。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

45. 長崎県佐世保市

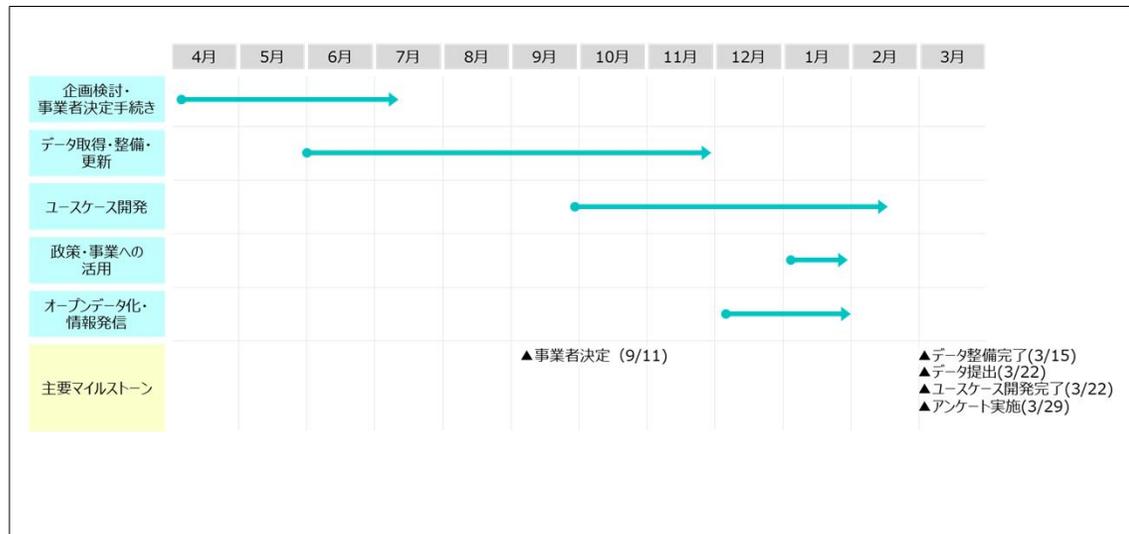


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	243,223人（令和2年10月1日時点）
市域全域面積	426.01km ² （令和4年10月1日時点）
主な産業 地域課題等	長崎県北西部に位置する中核市。海と山に囲まれた地形である。海上・陸上自衛隊や在日米海軍佐世保基地が所在している。主要産業は造船業のほか、観光産業、水産業である。増大する社会負担への対応、不足する担い手・財源確保の対策、都市の無秩序な拡大による弊害の抑制、多様な市民ニーズへの対応、西九州佐世保広域都市圏の人口規模と経済の維持を、共通概念と捉え取組を進めている。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	15万以上	200 - 500	2 - 3千

担当部局	都市整備部都市政策課
------	------------

■ 補助事業実施項目

目標	佐世保中央地域（都市核）における賑わいと活力にあふれ、住む人・訪れる人にとって安全で快適なまちづくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> 都市核においては、人口減少が顕著であり、人口密度と都市機能の維持が必要である。 都市核に限らず、河川に近い市街地では、洪水による浸水が想定される区域が広く分布しており、防災・減災への取組が必要である。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用し、多様なデータから都市核周辺の斜面住宅地や浸水想定市街地を分析することで、の再生について、3D都市モデルを活用することで、多様なデータから再生候補地の検討を行うことが可能となり、また、民間団体との情報共有も可能となる。 3D都市モデルを活用し、浸水リスクをわかりやすく示すことで、避難場所や避難経路の検討等ができ、市民の防災意識の啓発と向上が期待できる。 3D都市モデルを活用し、都市計画関連情報を一元化して公開することで、開発等を検討する事業者が容易に情報を取得でき、併せて、行政側の窓口業務の効率化が図られる。
事前調査等	-
3D都市モデル 整備・更新	-
ユースケース 開発	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生の鍵を握る斜面住宅地の再生 浸水想定市街地の防災まちづくり
推進事業	-
総事業費（予定）	21,950（万円） ※うちR5年度 2,600（万円）
R5年度補助執行額	1,300（万円）
補助対象外の 関連事業	-
オープンデータ化・可 視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 市のホームページにPLATEAU VIEWのリンク掲載
R5年度受託事業者	パスコ（ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

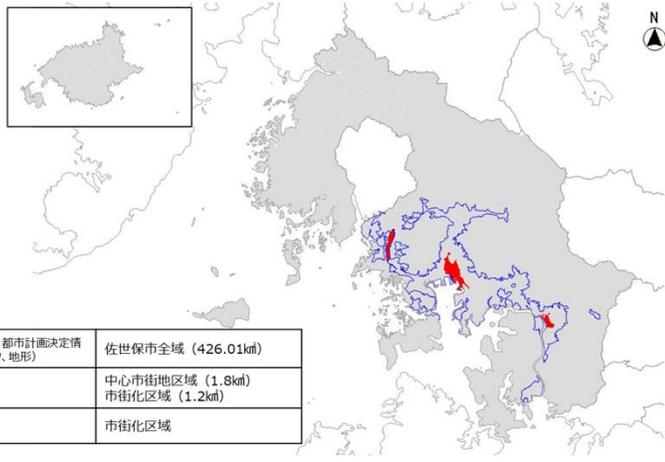
45. 長崎県佐世保市

■ 3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 土地利用 災害リスク 地形	佐世保市全域	426.01km ²	R4年度整備済
	汎用都市オブジェクト	佐世保市全域	426.01km ²	R4年度整備済
	都市計画決定情報	佐世保都市計画区域 江迎都市計画区域 宇久都市計画区域	239.76km ² 46.68km ² 6.13km ²	R4年度整備済
LOD2	建築物	中心市街地区域 市街化区	1.8km ² 1.2km ²	R4年度整備済

■ 3D都市モデル整備エリア図



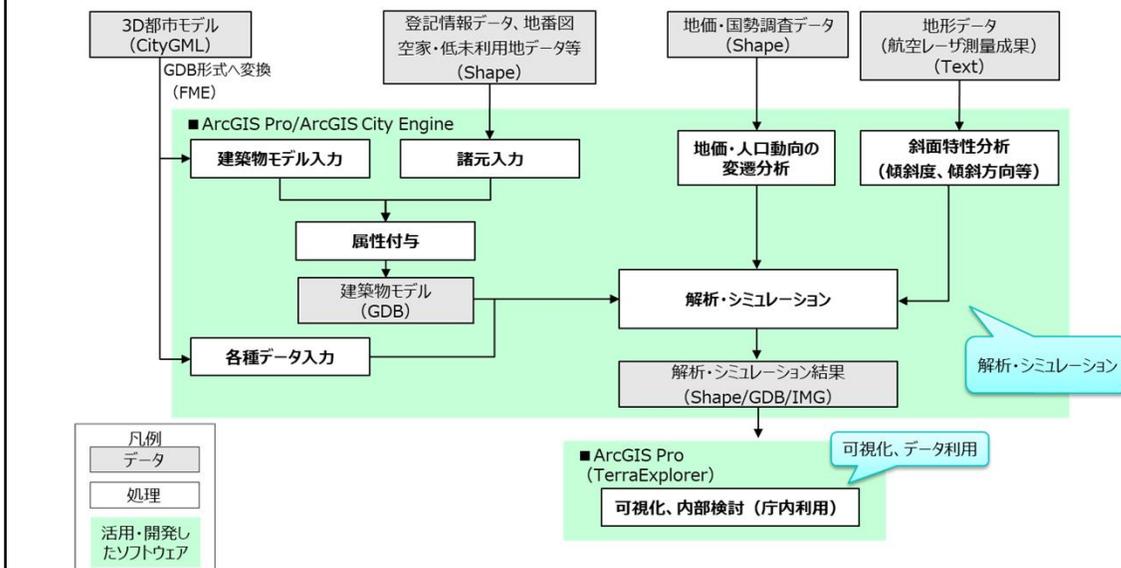
	LOD1 (建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形)	佐世保市全域 (426.01km ²)
	LOD2 (建築物)	中心市街地区域 (1.8km ²) 市街化区域 (1.2km ²)
		市街化区域

項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R4年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R4年度	2,500
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	H29年度	—

■ ユースケース①概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	都市再生のカギを握る斜面住宅地の再生
目的	都市核における人口密度の維持
取組内容	R4年に構築した3D都市モデルに、詳細な地形情報、地価情報、空き家情報等を重畳することで、斜面住宅地の再生に向けた施策検討に活用する。また、分析結果の一部を共有することにより、民間事業者の取組の誘発を図る。
実施体制	株式会社 パスコ

■ システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

45. 長崎県佐世保市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	15万以上	200 - 500	2 - 3千



PLATEAU
by MLIT

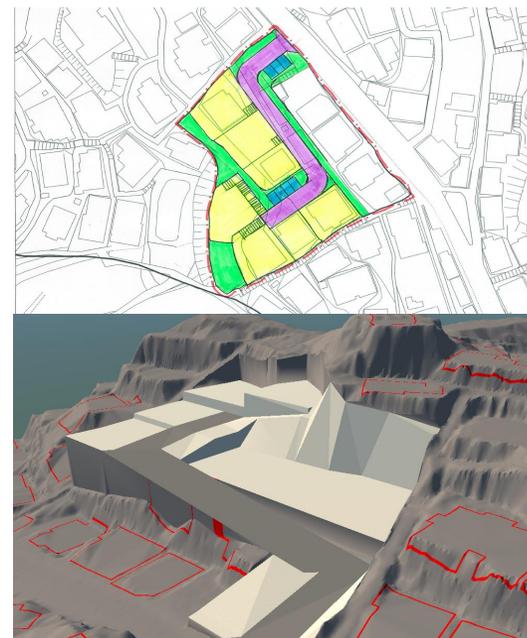
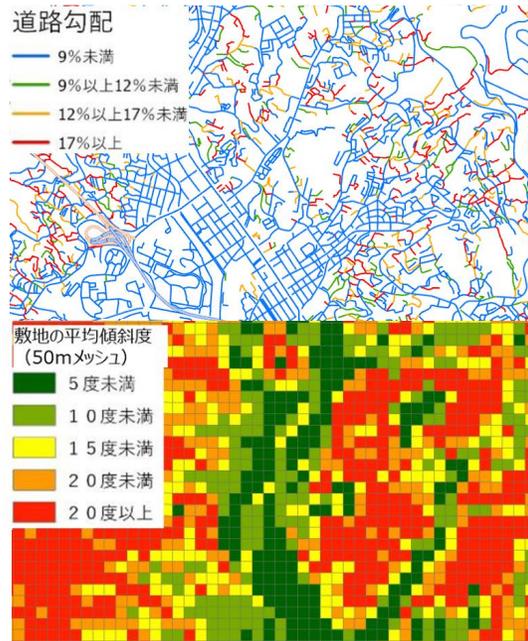
■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1 (用途、構造種別、建築年、災害リスク) 交通 (道路) LOD1 (機能 (道路種別)) 土地利用LOD1 (土地利用分類、面積) 都市計画決定情報LOD1 (都市計画区域、区域区分、用途地域等) 災害リスクLOD1 (土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域) 汎用都市オブジェクトLOD1 (宅地造成工事規制区域、大規模盛土造成地マップ等)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 登記情報データ (土地・家屋) (登記情報 (権利関係の確認)) 地番図 (地番、画地コード (敷地の確認)) 地価データ (路線価情報) 空家・低未利用地データ (-) 国勢調査データ (小地域) (人口、世帯数 (小地域データを100mメッシュに配分後増減を把握)) 地形データ (航空レーザ測量成果)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 地価情報、空き家情報、詳細な地形データ、人口動向等の各種データを収集し、3D都市モデルに重畳する。 現状把握で整理・加工したデータを用いて、3次元要素を加味した空間分析等を行うことにより、モデル地区の課題を整理する。 モデル地区の課題を踏まえて、敷地の共同化や道路拡幅をはじめとする再生シナリオを検討し、3D都市モデルを用いて、当該シナリオの効果や問題点をシミュレーションすることにより、再生イメージを作成、可視化する。
政策・事業での 活用	斜面市街地の3次元分析結果や斜面市街地再生シミュレーション結果を関係部局に共有し、行政にて講じる政策があるのかを検討していく。
オープンデータ化 情報発信	秘匿性が高いデータを除外し、庁内用GISに搭載する。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
斜面住宅地再生の課題共有 (%)	100 (R5年度)	100%

■ ユースケース開発成果イメージ図



- 斜面市街地の車両侵入可否状況図
道路勾配や幅員、敷地の接道状況が確認できる。

- 斜面型共同住宅整備による
低未利用地対策と利便性向上の両立
- 低未利用地を活用した権利変換を伴う
対象エリアの土地の集約及び整序

■ 今後の展望

本業務の分析データを庁内外へ展開し、民間事業者による斜面市街地再生の促進につなげていきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

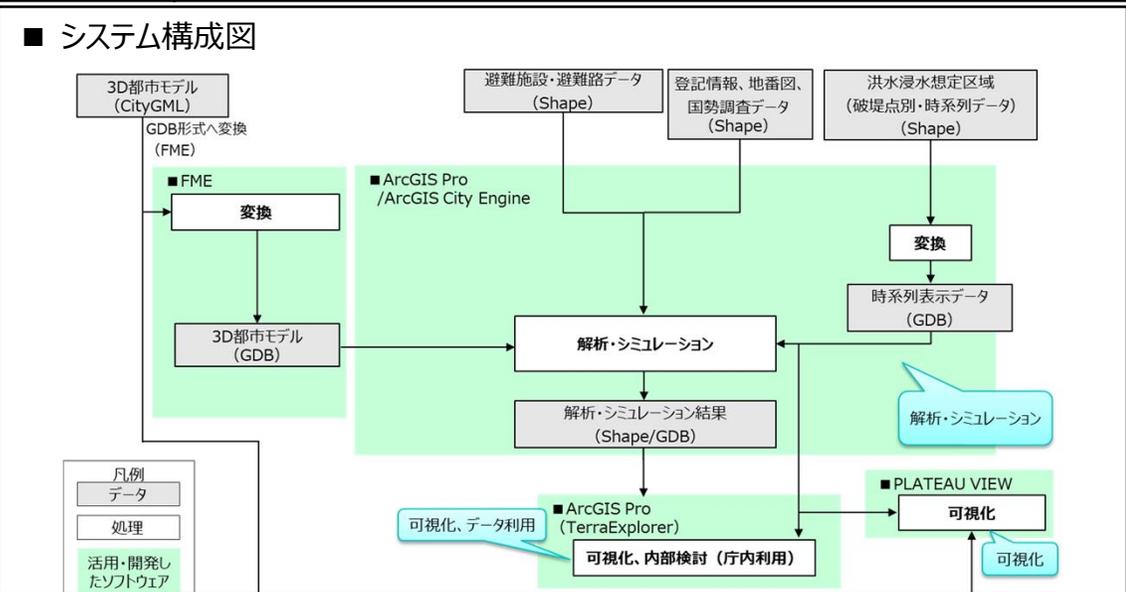
45. 長崎県佐世保市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	15万以上	200 - 500	2 - 3千



■ ユースケース②概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	浸水想定市街地の防災まちづくり
目的	住民属性を考慮した垂直避難施設整備の検討
取組内容	3D都市モデル（建物利用情報や築年数、用途、構造等を属性として付与した建築物、浸水リスク等）を利用することで浸水時に垂直避難が可能な建物を把握し、避難計画の検討に活用する。 また、浸水リスクを有する箇所での建築について、垂直避難が可能な建物整備に対するインセンティブ検討等に活用する。 さらに、周辺住民の属性情報を用いて住民属性に応じた避難場所の検討に活用する。
実施体制	株式会社 パスコ



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2(用途、構造種別、建築年、災害リスク) 交通（道路）LOD1（機能（道路種別）） 土地利用LOD1（土地利用分類） 都市計画決定情報LOD1（都市計画区域、区域区分、用途地域等） 災害リスクLOD1（土砂災害警戒区域、洪水浸水想定区域） 地形LOD1 汎用都市オブジェクトLOD1(立地適正化計画、宅地造成工事規制区域等)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 登記情報データ（土地・家屋）（登記情報（権利関係の確認）） 地番図(地番、画地コード（敷地の確認）） 避難施設・避難路データ 国勢調査データ（小地域）（人口、世帯数（小地域データを100mメッシュに配分後増減を把握）） 洪水浸水想定区域（破堤点別・時系列データ）（ArcGIS Proで表示可能な形式に変換）
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 避難施設及び避難路データ、人口動向等の各種データを収集し、3D都市モデルに重畳する。 その情報から浸水想定市街地の特性を複合的に分析し、詳細な分析評価やシミュレーションを行うモデル地区を選定する。まちづくりの方針、避難特性等の観点から、災害ハザード（水害）に対するモデル地区の現状を把握する。 モデル地区の課題をふまえ、居住誘導の検討、容積率割り増しの検討等を行い、水災害対策強化と連携した市街地再生のイメージを作成、可視化し、作成した再生イメージを事業化に向けた内部検討で活用する。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 浸水想定市街地の3次元分析・評価 浸水想定市街地再生シミュレーション
オープンデータ化情報発信	PLATEAU VIEWのリンク掲載。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

45. 長崎県佐世保市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・防	可・分	15万以上	200-500	2-3千



PLATEAU
by MLIT

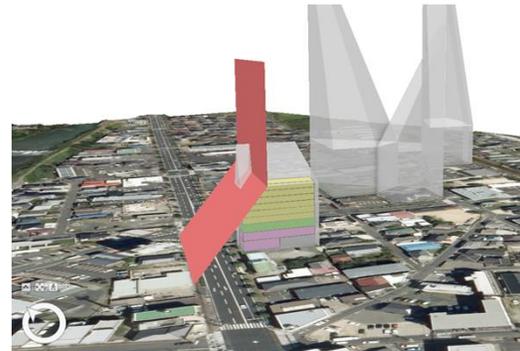
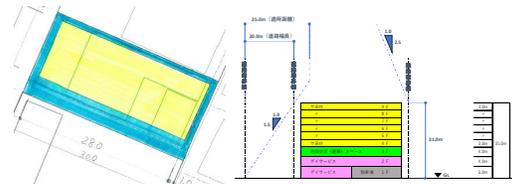
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
浸水想定市街地のまちづくりに対する課題共有(%)	100 (R5年度)	R6年度 計測予定

■ 今後の展望

本業務のシミュレーション結果を、住民への周知啓発や庁内での施策検討に活用していきたい。
浸水リスクに対する避難パターン検討や中長期的な居住の誘導策の検討につなげていきたい。

■ ユースケース開発成果イメージ図



- 任意の地点の浸水深が最大となる際の浸水の広がり方をGIS上に重畳。
- 建築物ごとの水平避難可否を分析し、GIS上に表示。

- 避難スペースを確保する手法の一つである容積率の緩和による建築物の高上げを検証。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

46. 熊本県玉名市

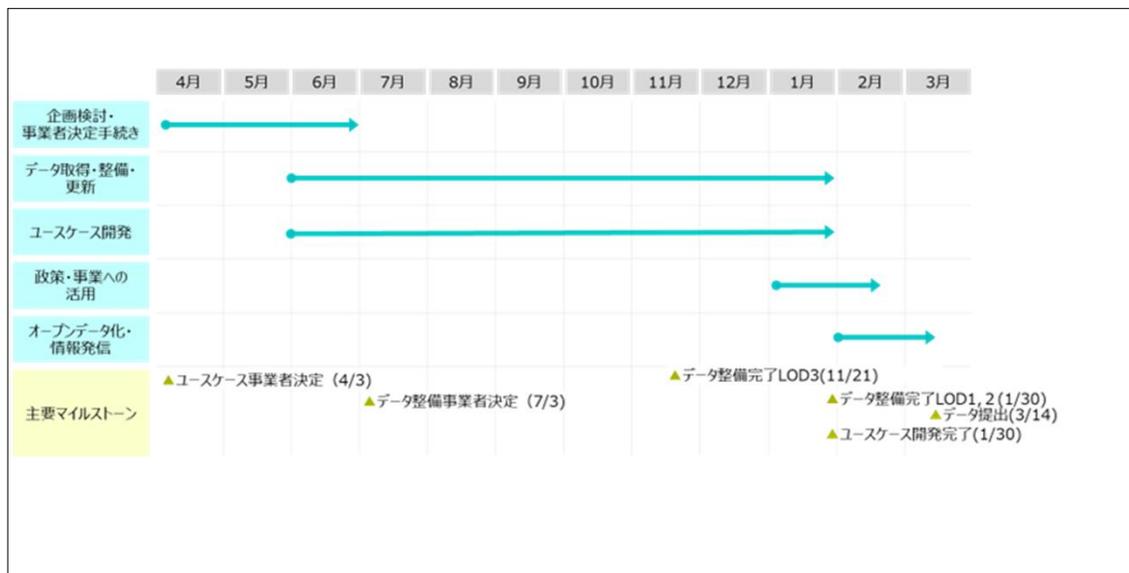


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	63,587人（令和5年10月時点）
市域全域面積	152.6km ² （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	<p>熊本県の北西部に位置する県北地域の拠点都市。農業、漁業、観光（温泉）を中心とした田園都市。歴史と文教のまち、菊池川が流れる玉名平野では米作り、商業、温泉など古くから営まれ、また、大学、高校が集中する県北の文教都市を形成している。</p> <p>3D都市モデルを活用して、地域に賑わいをもたらす空間設計のEBPMを実施する。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	5 - 15万	100 - 200	5 - 10千

担当部局	建設部都市整備課
------	----------

■ 補助事業実施項目

目標	地域の賑わい創出の実現
課題	新型コロナ禍の影響も踏まえ、アフターコロナを見据えたまちの賑わい創出や、地域の観光資源の発掘、磨き上げが必要。
創出価値	3D都市モデルを活用して、住民や来街者の移動・滞在状況等の人流データを重ね合わせ、都市スケールでの空間の利用状況を可視化することができる。これを踏まえたシミュレーション等を行い、地域に賑わいをもたらす空間設計のEBPMが可能となるほか、地域の景観やビジョンをVR空間上に再現し、今後のまちづくりの検討資料として用いたり、地域の魅力を発信したりすることも期待される。
事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図更新 航空測量
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル更新 (LOD1) 3D都市モデル更新 (LOD2) 3D都市モデル整備 (LOD3)
ユースケース開発	デジタルツイン環境構築事業
推進事業	—
総事業費（予定）	14,550（万円） ※うちR5年度 6,751.4（万円）
R5年度補助執行額	3,375.7（万円）
補助対象外の関連事業	<ul style="list-style-type: none"> 防災マップの作成・GIS化（防災・安全交付金） 統合型GISの改修
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル/UCデータ】 人流シミュレーション動画を玉名市ホームページに掲載【UC-win/Road】
受託事業者	株式会社パスコ（データ整備・更新） 国際航業株式会社（データ整備/ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

46. 熊本県玉名市



PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	その他 その他	109km ² 1.36km ²	R2年度整備済 (R5年度一部更新)
LOD1	建築物 交通（道路） 地形	その他 その他	109km ² 1.36km ²	R2年度整備済 (R5年度一部更新)
LOD1	都市計画決定情報 土地利用 災害リスク	市全域	152.6km ²	R2年度整備済
LOD2.0	建築物	都市機能誘導区域	1.36km ²	R5年度更新

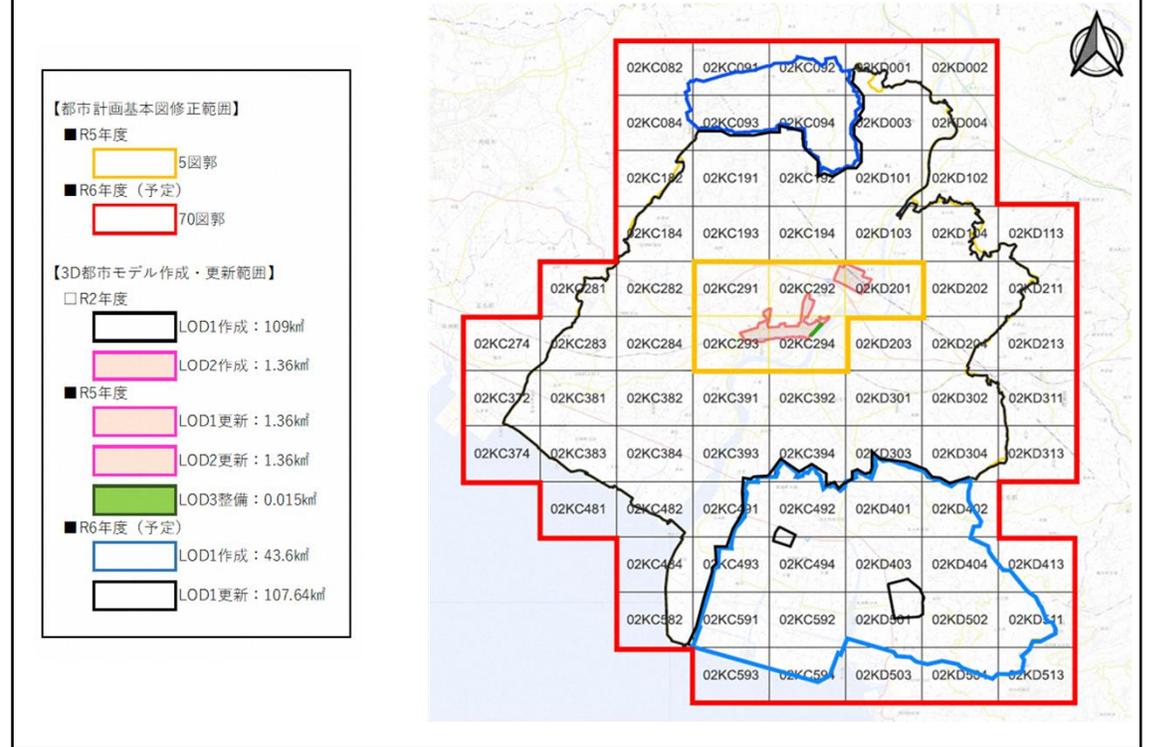
■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	水部	玉名市高瀬裏川河川 緑地	0.015km ²	R5年度新規整備
LOD3.0	建築物 都市整備 植生 地形 橋梁	玉名市高瀬裏川河川 緑地	0.015km ²	R5年度新規整備
LOD3.2	道路 歩道	玉名市高瀬裏川河川 緑地	0.015km ²	R5年度新規整備

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	5-15万	100-200	5-10千

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図(修正)	R5年度～R6年度	2,500
測量成果	新規測量(航空写真)	R5年度	2,500
測量成果	新規測量 (手持ち式レーザーキャナ)	R5年度	—
属性情報	都市計画基礎調査(既存)	R4年度	—

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

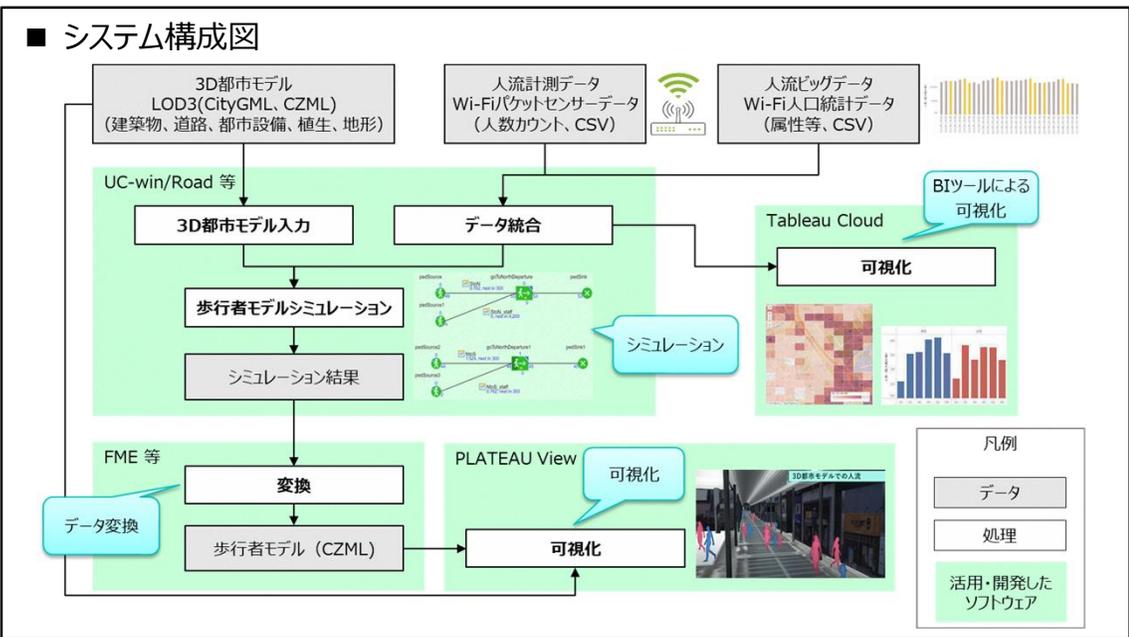
46. 熊本県玉名市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	5-15万	100-200	5-10千



■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	デジタルツイン環境構築事業
目的	公園内に設置した人流センサーから取得した計測データを加工し、3D都市モデル上に詳細に再現することでデジタルツイン環境を構築し、地物(都市設備、植生等)の配置最適化や施策反映のためのシミュレーション等への活用を目的とする。
取組内容	各種デジタルトランスフォーメーションを推進するため、LOD3で作成した公園の3D都市モデル上で人流計測のデータを可視化して、施設の配置最適化や施策のシミュレーション等に活用できる環境を構築する。
実施体制	国際航業株式会社



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD3.0 (名称) 道路LOD3.2 (舗装種別 (アスファルト、コンクリート、土系舗装、木質系舗装等)、用途 (道路橋、園路、木橋、渡り廊下、草地 等)) 都市設備LOD3.0 (区分、種類) 植生LOD3 (植被の主な樹種 (低木、地被植物、草花、不明)、植被の種類 (花菖蒲などの指定した種類のみ)) 地形LOD3
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 人流計測データ(位置) Wi-Fi人口統計データ(性別・年代別10歳刻み12区分 (10代~60代以上)、推定居住地、推定就業地)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> Wi-Fiパケットセンサーによる人流計測データと、スマホアプリ等で取得される人流ビッグデータを組み合わせることで、公園来訪者の属性 (性別、年代、居住地等) を付与した分析データとする。 公園3Dモデル上に推計・補正処理を行った人流データを投入し、3D空間上の椅子や東屋などの障害物を避けたり、木道や橋の上を歩いたりするなどのルールに従って歩行者モデルを作成。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> BIツールによる人流ビッグデータ可視化。 公園LOD3モデルの「PLATEAU VIEW」での一般公開。 イベント期間中の歩行者モデルデータ (CZML形式) の「PLATEAU VIEW」での一般公開。 イベント期間中の歩行者モデルデータ (CZML形式) のUC-win/Roadでの可視化。
オープンデータ化情報発信	人流シミュレーション動画を玉名市ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
施策立案の効率化 (%)	50%(R5年度)	88%(R5年度)
エリア滞留人数の増加 (人数)	対R5年度10%増 (R6年度)	R6年度計測予定

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

46. 熊本県玉名市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可・分	5-15万	100-200	5-10千



■ ユースケース開発成果イメージ図



しょうぶ祭りが開催される高瀬裏川水際緑地を精緻な3D都市モデル（建築物、道路、徒歩道、橋梁等）をLOD3で構築した。



Wi-Fiプローブ機器を用い、計測した人流データを3D都市モデルへの可視化を実施した。
EBPMによる人流利活用を図る。

■ 今後の展望

今回整備したLOD3を活用したメタバース実証実験事業を行い、メタバース空間を利用した新たな関係人口の取り組みを考えていきたい。

R4年度に実施した3D避難シミュレーションVR制作業務の拡張及びブラウザ対応を考えていきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

47. 熊本県益城町

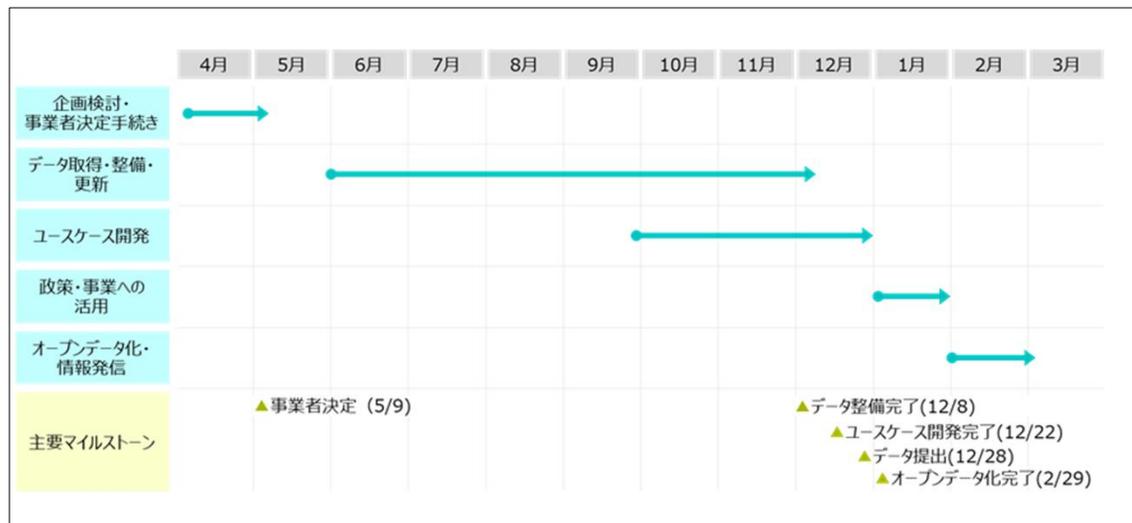


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	33,986人（令和5年10月時点）
町域全域面積	65.68km ² （令和5年10月時点）
主な産業 地域課題等	<p>熊本県の中央北寄りに位置し、交通の玄関口として、「阿蘇くまもと空港」をはじめ、高速インターなどの交通拠点を有し、企業進出や流通拠点が形成されている。北西部では、熊本市のベッドタウンとしての機能を持つ上、インター付近に流通拠点を形成している。中央部は、田畑が点在しており、都市部と農村部が融和する都市。</p> <p>本町では、平成28年4月に発生した熊本地震により、甚大な被害を受けた。現在は土地区画整理事業、都市計画事業等を実施し、復興に向けたまちづくりを行っている真っ只中である。3D都市モデルを活用し、災害に強いまちづくりを実現する。</p>

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	3-5万	50-100	3-5千
担当部局	都市計画課都市計画係			

■ 補助事業実施項目

目標	災害に強い都市形成による、住みたい、住み続けられる安全なまちづくり
課題	<ul style="list-style-type: none"> 災害に強いまちづくりの推進（復興まちづくり）。 現状の市街地及び今後の将来的土地利用の動向を踏まえた将来都市構造の形成。 震災復興関連事業による既成市街地の早期再生。 地震災害への不安を払拭する災害に強い市街地形成の取組み。 様々な災害に対応できる避難施設や都市基盤の強化。
創出価値	復興事業・都市計画事業の効率化：3D都市モデルを活用したまちづくり（各関係機関への事業認可を取得するための事業説明や、合意形成に伴う住民説明等にて使用し、復興事業へ活用）
事前調査等	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画基本図更新 航空測量
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備事業（LOD1） 3D都市モデル整備事業（LOD2）
ユースケース開発	3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業
推進事業	3D都市モデルの3Dビューア構築
総事業費	3,280（万円）
補助執行額	1,640（万円）
補助対象外の関連事業	—
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載【3D都市モデル】 益城町ホームページ公開型GISサイトへの掲載【3D都市モデル／UCデータ】
受託事業者	朝日航洋株式会社（データ整備/ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

47. 熊本県益城町

3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物	町全域	65.68km ²	R2年度整備済 R5年度全域更新 (H27年度分整備)※
LOD1	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	町全域	65.68km ²	R2年度整備済 R5年度全域更新
LOD2	建築物	益城町新庁舎	0.08km ²	R2年度整備済 R5年度一部新規整備

※ H27年度建築物データは、ユースケースデータとして整備

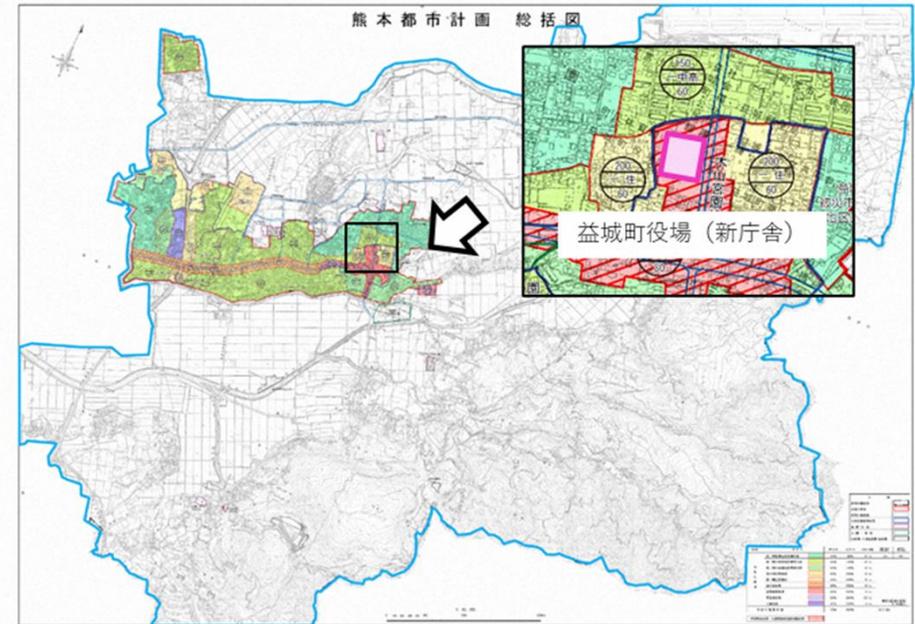
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	新規測量（航空写真）	R5年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（既存）	R3年度	—

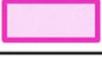
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	3-5万	50-100	3-5千



PLATEAU
by MLIT

3D都市モデル整備エリア図



	LOD1（建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、災害リスク、地形）	益城町全域（65.68km ² ）
	LOD2（建築物）	益城町新庁舎（0.01km ² ）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

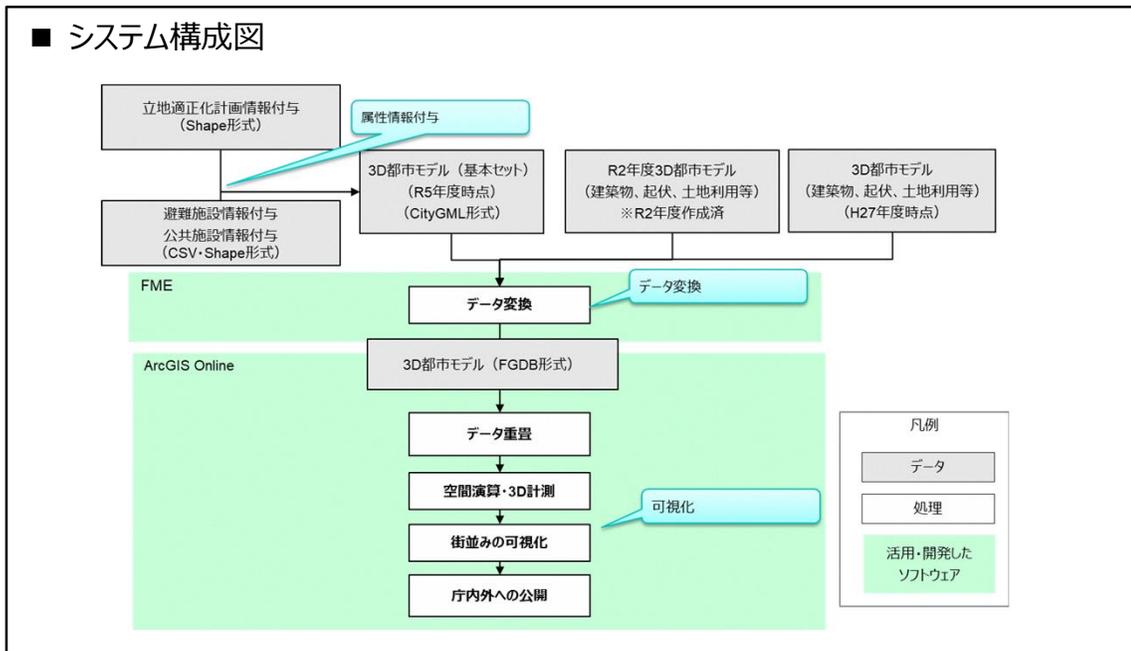
47. 熊本県益城町

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	3-5万	50-100	3-5千

■ ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したまちづくり都市計画立案への活用事業
目的	復興事業・都市計画事業の可視化による事業進捗等の効率化。
取組内容	現在平成28年に発生した熊本地震により、復興事業及び都市計画道路事業や、土地区画整理事業が進んでいる。中心市街地活性化に向けて、ユースケースを実施する。
実施体制	朝日航洋株式会社

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD0(家屋外形) 建築物LOD1 (名称、用途、構造種別、計測高さ、地上階数) 土地利用LOD1 (土地利用区分) 都市計画決定情報LOD1(区域名称、用途) 災害リスクLOD1(洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地、災害種類) 公共施設情報(公共施設名称、所在地) 立地適正化計画誘導区域情報(誘導区域情報)
ユースケース開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 過年度(H27年度)の航空写真測量及び都市計画基本図成果を使用し、建築物の過年度3D都市モデルデータを作成する。 3時期の3D都市モデル(H27・R2・R5年度)をArcGISOnline上にて、土地・家屋利用状況、立地適正化計画誘導区域内での建物の状況別に色分け表示し、震災前・後の街の変遷、震災後の復興事業・都市計画道路事業、土地区画整理事業における当町の市街化形成の可視化(街並みの変遷)を行う。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 震災前から震災後の復興事業における当町の市街化形成の可視化(街並みの変遷)を行い、都市計画道路事業や、土地区画整理事業の中心市街地活性化に向けて、各関係機関への事業認可を取得するための事業説明や、合意形成に伴う住民説明等にて使用。 立地適正化計画における居住誘導区域等のデータを3D都市モデルへ付与し、震災後における居住誘導の可視化。
オープンデータ化情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル及びユースケースデータを公開型GISに掲載。 PLATEAU VIEW及び公開型GISサイトを益城町ホームページに掲載。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
土地区画整理事業や都市計画道路事業等の協議において、3D都市モデルを使用した件数(件)	1件 (R5年度)	1件

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

47. 熊本県益城町

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街	可	3-5万	50-100	3-5千



■ ユースケース開発成果イメージ図



震災前後の街の変遷

二時期の建築物の建築年を強調表示させることで震災前後の変遷を俯瞰的に把握し、各種協議や説明資料に使用する。

市街化形成の可視化

基礎調査結果と用途地域等を重畳させることで現行の都市計画との整合性を俯瞰的に把握し、各種協議や説明資料として使用する。

■ 今後の展望

公開型GISの配信情報（コンテンツ）を充実させることで行政サービスの向上を図るとともに、各関係機関への事業説明や合意形成に伴う住民説明等にて活用する。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

48. 大分県臼杵市

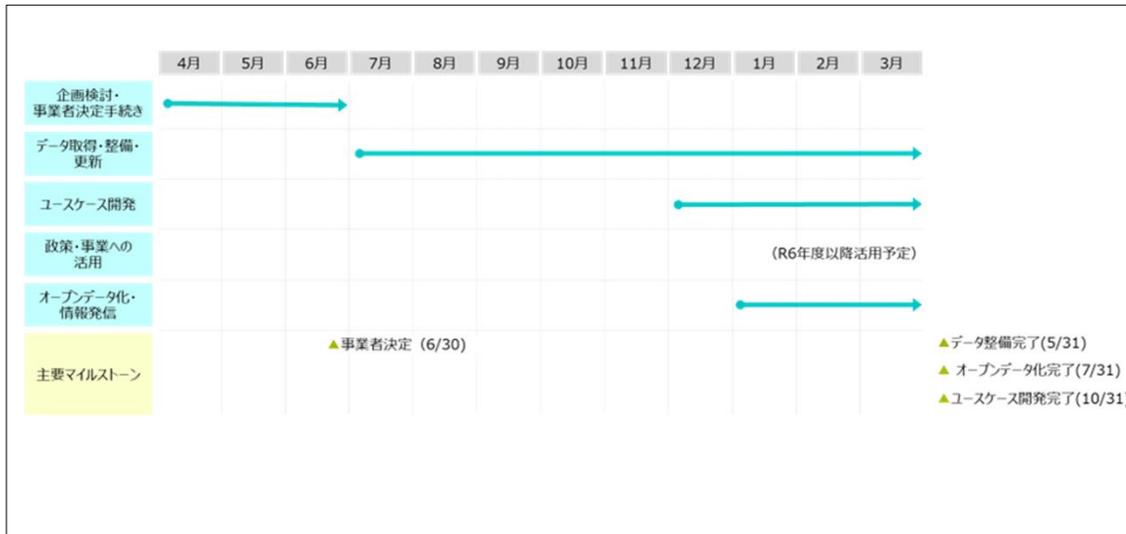


PLATEAU
by MLIT

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	34,296人（令和5年4月時点）
市域全域面積	291.20km ² （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	<p>臼杵市は大分県南東部に位置する地方都市で、基幹産業である醸造業、造船業を中心とする地域資源を活かした伝統的産業によって地域経済が支えられてきた。</p> <p>また、温暖多雨な気候を生かした農業も盛んであるとともに、味噌・醤油・酒造りなどの醸造業や、質素儉約の中で知恵を絞って生まれた郷土料理などの多様な食文化が発展し、2021年にはユネスコ創造都市ネットワーク（食文化分野）の加盟認定を受けている。3D都市モデルを活用し災害リスクを可視化することで、災害に強いまちづくりを促進する。</p>

■ 令和5年度スケジュール ※繰越



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	3-5万	200-500	2-3千
担当部局	都市デザイン課			

■ 補助事業実施項目

目標	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
課題	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画の居住誘導区域及び防災指針策定作業における浸水想定区域等の可視化が急務。 都市計画の用途地域や道路の見直し、景観計画、国土強靱化地域計画、立地適正化計画等の改訂作業を連携して行う必要がある。
創出価値	<ul style="list-style-type: none"> 立地適正化計画策定において、3D化された災害、土地、建築物等の情報を有意に活用し、災害リスクを可視化する。 立地適正化計画策定後の説明責任を効果的に果たせるようになるとともに、今後の各種防災施策の連携が向上する。
事前調査等	都市計画基本図の修正
3D都市モデル整備・更新	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデル整備事業（LOD1） 3D都市モデル整備事業（LOD2）都市機能誘導区域（予定）の一部
ユースケース開発	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
推進事業	—
総事業費	2,724.7（万円）
R5年度補助執行額	1,178.8（万円）
補助対象外の関連事業	都市計画GISシステムの更新
オープンデータ化・可視化・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> G空間情報センターへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWへの掲載 【3D都市モデル】 PLATEAU VIEWのURLを臼杵市ホームページに掲載
R5年度受託事業者	株式会社パスコ（データ整備/ユースケース開発）

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

48. 大分県臼杵市

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット）

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	臼杵市都市計画区域	48.22km ²	R5年度新規整備
LOD2	建築物	都市機能誘導区域（予定）の一部	0.31km ²	R5年度新規整備

■ 3D都市モデル整備状況（基本セット以外）

※赤字：R5補助対象地物

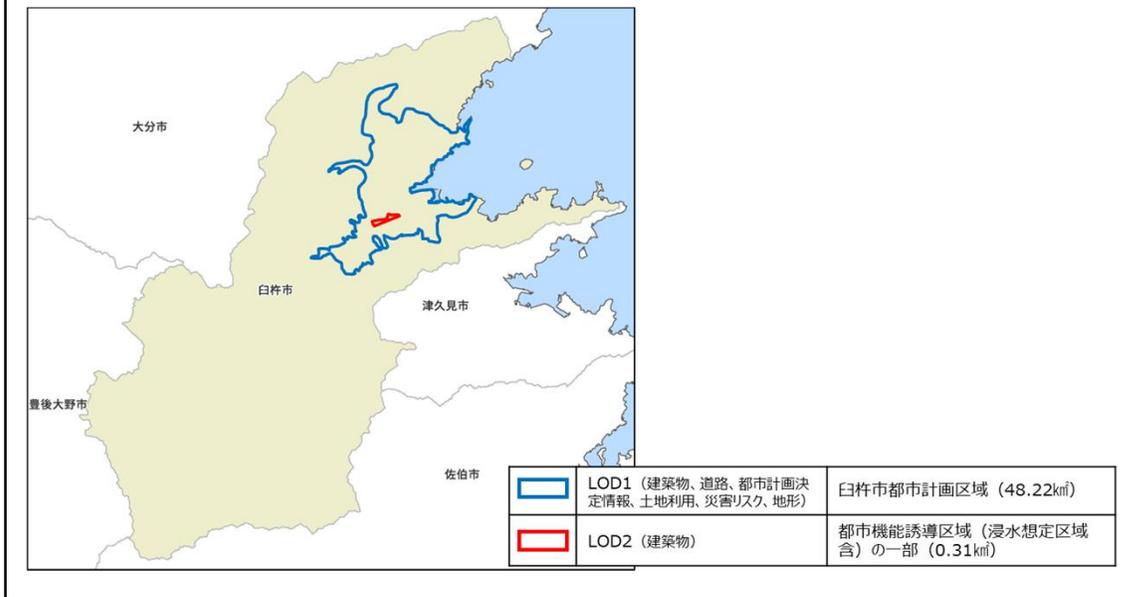
LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	立地適正化計画データ	都市機能誘導区域 居住誘導区域	1.573km ² 4.368km ²	R5年度新規整備

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	3-5万	200-500	2-3千



PLATEAU
by MLIT

■ 3D都市モデル整備エリア図



項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	都市計画基本図（修正）	R5年度	2,500
測量成果	既存資料（航空写真）	R2年度	1,000
属性情報	都市計画基礎調査（修正）	R5年度	—

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

48. 大分県臼杵市

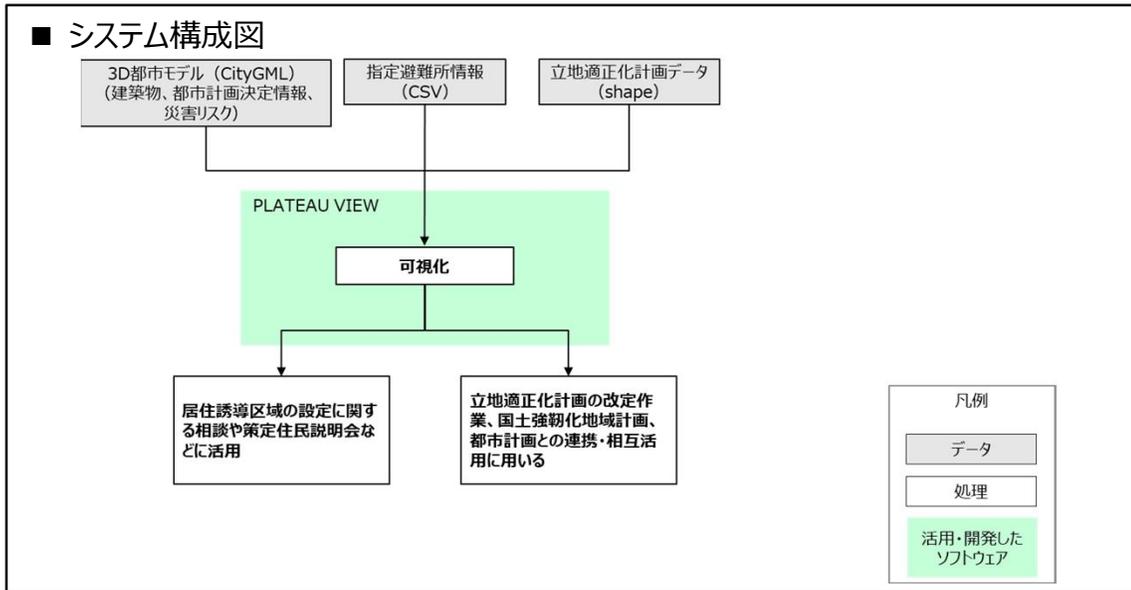
分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	3-5万	200-500	2-3千



■ ユースケース概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース名称	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化事業
目的	立地適正化計画の居住誘導区域及び防災指針策定中に課題となっている「浸水想定区域」等を可視化し、策定後の説明責任を効果的に果たすとともに、今後の各種防災施策の連携を向上させる。
取組内容	浸水想定区域を取り込んだ3D都市モデルによって、災害リスクを三次元で可視化し、居住誘導区域の設定に関する相談や策定住民説明会などに活用するとともに、立地適正化計画の改定作業、国土強靱化地域計画、都市計画との連携・相互活用に用いる。
実施体制	株式会社パスコ

■ システム構成図



■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> 建築物LOD1・2(名称、計測高さ、用途、階数、構造) 都市計画決定情報LOD1(区域名称) 災害リスクLOD1(洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、津波浸水想定、高潮浸水想定区域)
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所情報(避難所名称、所在地、災害種類) 立地適正化計画データ(居住誘導区域、都市機能誘導区域)
ユースケース開発方法	3D都市モデル(建築物、都市計画決定情報、災害リスク)と指定避難所情報や立地適正化計画データを重畳することで災害リスクの高い建築物や区域等を可視化。
政策・事業での活用	<ul style="list-style-type: none"> 居住誘導区域の設定に関する相談や住民説明会などに活用する。 立地適正化計画の改定作業、国土強靱化地域計画、都市計画との連携・相互活用に用いる。
オープンデータ化情報発信	<ul style="list-style-type: none"> PLATEAU VIEWのURLを臼杵市ホームページに掲載。 ユースケースデータをPLATEAU VIEWに掲載。

■ KPI ※繰越

KPI	目標設定	達成状況
市職員を対象とした3D都市モデル活用説明会における参加者の理解度 (%)	80%(R6年度)	R6年度 計測予定
3D都市モデルを活用した各種委員会や市民説明会などでの参加者の理解度 (%)	50%(R6年度) 80%(R7年度)	R7年度 計測予定

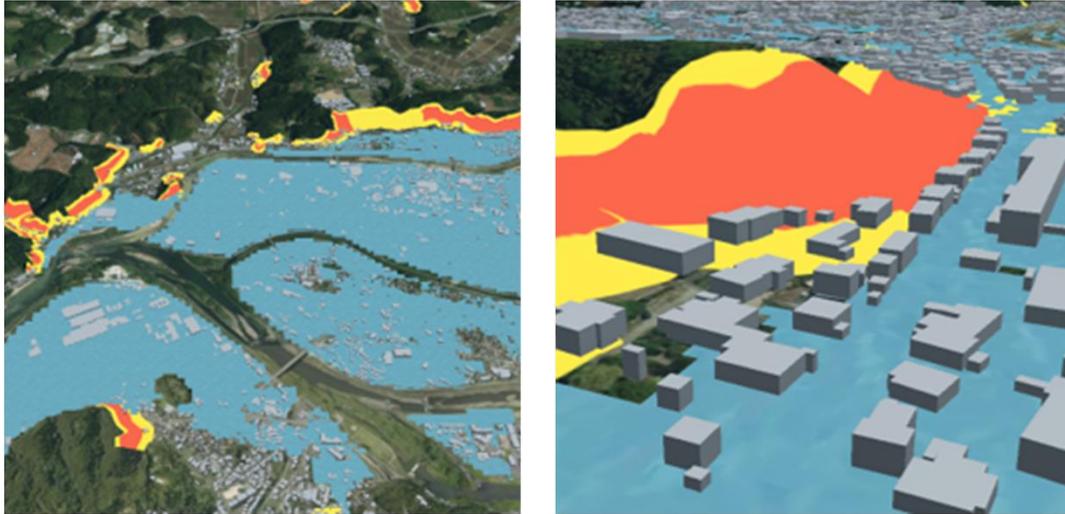
V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

48. 大分県臼杵市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
防	可	3-5万	200-500	2-3千



■ ユースケース開発成果イメージ図



- PLATEAU VIEWを用いて各種災害リスクデータを三次元化し、浸水想定区域等に隣接する都市機能誘導区域や居住誘導区域をリアスティックに表現する。
- 各種データを重畳することで災害リスクの高い建築物や区域等が可視化される。

■ 今後の展望

居住誘導区域の設定に関する相談や策定住民説明会などに活用するとともに、立地適正化計画の改定作業、国土強靱化地域計画、都市計画との連携・相互活用にも用いる。

また、今回は防災に関するユースケースにとどまっているが、今後は観光や地域活性化にも活用していきたい。

V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

49. 香川県高松市

■ 団体基礎情報・プロジェクト全体像

人口	約419,628人（令和5年4月時点）
市域全域面積	376km ² （令和5年4月時点）
主な産業 地域課題等	香川県の中央部に位置する中核市。県都として、また、四国の中枢管理都市として発展。人口は約41万人。 高松港をはじめJR高松駅や琴電高松築港駅などの集まる交通結節機能やウォーターフロントという優れた環境を生かし、商業、業務、官公庁、文化、交流、情報などの集積する四国の中枢都市拠点である。

■ 令和5年度スケジュール



分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・他	可・シ	15万以上	200 - 500	3 - 5千

担当部局	都市整備局 都市計画課
------	-------------

■ 補助事業実施項目

目標	持続可能なまちづくりの推進に向け、市民や関係者と合意形成を図る。
課題	適切な情報発信や、特に次世代を担う子どもたちを中心とした市民参画を促す。
創出価値	コンテストを通じて、本市の魅力を市内外に発信することにより、交流人口の創出や、観光・MICE振興にも資するものである。

事前調査等	—
3D都市モデル整備・更新	高松駅前広場等の樹木等データ整備
ユースケース開発	3D都市モデルを活用したにぎわい創出事業
推進事業	—

総事業費	4,000（万円） ※別途、警備員等イベント関連事業費1,000万円を市単独費で実施
------	-----------------------------------------------

R5年度補助執行額	—（R4年度から繰越して事業実施【R4年度補助額2,000万円】）
-----------	-----------------------------------

補助対象外の関連事業	G7香川・高松都市大臣会合において、本ユースケースの「たかまつマイクラフトまちなみデザインコンテスト」に使用している3D都市モデルを活用し、マイクラフトで構築したサンポートエリアを大臣たちが先行体験をした。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

オープンデータ化・可視化・情報発信	市ホームページへ掲載【ユースケース】
-------------------	--------------------

R5年度受託事業者	株式会社MIERUNE（データ整備、システム開発）
	PwCコンサルティング合同会社（イベント企画・運営、アプリケーション開発）



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

49. 香川県高松市

3D都市モデル整備状況

※赤字：R5補助対象地物

LOD	整備地物	対象区域	整備面積	整備年度
LOD1	建築物 交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形 植生	市内全域	376km ²	R4年度整備済 R5年度整備
LOD2	建築物	サンポート高松エリアの一部 玉藻公園 高松駅前広場等	1.37km ² 0.12km ²	R4年度整備済

3D都市モデル整備エリア図



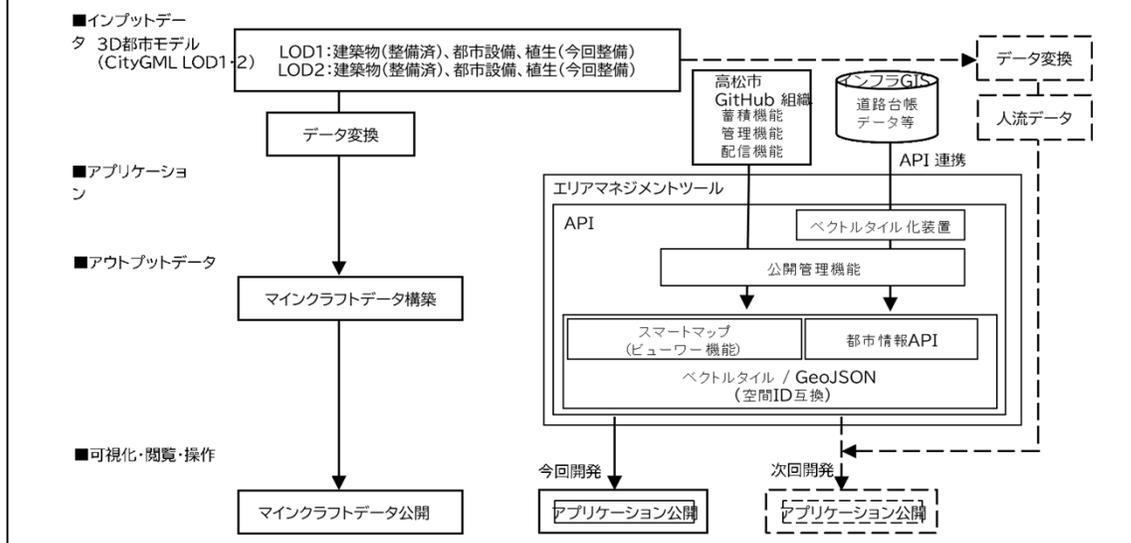
項目	活用したデータ	作成年度	地図情報レベル
平面図	-	-	-
測量成果	航空写真	2022年度	2,500
属性情報	-	-	-

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・他	可・シ	15万以上	200 - 500	3 - 5千

ユースケース概要

テーマ	都市計画・まちづくり／地域活性化・観光・コンテンツ／その他
ユースケース名称	3D都市モデルを活用したにぎわい創出事業
目的	コンテストを通じて、本市の魅力を生かすことにより、交流人口の創出や、観光・MICE振興を図る。
取組内容	インフラデータと3D都市モデルの活用により、メタバース空間を構築したゲーム（マイクラフト）において、子どもたちなどが自由な発想で、サンポートエリア（現在、開発が集中し、エリアマネジメントが求められているエリア）のまちづくりを検討するアイデアコンペを企画する。 「市民参画・官民連携につながる仕組み」となるツールとしてアプリケーションを構築する。
実施体制	株式会社MIERUNE、PwCコンサルティング合同会社

システム構成図



V. 令和5年度採択団体別事業内容 1. 採択団体一覧

49. 香川県高松市

分野	手法	人口規模	面積規模	予算規模
街・活・他	可・シ	15万以上	200-500	3-5千



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース開発方法

活用データ (3D都市モデル)	<ul style="list-style-type: none"> LOD1・2 整備範囲 (サポート高松地区。整備済) 1.22km² うち LOD1整備範囲 (高松駅前広場等。今回整備) 0.12km² 建築物 (外観) 植生
活用データ (上記以外)	<ul style="list-style-type: none"> 人流データ (次回開発)
ユースケース 開発方法	<ul style="list-style-type: none"> 3D都市モデルを活用してメタバース空間を構築したゲーム (マイクラフト) に変換。 「市民参画・官民連携につながる仕組み」のツールとなるアプリケーションを開発。
政策・事業での 活用	<ul style="list-style-type: none"> 変換したデータを用いて、子どもたちなどが自由な発想で、サポートエリアのまちづくりを検討するアイデアコンペを企画。 開発したアプリケーションによりサポートエリアのイベント情報を閲覧可能。
オープンデータ化 情報発信	3D都市モデルをマイクラフトデータへ変換し、オープンデータとして市ホームページにて公開。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
オープンデータ (マイクラフト) のダウンロード数	2,000回 (2023年度)	696回
ワークショップに参加した子供たちの人数	60人 (2023年度)	1回目 27人 (応募者77人) 2回目 25人 (応募者109人) (1回あたり30人定員であり、当日欠席者がためたため。)

R5年度KPI未達を受けての今後の対応	市ホームページに公開し、今後も周知等行い、達成を目指す。
---------------------	------------------------------

■ ユースケース開発成果イメージ図

構築したメタバース空間 (マイクラフト)

たかまづマイクラフト
まちなみデザインコンテスト
マイクラフトから始めるメタバース

JR高松駅前広場

赤灯台

櫻御門

受賞作品 (未来のまち部門)

受賞作品 (2025年部門)

たかまづイベントマップ

サポートFACTプロジェクト社会
実験2023-2024

2023.04.01-2024.03.30

サポートエリアにおける公共空間の一部を開放し、飲食、物販、パフォーマンス、ワークショップなど、にぎわいの創出及び滞在性の向上に資する取組を行う利用者 (参加者) を募集します。

イベントリスト

■ 今後の展望

構築したメタバース空間 (マイクラフト) については、どの地域においても「CityGML」からの変換・構築が可能であることが分かったため、今後、更なるまちづくりへの参画を促す仕掛けづくりとして活用していきたい。

イベントマップについては、今後、人流データと組み合わせることにより、イベントの集客効果等を3D都市モデル上で可視化し、分析を行うこととしており、効果的なイベント開催の検討に繋げていきたい。

目次

I. Project PLATEAUについて	
1. Project PLATEAUとは	3
2. 3D都市モデルとは	4
3. 整備都市	5
II. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）の概要	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）とは	7
2. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業（PLATEAU補助制度）ポータル	8
3. 3D都市モデル（都市計画データ）のオープンデータ化により期待される意義・効果	9
4. 3D都市モデルの導入に向けたサポート	10
III. ユースケース紹介	
1. 3D都市モデルの活用（ユースケース）例	15
2. 「可視化」の活用事例	16
3. 「分析/シミュレーション」の活用事例	18
4. 「アプリケーション」の活用事例	21
IV. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用	
1. 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業の活用までの流れ	25
2. よくある質問	26
V. 令和5年度採択団体別事業内容	
1. 採択団体一覧	30
2. 団体別事業内容	37
VI. 令和4年度採択団体追跡調査	
1. 採択団体一覧	241
2. 追跡調査結果	242

VI. 令和4年度採択団体追跡調査

1. 採択団体一覧

番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ	番号	地域	地方公共団体名	担当部署	掲載ページ
1	北海道	北海道室蘭市	ICT推進課	242	19	中部	静岡県静岡市	都市計画課	268
2	北海道	北海道更別村	企画政策課	243	20	中部	愛知県春日井市	都市政策課	269
3	東北	青森県むつ市	都市計画課	246	21	中部	愛知県日進市	都市計画課	270
4	東北	岩手県盛岡市	都市計画課	248	22	中部	三重県四日市市	都市計画課	272
5	関東	茨城県つくば市	スマートシティ戦略課	249	23	中部	三重県熊野市	建設課	273
6	関東	茨城県鉾田市	都市計画課	250	24	近畿	大阪府堺市	都市計画課	275
7	関東	栃木県宇都宮市	都市計画課	251	25	近畿	大阪府河内長野市	都市計画課	276
8	関東	埼玉県さいたま市	都市計画課	252	26	近畿	大阪府柏原市	都市政策課	277
9	関東	埼玉県戸田市	都市計画課	253	27	近畿	大阪府摂津市	都市計画課	278
10	関東	千葉県八千代市	都市計画課	254	28	近畿	和歌山県和歌山市	都市計画課	279
11	関東	東京都	広域調整課	255	29	中国	鳥取県境港市	下水道課	280
12	関東	神奈川県横須賀市	都市計画課	256	30	中国	広島県	都市計画課	281
13	北陸	新潟県新潟市	成長産業・イノベーション推進課	257	31	中国	広島県三次市	都市建築課	282
14	中部	長野県岡谷市	都市計画課	258	32	九州	福岡県福岡市	都市計画課	283
15	中部	長野県佐久市	都市計画課	262	33	九州	福岡県うきは市	都市計画準備課	285
16	中部	岐阜県岐阜市	都市計画課	264	34	九州	佐賀県武雄市	都市計画課	287
17	中部	岐阜県美濃加茂市	都市計画課	266	35	九州	長崎県佐世保市	都市政策課	289
18	中部	静岡県	都市計画課・建設政策課	267	36	九州	熊本県玉名市	都市整備課	290

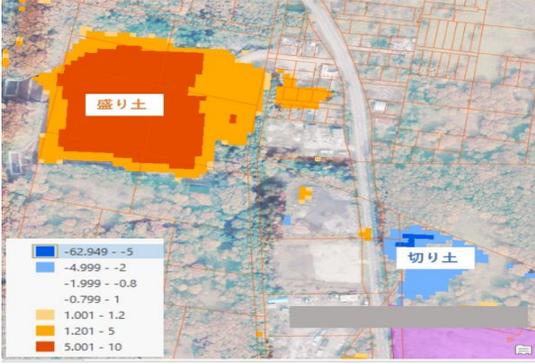
※香川県高松市は、年度途中に採択されており2023年3月現在事業実施段階であるため本章では掲載していない。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果 北海道 室蘭市

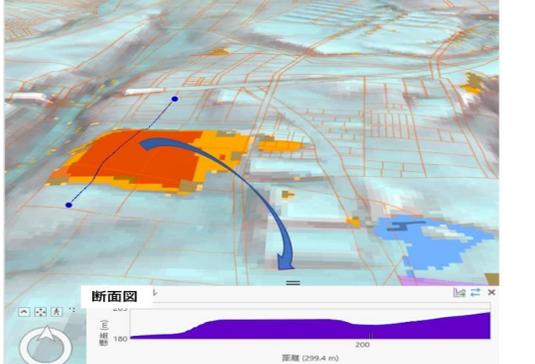
■ ユースケース概要

分野	その他
目的	3Dデータ活用した行政事務の効率化
取組内容	地形及び建物を3次元で可視化した。開発行為や宅地造成工事の申請許可・検査等業務で、申請の可否等を、本件で作成する3Dアプリから3次元で視覚的かつ総合的に判断することで、審査における業務の効率化を行った。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



地形データの差分の分析・可視化
地形データ（R4/H28）の差分に応じて色の濃度で可視化。他のデータと重畳表示して確認が可能となる。



地形データの断面図の表示
断面図を下部に表示できるように設定。地番をなぞることで、傾斜や高さが判断できるようになる。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況（R4年度）	達成状況（R5年度）
宅地造成工事等に関する申請許可業務について事前協議から申請許可まで3Dデータモデルを活用した審査業務効率向上	作業時間2割削減（R4年度）	2割削減達成* *机上検討、ヒアリング等から申請協議で活用した場合の削減時間を試算	25%* *同左

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
自治体DXの推進と併せて効率的な業務運用を目標に掲げ、人口規模に応じた持続可能な行政運営やまちづくりの推進を目指しており、紙資料から判定している宅地造成工事申請可否の判定や開発行為が行われた土地の現地調査等の対応検討等に3D都市モデルを活用することで、作業効率や正確性の向上を図る。	3D都市モデルの開発により、本市で利用しているArc GIS Onlineで、アプリを構築し公開しているため、業務が効率化されている。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
今後は防災や、まちづくりの観点でも活用を検討していきたい。 庁内でも簡単に3Dビューアで閲覧できる環境を構築し、税業務や設計業務における参考資料として活用していく。	庁内検討が進んでいない状態であり、防災教育の観点からアプリを作成したいと考えている。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果 北海道 更別村

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯/住民参加/交通・物流・モビリティ/その他
目的	農業用ドローン飛行、ロボットトラクター利用促進
取組内容	ドローン・ロボットトラクターの3D位置データを用い、障害物やステークホルダーとの抽出を行った。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
住民へのアンケートで農業分野における「活用への期待」等の項目における住民の「満足度」	25%以上 (R4年度) /90%以上 (R5年度)	88%	90%

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
2Dマップでは農業用ドローンやロボットトラクターの運行経路における障害物や土地の属性の視認が難しい。	2か年事業 (R4-5年度) でシステム開発し、R6年度に活用する。来年度の活用後、効果・改善点を検証する。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



ドローン運航履歴/計画の表示

運航履歴と運航計画を管理可能なシステムを構築。森林、建物の高さも視認でき、合意形成等でも利用可能。



トラクターの運航履歴/計画の表示

運航履歴と運航計画を管理可能なシステムを構築。ロボットトラクター導入時の計画検討等でも利用可能。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
ドローン及びトラクターの運行計画・実行計画の登録	2か年事業 (R4-5年度) でシステム開発し、R6年度に活用する。来年度の活用後、今後の展望を改めて整理する。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果 北海道 更別村

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯/住民参加/交通・物流・モビリティ/その他
目的	データ連携基盤のユーザーインターフェースとしての活用
取組内容	自動運転移動サービスの位置情報やH28台風浸水被害データ等を取得し、3D可視化し、村民に提供、村役場が情報センターでの監視を実施した。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
住民へのアンケートで「画面への見やすさ」等の項目における住民の「満足度」	50%以上 (R4年度) /90%以上 (R5年度)	88%	80%
R5年度KPI未達を受けての今後の対応	通行止め区間を表示する色味や表示方法では視認性が低く、「見やすさ」の評価が低下した可能性がある。今後、色味や表示方法を修正し、視認性を高める。		

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
住民にとって必要な各種情報(災害情報や通行止め規制等)は防災無線やホームページの文字情報のみ	2カ年事業 (R4-5年度) でシステム開発し、R6年度に活用する。来年度の活用後、効果・改善点を検証する。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
通行止め情報の表示	通行止め情報等を登録・表示が可能になった。
過去の浸水状況の表示	過去の浸水状況の表示が可能になった。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



通行止め情報の表示

通行止め情報を表示。これまでは防災放送のみで対応だったものをお地図上で案内することで、住民の認識が向上。



過去の浸水状況の表示

平成28年の台風による畑の滞水・冠水被害箇所について表示。今後の営農の参考に役立てることが可能。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果 北海道 更別村

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯/住民参加/交通・物流・モビリティ/その他
目的	情報センターでの活用
取組内容	自動運転移動サービスの位置情報やH28台風浸水被害データ等を取得し、3D可視化し、村民に提供、村役場が情報センターでの監視を実施した。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
住民へのアンケートで「操作性の快適さ」等の項目における住民の「満足度」	50%以上 (R4年度) / 50%以上 (R5年度)	12%	90%

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
情報センターで監視	2カ年事業 (R4-5年度) でシステム開発し、R6年度に活用する。来年度の活用後、効果・改善点を検証する。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



施設予約サイトとの連携

別事業で実施・構築しているサービス予約サイトと連携。アイコンからのポップアップによりサービス予約サイトへ遷移。

車両の位置情報の表示

別事業の交通サービスに係る車両の位置情報をリアルタイムで取得し表示。車両位置の把握が可能となる。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
施設予約サイトとの連携	アイコンをクリックすると施設予約状況の確認が可能。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

青森県 むつ市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	まちづくりにおける政策立案への3D都市モデル活用
取組内容	都市計画基礎調査の調査結果から、「建物用途現況」と「土地利用現況」のデータをCityGML形式の建物と土地のモデルへ変換し、建物利用現況を属性情報として付与した3D都市モデルと色で塗り分けした土地利用現況図の重ね合わせにより、都市構造を立体的に可視化し、点在する低未利用地の把握等が容易に可能となることから、立地適正化計画等のまちづくり分野における施策の検討に活用した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



低未利用地における施策検討の効率化

都市構造の認知性が高まったことにより、低未利用地の判読が容易となり、低未利用地における施策検討の効率化が図られている。



都市計画変更等に係る検討の効率化

用途地域と建物用途の重畳により、都市の現況把握が容易となり、都市計画変更等に係る検討の効率化が図られている。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
都市構造が分かりやすくなったと感じる都市計画担当職員の割合	50%以上(R4年度)	50%	50%

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
人口減少・超高齢社会においても、持続可能な都市経営を推進していくことが重要となっている。	持続可能なまちづくりを進める上で必要な施策の検討の効率化が図られた。
立地適正化計画の誘導区域に含まれる水害ハザードエリア内において、新規で施設等を立地する際の対策や講ずべき誘導施策の検討の効率化を図り、安全安心なまちづくりを推進する。	現在改訂作業を進めている地域防災計画等の全体像を把握してから、検討作業に着手したい。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
今回開発したユースケースをあらゆる場面で活用し、庁内に3D都市モデルを浸透させ、先導的なユースケース検討の加速化を図る。	庁内への浸透を図るため、3D都市モデルを市ホームページで公開したほか、説明会等のお知らせを全庁的に配信してきたが、新たなユースケースの検討まで至っていない。
現在推進しているスマートシティの取り組みにおいても、積極的な活用を促す。	庁内への浸透を図るため、3D都市モデルを市ホームページで公開したほか、説明会等のお知らせを全庁的に配信してきたが、積極的な活用まで至っていない。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

青森県 むつ市

■ ユースケース概要

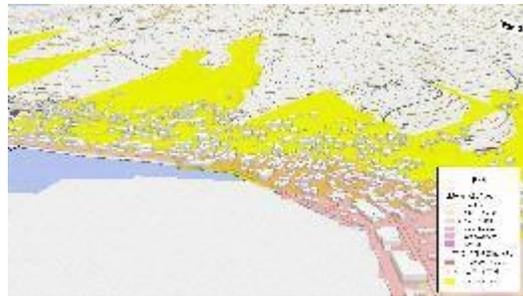
分野	防災・防犯
目的	災害リスクの可視化への3D都市モデル活用事業
取組内容	洪水浸水想定区域や津波浸水想定区域等の災害リスク情報の三次元化を行い、地域の災害リスクの認知性を高め、住民等に広く公開し、防災意識の向上や、防災施策の検討に活用した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



津波対策検討の効率化

三次元化した津波浸水想定と建物モデルの重畳により、避難困難地域からの避難方法の検討の効率化が図られている。



災害リスク分析の効率化

あらゆるハザードマップを重畳することによる災害リスク分析が容易となり、災害リスクが高いエリアの判読性が高まっている。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
防災意識の向上により、設立される自主防災組織数の増加	36団体(R4年度) / 40団体(R5年度)	33団体	36団体 (R5年末)

R5年度KPI未達を受けての今後の対応

引き続き3D都市モデルの普及に努めるほか、防災部局で実施している自主防災組織体験研修会等において紹介するなど連携を取りながら、防災意識の向上を図り、組織数の増加につなげたい。

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
国の防災指針に基づいて、防災対策の充実や防災体制を確立するため、自主防災組織の設立数の増加を図る。	現在津波避難計画の修正作業を実施中であり、市民説明会も予定されていることから、より効果的な避難体制の確立が期待される。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
今回開発したユースケースをあらゆる場面で活用し、庁内に3D都市モデルを浸透させ、先導的なユースケース検討の加速化を図る。	ユースケースの検討には至っていないが、防災部局において津波避難計画の見直しに係る業務に活用され、その有用性が広まりつつある。今後の市民説明会でも、活用される予定となっている。
現在推進しているスマートシティの取り組みにおいても、積極的な活用を促す。	庁内への浸透を図るため、3D都市モデルを市ホームページで公開したほか、説明会等のお知らせを全庁的に配信してきたが、積極的な活用まで至っていない。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

岩手県 盛岡市

■ ユースケース概要

分野	その他
目的	3D都市モデルの情報発信
取組内容	内丸地区再整備検討懇話会委員及び庁内関係部署に対して、整備した3D都市モデルの提示・説明により理解度を深めるとともに、庁内での活用意向調査を行った。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



3D都市モデル整備

盛岡広域都市計画区域内（市域内に限る。）の市街化区域及び一部市街化調整区域の3D都市モデルを整備。



GIS情報の表示

用途地域図、土地利用などGISソフトで利用・変換できる情報を3D都市モデルと重ねて情報表示する。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況（R4年度）	達成状況（R5年度）
検討懇話会委員及び庁内関係部署の理解度（アンケート）	70%（R4年度）	91%	60% ※

※ 令和5年度はアンケートを庁内関係部署に限定し、対象の部課等の数を増やして実施した。

R5年度KPI未達を受けての今後の対応	3D都市モデルについて、庁内での更なる周知と理解を深めるため、引き続き情報発信等を行っていきたい。
---------------------	---------------------------------------------------

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
内丸地区にある行政機関庁舎の老朽化や都市機能施設の移転に伴う地区の再整備の必要性があり、計画策定に向けて関係者の合意形成を図らなければならない。	3D都市モデルを掲載した資料提示により、計画策定に向けた3D都市モデルの活用について、好意的な評価を得られた。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
今年度は3D都市モデルのデータ整備を主として行ったが、次年度以降の本格的なUC開発に向けて、活用するデータやシステムフロー等の検討を深めていきたい。	令和4年度に引き続き補助事業を活用し、一部の地物の追加整備を行った。また、人流データを用いた内丸地区再整備計画立案への活用及び災害リスクの三次元での可視化を活用した防災指針の周知に係るユースケース開発を実施した。

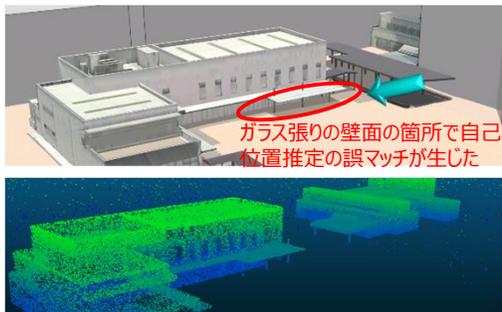
VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

茨城県 つくば市

■ ユースケース概要

分野	モビリティ・ロボティクス
目的	3Dモデルを活用した医療MaaS
取組内容	<p>自動運転パーソナルモビリティを活用することで、患者の移動をサポートしてきた医療従事者の負担軽減と、患者の移動負担の軽減が期待される。その早期実現に向け、筑波大学附属病院の屋内外において、3Dモデルを活用したパーソナルモビリティの自動運転走行の実現可能性を検証した。</p> <p>屋内の自動走行車の開発・テストを点群データを用いた3Dマップにおいて実施した。</p> <p>屋外の自動走行車の開発・テストにおける経路計画検証はLOD1、動作計画検証（走行開発テスト）はLOD3の3D都市モデルの仮想空間において実施した。</p> <p>自動走行車の実環境走行において、GPSや車両搭載センサーデータを地図（屋内は点群データを用いた3Dマップ、屋外はLOD3の3D都市モデル）と照合し、自己位置推定をした。また、車両搭載センサーで障害物等を検知し、走行を補完した。</p>

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



ガラス張りの壁面の箇所では自己位置推定の誤マッチが生じた

3D都市モデルを活用した点群生成

車両搭載センサーと照合する点群データを用いた3Dマップ（下図）を3D都市モデル（上図）から作成し、活用。

令和4年度の取り組みで、自動走行への3D都市モデルの活用可能性が検証できた。令和5年度は、活用手法の検討と課題の洗い出しを更に加速するべく、つくばチャレンジの参加チームによる協力の下、3D都市モデルを活用した自動運転モビリティの活用可能性を検証する。



自己位置推定の評価をする様子

リモコンによるマニュアル操作により自己位置推定の評価をしている様子。屋内・屋外の接続部でも自己位置推定が行えた。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
静的オブジェクトの壁、地面における必要制度の検証	実走行中の時刻毎のセンサーデータとマップデータの差分を評価し、3Dモデルを活用した自己位置推定に必要なモデル精度を明らかにする (R4年度)	13.7% (モビリティで取得したセンサーデータが、マップデータと50cm以上離れている箇所の割合)	—

注：R5年度は、技術者が自律走行技術別に個別に設定したKPIを計測しており、R4年度のKPI指標と異なるため。

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
移動困難者の病院内移動を支援する	ガラス張りの壁面の箇所では自己位置推定の誤マッチが生じた。3D都市モデルを自己位置推定に利用する際には、レーザを透過する壁面の存在には留意する必要がある。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
自動走行への活用可能性検証結果を受け、公共交通機関や公園等を結ぶ自動走行モビリティ推進に活用したい。	つくばチャレンジの参加者の協力の下、検証を継続している。令和5年12月2・3日につくばチャレンジ EX with PLATEAUを開催。



◆ 御参考「つくばチャレンジ」

2007年から毎年実施している、つくば市内の遊歩道等の市街地で移動ロボットが自律走行する技術チャレンジで、リアルワールドにおける、自律走行技術の進歩を目的としています。大学研究室、研究機関、企業、個人、学生サークル、社会人サークルなど、毎年50以上のチームが参加している。



令和4年度つくばチャレンジの様子

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

茨城県 鉾田市



PLATEAU
by MLIT

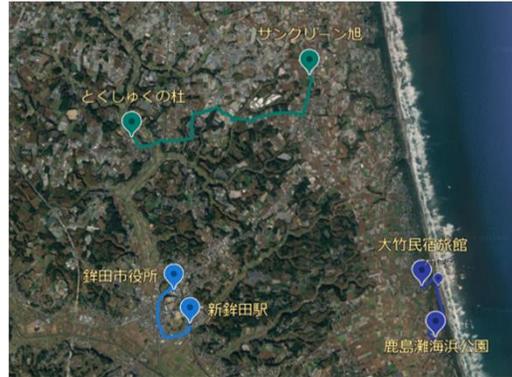
■ ユースケース概要

分野	地域活性化・観光・コンテンツ
目的	鉾田市3D都市モデルを活用したシティプロモーション
取組内容	3D都市モデルを活用し、鉾田以内の観光地、施設を散策できるアプリを開発した。 デジタルで再現された鉾田市を散策することで、鉾田市に対する関心を持つきっかけを作り出し、観光振興・地域活性化を図った。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



・低かった街並みの再現度を向上し、鉾田市のどのあたりを走っているかを分かりやすく表現。



・課題であった、コース長を適正化し、短時間で市内の魅力体験可能。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
職員のアプリ使用満足度	60% (R4年度) 80% (R5年度)	72.55%	84.6%
初回ダウンロード数	80回 (R5年度)	—	122回

注：満足度については12/21（木）のテストプレイ後に計測予定。ダウンロード数については、3月中に計測予定。

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
市街地が空洞化し活気がない、公共交通の衰退、公共施設の老朽化など課題が多く、大都市との関係が希薄な典型的な地方都市であること。	昨年度のテレビ放送の影響か、当初の想定を超えるダウンロード数となったため、鉾田市の知名度向上にもつながった。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
来年度以降の事業については、アプリのPRを行う。また、開発したアプリの保守や更新等を市の単独費用で行っていく。	アプリ開発は完了しており、スマホ版・ブラウザ版ともにリリースされている。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

栃木県 宇都宮市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーション
取組内容	都心部の東西都心軸となる大通り沿線（都心環状線内）において、緑豊かで魅力ある景観の形成に関する事業や人中心のウォークブルのまちの実現に向けた計画案・将来像・施策の効果等について、関係者や地元への説明時等に、わかりやすく示す必要があるため、仮想現実空間でシミュレーションすることにより、全体イメージの共有、合意形成の円滑化を図ることができるコミュニケーションツールを作成する。 (R6年度作成予定)

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



計画案や施策の効果等を関係者や地元への説明する際の、コミュニケーションツールとして活用し、現状や目指す将来のまちの姿のイメージを、分かりやすく示し比較することで、人中心のウォークブルなまちの実現や緑豊かで魅力ある景観形成に関する事業に向けて機運醸成を図る。

※R6年度にユースケース開発を行うため詳細は今年度も検討中

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
都市計画情報管理システム PCMAPPINGに触れる 庁内向け講習会参加人数・評価	約40名参加 肯定的評価5割以上 (R4年度)	参加者26名 肯定的評価9割以上 (25/26人)	—
現状や目指す将来のまちの姿のイメージをビジュアル的に理解を深めることができた人数・評価	肯定的な評価6割以上 (R6年度)	R6年度にユースケース開発予定	同左

注：R6年度においてユースケース開発を行うため達成状況の記載はできない。

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
庁内における3D都市モデルの活用促進	庁内向け講習会の参加者から下記の通り3D都市モデル活用の可能性があげられた。 ・まちづくりなどの検討をする際に関係者との考えを共有する場面での活用。 ・自転車事故の発生箇所における走行者の目線になった事故分析と対策手法の検討。 ・景観形成重点地区の指定範囲の検討におけるイメージパースの作成。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
令和6年度において、3D都市モデルを活用したまちづくりシミュレーションを作成予定。	来年度のユースケース開発に向けて、令和5年度においては、3D都市モデル更新事業を実施。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

埼玉県 さいたま市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり／地域活性化・観光・コンテンツ／交通・物流・モビリティ
目的	総合交通分析を基にしたウォークブル空間の創出
取組内容 (R5年度)	人流データ等を活用した歩行者、自転車等交通状況の分析結果を3D都市モデルと重畳のうえ可視化し、庁内検討に活用した。 3D都市モデルを活用しながら、浦和駅周辺の将来イメージの3Dデータを作成・可視化し、庁内検討に活用した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図） ※R5年度ユースケースの成果



交通状況の可視化

上：歩行者交通量の立体可視化
下：歩行者交通量、自動車交通量等の三次元可視化

将来イメージの可視化

上：現況
下：将来イメージ（まちづくり・都市デザイン競技受賞作品を再現）

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
三次元での可視化効果（可視化された分析結果に対する職員の理解度）	80%（R5年度）	100%（R5年度）

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
駅周辺におけるウォークブルな都市空間・環境の形成	R5年度は可視化及び庁内調整での活用にとどまったため、住民との合意形成や実空間での整備には至っていない。R6年度以降実施していく予定。
まちなかの賑わい創出・回遊性の向上	同上

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
庁内で3D都市モデルの活用の可能性等を検討する部署を増やし、実際にユースケース開発に取り組む部署の確保につなげたい。	3D都市モデルの活用について、庁内での説明会、意見交換、体験会等を実施。防災、観光、文化財消防、まちづくり、都市計画の部署で活用を検討。R5年度は2部署で活用。

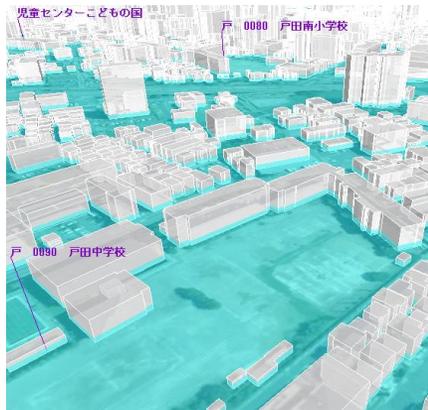
VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

埼玉県 戸田市

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを利用した災害リスクの可視化
取組内容	<p>浸水データを基に3D都市モデルを活用した水害リスク情報を可視化し、水害リスクに即した図形情報及び属性情報を付与し、垂直避難可能建物、避難所等を可視化したものを、今後の防災まちづくりに活用する。</p> <p>避難経路の安全性が確保できない場合などに備え、洪水による災害リスクを可視化し、周辺に垂直避難可能建物があるか否かなど、避難に必要な事前情報を把握した。</p> <p>垂直避難可能建物の検討結果を踏まえ、防災指針を立地適正化計画に位置づける。</p>

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



浸水状況の可視化

時系列ごとの浸水状況を3Dビューアにて可視化。建築物LOD1モデル共に可視化する事で状況がイメージしやすくなる。



垂直避難可能建物の特定

垂直避難可能建物として、建築物モデルに属性を付与し、防災指針の検討等に活用。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
庁内関係部署で3D都市モデルが立地適正化計画検討に有用と思う割合	7割以上 (R4年度)	10割	R4年度の結果を受け、立地適正化計画における防災指針の策定に活用

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
浸水想定データ等の水害リスク情報、垂直避難可能な建物、避難施設の状況の重ね合わせによる可視化、分析を行い、市民一人ひとりの防災・危機管理意識を高める。	3D都市モデルを活用した防災指針を策定中である。（令和6年4月公表予定）

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
まちなかウォークアブル推進事業における人流データの解析やVR技術を活用した関係者との合意形成等、まちづくりの計画策定に活用したい。	まちづくり計画策定への活用は現時点では検討中である。

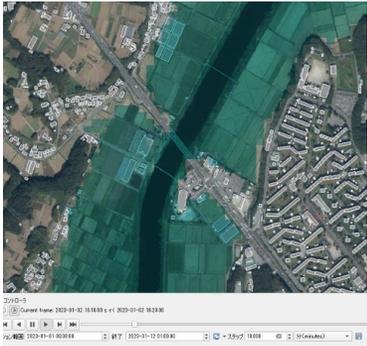
VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

千葉県 八千代市

■ ユースケース概要

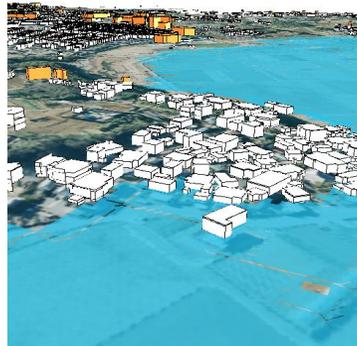
分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
取組内容	3D都市モデルと3次元化した浸水想定、土砂災害警戒区域および過去災害発生箇所データ等を重ね合わせ、洪水氾濫シミュレーションデータによる時系列アニメーションを内部協議や計画策定等に用いるため庁内で活用した。 可視化した情報をもとに、立地適正化計画の策定や防災計画や避難経路設定等への活用を検討した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



洪水氾濫時系列アニメーション

利根川破堤点からの浸水の到達時間シミュレーションをアニメーション化。庁内の防災計画への活用にも用いる。



災害情報の重ね合わせ

浸水・土砂・盛土・災害発生状況等の災害リスクと3D都市モデルを重ね今後の施設配置に活用する。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
立地適正化計画を策定する際に災害ハザード情報分析の基礎資料として活用が見込めると感じた都市計画課職員の割合	80%以上 (R4年度)	100%	未計測 (有用性について担当職員の認識に変更無し)

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
長期未着手の都市計画道路について、整備の必要性について再検討する必要がある。	2次元ではできなかった、決定区間の土地の高低差を可視化することにより、検討時における事業費や費用対効果等の「整備の実現性」を判断する際の基礎資料としての活用が見込まれる。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
今回は防災のユースケースにとどまっておりますが、防災分野での活用が見込まれるが、都市計画課としても3D都市モデルを活用し、立地適正化計画の策定、都市計画道路の見直し、未利用地の活用等、都市計画上の検討を行いたい。また、今後車両走行データを活用し道路環境の可視化にも活用したい。	都市計画の検討資料として活用予定。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果 東京都

■ ユースケース概要

分野	その他
目的	東京都デジタルツイン3Dビューア (令和5・6年度に取組予定) ※補助事業対象外
取組内容	様々な庁内外データ（都バスや河川のリアルタイム情報等）を重畳して可視化する東京都デジタルツイン3Dビューア（β版）を公開し、3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用した。 また、クローズド情報を扱うための庁内専用3Dビューアについても現在開発中。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



「東京都デジタルツイン3Dビューア」による多様なデータの可視化
3Dビューア上のベースマップとして3D都市モデルを活用し、河川監視カメラ映像や用途地域など、多様なデータを可視化。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
都内区市町村の3D都市モデルの関心度	50% (R6年度)	—	50%

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
3Dビューアに掲載するための3D都市モデルが未整備	3Dビューアでリアルに可視化することで、3D都市モデルに興味・関心を持つ人が多くなり、さらにデータ利活用の機運が高まる。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
3D都市モデルの整備を順次実施し、3Dビューアにおける都内全域の可視化を実施。	R4・5年度で区部・多摩部の整備を実施中であり、R6年度には島しょ部の整備を予定

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

神奈川県 横須賀市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	VRを用いたまちづくり都市計画立案への活用
取組内容	<p>R2年度に作成した3D都市モデルをVRに変換した（市街化区域）。その中で、市街地再開発事業や道路の拡幅等、大きな動きのあるエリアに絞って詳細な作り込みを行った。</p> <p>詳細な作りこみとは、デッキ、アーケードなどの景観検討に必要なデータの作成、テクスチャーの張り付け、個別の建物の消去、建物ボリュームの追加を簡易操作で加工することができ、将来の街並みを簡易に検討できるようにするものである。</p> <p>当該VRツールを用い、都市計画や都市開発の検討や地域住民を含む関係者とのコミュニケーションツールとして運用した。</p> <p>ツールとしては、2種類を用意する。機能はほぼ同一。ひとつは、VRアプリでスタンドアローンで使用でき、データ利用申請からデータを貸与する。もうひとつは、ブラウザ上でユースケースを体験できるものである。体験を経て、アプリ利用者を増やし、様々な事業に展開していくことを想定しており、R4年度は職員向けの研修会を行い、当該ツールの広報を行った。</p>

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



追浜駅周辺の将来形の作成

追浜駅周辺は市街地再開発事業等の動きが顕著なエリアであるため、将来形のイメージをVRで作成。地域住民を含む関係者間で検討・合意形成ツールとして活用。



市内環状線の将来形の作成

3・3・11号市内環状線は、道路拡幅を予定しているため、将来形のイメージをVRで作成。地域住民を含む関係者間で検討・合意形成ツールとして活用。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況	目標設定	達成状況
	(R4年度)		(R5年度)	
合意形成の効率化・迅速化を感じた人の割合アンケート（率）	庁内50%	100%	庁内外70%	88%
VR空間（地区）	2地区	2地区	4地区	4地区
アプリケーション利用した団体数	—	—	3団体（R5年度）	1団体

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
地域住民等とまちづくり検討を行う際、平面図等では認識に齟齬が生じる恐れや平面では見えてこない課題等が生じる恐れがある。	VRツールにより、まちづくりの将来形のイメージの共有が迅速化され、わかりやすいという意見を多くいただいた。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
R4年度3月末に職員向けの研修会を行ったのち、「防災」「環境」「観光」等様々な分野の施策への活用を検討していく。R5年度からは実際に当該ツールを活用し、市民と一緒にまちづくりを検討していく予定である。	防災部局に働きかけを行い、防災啓発として使用できないか調整中。また、当該VRツール使用し、まちづくりの将来形の事業説明を実施した。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

新潟県 新潟市

■ ユースケース概要

分野	地域活性化・観光・コンテンツ
目的	バーチャルにいがた2kmプロジェクト (XRプラットフォームを軸としたエコシステムの構築)
取組内容	新たに整備するLOD3エリアを対象に、3D都市モデルデータを活用したAR/MRプラットフォームを構築した。 上記のXRプラットフォームを介して、地域の事業者や団体、クリエイターなどが新しい価値を創造、提供していくエコシステムの実現に向け、地域の課題や魅力向上をテーマとしたコンテンツを開発し検証した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



コンテンツの空間配置とオクルージョン

新しい経済圏の創出に向け、ベースとなる3D都市モデルと空間表現のためのXRプラットフォームを整備し、XRコンテンツの空間配置とオクルージョンの検証を実施



ビジネスエコシステムの検証

3D都市モデルやXRを課題解決や新たな価値創造のツールとして活用するため、事業者、クリエイター向けのXRスクールを開催

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
XRコンテンツの体験者数	100名 (R4年度)	延べ771名	延べ1,193名
XRコンテンツの製作に関わった企業数	20社 (R4年度)	20社	20社

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
産業の高付加価値化、未来を牽引していく新たな成長産業の創出。	3D都市モデルデータを活用し、「STYLY」上に都市テンプレートを公開し、都市空間を新たなビジネスや表現の場として活用することが可能となった。
新たな成長産業を支えるXRなどのデジタル人材の育成と確保。	「にいがたXRスクール」に11名が参加し、新たな人材育成に繋がった。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
R4年度は水族館やVtuberLiveなど観光やエンタメなどの業種でのユースケースが中心だったが、R5年度は広告や小売など、多様な業種でのユースケースの創出を目指す。	「広告」や「まちづくり」をテーマにしたコンテンツを制作し、XR分野への参入を促す。
R4年度開催したXRスクールの受講生をベースとしたクリエイターコミュニティをエコシステムの担い手として活性化させていくための事業を展開していく。	R4年度同様、XRスクールを開講し、新たな人材育成に繋げる。

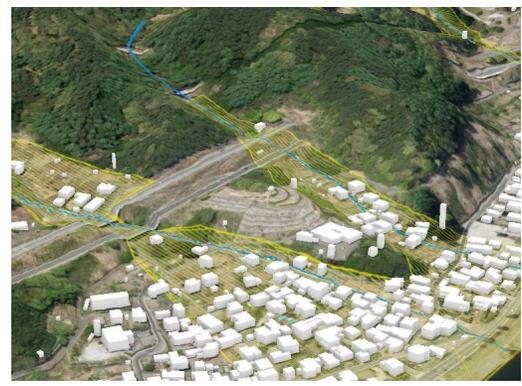
VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

長野県 岡谷市

■ ユースケース概要

分野	防災/防犯
目的	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
取組内容	土石流により死者が出る災害に見舞われた経験から、市民への様々な災害ハザードの可視化等を行った。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



災害ハザード図(土石流 土石流・急傾斜地災害)
 レッド・イエローゾーンを重ね警戒家屋を示した図を市職員・市民が災害時の情報として活用できるよう公開した。



災害ハザード図(浸水高さ)
 想定最大浸水高さを建物に重ね、浸水の危険性を表現した図を市職員・市民が災害時の情報として活用できるよう公開した。

■ KPI

年度	KPI	目標設定	達成状況
R4	庁内各部署向けの3Dデータの説明会等を受けた利用検討部署	50%以上 (R4年度)	説明会出席者18名中100%の方が有効と回答
R5	今後、庁内の活用状況や3D都市モデルに関する動向を踏まえ、設定を検討する。	-	-

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
3次元の災害ハザード情報がないため、地域防災会議等での防災計画や避難経路設定等の検討が難しい。	地域防災会議等での災害ハザード図の活用を、今後の状況に応じて検討する。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
現在、岡谷市GISサイト「くらしマップおかや」で市民公開しており、警戒区域等のデータ、避難所データを更新し、常に最新の状態で保ち、災害前後に役立てていきたい。	現在公開している情報については引き続き、公開する予定。 現在公開している情報以外のハザード情報について、公開の要望等があれば、検討を行う。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

長野県 岡谷市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	様々な都市計画の可視化
取組内容	用途地域、都市計画道路など、都市計画決定された区域、施設を3Dで可視化。計画策定と市民公開による情報提供。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



用途地域重ね図

建物に用途地域を重ねた図を市職員・市民が計画策定や視点向上のための情報として活用できるよう公開した。



立地適正化計画重ね図

建物に立地適正化計画地域を重ねた図を市職員・市民が計画策定や視点向上のための情報として活用できるよう公開した。

■ KPI

年度	KPI	目標設定	達成状況
R4	庁内各部署向けの3Dデータの説明会等を受けた利用検討部署	50%以上（R4年度）	説明会出席者18名中100%の方が有効と回答
R5	今後、庁内の活用状況や3D都市モデルに関する動向を踏まえ、設定を検討する。	—	—

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
市職員や市民が計画策定等に参画しやすい環境整備が必要と思われる。	可視化した都市計画情報を住民説明会等に活用することなどを、必要に応じて検討する。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
現在、岡谷市GISサイト「くらしマップおかや」で市民公開しており、都市計画情報は頻繁に更新されるため、最新の状態を保ち、市民への情報公開を継続する。	現在公開している情報については引き続き、公開する予定。 現在公開している情報以外の都市計画情報の公開について要望等があれば、公開について検討を行う。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

長野県 岡谷市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	既存データを3Dに重ねた検討材料の作成
取組内容	道路台帳、公園、農地、空き家、文化財、下水道管路、河川など既存データ（2次元、Shapeデータ）を3Dに重ね、新たな視点での検討材料とし可視化した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



遺跡重ね図

建物に遺跡区域を重ねた図を市職員・市民が計画策定や申請のための情報として活用できるよう公開した。



通学区重ね図

建物に通学区を重ねた図を市職員・市民が確認や安全検討のための情報として活用できるよう公開した。

■ KPI

年度	KPI	目標設定	達成状況
R4	庁内各部署向けの3Dデータの説明会等を受けた利用検討部署	50%以上（R4年度）	説明会出席者18名中100%の方が有効と回答
R5	今後、庁内の活用状況や3D都市モデルに関する動向を踏まえ、設定を検討する。	—	—

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
既存の2次元情報を計画策定や防災・防犯等に活用できていなかった。	遺跡情報の都市計画への活用や通学区情報の防犯対策への活用等を今後、必要に応じて検討する。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
現在、2Dでは、岡谷市GISサイト「くらしマップおかや」で多くのマップを市民公開しており、3D視点で市民に情報公開できるよう、3Dマップ図も増やしていきたい。	公開するマップについては検討中の状況である。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

長野県 岡谷市

■ ユースケース概要

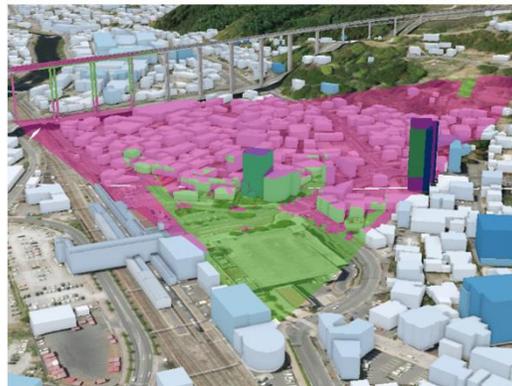
分野	都市計画・まちづくり
目的	眺望等の可視化
取組内容	ランドマークからの眺望、新規建物等設置後の景観、交差点視界状況等を可視化。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



可視領域シミュレーション図（既存駅ビルあり）

市職員へ既存駅ビルの状況把握のための情報として活用できるよう公開した。



可視領域シミュレーション図（既存駅ビルなし）

市職員へ既存駅ビル撤去後の状況把握、計画策定のための情報として活用できるよう公開した。

■ KPI

年度	KPI	目標設定	達成状況
R4	庁内各部署向けの3Dデータの説明会等を受けた利用検討部署	50%以上（R4年度）	説明会出席者18名中100%の方が有効と回答
R5	今後、庁内の活用状況や3D都市モデルに関する動向を踏まえ、設定を検討する。	—	—

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
都市計画における景観の重要性を再認識した。	ランドマークからの眺望、新規建物設置後の景観、交差点視界状況等の都市計画シミュレーションへの活用を今後、必要に応じて検討する。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
建物撤去・新設等のシミュレーションにより、計画策定、市民の理解向上などに活用したい	引き続き、活用方法について検討していきたい。

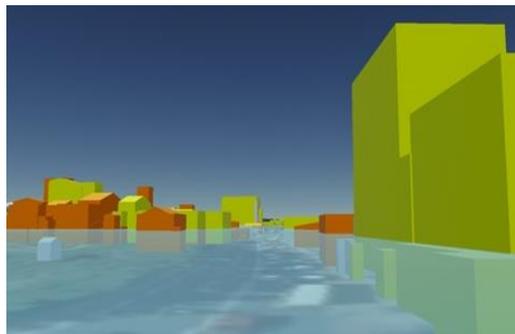
VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

長野県 佐久市

■ ユースケース①概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルによるソフト防災推進
取組内容	洪水浸水想定区域図、土砂災害警戒区域及び既存避難所情報の3次元化を行い3D都市モデル上へ可視化させた。 3次元化した災害リスク情報（洪水浸水想定区域図・土砂災害警戒区域、既存避難所）をWeb公開することで、地域住民に対する防災意識の向上につなげた。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



垂直避難可能建物の抽出イメージ
(近景)



垂直避難可能建物の抽出イメージ
(遠景)

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
庁内における活用講習会を開催し、参加者の肯定的な意見の割合（アンケート）	参加数の半数以上 (R4年度)	6人/6人	8人/8人

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
災害に巻き込まれないように、または巻き込まれたとしても被害を最小限に抑えるために市民の防災意識の向上が必要である。	洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域・既存避難所をHPより公開することにより、住民の防災意識が高められた。
庁内のパソコンのスペックで3D都市モデルが見られない。	業者及び情報部署との連携により改善を図る。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
今回は防災のユースケースにとどまっているが、今後人流データを活用した中心市街地活性化にも活用したい。	まちづくりの展望について検討中であるため、今後庁内調整等を図っていくうえで決定していく。

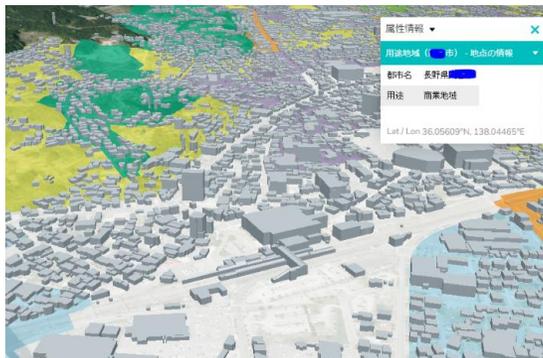
VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

長野県 佐久市

■ ユースケース②概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルによるソフト防災推進
取組内容	<p>用途地域や地区計画、各種防災計画等の都市計画情報を3D都市モデルと重ね合わせて可視化した。</p> <p>都市計画情報のほか、開発許可申請や開発指導要綱といった確認情報をWeb上へ公開することで、市民の問合せ時間や来庁機会の軽減を図り、行政サービスの向上と行政事務の効率化を推進させた。</p> <p>また、職員自らが3D都市モデルの作成・編集が可能な仕組みを整備することで、都市計画関連業務の高度化により行政サービスが向上した。</p>

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



3D都市モデルのWeb公開イメージ



3D都市モデルのWeb公開イメージ

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
庁内における活用講習会を開催し、参加者の肯定的な意見の割合（アンケート）	参加数の半数以上 (R4年度)	6人/6人	8人/8人

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
行政事務の効率化	都市計画情報をWeb上へ公開することで、市民の問合せ時間や来庁機会の軽減を図り、行政サービスの向上と行政事務の効率化を推進させた。
庁内のパソコンのスペックで3D都市モデルが見られない。	業者及び情報部署との連携により改善を図る。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
WEB公開を行った情報の精度（位置精度、情報鮮度）を向上させるとともに、公開情報を増やしていくことで行政サービス向上と業務負担軽減に取り組んでいきたい。	都市計画調査を実施後に情報の精度を向上させるとともに公開情報の増加も図っていきたい。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

岐阜県 岐阜市

■ ユースケース①概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化
取組内容	<p>岐阜市では立地適正化計画の見直しにあたり、3D都市モデルに浸水想定区域や土砂災害特別警戒区域等災害ハザード情報を重畳することにより、地域における災害リスクを可視化した。</p> <p>これを用いて、有識者会議や市民向け勉強会などを実施することにより、防災・減災対策を位置づける防災指針の策定と共に、引き続き防災指針による防災のまちづくりを推進し、ホームページに掲載する等積極的に情報を公開し、市民の防災意識の向上を図る。</p>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
勉強会等を通じ災害リスクへの理解が深まった人の割合 (アンケート)	50% (R4年度)	50%	計測不可

注：R5年度は立地適正化計画改定に関する勉強会等を開催できないため計測不可。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



浸水シミュレーション (1)

- 重要水防箇所が破堤したケースの浸水シミュレーションを行い、建物階数別の色分けにより、垂直避難の可否を確認
- 各地点における洪水到達時間を表示し、水平避難の可否を確認



浸水シミュレーション (2)

- 指定一般避難所の浸水被害(深さ)の状況を示し、浸水被害時における避難の可否等を確認

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
市民一人ひとりの防災意識の向上と行動促進	立地適正化計画改定に関する市民向けの説明会等ができておらず、活用ができていない。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
他地域においても、災害リスク情報の周知するツールとして活用していく。	防災部局において、代表箇所を選定し、作成
避難計画を立案する1つのツールとしての利活用を検討していく。	防災関連の既存アプリとの連携を図る等の利活用検討を実施

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

岐阜県 岐阜市

■ ユースケース②概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルを活用したまちづくり計画への活用（R4～R5年度）
取組内容	<p>岐阜市では地域や関係者からなる「岐阜市中心市街地道路空間活用懇談会」を立ち上げ、今後の中心市街地の道路空間の具体的なあり方について意見交換を開始。</p> <p>R4年度は、懇談会等において、3D都市モデルを活用し、現状や完成イメージなどをビジュアル的に表現することで、道路空間の再構築案の理解を深め、効果的に意見交換を行った。</p> <p>R5年度は、前年度に方向づけた道路空間のあり方について、懇談会等において、3D都市モデルを活用し、詳細な道路構造など、より具体的な意見交換を進める。</p>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
懇談会等にて、道路空間の再構築案のイメージが湧き、理解を深めた人の割合（アンケート）	50% (R4年度に設定)	50%	50%

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
3D都市モデルを活用し、ビジュアル化することで、イメージの共有を図るとともに課題の抽出などを行い効果的な議論を進める。	再整備案をビジュアル化することで、活発な意見交換ができ、様々な再構築案の検討が可能となった

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
市民ワークショップや事業説明会などにおいても活用していく。	R5年度末に実施予定

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



道路空間再構築イメージ（1）

- 歩道と車道を一体的に活用する道路空間のイメージを表現



道路空間再構築イメージ（2）

- 歩道を拡幅するなど、ひと中心となる道路空間のイメージを表現

※「3D都市モデルを活用したまちづくり計画への活用」は令和5年度も継続してユースケース開発しているため、令和5年度取組事例集を参考にして下さい

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

岐阜県 美濃加茂市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり（R4～R5年度）
目的	3D都市モデルを活用した市街地再整備計画立案活用【R5年度事業予定】
取組内容	中心市街地の核となる美濃太田駅南地区において、3D都市モデルLOD2によって美濃太田駅南地区をビジュアルに表現するとともに、当地区において見込まれる市街地再開発事業の計画を反映させて可視化し、住民や来訪者のニーズを反映しつつ景観や環境に配慮した居心地の良いまちづくりに向けた市街地再整備計画を立案した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



美濃太田駅南地区の整備計画などを
三次元化し、リアリストックに表現



市街地再整備計画の立案

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
3D都市モデルを施策に活用できると感じた職員の割合（%）	50% (R4年度)	100%	未計測であるが、R4達成状況から有用性を感じた職員の割合に大きな変化はない。
地元説明会、都市計画審議会などで成果を使用した回数（回）	2回 (R6年度)	R6年度 取得予定	ユースケース開発の委託業務中 (R6年度に繰越)
成果から再開発の様子がわかりやすくイメージできた説明会での参加者の割合（%）	50% (R6年度)	R6年度 取得予定	ユースケース開発の委託業務中 (R6年度に繰越)

注：R5年度内を目標に委託業務中であるため現在は未達成です。

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
生活様式や社会構造の変化などに伴い市の玄関口であるJR美濃太田駅を中心とした中心市街地が衰退しており、新たな視点でのまちづくりによる中心市街地の活性化。	3D都市モデルを活用したワークショップを行うことで、今後の市街地活性化に向け意見をj得ることができた。
美濃太田駅周辺地区（中心市街地）の核となる美濃太田駅南地区において、住民や来訪者のニーズを反映しつつ、景観や環境に配慮した居心地の良いまちづくりに向けた市街地再整備計画の立案。	3D都市モデルを活用したワークショップを行うことで、今後の市街地再開発事業計画策定に向け活発な意見をj得ることができた。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
美濃太田駅南地区市街地再開発事業で、市民や準備事務組合等の事業説明会などにおいて活用し、さらに有効なユースケースが生まれるよう研究していく。	庁内で情報共有を行い、各部署で有効となるユースケース開発の検討を行っている。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果 静岡県



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルを活用した施設管理の可視化（R4～R5年度）
取組内容	県が管理している砂防堰堤において、堰堤の状況や土砂の堆積具合を現地確認する場合、施設完成後、特に長い年月が経過している場合、堰堤の位置特定に時間を要す上、土砂の堆積量を把握することが困難なことがある。3Dの施設情報（基準面・現況堆砂量）を整備することにより、大きな気象イベント後に、現地の点群を取得することにより、3次元で土砂の堆積差分を把握し、危険度の把握など、維持管理に活用した。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況（R4年度）	達成状況（R5年度）
職員の現場確認等に要する時間削減	2割減（R4年度）	0割減（R4年度）	R6.4現在整理中
庁内職員向けに整備データ（LOD1）を紹介、活用の可能性について意見交換し有用性が高いと感じた人数（※）	30人（R4年度）	30人（R4年度）	-

※：R4年度のみKPIとして設定

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
インフラ施設の施設台帳や点検台帳等と3次元仮想空間の統合によるマネジメントの効率化。	・事業途中であり実用段階となっていないため、課題解決には至っていない。 ・操作研修等により職員に浸透を図る必要がある。
災害リスクの可視化による県民の防災意識向上と避難行動の実効性向上。	・災害リスクを可視化する環境構築は完了。 ・データ掲載を進めること、県民に対し周知を行っていくことが必要。

■ 今後の展望に関する進捗状況

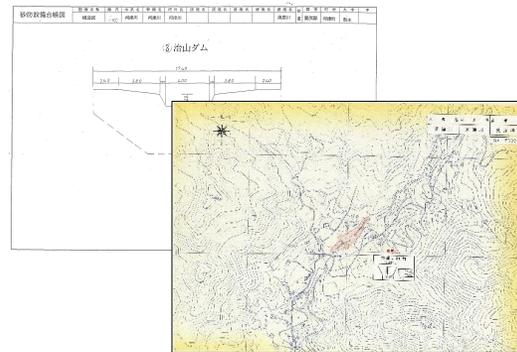
今後の展望	進捗状況
R5年度以降も引き続きインフラ施設等を重畳していく。	R5年度も引き続き施設管理の可視化事業を実施中

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



砂防施設台帳の可視化

台帳を可視化して、施設の位置や構造等を迅速に把握できるようにし、県職員及び県民に公開する。



施設台帳情報の閲覧

可視化した施設から簡易に台帳情報を閲覧することが可能となる。職員の業務効率向上や県民が管理機関まで来庁する手間が省ける。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

静岡県 静岡市

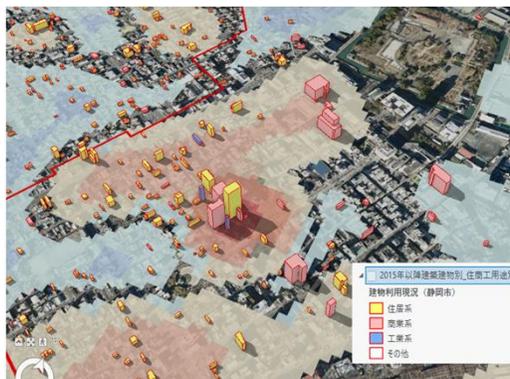
■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルを活用した都市計画・まちづくり立案への活用
取組内容	<p>三次元化した都市計画情報・人口動態を可視化するシステムを構築した。</p> <p>各種会議（庁内説明、都市計画審議会等）や地元説明会、都市計画の立案（用途地域の見直し等）において、3D都市モデルを活用して、都市の状況・課題をより理解しやすいよう表現した資料を作成し説明した。</p>

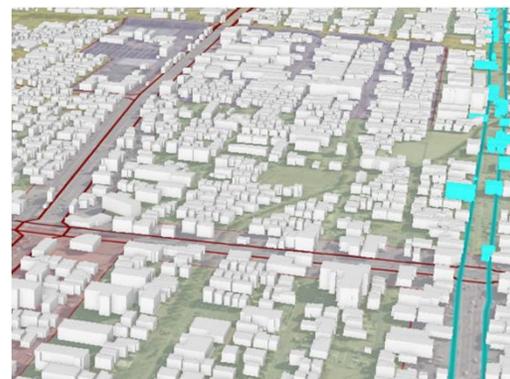
■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
課内の3D都市モデル操作研修・デモ受講者の理解度（アンケート）	80%以上 (R4年度)	100% (R4年度) 21人/21人	—
災害対応力の向上に効果的と感じる職員の割合 (%)（アンケート）	80%以上 (R5年度)	—	95% (R5年度) 38人/40人

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



人口動態（人口増加）と建築動態を重畳し3Dで可視化することで、都市の変遷を俯瞰的に表現し、立地適正化の状況などの確認がしやすくなった。



各種都市計画情報を3Dで重畳することで、建物と計画線等との重なりや属性情報での抽出、色分けが可能となりより地域の都市計画の課題が視覚的に理解できるようになった。

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
都市の状況理解を深める。	庁内での都市計画立案において3D都市モデルを用いて説明することにより、より地域の都市計画の課題が視覚的に理解できるようになった。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
3D都市モデルを、都市計画の立案やまちづくり等の説明資料として有効活用する。	庁内外での都市計画立案やまちづくり等の説明資料として利用

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

愛知県 春日井市

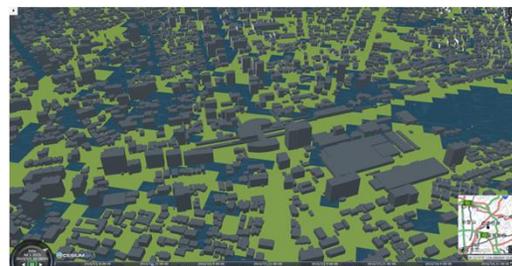
■ ユースケース概要

分野	防災・防犯／都市計画・まちづくり
目的	既存の雨水出水浸水のシミュレーションデータを利用し、三次元化した雨水出水浸水の時系列データを3D都市モデルに重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化することにより、住民の防災意識を向上する。
取組内容	3D都市モデル及び三次元化した時系列浸水想定区域図データをビューア上に重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



2Dで管理するハザードマップを右図のように3D化する



降雨量に応じた河川水位を想定し浸水状況をシミュレート

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況
庁内説明会アンケートにおける利活用を検討する参加者数	利活用検討者数/ 参加者 (%) 30%以上	35% (R5.3実施)
庁内説明会アンケートにおける利活用を検討する参加者数	利活用検討者数/ 参加者 (%) 30%以上	100% (R6.3実施)

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
全庁的にDXに対して、職員の意識・関心が低かった。	庁内説明会やアンケートを実施したことによって、職員等のDXへの意識・関心が向上した。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
庁内説明会参加者のうち防災意識の向上に資するイベント等にて利活用を検討する職員を増やす。	R6.3に実施予定

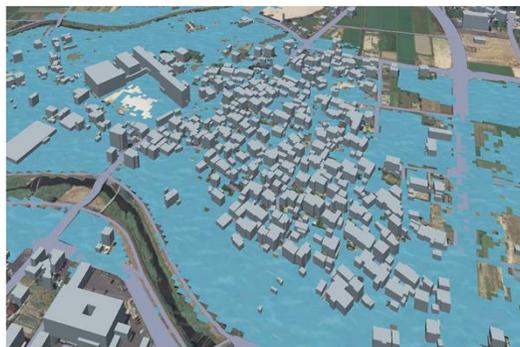
VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

愛知県 日進市

■ ユースケース概要

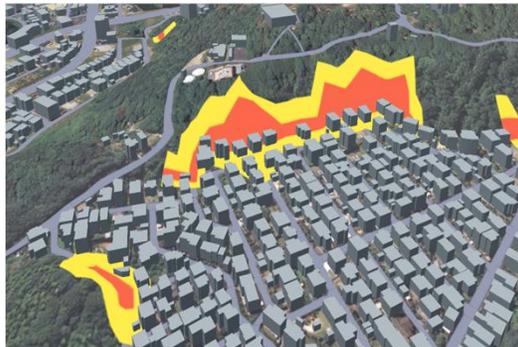
分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
取組内容	自然災害等から市民を守るため、浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域を三次元化し、リスクを可視化した。 また、地域の防災訓練等を行い、市民の防災意識向上に活用するとともに、大学連携事業によりドローンでの取得データをもとに災害発生時の被害状況把握への活用方法について検討を行った。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



浸水想定区域図の表示

浸水する恐れのある範囲を防災訓練等で公開し、市民の防災意識の向上や普及啓発に活用する。



土砂災害（特別）警戒区域の表示

土砂災害の恐れのある範囲を防災訓練等で公開し、市民の防災意識の向上や普及啓発に活用する。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
防災会議等における活用回数	計3回 (R4・5年度合計)	1回	2回
防災訓練において活用し、防災意識が向上したと感じる人の割合 (%)	50% (R5年度)	—	96% (R5年度)

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
2Dの平面図では個人間で災害時イメージや危機意識に差が生まれるとの課題があった。	R4年度防災会議にて、3D都市モデルを活用し、災害時イメージや危機意識の共有を図った。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
大学との連携事業を進め、ドローン等で取得したデータを組み合わせ、土砂災害の危険が高い建物を視覚的に把握することで、市民の安全安心の確保に向けて活用したい。 また、防災訓練などで活用し、市民への防災意識向上につなげたい。	3D都市モデルデータの効果的な活用方法について、大学と打ち合わせを実施した。 また、市民への防災意識向上につなげるため、R5年度防災訓練にて3D都市モデルを活用した。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

愛知県 日進市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルを活用した都市計画立案への活用
取組内容	建物情報や都市計画決定情報を3D都市モデルに重ね合わせ、都市の利用状況を可視化した。可視化した情報をもとに、鉄道駅周辺市街地の再生・整備の総合的な実施可能性の検討に活用した。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
都市計画立案への活用に向けた検討会議回数	3回 (R4・5年度)	—	3回 (R5年度)

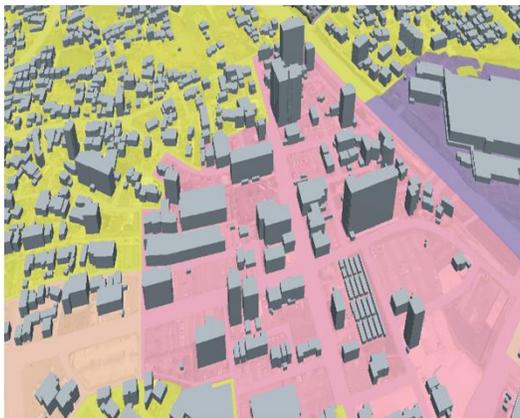
■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
地域住民等でまちづくりの検討を行う際に、2Dの平面図では個人間でイメージや認識に差が生まれたり、新しい視点が生まれにくいとの課題があった。	今後は市民向けワークショップ等で3D都市モデルを活用し、イメージや認識を共有するなど、効率的なまちづくり検討につなげる。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
都市計画情報は適宜変更されるため、必要に応じて新しい情報に更新し、市民への情報公開を継続する。	R5年度に土地利用現況の情報を更新した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



都市計画決定情報の表示

都市計画決定情報を3D都市モデル上で重ね合わせ、市街地再生・整備の総合的な検討、施策実施に活用する。



建物高さ情報の表示

建物高さ情報を3D都市モデル上で重ね合わせ、市街地再生・整備の総合的な検討、施策実施に活用する。

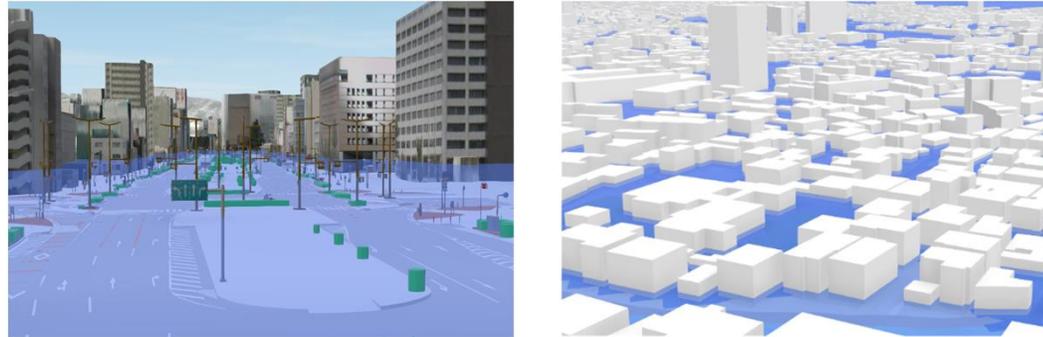
VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

三重県 四日市市

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
取組内容	三次元化した各種災害リスクデータ（洪水、内水、高潮、津波、土砂災害）を3D都市モデルに重畳し可視化を行った。可視化データは、3Dビューワにて公開し、防災訓練時に利用することで地域住民等の防災意識の啓発や、庁内における立地適正化計画等の更新時の基礎資料として活用した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



災害リスクデータ

洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域等を建築物データと重ね合わせ、視覚的に災害リスクデータを可視化

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況（R4年度）	達成状況（R5年度）
庁内の活用可能性を検討する課	4課（R4年度）	4課	4課

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
防災・減災に関する情報の的確かつ迅速な提供が必要である。	災害リスク情報の3次元表示を行うことで、立地適正化計画の防災指針の作成に向けた庁内調整用資料が明瞭になった。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
人流データを活用した中心市街地活性化にも活用したい。	人流データの活用に向け、将来の中心市街地再編計画案の重畳及び、人流データ計測のため、スマートインフラの整備を進めている。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

三重県 熊野市

■ ユースケース概要

分野	防災/防犯
目的	災害リスク情報の可視化
取組内容	津波等災害ハザードデータをビューア上に重ね合わせ、建物や敷地において、具体的に災害リスクが及ぶかをわかりやすく可視化するシステムの構築。 同データを用いて地域防災会議や市の防災会議委員会等で検討を行い、防災計画や避難路設定に活用した。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
3D都市モデル（建築物・道路）のパフォーマンスにて建設部署の関連職員に実施するアンケート調査において、「分かりやすい」「利活用できる」と回答した割合	60% (R5年度)	—	66%
3D都市モデルのパフォーマンスにおいて防災部局等の関連部局職員に実施するアンケート調査において「分かりやすい」「利活用できる」と回答した割合	60% (R5年度)	—	83%
地域防災会議や市防災会議委員会において、3D都市モデルによる災害ハザードを説明し、アンケートにおいて「理解できた」と回答した割合	60% (R5以降)	—	地域防災会議 75%

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
津波浸水災害や洪水浸水災害等を地域住民にわかりやすく説明する必要がある。	地域防災会議でのアンケートでは「分かりやすく、理解できた。」との声が75%だったが、高齢者意見として「3D都市モデルよりも航空写真に災害ハザードを重ねたほうが分かりやすい」との意見があった。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
次年度以降、市で策定する立地適正化計画における居住誘導区域における防災 指針の検討に活用し、防災のあり方を市民と共有し、災害に強いまちづくりを進めていく。	地域防災会議での意見について、地域防災計画への反映等を検討している。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



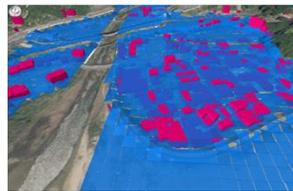
建物モデルにsfm点群データを重畳したものに洪水浸水データを重ね合わせ可視化したもの



建物モデルに津波浸水データを時間軸で表現したもの

地震発生後10分 (上写真)

'' 30分 (下写真)



VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

三重県 熊野市



PLATEAU
by MLIT

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市構造の可視化
取組内容	津波等災害ハザードデータをビューア上に重ね合わせ、建物や敷地において、具体的に災害リスクが及ぶかをわかりやすく可視化するシステムの構築した。 同データを用いて都市計画検討にかかる地域WGや都計審等で災害リスクを説明することにより、防災・減災にかかるまちづくりについて協議する。この結果を踏まえ、マスタープラン及び立地適正化計画の策定に向けた検討資料として町内で活用した。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
マスタープラン及び立地適正化計画策定にあたり、地域WG及び都計審で3Dデータにより説明した回数	複数回 (R6以降に設定予定)	—	計測不可 (令和6年度以降のため)

注：マスタープラン及び立地適正化計画策定策定の地域WG並びに都計審を令和6年度から行う予定としている。

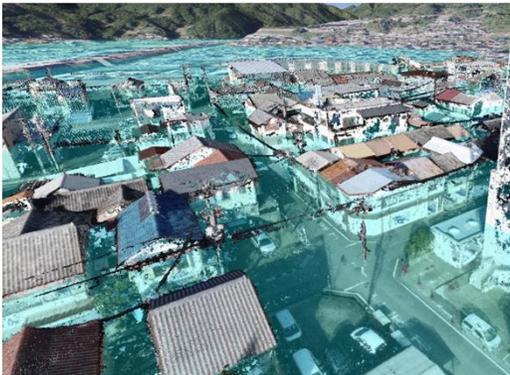
■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
マスタープラン及び立地適正化計画を地域住民にわかりやすく説明する必要がある	令和6年度以降に実施予定

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
次年度以降、市で策定する立地適正化計画における居住誘導区域における防災 指針の検討に活用し、防災のあり方を市民と共有し、災害に強いまちづくりを進めていく。	令和6年度から立地適正化計画策定に取り組むこととしており、3D都市モデルの計画への反映等について整備業者のアジア航測と協議している。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



建物モデルにsfm点群データを重畳したものに洪水浸水データを重ね合わせ可視化したもの



建物モデルに津波浸水データを時間軸で表現したもの
地震発生後10分 (上写真)



” 15分 (下写真)

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

大阪府 堺市

■ ユースケース概要

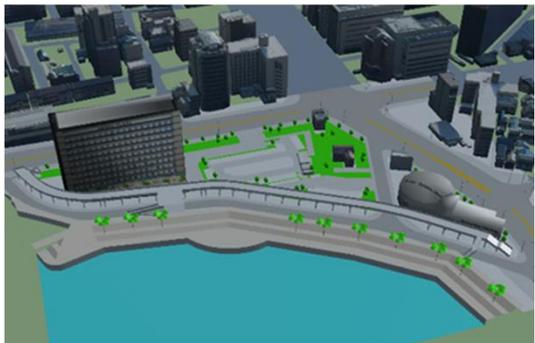
分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルを活用した事業の見える化
取組内容	拠点整備の事業化に向けて検討を行っている駅前等（堺駅周辺、津久野駅周辺）のイメージデータを3D都市モデルに重ね合わせ、事業の見える化を行った。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



開発イメージの可視化(近景)

堺駅周辺（大浜北町市有地活用事業）の開発計画イメージ図を3D都市モデルで再現し、近距離の角度でイメージを共有する。



開発イメージの可視化(俯瞰)

堺駅周辺（大浜北町市有地活用事業）の開発計画イメージ図を3D都市モデルで再現し、俯瞰の角度でイメージを共有する。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
庁内関係機関等との協議における3D都市モデルの活用	2回（令和4年度）	2回	—
官民における3D都市モデルデータの活用	1回（令和5年度）	—	2回

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
集約型都市構造をめざし、拠点となる魅力的なエリア形成に向けた事業の実施が必要であるが、従来の図面やパースでは完成後のイメージの共有や周辺への影響等の検証が不十分であった。	開発事業イメージを3D都市モデル上に実装することにより、図面やイメージパースだけではわかりにくい完成後の姿がリアルに実感できると同時に周辺の建築物や風景との関係があらゆる視点から確認することができ、事業後のまち並みや景観等も確認することができた。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
作成した3D都市モデルデータを官民において今後のユースケース開発に活用してもらう。	民間企業によるドローンの自律運行システム実証実験の実施 3D都市モデルを活用したアイデアソンを実施した。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

大阪府 河内長野市

■ ユースケース概要

分野	防犯・防災
目的	災害時の避難場所・避難ルートの可視化と住民への浸透、災害時避難計画の住民への浸透、災害危険区域に居住する住民への災害リスク・危険性のイメージ喚起を図る。
取組内容	各地区が保有する災害リスク情報を3D都市モデルにより三次元化し、視覚的にとらえられるよう整備することで、自宅や避難経路がどの程度危険なのかを直感的に理解できるよう、住民向けワークショップで参考資料として活用した。 災害時には、市の保有するドローン等で取得した被災状況の確認結果を3D都市モデルに重ね合わせ、被災状況の関係機関との共有の高度化を推進する。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
災害リスクの説明会参加者の肯定的評価 (%)	参加者の5割以上の肯定的評価 (令和4年度)	77.3% (令和5年1月)	70.5% (令和5年11月)

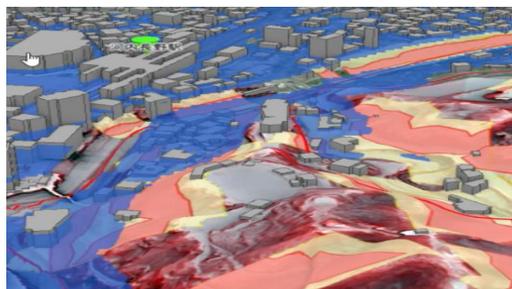
■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
避難ルートや避難計画等の住民への浸透促進を図る。 災害危険区域に居住する住民の災害リスクへの意識・危険性のイメージ喚起を図る。	3D都市モデルを活用した動画で居住地域を確認することで、自宅周辺や避難経路の危険度合いを理解することができ、また地域の特性（危険性）を確認することができた。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
令和5年度および令和6年度においても同様の説明会を継続して実施する。	令和5年11月28日に説明会を実施し、参加者全体の約70%の肯定評価を得た。
災害時に市の保有するドローン等で取得した被災状況の確認結果を3D都市モデルに重ね合わせ、被災状況の関係機関との共有の高度化を推進する。	令和6年度に関係機関への説明会等の実施を予定している。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



災害リスク
土砂災害警戒区域、浸水想定区域の
可視化例
※ 河内長野駅周辺地域



住民説明会の様子
3D都市モデルを活用した動画を作成し、住民
向けワークショップで参考資料として提示した。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

大阪府 柏原市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルを活用した駅前の現状課題の把握 3D都市モデルを活用した駅前まちづくり基本構想の作成
取組内容	柏原駅東地区のまちづくり構想の策定に際し、都市構造の可視化等による、駅前の現状や課題の把握を行った。 また、ワークショップ等で3D都市モデルを活用した駅前構想のパースを作成し、地域住民との合意形成やまちづくり構想への理解促進を図る。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
柏原市HP、3D都市モデルのアクセスログ	150件 (R5年度)	—	316件 (※R6.2時点)
庁内職員向けに整備データ (LOD1) を公開し、意見交換を行う。	10人 (R5年度)	—	10人 (※R6.2時点)

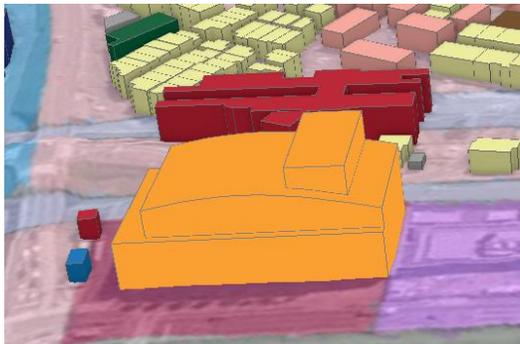
■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
柏原駅東口は、公共施設、商店街へのアクセスや回遊性、住宅の密集や施設の点在など土地利用などの課題があるが、まちづくりを進める上で、多くの方に駅前の現状や課題を知っていただく必要があった。	3D都市モデルを活用した駅前の現状や課題についての動画を作成したことで、都市計画審議会やワークショップに活用でき、議論がスムーズに行えた。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
3D都市モデルを活用した駅前のイメージパースを作成し、地域住民との合意形成や理解促進を図る。	令和6年は議論した駅前のイメージパースを3D都市モデルで作成し、ワークショップを開催する。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



都市構造の可視化

建物の用途別色分け表示と土地利用、規制を重ねあわせることで、都市構造が把握しやすいように公開する。



駅前の課題可視化

柏原駅東地区の基本構想策定に向けて、駅前の都市構造を詳細に可視化するとともに、課題の情報表示をする。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

大阪府 摂津市

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した内水氾濫リスク情報可視化
取組内容	3D都市モデル上に水位計（別事業にて設置）データを重ね合わせ、内水氾濫リスクをわかりやすく可視化するシステムを構築し公開した。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
3D都市モデルを活用した水害減災対策の取組数 (件)	1件 (R4年度)	1件	1件
市のプラットフォームサイトへのアクセス数 (アクセス)	150/年 (R4年度)	384/年	1,116/年

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
水害減災対策の推進 (本市は淀川や安威川に面する平坦かつ低地であるため、水害の危険性が高い。)	市HPでの公開により、一般に分かりやすく水路の監視状況を示すことができた。
データ利活用の推進 (行政においてはデジタル化の遅れが指摘されており、データの利活用等による行政サービスの向上が求められる。)	市HPでの公開により、データを身近なものにでき、もっとデータが欲しいという声も出ている。 GIS情報の表示をR6年度に実施。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
市の他の保有データについてもオープンデータ化を図っていきたい。	各種都市計画情報をオープンデータ準備済み、表示のためにシステム内調整中。 他部署のデータもオープンデータ化準備を進めている。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



市内水路水位計リアルタイム表示

市内の水路の水位計情報を市職員・市民が災害時の情報として活用できるよう公開。



GIS情報の表示

用途地域図などGISソフトで利用・変換できる情報を3D都市モデルと重ねて情報表示する。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

和歌山県 和歌山市

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化と防災意識の向上
取組内容	各種災害リスクデータをビューワ上に重ね合わせ、災害リスクをわかりやすく可視化した。3D都市モデルを活用した防災教育実施に向けて本市危機管理部局と協議し、有用性や課題について整理を行った。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
危機管理部局職員向けアンケートにおける、「3D都市モデルが防災教育への活用に有用である」回答割合	6割以上 (R4年度)	7割以上達成	—
災害に対する備えをしている市民の割合 (市政世論調査)	77% (R5年度)	—	51.2%

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



津波浸水リスクの可視化

建物LOD1 (用途別) と南海トラフ浸水想定を重ねて可視化。



土砂災害リスクの可視化

建物LOD1と土砂災害警戒区域を重ねて可視化。

R5年度KPI未達を受けての今後の対応

危機管理部局が実施する防災講座等において、3D都市モデルを活用し、災害リスクをよりリアルに伝えることで、市民の防災意識の向上を粘り強く図っていく。

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
大規模災害に備え、災害リスクのイメージを喚起し、市民の防災意識を向上させる必要がある。	防災講座等で活用しており、浸水等のリスクがリアルに伝わることから、防災意識を高めることに役立っている。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
今回は防災のユースケースにとどまっているが、今後人流データを活用した中心市街地活性化にも活用したい。	R5年度は、R4年度のユースケースデータに加え、新たに防災に関する3Dグラフを作成し、事前復興準備の検討に活用している。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

鳥取県 境港市

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した水害リスクの可視化
取組内容	R4年度に、3D都市モデルの整備を実施した。 R5年度以降は、住民の避難行動計画に役立てるために、3D都市モデルを活用し、豪雨による浸水被害（浸水エリア、浸水深さ）の広がりを持系列で可視化する。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
庁内の各部署で3D都市モデルの活用の可能性について、有用と感じた職員の割合 (%)	100% (R4年度)	—	67%

注：繰越して実施したものであるので、R4は計測しておらず、表記した計測結果はR5のものである。

R5年度KPI未達を受けての今後の対応	都市計画、政策企画、DX及び、防災担当部局等に、本市のユースケースについて周知し、また、他団体の3D都市モデルの活用事例を紹介する。
---------------------	--------------------------------------------------------------------

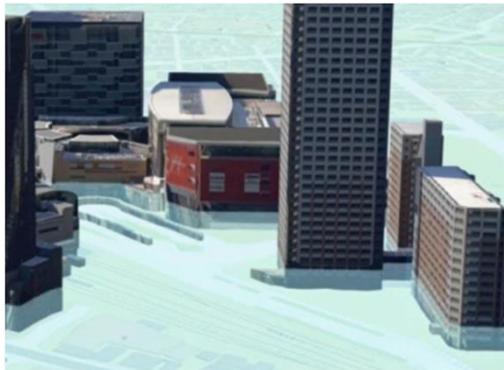
■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
避難規模の水害リスクに対し、防災意識の向上を図る必要がある。	R6度の実装予定
これまでの水害ハザードマップは、被害結果のみが表示されており、避難するための行動計画を把握しづらいという課題がある。	R6度の実装予定

■ 今後の展望に関する進捗状況

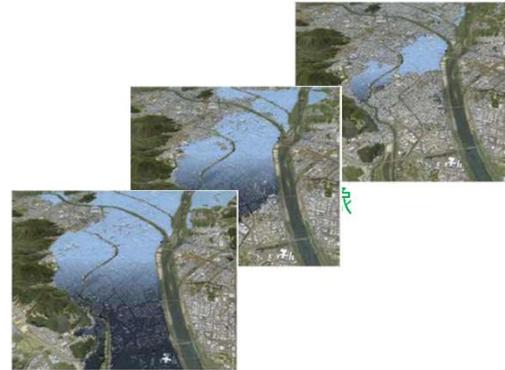
今後の展望	進捗状況
津波、洪水等の浸水被害についても、3D都市モデルを活用して可視化するよう防災部局と調整しており、あらゆる水害リスクに対して、住民の防災意識の向上を図る。	R4年度に3D都市モデルの整備完了。 R5年度(繰越)浸水シミュレーション実施中。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



浸水被害予測をより視覚的表示

テクスチャにより建物をリアルに表現することで、避難規模の内水による浸水被害予測を、浸水深と建物の外壁から、より視覚的に表現



浸水被害予測をリアルタイム

避難規模の浸水被害予測を時系列に表現することで、事前防災の観点から、市民が効率的・効果的な避難計画を立案できるよう公開

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果 広島県 ※府中市で実施

■ ユースケース概要

分野	防災
目的	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化による防災意識醸成及び「マイ・タイムライン」の普及促進
取組内容	3Dマップ上に府中市の3D都市モデルと土砂災害や浸水等の災害ハザード情報を重畳することで、より分かりやすく災害リスクを可視化し、住民の防災意識を醸成するとともに、住民向け防災講座等で活用することにより、「マイ・タイムライン」の普及促進を図った。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



住民向け防災講座等での活用

3D都市モデルを活用した災害ハザード情報の確認方法や、マイタイムライン作成への活用について説明



災害ハザード情報可視化

3D都市モデル上で、任意の地点の防災情報（浸水想定区域の浸水深等）を確認することが可能

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
防災講座によりマイタイムラインの理解度が向上した参加者の割合	8割以上 (R4年度)	10割	未計測 (後退なし)

注：R5年度はアンケートを実施していないため、計測不能)

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
災害ハザードマップ（2D）では実際の浸水等の高さが掴みにくい。	高さ情報等のより詳細な災害リスクの可視化により、避難行動の重要性及び防災意識の醸成を図ることができた。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
マイタイムラインの作成率向上に向けて、引き続き住民向けの講習会等で活用したい。	令和5年度も住民向けの講習会を実施（計1回）

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

広島県 三次市

■ ユースケース概要

分野	防災・防犯／都市計画・まちづくり
目的	災害情報等の可視化と周知
取組内容	浸水深の可視化による公共施設の避難適正評価検討。 避難所の可視化と周知。 条例の可視化と都市計画への活用。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
リスク可視化による成果指標として、庁舎内の関係部局を対象としたアンケート調査を実施し、3D都市モデルの活用に対する肯定的な回答率60%を目標とする	60% (R4年度)	100%	2023/12月末 100%

注：R5年度の計測は12月中に実施予定。

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
市中心部は三川が合流しており、浸水深に応じた安全な避難方法の検討が必要となっていた。	可視化したことにより、建物の浸水度合いが分かり易く、より現実的な避難所の適正評価ができた

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
有効的な立地適正化の策定に向けて3D都市モデルを活用。	立地適正化計画を令和6年3月に策定済み。
3D都市モデルで可視化した災害情報を、市HPで市民に周知。	市HPにPLATEAU VIEWをリンクするよう担当部局と調整している。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



洪水浸水深と避難施設の可視化

洪水の浸水想定区域と、浸水想定区域に対応した避難施設を可視化した



土地利用条例の可視化

条例で定めている「開発行為届出区域」と「県建築行為届出区域」を可視化した

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

福岡県 福岡市

■ ユースケース①概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	全市域の土地・建物の利用動向の可視化、分析
取組内容	定期的に調査・蓄積されている都市計画基礎調査情報を活用し、過去からの都市計画の変遷を可視化し、庁内での3D都市モデル勉強会で紹介した。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
課内アンケートにおいて、作業効率が効率化した、わかりやすくなったと感じる人の割合	8割 (R4年度)	9割	9割

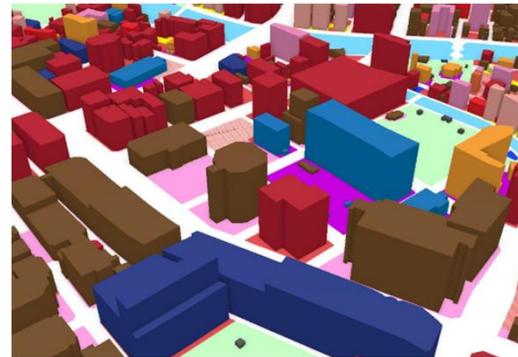
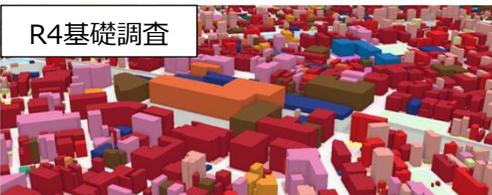
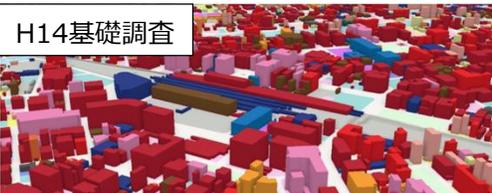
■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
平面の建物情報では規模感を把握しづらい。	都市の密度構成を直感的に認識できるようになった。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
土地利用の規制情報や建物用途、構造等の情報を3D都市モデルに集約し、各種情報等を重ね合わせることで、都市構造を俯瞰的、直感的に理解でき、総合的な情報の把握が期待できる。	日々の業務での活用や庁内での3D都市モデル勉強会で事例紹介をおこなっている。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



<土地利用動向等の変化>

定期的に調査・蓄積されている都市計画基礎調査情報を活用し、過去からの都市計画の変遷を可視化

GIS情報の表示

建物利用、土地利用などGISソフトで利用・変換できる情報を3D都市モデルと重ねて情報表示

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

福岡県 福岡市

■ ユースケース②概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	地域におけるまちのルール作りや周辺環境への配慮などへの活用
取組内容	新たなまちづくりを行うエリアなどを3D化し、日影・景観シミュレーションなどを行い、関係課などと現状・課題などの共有を行った。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
関係部署アンケートにおいて、3D都市モデルを用いて、地区のルール作り、景観誘導等に活用し、分かりやすくなったと感じる人の割合	8割 (R4年度)	9割	9割

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



日陰シミュレーション：鳥瞰図

新たなまちづくりを行うエリアなどを3D化し、GISソフトを活用し、日影・景観シミュレーションなどを行った



日陰シミュレーション：接写図

新たなまちづくりを行うエリアなどを3D化し、GISソフトを活用し、日影・景観シミュレーションなどを行った

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
周辺環境への影響がわかりづらい。	視覚的にわかりやすく、確認できるようになった。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
3D都市モデルの視覚化や再現性という提供価値を活かすことで、まちづくりに関し、ステークホルダーなどと共通の認識を持つなど高度な情報共有が期待できる。	日々の業務での活用や庁内での3D都市モデル勉強会で事例紹介をおこなっている。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

福岡県 うきは市

■ ユースケース①概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した災害リスク可視化【令和4年度事業分】
取組内容	<p>流域治水事業を進める中で、浸水想定区域図等の災害情報の三次元化表示、土砂災害警戒区域のCityGML化を行い、当市の災害リスクの可視化を行った。</p> <p>さらに、指定避難場所等や公共施設、災害履歴(浸水被害等の発生情報)等の情報を3D都市モデルへ付加し、作成したデータは、都市計画区域設定の基礎資料、高齢化社会にも対応した防災計画検討資料、防災教育に活用した。防災教育については、災害履歴等の情報を付加し活用を図った。</p>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
庁内・行政区等における3D都市モデルを活用した防災訓練や講習会の実施件数	2件 (R4年度)	3件 (R4年度)	5件 (R5年度)

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
防災意識の向上 (地域住民等における災害リスクの理解向上)	防災関連部署と連携することで、地域の自主防災組織等で出前講座における活用を図る。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
基本セットである災害リスクのユースケースにとどまっているため、今後は、山間部を対象に点群データ等を活用した、土砂移動状況データと建物等を重畳し、災害リスクの可視化を行い、都市計画区域設定に向けた根拠資料としたい。	土砂移動状況データを重畳し災害リスクの可視化を実施。(R5年度)

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



洪水浸水想定区域・防災施設の可視化
洪水浸水想定区域と防災施設情報を3D都市モデルと重ねて情報表示。



土砂災害警戒区域・防災施設の可視化
土砂災害警戒区域と防災施設情報を3D都市モデルと重ねて情報表示。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

福岡県 うきは市

■ ユースケース②概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	3D都市モデルを活用したまちづくり・都市計画立案への活用【令和4年度事業】
取組内容	都市計画区域等の検討のため、3D都市モデルに基礎調査データ(土地利用・建物利用等)の情報を付加し、現在の準都市計画区域データ及び伝統的建造物群保存地区等のデータを重ね合わせ、都市構造の可視化を行い、建物高さや土地利用を俯瞰的に検討できる都市計画区域設定の基礎資料とした。 また、災害リスク情報可視化データ等も活用し、災害リスクを考慮した都市計画区域設定の検討を行った。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
3D都市モデルを活用した、都市計画区域検討に向けた庁内・関係機関との協議件数	2件 (R4年度)	3件 (R4年度)	5件 (R5年度)

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
都市計画立案の効率化	オープンデータ化により、業務時間の削減につながった。(1/3程度削減)

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
基本セットである都市構造のユースケースにとどまっているため、今後は、都市計画区域設定に向けた街並みの変遷の可視化や、景観に関するユースケースとして伝建地区等のLOD2化を行い、様々な場面で3D都市モデルを活用し、まちづくりを行っていききたい。	農地転用・宅地化のデータを付与し、市街化形成の可視化を実施。(R5年度) 伝統的建造物群保存地区等のLOD2を作成。(R5年度)

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



土地利用現況の可視化

土地利用現況の情報を3D都市モデルと重ねて情報表示。



都市構造の可視化 (準都計・伝建地区)

準都市計画区域、伝統的建造物群保存地区を3D都市モデルと重ねて情報表示。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

佐賀県 武雄市

■ ユースケース概要

分野	防犯・防災
目的	3D都市モデルを活用した水害リスクの可視化
取組内容	流域治水事業を進める中で、3D都市モデルと三次元表示した災害リスク情報と重ねあわせ、エリアのリスクを可視化することで、浸水被害の低減を図った。 また、都市計画策定の基礎資料、高齢化社会にも対応した防災計画策定検討資料、防災教育等に活用した。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
今後の災害対応が迅速化されると思う職員の割合	30% (R4年度)	13%	32%

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
頻繁に発生する水害に対応する為の防災施策。	情報部局が3D都市モデルを利用した避難経路シミュレーションを開発する事業を進めており、防災施策等に活用予定。
大雨時の水位モニタリングや被災予測による効果的対応。	大雨時の水位モニタリングデータなどのデータ収集ができておらず、被害予測などの活用に至っていない。
生命と財産を守るための日常的な地域防災活動。	避難経路シミュレーションなどが、今年度進められており、防災活動への利用は今後である。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
過去被災履歴と基本セットである災害リスクの可視化にとどまっているため、今後は防災部署と連携して3D都市モデルを活用しての避難経路シミュレーションなど、災害に強いまちづくりに活用していきたい。	情報部局が3D都市モデルを利用した、避難経路シミュレーションなどの新たな事業に活用している。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



浸水想定と災害履歴の可視化

洪水浸水想定区域（洪水、高潮）と災害履歴（通行止め、被災箇所）の可視化を行い、市民向け防災資料などに活用する。



土砂災害警戒区域と災害履歴の可視化

土砂災害警戒区域（急傾斜、土石流）と災害履歴（通行止め、被災箇所）の可視化を行い、市民向け防災資料等に活用する。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

佐賀県 武雄市

■ ユースケース概要

分野	観光・地域活性化
目的	3D都市モデルを活用した観光活性化
取組内容	令和4年度の九州新幹線西九州ルートの新駅開業を受けた観光面での活用として、観光情報等を3D都市モデルLOD 2に付与し、武雄市HP「たけおポータル」にPLATEAUVIEWのリンクを掲載し、広報等を検討する。また、当該地区の空き家利活用にも活用を図った。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
ウェブサイトの閲覧数	200PV/月 (R4年度)	(R5取組予定)	232PV/月

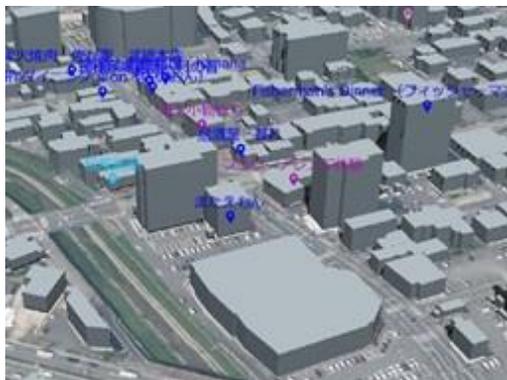
■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
新幹線新駅開業に伴う、効果的な観光誘致施策。	開発時のビルボードなどの表示イメージと実際のプラトー上で表示が異なる箇所があり、活用しづらい面がある。活用方法を再検討する必要がある。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
庁外へはPLATEAUを通じ情報公開を行うとともに、庁内には観光情報を更新・新規登録できるQGISで管理していき、武雄市HP「たけおポータル」にPLATEAUVIEWのリンクを掲載し、広報等を検討していきたい。	武雄市HP「たけおポータル」にPLATEAUVIEWのリンクを掲載し、庁外へ発信、紹介している。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



観光資源の位置情報の可視化

武雄市観光協会掲載の観光情報を目的別に分類し、位置情報化したうえでビルボード情報として3D都市モデルと同時に可視化した。



観光情報の発信

ビルボードの属性情報から目的の観光情報URLへリンクさせて情報表示する。これらを観光客発信対策検討資料等に活用する。

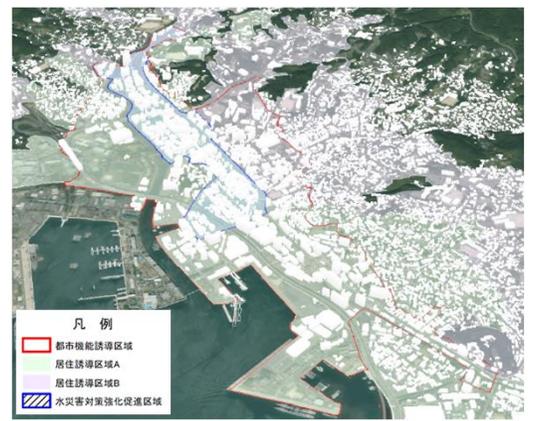
VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

長崎県 佐世保市

■ ユースケース概要

分野	都市計画・まちづくり
目的	都市計画情報の一元化による情報共有の効率化
取組内容	各種施策の検討や民間開発における情報収集の効率化を図ることを目的に、3D都市モデルに重畳、可視化すべき都市計画関連情報等を検討した。 都市計画関連情報等をウェブビューア（PLATEAU VIEW App）上で3D都市モデルとともに公開し、データ一元化することにより利便性を向上させ、窓口業務の効率化を図った。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



GIS情報の表示イメージ(1)

立地適正化計画などの都市計画関連情報について、GISソフトで利用変換できる情報として、を3D都市モデルと重ねて表示する。



GIS情報の表示イメージ(2)

用途地域、都市計画道路などについて、GISソフトで利用変換できる情報として、3D都市モデルと重ねて表示する。

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
3D都市モデルの利用意向がある部局の割合 (%)	30%以上 (R4年度)	—	52% (R5年度)
ウェブサイトへのアクセス数 (件)	4,300件 (R5年度)	—	効果計測予定※

※プラトービューアプリ掲載後

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
都市核における人口密度の維持（斜面住宅地の再生による都市機能の維持・誘導）	3D都市モデル並びに重畳した都市計画関連情報を活用しつつ、斜面住宅地の再生に向けた検討に着手（R5年度）。
浸水想定市街地の防災まちづくり（避難計画及び垂直避難施設の必要性・実現性検討）	3D都市モデル並びに重畳した都市計画関連情報を活用しつつ、住民属性を考慮した避難計画や垂直避難施設の必要性・実現性の検討に着手（R5年度）。
窓口業務の効率化	効果計測予定（R6.2頃）

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
全庁的な3D都市モデルの活用。	全部局に対し3D都市モデルの整備完了を報告するとともに、これを活用した政策・施策の検討を依頼した。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

熊本県 玉名市

■ ユースケース①概要

分野	防災・防犯
目的	3D都市モデルを活用した災害リスクの可視化
取組内容	<p>想定破堤箇所における氾濫シミュレーションを行い、時系列浸水氾濫を3次元で可視化することにより、防災教育効果を高め、防災計画や避難路設定に活用を図った。</p> <p>具体的には3D都市モデル及び3次元浸水想定区域を重ね合わせ、想定破堤箇所からの浸水氾濫の進行状況を時刻歴で表示することによって、災害リスクをわかりやすく可視化した。また、多様なデータ（例：避難所の位置等）を統合表示した。</p>

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
防災講話での活用数 (回)	1回 (R4年度)	1回	7回 (R5年11月時点)
職員向けの説明会においてUC開発成果の紹介で防災意識が向上したと回答した職員の割合 (%)	現状より50%向上 (R4年度)	82.6%	—

■ ユースケース実装効果 (KPI以外)

課題	効果・改善点
大雨時の水位モニタリングや被災予測による効果的対応。(避難施設配置検討や避難経路検討等)	時系列で3次元可視化したことにより、すべての人に災害リスクをわかりやすく伝えることができ、地元住民防災施設配置検討にも役立った。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
今回は防災のユースケースにとどまっているが、今後人流データを活用した中心市街地活性化にも活用したい。	高瀬しょうぶまつりにおける人流計測及び3D都市モデル (LOD3) 整備を実施。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況 (イメージ図)



職員向け説明会

職員向けの説明会においてUC開発成果を紹介した。



住民向け説明会

住民の防災意識向上のため、防災講話での活用を実施した。

VI. 令和4年度採択団体追跡調査 2. 追跡調査結果

熊本県 玉名市

■ ユースケース②概要

分野	防災・防犯
目的	VRゴーグルを利用した3D避難経路の実証実験と避難シミュレーションモデルの構築
取組内容	避難シミュレーションを利用し、市民の防災意識醸成及びマイタイムラインの支援ツールとして活用した。 具体的な施策としては、3D都市モデルを利用して既定の避難経路の実証実験を行うVRアプリケーションを開発した。VRを使って、目の前に起こることに対してどのような行動をとるかを記録し、避難シミュレーションのモデルを構築した。

■ ユースケース実装状況・成果物活用状況（イメージ図）



学童保育での防災講話

学童保育の防災講話での活用を実施した。
(R5年度 計4回実施)



行政視察

防災に3D都市モデルを活用した事例に対する行政視察にて、活用を実施した。
(R5年度 計2回実施)

■ KPI

KPI	目標設定	達成状況 (R4年度)	達成状況 (R5年度)
防災講話での活用数 (回)	1回 (R4年度)	1回	7回 (R5年11月時点)
職員向けの説明会においてUC開発成果の紹介で防災意識が向上したと回答した職員の割合 (%)	現状より50%向上 (R4年度)	100%	—

■ ユースケース実装効果（KPI以外）

課題	効果・改善点
大雨時の水位モニタリングや被災予測による効果的対応。(避難施設配置検討や避難経路検討等)	実在する道路や建物を模したバーチャル空間でVRゴーグルを使って避難行動がシミュレーションすることにより、自分事化でき、避難経路検討に役立った。

■ 今後の展望に関する進捗状況

今後の展望	進捗状況
今回は防災のユースケースにとどまっているが、今後人流データを活用した中心市街地活性化にも活用したい。	高瀬しょうぶまつりにおける人流計測及び3D都市モデル (LOD3) 整備を実施。